

UFOs & SPACE

AMAZING
NONFICTION
STORIES

UFOと宇宙

1978 4

宇宙人の声を録音!

国連総会UFO演説

反重力エンジン
による円盤製造

総力特集 ■ 第3種接近遭遇のすべて
私は宇宙人を見た!

西丸昌成の宇宙機屋

アメリカ、カナダで今、爆発的人気!!

バイオフィードバック

《GSR-1で時代を先取りしよう》

GSR-1
ジー エス アール ワン



高級天然木（クルミ）使用
長さ10cm 巾6.2cm 高さ3cm 重さ100g

定価 ¥30,000（送料共）練習用カセットテープ説明書付 1年保証

●受験生、経営者、タレント、
プロスポーツ選手、管理職、
サラリーマン、OL、教師、医師…全ての方

●GSR-1バイオフィードバックは何に有効か？

GSR-1は「健全な心」を自分で作り、それを保つためのモニターと云えます。ですからGSR-1は「心の鏡」とも云われます。毎日「心」を鏡に映して、具合が悪ければ、自分でメイクアップして「美しい心」にしましょう。

1. ストレスを追いはい、リラックスできます。

精神的なイライラやストレスを自分自身で、GSR-1を使いながら追いはい、ゆったりとリラックスした快感を味わうことができます。今までにない幸福感すら味わえるようになります。

2. 精神統一が上手くなり集中力が養えます。

毎日GSR-1の練習を続けると、集中力が高まります。受験生などはイライラすることなく勉強に集中できるようになりますし、野球の選手などは、バッターボックスで打つ球に集中できるようになります。

3. 深い瞑想に入れます。

GSR-1の練習を積みますと、禅やヨガで得られる瞑想に早く入ることが出来ます。

4. 赤面、対人恐怖の不安を克服でき、あがらなくなります。

GSR-1に習熟すると、いたづらに不安を感じたり人前でドキドキしたり、顔が赤くなったりすることが、次第に少なくなってゆきます。自分自身に今までよりもっと自信がもてるようになります。

5. ピンチに強くなります。

野球の投手はピンチを迎えても今迄とちがうはずです。ゴルフの選手もこの一番に強くなります。受験生も本番で強くなるはず。すぐカーッとしたり、イライラする性格が改善されてゆくからです。

6. ESP能力が増します。

ヨガ瞑想者や禅瞑想者は、通常普通の人が出しているβ波とちがうα波と云う脳波を出すと云われます。GSR-1で精神統一をするとα波が出るようになり、この訓練を続けるとESP能力が増すと云われます。

リラックスする方法は2,3日で習得でき、その日から効果が出ますが、他は3~6ヶ月以上の練習が必要です。

アメリカでは「21世紀はバイオフィードバックなしには考えられない。」と云われているほどです。GSR-1でストレスを追い出すことを憶え、タフな精神を養い、平和で豊かな心で人生を快適なものにしましょう。

問合せ、カタログ請求は下記へ。

●使用方法・効果については詳しい説明書とガイド・カセット・テープがついています。

お申込みは、氏名、住所、年令明記
捺印の上、代金は現金書留又は郵便
振替（東京・4-8703）でポラックス
（株）へお願い致します。現品急
送します。

輸入総発売元



ポラックス株式会社 U 係

東京都中央区日本橋小舟町2-7 ☎ 666-0511(代) 〒103

製造元



THOUGHT TECHNOLOGY LTD.
CANADA



二見が浦に

UFO

飛来
(三重県)

この写真が撮影されたのは今年1月15日、場所は全国的に知られた観光地、三重県二見が浦である。松坂市久保町の堀江久数さんはその日、所用で二見が浦に出かけ、防波堤の上に立ってしめなわのかかった夫婦岩、沖合に浮かぶ漁船などを眺めていた。そのとき、東の空から紫色に輝く物体が夫婦岩の方角に飛来してきた。彼は持っていたカメラを急いで構え、連続的に何枚かシャッターを切り、寒さを忘れて手さえ振った。その間1分足らず、物体はふたたび東の空へ猛烈な速度で飛び去ったという。彼の目測では物体の直径は3・5mくらい、周囲を紫色の光が包んでいた。

(データ:オリンパス・ペン 200分の1秒 フジカラー)

横浜市瀬谷区に住む相沢詔二さん（35歳・商業）は昨年12月のある夕方、自宅庭で夕焼けを撮影していて西の空にピカッと光る物体を発見、シャッターを押した。現像してみると、やはり光体がとらえられていた。彼の自宅から西の方向に厚木飛行場があるので、飛行機が夕陽を反射した可能性もあるが、爆音などはまったく聞こえなかったという。（データ：アサヒペンタックスSP SMCタクマー55mm コダカラー400FII 500分の1）

夕焼けの中に 光体 UFO

（横浜市）



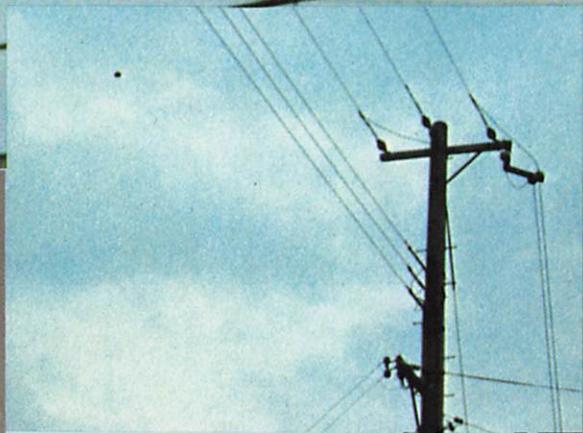
活発に動く物体を

UFO

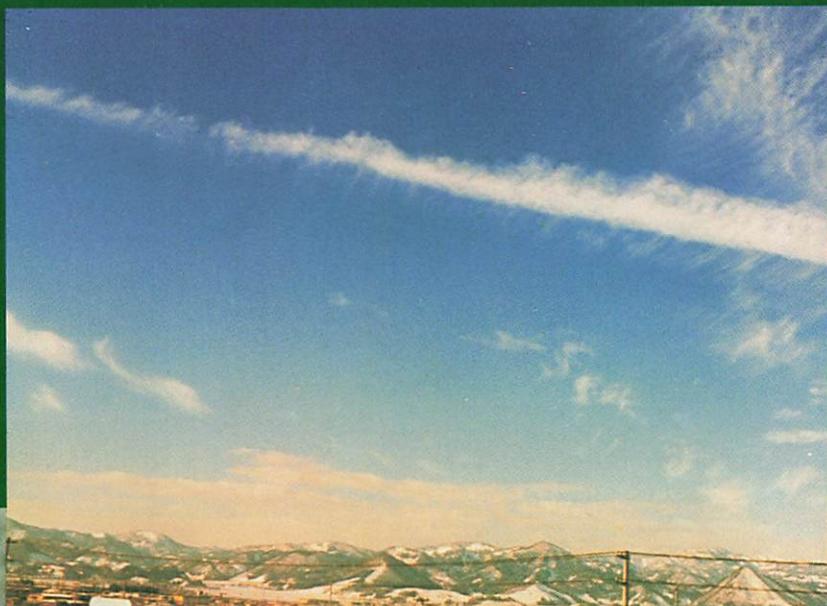
この一連の写真は姫路市広畑区夢前町に住む小学6年生・筒井洋君（11歳）が1976年8月に自宅付近で撮影したもの。彼が友人2人と遊んでいると、上空に活発に動く黒い物体が現われた。最初は鳥かとも思ったが、動きが非常に速く、消えたり現われたりするので、これはUFOに違いないと考え、手もとにあったカメラで撮影したという。この写真については姫路市内のアマチュア天文家・松田高明さん（27歳）が撮影地点等を調査し、トリック写真やほかの物体の誤認ではないという確信を得ている。（データ：ミノルタ・ハイマチックE 40mm F1.7 自動露出 フジカラーFII）

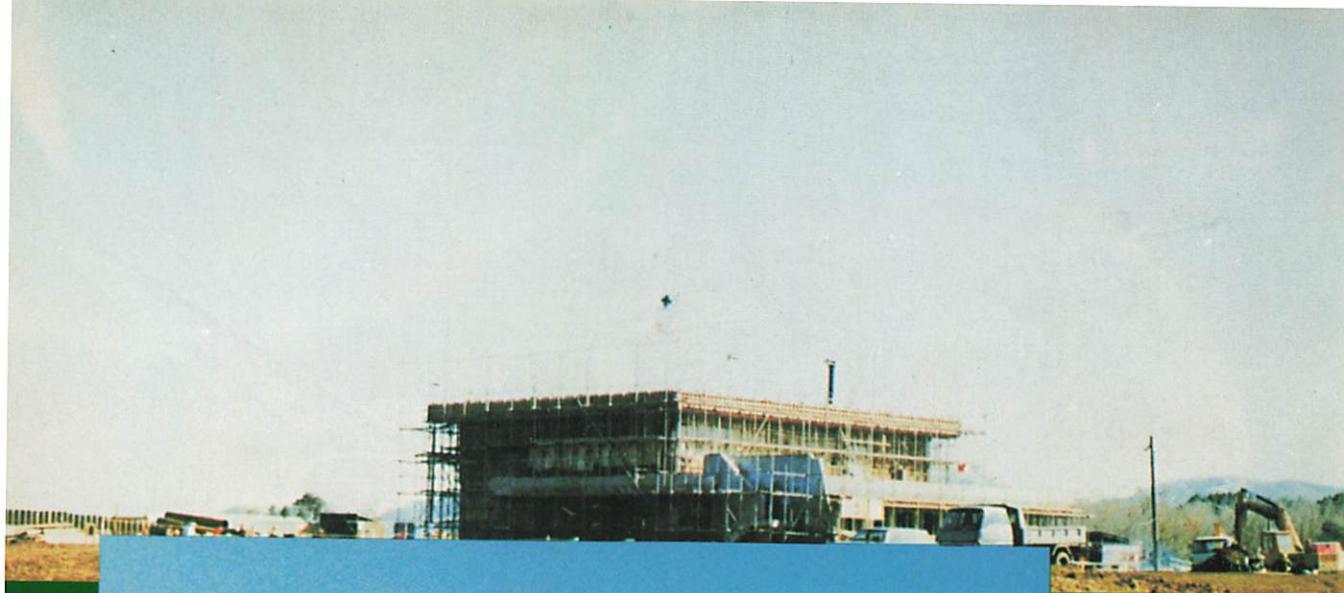
連続撮影

（姫路市）



▼「伊豆大島近海地震」は1月14日午後0時24分に発生した。この2枚の写真は、前日の13日午前9時25分頃、山形県上反町のアマチュア天文家・大沢昌人さん(23歳・畳表材料卸業)が撮影したもの。大沢さんはこの写真を撮った13日に朝日新聞山形支局へ出向き「一両日中に大地震が起きる」と予告していたという。目撃当時の模様について大沢さんは「ひと仕事をしたあとと食事をしようと自宅に戻ったところ、蔵王上空から新潟方面にかけて発光現象をともなう地震雲を見た。最初のうちは白色で、帯を細く切ったように寸断されていたが、30分位の間に一本につながった」という。





▲この2枚は「伊豆地震」の2日前、1月12日午後1時05分頃、静岡県駿東郡小山町で沼津市千本常盤町の根本久さんが撮影したもの。方角は南、伊豆半島方面である。快晴の空に発生した発光雲、これも“地震予知雲”であろうか。

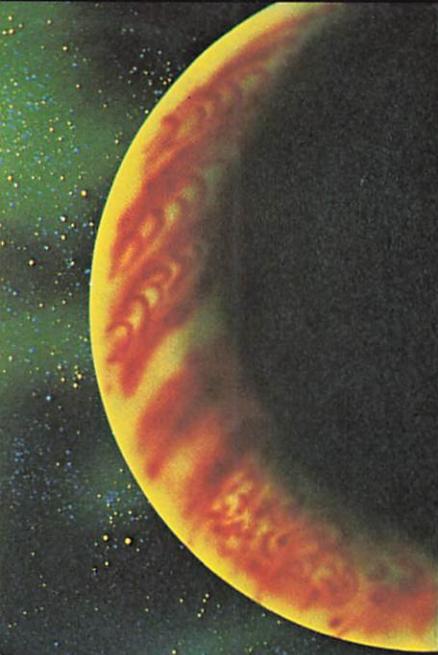
大地震と雲の間にはなんらかの関係が存在するのだろうか。大地震発生の前ぶれとして“地震雲”が発生する、というのはなしはかなり以前から知られている。しかし、現在のところ両者の因果関係はまったく確かめられてはいない。1月14日に伊豆半島一帯を襲い大被害をもたらした「伊豆大島近海地震」の直前にもこの“地震雲”が山形県と静岡県で撮影され、マスコミで報じられた。快晴に近い気象条件のもとで発生したこれらの雲はいったい何を意味しているのだろうか――

これが 地震予知雲だ!

「伊豆大島近海地震」の直前に発生



セージ」



これまで、日本ではSF映画、スペース映画は、いわゆる「子供映画」として作られるものがほとんどだった。スター・ウォーズや、未知との遭遇は全米、そして全世界をSF、UFOブームの渦に巻きこむ発端をつくった。

日本でもこれらに挑戦して、世界に通用する本物のSF、スペース映画を作ろうと、東映が、SF漫画の第一人者石森章太郎氏、SF研究家野田昌宏氏らの原案による、超大作 宇宙からのメッセーシを目下製作中。出演者の一人、ピック・モロー氏はUFO目撃の体験をもち、宇宙生物の存在を強く信じているという。監督は深作欣二氏、出演はピック・モロー、千葉真一、志穂美悦子の各氏也。

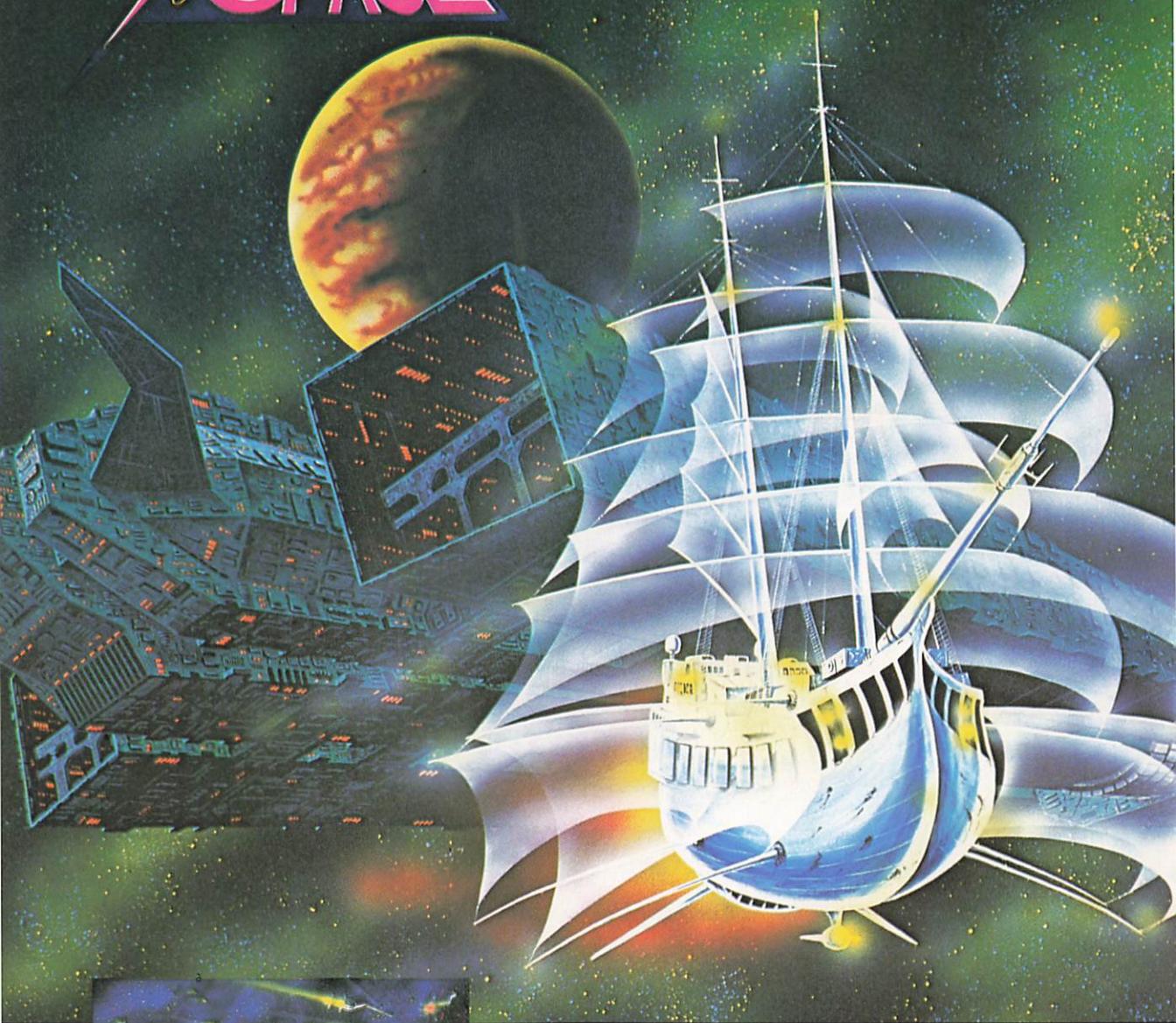
ここでは、宇宙戦、宇宙帆船のイメージ・スライドを紹介しよう。この場面が特撮でどうなるか、どのように映像化されるか、楽しみにあせ。4月末封切予定。

ストーリー！ 太陽系から200万光年彼方にある平和な星、シルーシアは宇宙の侵略者ガハナス星人によつていまや壊滅の危機にさらされていた。平和を願うシルーシアの長老キトはこの危機を救う奇蹟の祈りをこめて8つの「リアへの果

未来宇宙に ひろがる大激戦

MESSAGE From SPACE

遙かなる「宇宙からのメッ



を太陽系連邦へ向けて放つとともに、孫娘エメラリータを使者として8人の勇者を連れて帰るよう命じた。

「リアへの実」は地球の植民惑星ミラゼリアに住む宇宙暴走族のシロー、アロン、メイア、退役将軍ガルトらの手に渡った。シルーシアの危機を知ったシローたちは宇宙船「リアベ号」を完成させ、シルーシア救出へと向かった。途中、ガハナスの先王の子、ハナスと会う。彼もまた「リアへの実」を持つ勇者であった。

かくして、ガハナス対リアベ号の壮烈な宇宙戦が繰広げられる。迎撃する敵機と対空砲火。噴出する巨大エネルギーの火の海……。ガハナス大要塞を破壊するには、シルーシア粉碎の方法しかないとかかった時、長老キドは若者に宇宙の未来を託し、シルーシア星とともに宇宙に散っていく。その時「リアへの実」は宇宙に純白の花を鮮やかに咲かせた。

故郷を失ったシルーシアの人々と、シローたちを乗せた帆船は新しき天地を求め、大宇宙へと旅立つのだった。

宇宙からのメッセージ

本誌を読んで答えてください!

——豪華賞品が当たる

UFOと宇宙

クイズ

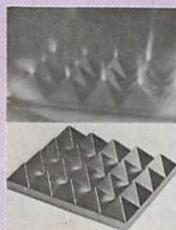
賞品

金賞 『天文・宇宙の辞典』 (恒星社 ¥12,000) 1名

●宇宙に関する分野の小項目主義の辞典。占星術からブラックホールなど最近の言葉まで、3000に近い項目を79氏が分担解説。もちろんUFOもある。天文・宇宙の辞典編集委員会編。B5/630ページ。



銀賞 エミット・エネルギー・エネレーター (マンカインド ¥3,200) 3名
●多方向磁場内蔵のエネルギー発生器。コーヒーやタバコの上に置くと味がマイルドになり、食物は新鮮さを長く保つようになる。3×5インチ。ポケットサイズ。



銅賞 角川文庫/超自然の謎シリーズ (角川書店 各¥260) 30名

●シリーズの中から「異星人の殿堂」(B・ルポア・トレンチ)、「四次元の謎」(フランク・エドワーズ)、「未来の記憶」(E・V・デニケン)をそれぞれ10名、計30名の方に。



(問題) アメリカのUFO研究センター所長/J・アレン・ハイネック博士は、われわれとUFOとの遭遇を三段階に分類して説明しています。UFOを近距離で目撃した場合、あるいは渦巻状に押しつぶされた草木、折れた枝、残存放射線などUFOがその存在の物理的痕跡を残した場合……というふうに分かれています。さて、誘拐とが身体検査などUFO搭乗者と実際に接触した場合を、この分類では何と呼んでいるか、次の中から選んでください。

- A 第1種接近遭遇
- B 第2種接近遭遇
- C 第3種接近遭遇

応募のきまり

- 必ず官製はがきを使用。
- 締切り 昭和53年4月20日。当日消印有効。
- 発表 『UFOと宇宙』6月号(5月20日発売)誌上。正解者多数の場合は抽選で決定します。

はがきの書き方

●あて先 郵便番号110
東京都台東区上野5-1-6

ヤマトビル ユニバース出版社

『UFOと宇宙』4月号クイズ係
●裏面には、あなたの住所・氏名・年齢・職業(学生は学校名/学年)、そして次の順序でお書きください。

- ①解答
- ②本号で良かった記事の題名2つ
- ③本誌に載せてもらいたい企画
- ④表紙に対する感想・意見
- ⑤今後、クイズの賞品として希望する商品名

『UFOと宇宙』2月号 クイズ——当選者発表!

『UFOと宇宙』2月号の、人名を当てるクイズは、Bのウィルヘルム・ライヒが正解でした。

応募総数1050通のうち、正解は997通、抽選により左記の方々がめでたく当選されました。

☆金賞 (ポケットカメラ/1名)

濱田至宇 (〒047 北海道小樽市潮見台2-11-15)

☆銀賞 (フランセット/2名)

藤井敦子 (兵庫県神戸市)

鈴木 豊 (東京都練馬区)

☆銅賞 (角川文庫・超自然の謎シリーズ/30名)

賞品の発送をもって、発表にかえさせていただきます。



石森章太郎氏略歴
昭和13年1月25日
宮城県登米郡に生ま
れる。「二級天使」
でデビュー。その後
幅広い創作活動を開
始。代表的SF漫画
に「ジュン」「幻魔
大戦」などがある。

UFOと私

石森章太郎(漫画家)

UFOを見たのは、現在から
年前(？)、小学校2、3年生の頃
だった。秋の午後、青く澄みわた
った空には、雲ひとつない。それ
は金色に輝いていた。ホウが見
けた。凄いいスピードで動いている。
航跡が残る。ジグザクに……。
直角にも曲っている。

騒いでいるホウの周囲に、通行
人達が立止り始める。何だろう、
あれは!? 飛行機はあんなに速く
飛ばないし、あんな飛び方もしな
い。(終戦直後のことである)

そうさな、あれは……ホウキ星
だよ。物知り顔の老人が言った。でも
とホウは思った。魔法使いが乗っ
ているホウキ星じゃあるまいし、
あんなに曲りくねって、飛ぶのは
おかしい……。

UFO騒ぎが始まったのは、そ
れから何年も過ぎてからであった。
あの時目撃したのは、正にUFO
(未確認飛行物体)だった訳だが、
「魔法使いの乗っているホウキ星
(乗物)」と、その正体については
現在では真面目にそう考えている。

総力特集
第3種接近遭遇のすべて

57 私は
宇宙人を見た!

世界で撮られた宇宙人写真/サンマルタ
ン・ストーンの謎/ホプキンスピルの不
死身怪物/コレンダー星人と会った男
/警官が目撃したソコロ事件/閃光を
放った宇宙ロボット/バージニアの空
飛ぶ蛾人間/フィンランドの小人宇宙
人/ブラウント島の怪物宇宙人/毛む
くじらの怪物とUFO/モレ夫妻の
見た奇妙なUFO/宇宙人に毛をむし
られた男/青年を誘拐し検査したUFO
/透明なUFOと巨人搭乗者/ウエ
ールズ西部の宇宙人騒動/第3種接近
遭遇事件史/並木伸一郎氏特別インタ
ビュー宇宙人問題にどう取り組むか?

94 ブラジル現地取材 矢追純一
巨大UFOの怪光線で火
傷したバス運転手(完)

100 空飛ぶ円盤とオカルティ
ズム(2) 平野威馬雄

106 ネス湖の未確認動物は実
在する!?(完) 久保田八郎

40 高梨純一のブックガイド(3)

49 UFO界情報

115 声・OPINIONS

121 蚤の市

128 バックナンバー紹介

8 豪華賞品が当たるクイズ

UFOと宇宙

4

月号目次

1978

第33号

■カラー■

- 1 二見が浦にUFO飛来
- 2 夕焼けの中に光体
- 3 活発に動く物体を連続撮影
- 4 これが地震予知雲だ!
- 6 未来宇宙にひろがる大激戦

10 本誌追跡レポート ■三原事件
北野大僧正、宇宙
人の声を録音!

30 ポール・マッソン氏、
TM=超越瞑想の原理
を語る 編集部

34 反重力エンジン
による円盤製造

50 第1次大戦中に撮影された
翼のある宇宙人?
ロバート・シェーファー

42 UFO問題レポート 森脇十九男
日本の科学者に問う(2)

14 横尾忠則UFO対
談(2) 西丸震哉

20 ニューヨーク現地報告2
グレナダ代表団の国連総会演説
国連でUFOの科
学的研究を 富川正弘



本誌16号に紹介され話題を呼んだ三原市コンタクト事件。この事件の主人公・真言宗大僧正北野恵宝師は現在どうしているのか、宇宙人とのコンタクトは続いているのか、という問い合わせが今でも編集部にも多数寄せられている。

こうしたUFOファンの期待に応えるため、編集部では3年ぶりに姫路を訪れ、いくつかの未発表情報を入手することに成功した。

UFO写真撮影、小さい頃の不思議な体験、宇宙語の解説など報告するこ

▶姫路市の大本山本覚寺



北野大僧正、
宇宙人の声を録音！

三原市コンタクト事件最新情報！

●本誌追跡レポート●



▲「あのへんによく円盤が現れます」と語る北野師。

とがたくさんあるが、何よりもまずお知らせしなければならないのは、次のニュースである。

それは今年1月、北野師が自分のテープレコーダーで宇宙人の声を録音したという事件だ。

宇宙人の声の録音に成功!

「宇宙人の声を聞かせてあげようか」

真言宗金剛院派宗務所と書かれた門を入り、玄関を通って2階の小ぎれいな部屋に案内された記者は、インタビュー開始直後突然聞かされたこの言葉に、正直なところ驚いてしまった。期待もしていなかったし、今まで世界中に宇宙人の声と称するものは公表されていないのだから。

「それは日本語ですか？」

記者の問いに対し、北野師は「日本

語でも英語でもない」と答える。

「そうすると、例の『ググジャラー』のような……」

「そうそう。テープを持ってきて聞かせてあげましょう」

北野師はそう言うとき、1階からテープレコーダーを持って来てスイッチを入れた。

「????????????????????」

太い男性の声がかすかに聞こえる。

※読者にこの声をお聴かせできないのが残念だが、北野氏の話では今年の10月がすぎないと宇宙人から公表許可がおりないだろうという。

「……………????????????????????」

かなり早口。しかも音量がわずかなので記者には発音さえもよく聞きとれない。

「さっきまでは大きく出ていたのに」
これでもボリュームいっぱいなのだ
そうだが、「先日、お寺関係者20人の集まりでテープを回したときには全く音が出なかった」というから、かすか



に聞けただけでも「幸運」だ。
それではこのへんで、北野師がどのようにして宇宙人の声を吹きこんだかを説明してゆこう。

今年(1978年)1月のある夜、

法要のため伊豆のホテルに宿泊していた北野師がふと1階の部屋の窓から外を眺めると、十国峠の方向に車のライトのような光が一つ輝いていた。

「それがまっすぐにサーッと近づいてくるんです。車ならば曲がるはずなのに」

気がつくと、窓の外に人影が……。

重大な内容

こうして世界でも珍しい宇宙人による宇宙語がテープにとられたのだが、先ほども述べた「重大な内容」とは何か。

発音さえ聞きとれぬ記者には意味などわからないが、北野師には何を言っているのかわかるらしいのだ。

なぜなら「例の三原市事件以後何度か宇宙人に会い、宇宙文字を教えてもらった」から。

「宇宙語は母音が50ありますが、むず

北野氏はその人が前に会ったことのある「宇宙人」だとわかるとすぐ、窓を開けて彼を中に招き入れた。そのとき宇宙人はこう語ったという。

「これから、重大なことを教えてあげよう。テープに入れなさい」

宇宙人は、北野師が自分のテープレコーダーを取り出し、録音ボタンを押すように命じるとすぐ、奇妙な言葉をしゃべり始めた。そして数分後、すべてを語り終えたのか、北野師にテープを止めさせると「友よ、さようなら」と言い、手をふりながら去って行った。

かしさは英語とあまり違わない」

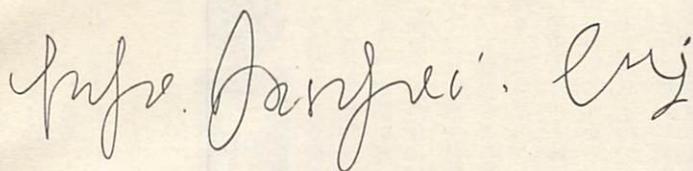
北野師はそう言うとき、記者が差し出した紙に「こんにちは」という意味の宇宙文字を書いて(図A)読んでくれた。

「タアーン デイステイン タール」
だいたいこのような発音だが正確ではない。

そして現在北野師は、今までに教わったことをもとにして少しずつテープ

▶「あなた方もガレリオの精神で真剣にやっして下さいよ」

▼図④ 北野師がサラッと紙に書いた宇宙文字。意味は“こんにちは”であるという。



「ヤググジャラ」を日本語に翻訳しているという。が、内容の詳細については「宇宙人の許可を得てから。私の弟子の中には口をすべらせて死んでしまったのがある」などと言って、なかなか教えてくれない。それでもやっと次のようなことを聞き出すのに成功した。

「今年の世界中が荒れます」
「戦争などは？」
「いやあ、あるなあ、あるかもわか
りませんよ」
——地震は？
「地震もありますねえ」
※この原稿を書いている最中（2月20日）に東北を中心とした地震が発生し当社ビルがかなり揺れたので少々気味が悪い。
——人命にかかわりますか。
「そうとう大きくかわる。少しずつ徴候が現れてるものねえ。大千ばつと長雨じゃないかと思うんです」
——人工的なものもありますか。
「全部人工的ですよ。この間のソ連の人工衛星事故の問題に当たって、私は前から人に『空には人工衛星が何千もあるから危険だ』と言ってただけで、『誇大妄想狂』だと言ってだれも信用してくれなかった。私は宇宙人から知らせてもらってただけだね」
詳細については宇宙人の許可を待つとして、それ以外に宇宙語の解説につ



いては別の話がある。
簡単にいうと、宇宙語を解説できる人物が1人いるというのだ。

※本誌25号にも清水正代さんの解説文が掲載されているが、北野師の話では正解率は半分ぐらいたといふ。

その人物とは、北野師が「宇宙人を通じて弟子にした2人のうちの1人」で下関に住む35〜36歳の女性。

この女性ならば「ググジャラ」も解説できるというので、記者は、いくつか機会をみて彼女から話を聞いてみたいと思っている。



UFO目撃と宇宙人

宇宙語についての話はこのくらいにして、このへんで次の話題に入っていくことにしよう。

北野師は三原事件以後、ひんばんにUFOを目撃している。

「日本だけじゃない。海外に行ったときもよく見るんです。色も形もいろいろありますね」

中には「ジャンボどころでなく、大きな軍艦のようなもの(図⑤)」まであるという。

そして北野師はそれらの存在を「科学的」に証明するため常にカメラを持ち歩き、昨年の7月には見事にUFOをとらえているのである(写④)。

▼写④ 昨年7月25日、三原山中で北野師撮影のUFO

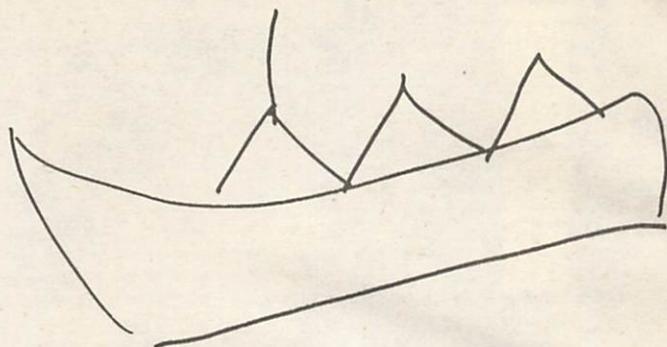


ているうちに、彼とUFOとのかかわり合いがすでに三原事件以前にあったことが判明した。北野師によると、「15か16のときに土佐の山中で夜中に

●三原市のコンタクト事件のあらすじ

1975年7月22日午前1時、所用で広島県三原市の仏通寺に滞在していた姫路市本覚寺住職・北野恵宝大僧正(当時80)が「友よ、起きなさい!」という声で眼をさまし、窓をあけると4機の円盤型光体上空を舞っていた。やがてそのうちの1機が近くの大きな岩の上に着陸。中から1人の宇宙人が現れ、北野師に向かっていろいろなことを話し始めた。

宇宙のこと、太陽のこと、地球の危機などを伝えた宇宙人は、「ググジャラ」に始まる長い文を北野師に書きとらせると、再び円盤に乗り去って行った。約1時間半の出来事であった。



▲図⑧ 北野師は、円盤型だけでなく、このような宇宙船も目撃したという。

肌の色も違う」

三原事件のときには、長髪を真ん中でわけ、目が鋭くて鼻が少し高いゲルマン系の男性だったが、肌の黒い人や女性にも会っているという北野師に、もう少し詳しく宇宙人のことを聞いてみることにした。

「髪の毛の色は？」

「日本人のように真っ黒ではない」

「みんな長髪ですか。」

「長い人もいるし、そうじゃない人もいる」

「背の大きさは？」

「今の若い人と同じくらいかな。ただ目つきだけは鋭いですねえ。優しい人だけけど、ちょっと恐い感じがする」

「女の人は美人ですか。」

「美人だねえ。そういえばこの間テレビ映画に出ていたある女優にそっくりな人がいてビックリした」

「その人の名前は？」

「思い出せない。そういえば5、6人の宇宙人が私に名前を覚えてくれましたが『人に言うな』といわれているので発表できません」

北野師は、宇宙人から口止めされたことは絶対に言わない。

そのせいか、宇宙人から「あんたはしゃべらないから、何でも教えてあげろ」と言われ、隕石のかけらを手渡されたこともあるそうだ。そして命を助けられたことも何度かある。

1度は「1970年に肝臓ガンを一

晩で」治してもらった。医者に「明日の朝まで」と宣告された日の夜中、呼吸困難で意識がもうろうとしている北野師のところへ現れたある人が「あんたを助けてあげる」と言いながら持っていた杖で額、両肩、腹の順に軽くふれると、たいこのようにふくれている腹がスーッと元どおりに。まるで「ルールドの奇跡」のような出来事が起こったという。

北野師は医学博士

それでは最後に、北野師が記者に明かしてくれた彼の経歴を紹介しよう。

「私、気遣いやないんですよ」と真剣な表情で語ってくれた経歴とは、

「名刺には書かないけれど、アメリカの『ドクターサイエンスの会』の終身会員——日本でいえば学会員——なんです」

つまりアメリカの医学博士なのだ。

日本で今の大学にあたる「学院」を卒業後アメリカに渡り、8年間学んでアメリカの医学部を出たというのである。その後、慶応大学から助教授の席を用意されて帰国したが、恩師・福来友吉博士（日本の超能力研究の先駆者1952年没）の勧めでチベット行きを決意。4年間チベットの山奥で密教の修行を積み、数々の超能力を身につけたという。

そして現在は「真言宗諸派連合出教

その他「外国で『この飛行機に乗りたいいけない』と言われたこと」もある。

「だが何と言おうが、宇宙人はおりますよ」

北野師は自分の体験をもとに、はっきりと宇宙人の存在を肯定する。そして、宇宙人の許可が出て科学的な証拠がそろったとき、皆がアッと驚くようなことを発表すると約束してくれた。

「だから辛いときもあるんですよ。こんな身分でなかったら、もっと派手なことを言ってもらえるのに」

宇宙人の忠告以外にも、こんな制約が彼を慎重にさせていたのである。

「金なんか問題ではない。世の中のためになることだから、科学的に基礎を固めることができます」

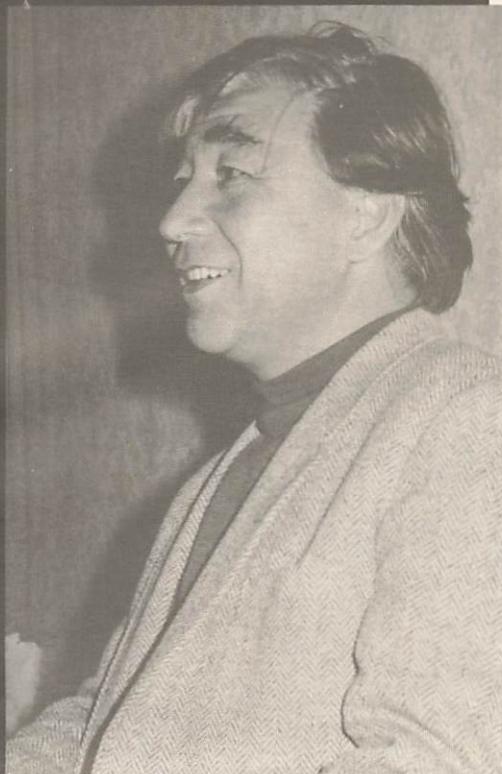
そしてさらにこうつけ加えた。

「UFOや宇宙人の話をするのは、今の世の中では冒険だけれど、これは人類救済のための一つの改革です。非難もあるけれど、私はもう恐れませぬ。あなた方も『地球は丸い』と主張したガリレオの精神で真剣にやっつけて下さい」

対談

連載第2回

西丸震哉



横尾忠則UFO対談もいよいよ第二回目。今回のゲストは食生態学者で、探険家…、しかもSF作家の西丸震哉氏。氏はUFOを横尾氏と一緒に目撃という経

横尾 西丸さんとは以前に神奈川県の大山へUFOを見に一緒にしましたね。

秋元くんという元自衛隊にいた人がいて、その人はテレビ番組でUFOを呼べるんですという話をしたら、西丸さんも是非一緒に見に行きたいとおっしゃったんですね。

西丸 ぼくはUFOを見たことがなかったものですからね。

横尾 西丸さんは幽霊をごらん

になったり、テレビポート能力をお持ちだから、てっきりUFOもごらんになったことがあると思っただけです。でも、ごらんになっていない。西丸さんは科学生者だから、ぼくとしてはこれは見てもらわなくてはと思ったんです。

ところで西丸さんはUFOに

どういう関心をお持ちですか？

西丸 ぼくはUFOは存在して当然のものと思っていました。

それを他の人が見たら確かめたりしているのに、ぼくはまだ見たことがない。なんか疎外されているような気がしていた。それで、横尾さんと一緒に行ったんですよ。

ぼくは星が好きで小さい頃からしょっちゅう空を見てるんだ

けど、UFOは見なかった。

横尾 空をよく見るからUFOを見る機会が多くなるというわけではないようですね。見る人

に乗りたいね

は割とどこでも見てもいい。

ぼくがUFOをよく見た時期というのは考えると暇な時ですね。忙しい時は雑念が多いんですかね。

西丸 せかせかしてたら、見るものも減るでしょうね。

横尾 大山でね、秋元くんががんばってくれるけど、なかなかUFOは現れない…。心配しましたよ。

西丸 ぼく達が見てない方向にばかりに現れてたんじゃないですか。(笑)

横尾 やつとという感じで、山と山の谷間みたいな所に、あちこち点在するようにUFOが現れましたね。

西丸 そうですね。2、3秒くらいだったかな。どうせ見せてくれる気になったんなら、もっと長く、いろいろ動いてくれないのにも思ったけど。(笑)

横尾 UFOの方で、この程度見せておいて、どのくらい信じられるかなんて、試してるんじゃないですかね。(笑)

西丸 これはUFOかどうかどう証明してみる？ なんてね。(笑)

そういうことを試されたのならば、どうにか合格するんじゃないかなあ。

まず、あの大山で見たUFO

が、人家の灯だとか飛行機の見まちがいということは、ないと思いますね。あそこには家は無い。飛行機も飛ばない。

自動車の灯という可能性もほとんどないですね。例えば林道があったとしても、ぼく達の見た灯ぐらいの明るさは、車がぼく達の方に向かっておりてきた

場合の明るさですね。車だつたら、動きによって明るさに変化

しますよ。同じ明るさで上下することはありえない。ぼく達の見たのは、同じ光量、明るさで

上下しましたからね。あれはUFOにまちがいがいなかろうと思えますよ。

横尾 なるほど。これは西丸さん、宇宙人の試験に合格してるでしょう、おそらく。(笑)

今度は秋元くんに頼らないで我々だけで大山へ行って、UFO/UFO/と念を送ってみましょうよ。

西丸 そうしましょう。それから、もう少しUFOの近くへ行ければ嬉しいですね。今度はもっと山の中に入りましょうよ。

横尾 山の中まで行って、大丈夫でしょうかね？

西丸 大山の中腹にはゴルフ場があるでしょう。あのあたりまで行きますか。あんまり行きす

横尾忠則 UFO

横尾忠則



験があり、テレビポータシ
ヨンもできるといいうずこい
人なのだ。
さてさて、この二人…、
いつたいどんな話が飛び出
して来るか…!?

二人で UFO

浦嶋の亀は UFO!?

横尾 昔の人は UFO を…、人間の存在を超越したものを神と
思ったのかもしれないね。

それで思い出したけど、前に

ぎるとどうかなるそうだから、
あの山は…。

横尾 大山には昔から神さまが
おられるという言伝えがありま
すね。まさかあれは神さまの光

じゃないですよ。メカニック
な光でしたね。

西丸 神さまがどんな光を出す
か、ぼくは知らないけれど、あ
れは UFO だと思いますよ。

西丸さんが話されてた「浦嶋伝
説」ですか。あれと UFO との
関連はありそうですか？

西丸 あると思います。亀が宇

宙からきた UFO だとすれば、
話がよくわかる。

ぼくの言う浦嶋伝説は丹後国
風土記にあるもので、日本書紀
にも転載されているんですが、
1500年くらい前、丹後国

の浜で浦嶋が漁をしていると、五
色の亀がとれた。亀の大きさは
浦嶋の乗っている小舟にヒョイ
とのせたところなので、そんなに
大きくはないんでしょうね。

ところが、その亀から絶世の

美人が出てきた。人間の大きさ
をした女の人です。浦嶋が抱き
上げられるぐらいの大きさの亀
から、人の大きさのものが出て
きたなんて、不思議ですがね。
横尾 UFO だと思えば、理解
できますね。

西丸 そうなんです。

女の人は浦嶋を非常に好きに
なった。それで私と一緒に行き
ましょうと誘うわけです。

浦嶋がその女の人にとこから
来たのかと聞くと、彼女は「天
上仙家」から来たと言う。ぼく
は宇宙の彼方のどこかの星だと
思いますけど、昔の人にはそう
でも説明しないと理解してもら
えなかったんでしょうね。

横尾 1500年も前の人じゃ
あ、無理かもしれませんね。
それで、浦嶋は彼女と行った
んですか？

西丸 まんざらいやじゃないも
んだから、行ったんです。どう
も眠らされて連れて行かれたよ
うですよ。これは、我々の考え
る宇宙航法にピッタリ重なる。

冬眠状態で歳をとらない間に、
何十光年か行くわけだから…。
着いたところは普通「竜宮」
と言っているけど、海の中では
なくて、島の上に光り輝く殿堂
のある美しいところだった…。

横尾 海底でなく、異星の海上
の島に竜宮があったんですね。
西丸 そうらしいですよ。浦嶋
がその竜宮の入口に立っている
と、大勢の子供達がやってきて
ワイワイ言ってるんです。

女の人にあの子供達は何だと
聞くと、違う星から遊びに来て
る人達だと説明された。どうも
スバル、アルデバランなどの牡
牛座の星から来てるらしい。

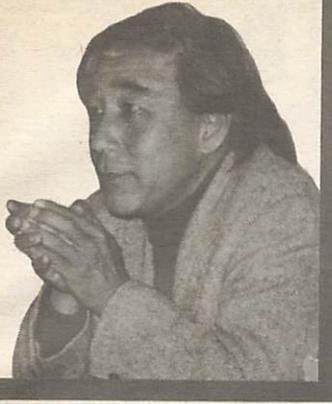
横尾 それは素晴らしい話じゃ
ないですか。それからどうなっ
たんですか？

西丸 浦嶋は彼女の両親に会っ
て欲待されるんです。そこで、
宇宙航法とか宇宙構造とかの説
明をされるんですが、悲しいか
な、1500年前の人だから、
よくわかってないんです。我々
が直接聞けば、もっとよくわか
ったんじゃないかと思えます。

浦嶋はどこに来たかもよくわ
からないまま、彼女と一緒にな
った。その星ではほとんど歳を
とらなくてすむらしい。
数年経つと、浦嶋はどうして
も故郷が恋しい、帰りたいなっ
てきたんです。それで、奥さん

におまえと別れるのはつらい
が、故郷にも帰りたいと訴えた
わけです。彼女も仕方なく浦嶋
を帰した。ところが、着いたと

知らないものは何でも知ろう
という態度は大切ですね。



ころの周りの様子が以前とどうも違う……。で、その辺の人に水江浦嶋子という名の家を知らないかと聞いたんです。そして、昔そんな人がいて、ある日嵐でもないのに行方不明になったという話があると言っています。どうも三百数十年も経ってららしいんですよ。

横尾 向こうに何年いたんでしようかね？

西丸 3年ぐらいじゃないでしょうか、異星の年数でね。

往復300年としたら、15

0光年ぐらい離れたところにある星なんでしょうね。そう考えると辻褃が合いますよね。

横尾 煙が出たらおじいさんという玉手箱はどうなんですか？

西丸 この話では、彼女が私のところへ来たいのなら、この箱をあけるな、あけなければいつでもコンタクトできると言っています、箱をくれるんですね。

でも、浦嶋は彼女の姿は見えないし悲しさの余り、あけてしまおう。そして、遠くの方で彼女の声がして、もうこれきりになったと嘆き悲しむ。こういう話なんですよ。

横尾 他にもこんな話がありましたか？

西丸 いや、ないですね。

横尾 ぼくが聞いた話……正確じゃないかもしれませんが。大昔、長い間健康を害していたある天皇がいて、どうしたら治るか国民が憂慮してたんです。

ある日、空から大亀が降りてきた。その大亀は腹に3つの玉を抱き、その中から童が降りてきた。UFOには着陸ギアみたいなのが底面に3つついている。それとよく似ていると思うんですよ。童というのは小さい宇宙人、1mぐらいのね。それを童と感

じますよ、当時の人はね。

西丸 そうですね。それで？

横尾 その童が天皇の病気の治し方を教えると言っていて、おじいさんがその亀に乗って、とてつもなく遠いところへ行つたというんです。そこで、長老

みたいな人から治す方法を教わってきて、天皇を回復させたという……。そんな話もあります。浦嶋の亀もこの亀もUFOだと

と考えると道理に合いますね。**西丸** そうなんですね。昔の人はUFOを亀と見ますよね。長野県の本曾谷にもUFOとは関係ないけど、浦嶋伝説が一つあるんです。川の真中にある穴から竜宮へ行って、乙姫を連れて帰ってきたという話です。**横尾** へえ、穴から……。穴と言え、地球空洞説は信じます？**西丸** 北極と南極のところに穴があって抜けているというのは信じられないですもんね。空洞でもないですもんね。空洞だっていつても、あんな空洞じゃないでしょうね。地球内部にたくさん空洞がある、人工的にあけたのかも知れないけど……。これだと信じられませんね。

横尾 アガルタとかジャンバラの伝説を調べてみると、どうも空洞中に高度な文明を持った進化した人類というのか、そういう人々がいる。彼らはどうも金星と関係を持っていらしいんですよ。それで空飛ぶ船みたいなものを持って、惑星間飛行もやっているというんです。**西丸** 金星でなく、火星だという説もありますね。火星は高度に進化した星で、平和を好み、我々の言う神であるというんです。で、金星には邪悪な蛇みた

いのがいて、地球人を悪へ陥れようとしている。火星と金星は神と悪魔みたいに絶えず戦っているというんです。

横尾 ぼくがわからないのは、本当に天使や悪魔がいるのか。それが俗に言うサタンの宇宙人とか、ゴッド的宇宙人なのか、よくわからないんです。それらは区別して両方とも存在していると思ってるんですけどね。これについてはお詳しいですか？

西丸 詳しくはないですよ。ただ、悪魔とか天使とか神……。そういう表現されるものに類するものが、果してかつて人間のつき合いの中にあつたのかどうか。人間が願望として、意識的、感

覚的に創り出したものかもしれないですよ。

そういう存在はなくなる場合もあります。だから、ぼくは宗教の中に出てくるものにこだわらない方がいいと思う。基本にはそういうもののつき合いがあつたかもしれないんだけど、古代人の創作なんてこともないとは限らないでしょう？

そんなことに踊らされないで

我々は自分の手でつかめるものを徹底的に追求する姿勢が大事かと思うんですがね。

横尾 我々の手でつかめるものって言うのはどういうものですか？宇宙人ですか？

西丸 そうです。それです。**横尾** 西丸さんみたいな方にぜひ、異星人の研究を進めてほしいですね。我々より、ずっと説得力がありますよ。

西丸 でも、宇宙人の方でその気になつてもうかがうことが第一ですね。(笑) 異星へ連れていってもらう。現代版浦嶋ですよ。数百年もかかったんじゃ困るけれど……。

横尾 向こうがその気になるより、こっちがその気にならなくちゃあだめでしょう。

西丸 だから、もうその気になつて、あるかという疑問じゃなくて、あると決めて、それを証明するんですよ。ないゾ、ないゾって言って、ないことを証明するのは不可能です。あるゾとして証明し、確認するのがいいと思いますよ。

未知の分野へ切り込む

横尾 まず信じたところから出

発することですね。近頃の科学

今の科学は、不信を前提に出発して
るみたいない気がします。



▲二人の話は、いよいよ熱をまし、どん
▼どん進んでいく。



ところが、今の科学者の多くはそういう意味では、エセと言われてもいいはずですね。わけのわからないものは否定するという態度…、これはとんでもないまちがいですよ。自分の知識の範囲外のもの否定するのだら、未知の分野へ切りこめないですね。

不信を前提に出発していますね。そこが基本的に違っていると思いますね。

西丸 ただ、ぼくは疑うというと語弊があるけど、要するに好奇心を持って、なぜこうなっているのかという疑問ね、そういうものは持っている。知らないものは何でも知ろうという、未知の分野はなるべく減らそうというのが本場の科学者の考え方ですよ。

横尾 現に宇宙人に会ったり、UFOに乗ったりした人がいるんですから……。

西丸 そうですね。でも、話だけじゃなくて、説得力のある証拠物件、反対者の文句の言えないようなものをパッと出して、どうだ！と言いたいですね。横尾 前回対談した中野さんというコンタクトは念力増幅器という金属をもらっています。西丸 それを見せてもらって実

験してみたいですね。何もしないのは宝の持ちぐさですよ。せっかく、人類に何かを知らせようという好意でくれたんでしようからね。横尾 実験ね、やってみるといいでしょうね。証拠物をもらうことは珍しいことですからね。西丸 科学的に裏付けが可能なものはほとんどんやっっていくことも必要ですよ。

この間、ガダルカナルへ行っていた時にね。そこでもUFOを見たと言うんで、これはぼくもソロモン群島のUFOが見れるかもしれないと期待していたわけ。金曜日の夜に多いと言うんで、待ってた。けれども、現れない。念のため、測候所に問い合わせたら、金曜日の晩は灯をつけた気球を飛ばしている

いうんです。多分、その気球だったんでしょね。確かめない人はもうUFOだと信じきっているわけですよ。科学的に物事を考えて、正しい情報をキャッチすることは大切じゃないですか？横尾 本当に、そうですよ。難しいことですよ……。UFOを信じる人にも2種類あると思うんですがね。直観的に信じる人、もう一つは証拠物件に頼る人、自分が体験して初めて信じる人……。西丸さんはどっちの方ですか？

西丸 証拠を見せられたから信じるというのは甘っちょろい考え方だと思えます。ぼくの場合には、UFOの存在は当然のことなんです。ぼくもまだまともにUFOを掌握したとは言えないですけどね、存在して当然ですね。ぼくはUFOを見る段階じゃなくて、乗る段階にいきたくて思ってる。ぼくを乗せてくれても、決して損はしないと思うけどね。(笑)

悲しいよね。横尾 そんな思われる心当たりがあるんですか？(笑)西丸 ないですよ。ないから、彼らの尺度でそう思われてるとしたら、悲しいわけ……。横尾 ぼくがUFOに関心を持つようになったのは夢からなんです。連続的にUFOの夢ぞめにあったんです。

西丸 先入観があった？横尾 全くなし。何か空に大きな潜水艦が現れる……くらいです。それから何となく空飛ぶ円盤なんだとわかってきた。最初はUFOばかりだったんですけど、いつの間にか異星人が現れるようになった……。西丸 人間と同じ姿ですか？横尾 人間そのものですよ。西丸 そう、人間と同じ格好でいいはずですね。どこの天体でも、ある時そこに生物が発生して、どんどん進化する。その一つの方向は必ず地球人類の形になるだろうということね。横尾 人類の形をした生命体しか文明が持てないわけですか？西丸 そうでしょうね。地球上でこうなった必然性が自分達なんだから……。他の星でも、条件が地球と同じだとしても、違

うとしても、そういう路線に乗



見るより乗る段階
へ行きたいね!

らなかった場合にはある文明まで到達できないわけです。ただし、全く違ったところで発生した種の違う生物同士では、子孫をつくれなれと思えますがね。

横尾 種が違うと？

西丸 たとえば、チヨウで言う

とモンシロチヨウとアゲハね。種が違うんで、この間に子孫はつけれないでしょ。

まあ、種が違っていても、同じ条件ですと進化した場合、染色体から何までソックリ同じものができるとありうるで

しょうが。そんな場合なら、異星人同士でも子孫がつくれるでしょうね。

横尾 さっきの浦嶋には子供はいないんですか？

西丸 子供をつくったとは書いてありませんね。

オバケの特等席へ

横尾 ところで、UFOとは関係ないかもしれないけど、西丸さんのテレポーターシヨンは有名ですね。西丸さんの場合、想起される対象の場所に肉体が行くんですが、それとも幽体離脱

っていったものですか？

西丸 肉体は動きません。こちらの姿は見えないんですから。目も見えないし、耳も聞こえないんです。だから脛を打って痛い！なんてこともある。

横尾 本当に痛いんですか？

西丸 えーえ、痛い痛い。横尾 じゃあ、痛いという感覚も一緒に行ってるわけだ。(笑)

西丸 あと、あざができた。だから肉体も行ったたのかもしれないけど、誰も見てないですからね。

最後の週にチャンスはもうこれだけだと、前日から宣言して、その日は民家に一人であてこめられた。家の方では、みんなが待ってるわけですよ。

横尾 西丸さんがそういう能力を持ってらっしゃることをみんな知ってますか？

西丸 いや、そうではなく、実験をやるといふことだね。

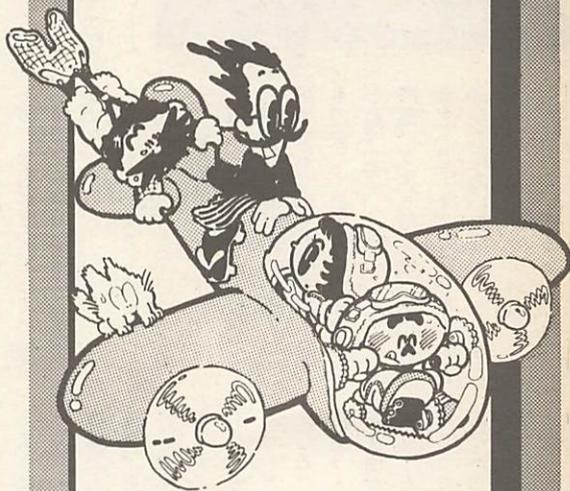
ところが、犬とは約束してないもんだから、ぼくが始める窓に集まってウォーって吠えるんです。何か怪しいというんでしょうね。追払ってはやりなかつたというのを5、6回やった

宝島

毎月10日発売 480円



雑誌宝島へ上陸すると——音楽が聞こえます。映画も上映中です。読みたい本もいっぱい。今まで知らなかったことや新しい生活を発見します。——未来への宝ものを自分で探すことの楽しさを覚えます。



〒162 東京都新宿区揚場町15セントラル
・コーポラス207 電話03(268)6312

UFOと一緒に乗り
たいねえ?

ですかね。

それで、まず表の鉄のドアを
コンコンと叩いたんです。

横尾 その時から、もう目は見
えないんですか？

西丸 そう、感覚としては何も
ないです。ドアを叩かれたんで
それからと母が出たら、誰もい
ない。これは、あと報告がきた
わけですがね。

それから、便所の木の戸がガ
タビシといったんで、オバケは
今便意をもよおした…と。(笑)
それから、廊下の洗濯機がガタ
ンと揺れた。ぼくの留守中に兄
達が母の労働力を減らそうと洗
濯機を置いてくれていたんで
す。そんなこと、知らないもん
だから、廊下を悠々と歩いてい
て、ぶつかっただけです。(笑)

横尾 目も見えずに悠々と歩い
てらしたんですか？(笑)

西丸 ええ、家の間取りを知っ
てるから…。それで、座敷の方

へ入って、ピアノの上まで飛ん
で行こうと思ったんだけど、途
中誰かの上に落ちそうな気がし
てうじうじしてたんです。その
気配もみんなにわかったらしい
ですね。オバケの特等席という
のがピアノの前にあって、そこ
へどうぞとみんなで言ったって
言うんですけど、ぼくには聞こ
えなかったんです。

横尾 聞こえないっていうのは
おもしろいですね。奇妙なリア
リティがあっただけおもしろい。

それは無念無想でやるんです
か？ ぼくは坐禅やりますけど、
なかなか無念無想にはなれませ
んね。

西丸 無念無想じゃなくて、一
つのことだけを考えるんです。

何も考えないのは難しいもの。
横尾 そのことだけね。そうす
ると、その方法で UFO のこと
をずっと考える。いいかもしれ
ませんよ、これ。 UFO に通
じるでしょうね。目を開くと U
FO が目の前にいたってことに
なるかもしれないですよ。

西丸 UFO、UFOと、U F
O のことだけを考えてね。

そうそう、関係ないけど、好
きな人にこっちを想わせたいと
いう時に手があるんでね。効
率的なのは、相手に夢を見させ

るんです。寝入りばなは熟睡し
てるから、明け方近くがいい。
少しトトロロし始めた頃ね。

横尾 こっちは起きなきゃなら
ないね。(笑)

西丸 そう。こっちはギョロギ
ョロと訝えわたって、その人の
ことを一生懸命考える。そうす
るとね、まず慣れない人でも 3
回に 1 回の割合で相手に夢を見
させられる。それを何度も繰り
返すと、こっちを好きな人じ
ゃなくても、もしかしたら私は
あの人が好きなんで…と思う
でしょう。それで、興味を持ち
始め、だんだん魅かれていく。

悪意じゃいけませんけど、意識

UFOに乗るつもり

横尾 とところで、UFO の話に
戻りますけど、大山へ行くブラ
ンをたてましようよ。

西丸 春になったら、天気の良い
日に、昼から夜にかけて行き
ましようよ。さしあたって、大
山のふもとまで行きますか。あ
んまり奥に行くと山神がいるか
らね。

横尾 向こうが見せる気なら、
どこでも見せてくれると思ひ
ますよ。

大山の UFO っていうのは、

的に、やろうと思えばできるん
です。

横尾 山口百恵なんかには…。

(笑)

西丸 向こうでこちらをよく知
ってなきゃあだめですよ。

横尾 なんて、こんなおじさん
が毎晩出てくるんだらう…なん
てね。(笑)

西丸 そんな印象を与えておく
と、どこかでヒョコッリ会った
時、アッ、理想の人だ…なんて
思うかもしれないですよ。(笑)

横尾 潜在意識の作用なんて、
そんなものかもしれないね。

人間はもつと潜在意識を活用し
なくちゃあね。

いつもあそこにいるみたいです
よね。母船がいるのか…、ひょ
っとすると基地になつてののか
もしれないですね。

西丸 それで自信がついたら、
山の上で UFO を呼びつけたり
してね。(笑) 中を見せてく
れとか、ちょっと乗せてくれと
かね。(笑)

人類の能力じゃあ解釈のつか
ないものを悪用しないからぜひ
貸してくれ、次に会った時に返
すからってね。後の約束してお

くとそれっきりってこともない
から。

横尾 担当をとるなんて、悪い
ね。(笑) でも、ぼくは謙虚
な気持になれば通じると思うん
ですよな。

宇宙人が生命をかけても何か
やるかって言ったら、やられま
すか？

西丸 ええ、やります。どこの
星へでも行きます。でも 300
年も経って戻ったんじゃ、証拠
を見せつけられないね…。

横尾 その頃戻ったら、地球上
にいっぱい宇宙人がいて、みん
な 2、300 歳ぐらいの寿命を
保つようになつてたりしてね。

西丸 それで、おまえ行つたん
だって？ こっちにいても同じだ
ったじゃないかなんて。(笑)

横尾 じゃあ、西丸さんも時間
の問題ですね。 UFO に乗るの
は…。一緒に乗りたいですね。

西丸 もう見るなんて言うんじ
ゃなくて、乗らなくちゃあ。宇
宙人の使命を代行するのに最も
役立つ人っていうのがあるんだ
らうけど、ぼくだってやれるぞ
という気がするわけですよ。

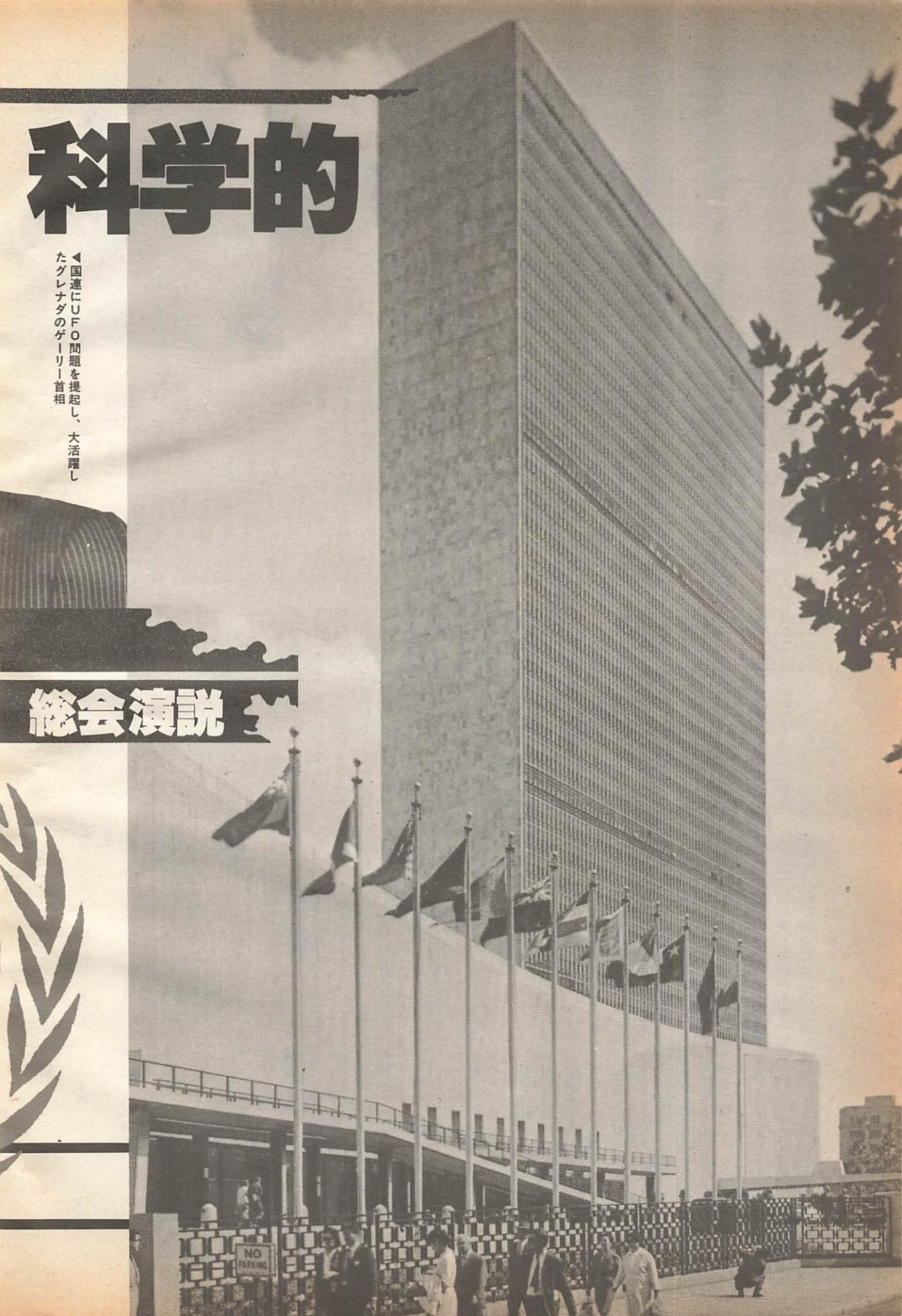
横尾 また、今日 UFO の意識
が盛り上がってききましたよ。

西丸 そうでなくちゃあ、いけ
ないですよ。(笑)

科学的

◀ 国連にUFO問題を提起し、大活躍したグレナダのゲリー首相

総会演説



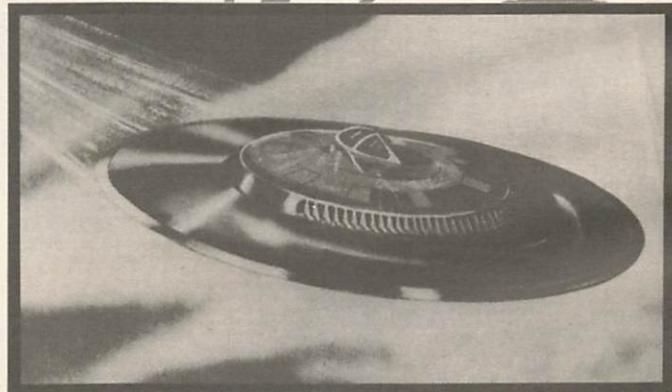
国連でUFOの研究を!

UFO研究史上、画期的な位置を占めるに至った第32回国連総会。その立役者であるグレナダ国のゲーリー首相とフライデー文部大臣の演説を、できるだけ詳しくお伝えしよう。本誌先月号の記事とあわせてお読みいただければ幸いである。



■現地報告 / その2■

グレナダ代表団の国連



1 ゲーリー首相演説

(1977年10月7日の国連総会本会議)

次に私は、1975年以来この場所で提起し続けてきた問題に触れたいと思います。

1975年に私はバミューダ・トライアングルを一例として挙げ、最も進んだ科学の領域においてさえも不思議に思われる種々の説明不可能な現象に關して研究を行う専門の機関または部局を国連が設置するように呼びかけま

した。1976年にはUFOをも含めるように範囲を広げ、世界の各国に対して各国の記録保管所に隠されているこの特異な現象に關する情報やデータを世界の人々に公開するように呼びかけ、これらの現象を研究するための国連機関を設置するよう再度呼びかけました。

この2度にわたる私の呼びかけに對

●UFO研究家●
富川正弘

し、国連総会のメンバー達は上品に耳を傾けてはくれましたが、実際のところ、これまで具体的な国連の行動は何一つなされておられません。

一方、この間、私は文字通り世界中の個人、グループ、組織からの手紙や通信の洪水に会いました。これらの手紙は皆、私が国連で提起した事柄に非常な関心を示し、私が提起したような形で国連が動き出すために、私がインシャティブを取り続けていくよう激励してくれているのです。

私は自分自身でも、UFOを目撃したことがあり、自分の目撃したものに私は圧倒されました。しかしながら、私のこの問題に対する主な関心は科学的なものではなく、本質的には政治的なものであります。というのは、各国の指導的立場にある人々をも含めた世界中の人々が強い興味を示している事柄に対しては、世界は正当な関心を払うべきだと固く信じているからです。

今年（1977年）春、メキシコのアカapulcoで開かれた第1回国際UFO

グレンダはUFO問題に関しては、ある特定の断定的な理論的立場を取るものではありません。民間や政府のUFO研究グループによく知られているように、UFOの本質、起源および意図については様々の理論があります。

O会議には、UFO研究分野での一流の科学者や研究者、著者達が世界中から400人以上も参加して、UFOおよび関連現象に対する非常に強い関心が世界に示されました。この会議で私は重要な演説をする光栄に浴しましたが、UFO会議はこの重要なUFO問題を国連の場で公式に認識させようとする私の努力を強く支持し、そのための決議を全会一致で採択しました。

現在世界中のマスコミは、我々がこの第32回国連総会の議題を含めて、今会期中に特別政治委員会で詳しく討議されることになっている、UFOおよび関連現象研究のための特別機関の設置を求める決議案に強い関心を示し、その成行きに注目して進展を待ちこがれています。マスコミはまた、無理もないことですが、パナマ運河条約の調印記念式典の際に私がジミー・カーター大統領を訪問して45分間話し合ったことから、UFO問題についても意見を交したのではないかと考え、エキサイトしております。

しかしながら、主な研究グループは、これらの様々な理論にとらわれず、次のような主目的を達成することに全力をあげています。即ち、UFOの本質、起源、意図についての合理的で誰もが受け入れられるような考え方を得

るために全ての重要なUFOに関する報告を研究すること、これらの研究の結果を一般大衆やマスコミに配布すること、重要なデータが国際的に速やかに交換できるようなコミュニケーション・システムを国連が設置するよう、国連に働きかけることなどです。各研究グループは、現時点において性急な判断をすることの危険をよく知っています。というのも、UFOに関する新しいデータが次々に加えられたり、あるいはまた、劇的なUFO事件がたった1つ起こることにより、ある特定の理論が正しかったことを示す突破口となったたり、または2つの異なる理論がひとつに組み合わさるといふ証拠がでてくるかも知れないからです。

グレンダは、我々の提出した決議案に盛り込んだ案文にはこだわらず、この問題に関して非常に柔軟な態度を取る用意があります。というのも、この問題で重要なことは、新しい国連機関を国連加盟国に押しつけて費用の分担等の問題を派生させることではなく、国連の場において、UFO問題に関するオープン・ディスカッションの機会をもたらし、今後もこの問題が国連総会で生き続けていけるような何らかの決議案が採択されることが重要な点からであります。国際海洋法委員会が予備的な小国から発展した例に見るように、グレンダのような小国が、国連にUFOを研究するための専門の機

関または部局を設置しようと提案しても時期尚早だと考えるかも知れない多数の加盟国にとっては、UFO問題を研究して総会にレポートを出すような、特別委員会を設置するということより、もっと控え目な提案ならば支持がしやすいかも知れないからです。

多くの非常に重要な国連の活動は、はじめは小さな特別委員会というような控え目なスタートをして大きく成長したのです。私は、全ての加盟国がUFO問題の解明のために協力して下さり、人類を不思議がらせ続けてきたUFO問題に関する重要な科学的情報を発表するために貢献していただけるものと確信しております。

共同宇宙開発を始めた世界の2大大国（アメリカとソ連）が今またアストロノーツとコスモノーツ（注1）いずれも宇宙飛行士の意味の経験に照らし、パミューダ・トライアングル問題の研究と、宇宙における他の生命体の存在の可能性の研究とをするために新たな協力を開始したという報告がなされたことは誠に意義深いことです。これらは非常に重要な進展であり、それに加えて、他の諸国が今では公式にUFOの存在を認めはじめ、UFOについての公式発表をするようになってきたということとあいまって、今やUFO問題は従来のような物笑いの種にされるべきものでなくなってきたことは明白です。

■最初は控え目なスタートでも

2 フライデー文部大臣・特別全権大使演説

(1977年11月28日の国連総会第35回特別政治委員会)

本日我々が討議しようとしている未確認飛行物体(UFO)および関連現象に関する議題は、1975年以来、グレナダが一貫して国連総会の場に提起してきたものです。この緊急を要する問題について、グレナダ国の首相兼外相であるサー・アーネスト・マンニュー・ゲリーはグレナダの主張を根強く推進してまいりました。第30回、31回、32回国連総会における彼の演説は、世界歴史の回廊の中に永遠に響きわたることでありましょう。

UFO問題に関する世界各国の協力を呼びかけるために、ゲリー首相は10月7日の国連総会演説に先立ち、1977年の6月にロンドンで開かれた英連邦諸国首相会議とグレナダで開かれた第7回米州機構地域会議でこの問題を提起いたしました。いずれの場合も主張点は同じです。即ち、地球という惑星が知的生物の住む唯一の場所ではないという強い可能性を世界各国に認識させると共に、世界の一部の科学

国際連合の主要委員会

- 総会
- 第1委員会(政治・安全保障)
 - 第2委員会(経済・財政)
 - 第3委員会(社会・人道・文化)
 - 第4委員会(信託統治・非自治地域)
 - 第5委員会(行政・予算)
 - 第6委員会(法律)

特別政治委員会

者がすでに始まっていると主張している地球人類と地球外天体からの知的生命体とのコンタクトやコミュニケーションを調整する国際的戦略を立てるために、これまでに蓄積されたUFOに関する膨大なデータを人類が真剣に考えるべきだというものです。

小国のグレナダが時期尚早なことをするとお考えになるといけないので、UFO研究を積極的に支持する勇氣を持ち、地球人類と地球外生命体とのコンタクトを調整するための国際的ガイドラインを設定する必要性を主張した国連加盟国が、これまでに少なくともひとつはあることをここで強調したいと思えます。

1971年11月8日、第26回国連総会の第1委員会ウガンダのグレース・イビンギラ国連大使は、本日のこのUFO問題討議に全くふさわしい演説をされたのであります。これに對

■グレナダ提案への重要な序曲

最初の提案は、1966年2月に、当時の国連事務総長ウ・タント氏にあって提出されました。これは「国連未確認飛行宇宙物体計画(UN-UFO)」と呼ばれるもので、国連

して米国代表は第1委員会討議する議題としてはあまり適切ではないと反論したのでありますが、しかしながら、米国代表がその論評の中で、地球外生命体およびその意味するところとしてのUFOの存在は可能性として大いに興味をそそる問題なのでどこか他の場所で十分な検討をすべきであろう、と提案した点が意味深いと思われ

ます。しかし実は1971年以前にも、UFO現象に関する国際協力を国連に呼びかけた科学者や研究団体がいくつもあったのです。こうしたグループのひとつに、アメリカの国際UFO星間宇宙船研究ネットワーク(ICUFON)があります。このグループがこれまで国連とその加盟国に対して申し入れを行ってきた7つの主な提案の内容と、それに対する国連の公式な反応を当委員会の皆様にご紹介してみましよう。

の永続的管理の下に次の事柄を研究するための広範な研究組織を設置することを目的としていました。

- 1、未確認飛行宇宙物体および現象
- 2、未確認宇宙生物

- 3、未確認宇宙力
- 4、宇宙における地球、および地球における宇宙の関係

この計画の目的は国連加盟国と一般大衆への情報サービスにありました。1966年2月1日付の提案は、2月14日付および5月9日付の2つの関連追加資料を添付して、いずれも国連事務総長あてに提出されました。この提案書に対して国連事務局からはICUFONの代表者の自発的な努力とUFO問題に対する関心に謝意を表する穩当な返事がありました。

このICUFONの提案は、直ちにマスコミによってかなり広範に報道されました。これらの記事はICUFONがウ・タント国連事務総長に対して国連のみが、世界の人類を代表して、地球外からの訪問者と接触し会談を持つ充分な権威を有するものと期待されているという説得を主唱したことを証拠立てています。

ICUFONの2度目の提案は、1966年5月、国際宇宙安全保障条約案という形で国連事務総長あてに提出されました。

この提案は6月に国連加盟国と国連各機関に対しても送られ、次の国と機関から返事が寄せられました。宇宙平和利用委員会、オーストラリア、カンボジア、カナダ、西独、ガーナ、イラン、イタリア、ジャマイカ、ニュージーランド、ニカラグア、シンガポール



▲ICUFON代表のケビクツキー氏と握手する富川氏

それにホーリー・シーの各国政府。また国際航空運輸協会（IATA）からは受領の確認書が届きました。

ICUFONの3度目の提案は国連事務総長あての手紙として書かれ、国連事務局、宇宙問題委員会および国連総会が、1967年9月にウィーンで開催が予定されていた国連宇宙空間探索および平和利用会議に世界のUFO研究分野で活躍している一流科学者達の代表を招待するように勧告しています。これに対して、当時の宇宙問題委員会議長クルト・ワルトハイム氏（現国連事務総長）から返書が寄せられま

した。その返書の内容は、この会議に参加を希望する個人は、1966年12月19日の総会決議で決定された公式加盟国または特別機関の代表を含めてもらう必要があるというものでした。

ICUFONはこの国連からの返事に従い、ニューヨークにある各国政府の代表部あてに手紙を書き、ウィーン会議の代表団にUFO研究の科学者をも含めるように勧告しました。この勧告に対しては、少数の国からしか返事が来ませんでした。

ICUFONの第4番目の提案は、1967年11月3日と6日にドイツのマインツでヘルマン・オーベルト博士が議長となって開催された第7回国際UFO会議で決議として採択されました。この会議はUFO問題が全地球的な問題であるとみなし、世界中の国に対して、UFO問題を調査し、原因を

究明し、我々の宇宙空間において平和的な関係が相互に発展するよう各国が力を合わせてUFO問題の科学的な調査研究に協力することを呼びかけたのです。

この会議はまた、国際的なUFO研究機関の設立を呼びかけました。この提案は再び国連加盟各国に提出され、次の各国がこれに対して返事をよこしました。オーストラリア、オーストラリア、アフガニスタン、カナダ、チェコスロバキア、キプロス、イスラエル、リヒテンシュタイン、トリニダードトバゴ、イギリス、ホーリー・シー、アメリカおよび宇宙問題委員会。

このように、国連の支援のもとにUFO研究を行うべきだという提案は幾度も国際的な働きかけがなされてきたのですが、国連の積極的な関心の対象にはされてこなかったのです。

ICUFONの不屈の勢力

しかし、国連の度重なる拒絶にもICUFONのメンバーは思いとどまりませんでした。1967年7月29日、ICUFONは国連に請願書を送り、世界各国に対し次のように呼びかけました。

(1) 近くウィーンで開催予定の国連宇宙空間探索および平和利用会議の緊急議題として、UFO問題を全地球的な問題として取り上げること。

(2) 世界各国でのUFO現象に関する諸問題に決着をつける国際UFO機関設立のために国連が使用できるよう世界各国がそれぞれ国有地または私用地を提供すること。

このように緊急な行動を求める理由として、ICUFONは次の3つの興味深い理由をあげました。

(a) 地球および地球の周囲で活動している未知の空中の乗り物に関し、過去

25年にわたる事実と証拠があること。
(b) 多数の国々の政府によって公式な調査が行われていること。

(c) 権威ある国際研究機関が存在していないため、無責任な出版物と事実を知らないマスコミとが一般大衆に重大な衝撃を与え、各国政府がますます容易ならぬ状況に直面しつつあること。

この請願書に対し、カンボジア、カナダ、キプロス、ジャマイカ、ケニア、マルディブ共和国、パキスタン、それに宇宙問題委員会と全米科学アカデミーから非常に興味深くかつ重要な返事が寄せられました。

カンボジアはUFO研究機関の本部および観測所の建設のために広大な土地を提供すると申し出ました。またケニアは、もしアメリカ代表がUFO問題を国連の安全保障理事会か宇宙平和利用委員会で討議するよう提案すればケニアも自動的に討議に参加すると知らせてきました。このケニアの返事は国連での活動にあたって「超大国」の意向にいかんにか慎重に対処せねばならぬかを示すうえで意義深いものです。

国連にUFO研究のための世界的な行動をとらせようとするICUFONの6番目の提案は、1969年12月9日付のウ・タント国連事務総長、国連宇宙平和利用委員会、ユネスコおよび国連の全加盟国（当時139カ国）にあてた手紙によって提出されました。この提案は地球以外の宇宙物体の活動

に関して国際的な考慮をはらうため、世界会議の開催を要求しています。

この提案に対して、まず第一に国連宇宙問題委員会から、国連がこれまでUFO現象を研究していなかった事実を強調する確認書が届きました。さらに次の各国からも返事が寄せられました。オーストラリア、セイロン、カンボジア、キプロス、フランス、ギリシア、インド、リビア、マルディブ共和国、モリシャス、モロッコ、パキスタン、パナマ、ポルトガル、シンガポール、スペイン、スウェーデン、ウルグアイ、ユーゴスラビア、そしてアメリカ合衆国。アメリカからの手紙は米空軍のUFO調査機関「プロジェクト・ブルーブック」を終了させるに至った経緯を知らせるものでした。この決定の基盤となったコンドン白書は、発表以来激しい批判の対象となり、今日では全く信用されていません。このことについて、私は後ほど触れたいと思います。しかしその前に、UFO研究の分野での国連の活動を起こさせようとしたICUFONの努力について、もうひとつだけ例をあげさせていただきますと思います。

1974年4月17日、国連大学の設立に関する議論がたけなわの頃、ICUFONは国連と国連大学に対するプロジェクトとして、全人類の利益のために国連大学がUFO研究を行い、国連事務局が研究の結果を収集し照合す

るという国際的な合同研究を提案しました。残念ながら、国連事務局も国連大学も、UFO研究を国連大学での優先的研究項目とは考えなかったようです。

●国連内の理解者

我が代表団が入手した情報によりまず、国連がUFO研究にもっと積極的に参加するように願っている人々は、国連に理解者を持ち、その理解者からの激励まで受けていたことが明らかです。その人は、ウ・タント前国連事務総長です。

1967年6月27日付の「ニューヨーク・ポスト」紙は、ウ・タント氏がUFO問題は国連にとってベトナム戦争に次ぐ重要な問題だと親しい友人に打ち明けたことを報じています。

しかし残念ながら、国連事務総長によって示されたUFO現象に対する関心は、国連全体の関心として分かち合われるまでに至らなかったことは明らかであります。このような国連の否定的態度が、UFO問題の研究を国連に

■国連へのUFO研究の意義

グレナダは1974年に国連に加盟し、1975年以来、ゲリー首相は超常現象とUFO現象についての研究の問題を国連総会の場に一貫して提起しつづけてまいりました。国連がUF



西独のエルンスト・ティムス氏にあって国連のシェフ・ド・キャビネのC・V・ナランマン氏署名の手紙（1967年10月23日）

「国連事務総長になりかわり、貴殿の10月18日付のお手紙を受け取りましたことを確認いたします。貴殿のUFOに対するご関心は存じあげておりますが、貴殿にあってはアブドゥル・ガーニ氏の手紙に書かれていたことは正に事実であります。国連も国連事務総長も共に、UFO現象を調査してよいと言う権利を有していないのです。一言申し添えますと、国連事務総長のUFO問題への関心は純粹に学問的なものであり、個人的なものであります」

提起してきた科学者達や各国代表に落胆と欲求不満を起させさせる原因であったわけです。

をまだ保っている国が、しばしば、UFO問題のような異常で驚くべき巨大さと複雑さをもった新しい世界問題に直面する心理的な勇氣と大胆さをもっているからであります。

我々グレナダ代表団は「どうしてグレナダのような国が、今頃こんな問題を持ち出すのだろうか。どんな動機があるのだろうか。どうして小さな開発途上国という自国の状態に身分相応の他の問題を持ち出さないのだろうか」という疑問が出てくるものと予想しています。もちろんグレナダは国連の場で提起される重大な問題、つまり国際社会が直面している全ての社会的、政治的、経済的問題に関しては十分に認識しており、優先的に扱われるべき事柄として全面的に支持しています。実を申しますと我々は、UFOの科学的研究は世界の社会的、政治的、経済的問題を解決しようとする我々の試みの必要不可欠な部分であると考えているのです。これは、地球以外の場所に知的生命体がいるかもしれないという仮説を強調しようとするだけの単純なものでは決してありません。むしろ、地球と宇宙の他天体との関係、地球人類と他星の知的生命体との関係について何らかの見通しをつけることを通じて、国際社会をひとつにまとめようとする試みなのです。

世界中の国で何十億ドルもの金が軍備拡張や破壊的な新兵器の開発に消費

されていることに思いをいたす時、今述べたような関係について現時点で真剣に考えることは、決して場違いでも不適當でもないと思うのです。我々は軍備に使われる資金をもっと未開発国の生活水準を改善するために用い、これらの国の人々が地球上の同胞と共に平和と調和に満ちた暮しができるようにしなければなりません。また我々は地球の人類として、地球外の知的生命体との心理学的、哲学的な接触、交信に備えることをもつと真剣に考えなければなりません。

現在、地球上のいくつかの技術先進国が、UFO現象をも含めた宇宙研究を行っている事実を我々は知っています。これは地球から発射された宇宙船と地球以外から来た宇宙船とが宇宙のどこかで接触する可能性が非常に大きいことを意味しています。この接触がどんなものであれ、地球上のあらゆる国にとって大変重要な意味を持つものであり、この点からしても我が代表団は世界中の全ての国が、グレナダも含めて、UFO研究から得られた全てのデータを知る正当な権利を有するものと考えられるわけです。

グレナダは小国なのだから、このような議論をまきおこす問題は超大国にまかせておけばよいという意見もあります。しかし超大国はUFO存在の真の証拠を隠して、入手した技術データを自国の国家目的のために使用してき

ていると言われています。

一部の人々が不幸にも笑い物にしていうUFO問題をグレナダのサー・エリック・ゲーリー首相がこの国連の場に提起したのは、決してたわむれや、いかげんなことを言うためでない、時間が証明し、歴史が記録にとどめることでありましょう。

●著名な科学者達の見解

では次に、この問題に関する最も有名な権威者達が報告しているUFOの物理的な特性を、当委員会の皆様にご紹介してみましよう。

世界的に有名な科学者で天文学者のJ・アレン・ハイネック博士は、これまでに多数の科学者達が集めた無数のUFO目撃報告に基づいて、この現象を比較的遠距離からの目撃と比較的近距离からの目撃に分類しています。さらにまた、レオナード・ストリングフィールド氏は新著“Situation Red, The UFO Siegel”の中で、世界中で数千人の人々が地上および空中でUFOと近接遭遇するという恐ろしい体験



▲S・フリードマン博士

★J・A・ハイネック博士によるUFO目撃報告の分類★

比較的遠距離からの目撃			比較的近距离からの目撃		
NL	DD	RV	CE I	CE II	CE III
ノクターナル・ライト (夜間光体)	デイルイト・ディスク (日中円盤)	レーダー/ビジュアル (レーダー/眼視)	第1種接近遭遇	第2種接近遭遇	第3種接近遭遇
夜空に奇妙な動き方をする光体の目撃。	日中に目撃されたUFO。一般には金属的な外観をした円盤型。	レーダーと肉眼で同時に目撃されたUFO。	150m 以内で目撃されたUFO。UFOと目撃者または周囲の物との間に相互作用は認められない。	物理的な痕跡を残さず第1種接近遭遇。EM効果、陸痕、動物や人間への物理的な影響など。	UFO搭乗員が目撃されている第1種接近遭遇。

をしており、なかには肉体的な影響に苦しめられている人もいと述べています。

UFO現象に関する理論の次に、今度にはUFOの継続的研究が人間にとってどんな意義があるか考えてみましょう。この考えを進めるにあたって、UFO現象は真実起こっているものであり、世界の多くの人々がUFO問題をより一層科学的に研究することを支持しているという事実と、また現に国連に所属している各国の政府の多くがこの現象をより深く調査する必要があると考えている事実とを受け入れ、認識していただきたいと存じます。

UFO現象に関心を持っている有名な物理学者スタントン・フリードマン博士によれば、UFOの飛び去ったあとに発見された土質や植物の変化などの物理的な痕跡が、世界57カ国にまたがって1100件以上も報告されているとのこと。このようにUFO現象は世界の中のただ1国のみとか地球上の1地域のみに限定されているのではなく、全人類にとって重要な意味を持つ全世界的な現象なのであります。さらにまた、ギャラップ世論調査などの統計結果(注IIギャラップ世論調査の詳しい結果については本誌28号を参照)は、特に若い人達や高等教育を受けた人達がUFO現象に注意を向け、受け容れるようになってきていることを示しています。

■世界各国のUFO研究の現状

UFO問題に対して多くの国がオープン・マインドな立場をとるようになってきていますが、一方ではまだまだUFO活動を秘密のベールでおおい、マスコミ報道を全然していない国もいくつかあります。

各国の事情について先ほど述べましたレオナード・ストリングフィールド氏の新著をもう一度参考にしてみたいと思います。ストリングフィールド氏は、インターナショナルUFOレジストリーの代表者ウィリアム・ハウック氏からの引用として次のように書いています。

「クルト・ワルトハイム氏がオーストリアの首相選挙に敗れた直後、私は彼にオーストリア政府がUFO報告を隠しているのではないかと質問した。彼は、もし重要な情報が入手できたなら

オーストリア政府は公表をためらわな
いだらうと答えた。このような取り組
み方は、ヘルマン・オーベルト博士を
長とする政府委員会の発見に基盤を置
いている西独政府の公式な態度でもあ
る。オーベルト委員会は「UFOは非
常に高度な知的生命体の手になるもの
である」と認めており、西独政府はU
FO現象を非常にオープンな態度で取
り扱っている。

私の知る限りでは、英国空軍省はあ
まり真剣な取り組み方をしておらず、
UFO報告を米政府に流すだけで事
足れりとしている。カナダでは、合同
参謀長の命令により、全てのUFO目
撃報告は米軍通信ステーションに報告
されなければならないことになってい
るが、カナダ国防相はこのような取り
決めについては全く知らないと言っ

ている。オーストラリア空軍も、UFO
目撃の正体を明らかにするために米軍
と緊密な協力を行っている。

チェコスロバキアも大規模なUFO
研究を行っているが、これについては
全くの秘密にされている。ソビエト科
学アカデミーは1968年にUFO研
究は「非科学的」だと発表したのが、ソ
連がUFO研究を行っていることは疑
いもない事実である。この点につき重
要なのは、ソ連モスクワ航空研究所の
数学および天文学教授ジゲル博士が
長年にわたるUFO現象研究の結果、
UFOは地球外からやって来るとの確
信を得たと語っていることだ。彼はU
FOを説明する仮説として、地球外生
命体が宇宙探検を行っているのだとい
う仮説以外は考えられないとしてい
る。事実、1967年以来、ソビエト
の週刊誌の記事の中でジゲル博士は
UFO現象を研究するために国際的な
活動が必要であると呼びかけている」

ストリングフィールド氏は、これと
同様のUFO研究がベネズエラ、アル
ゼンチン、ブラジルなども行われて
いると報告しています。ブラジルに関
して言えば、ブラジル空軍はUFOを
観測し分析していることを認めている
と書いています。ブラジル空軍は確実
性の高いケースの調査をしているので
す。また、アルゼンチンはこれまでU
FO事件に関する情報をオープンに交
換してきたと報告しています。これら
の事実は、国際的にUFOの謎に対す
る関心が高まってきていることを示し
ています。

ストリングフィールド氏はまた、中
国はUFO活動を非常に注意深く監視
しているが、公式には何も発言してい
ないと報告しています。

●米と仏での重要な進展

最近、フランスとアメリカの2国に
おいて、UFO現象の研究分野で非常

話題沸騰！SF界空前の豪華プログラムで贈るシリーズ第3弾

SFファンタジア

③異世界編

980円



オールカラー
別刷特集

スター・ウォーズハイライト (サービス中)

①地上編 ②時空編も好評発売中

学研 学習研究社・販売局

に重要な進展がみられました。

1977年5月1日、フランス国立宇宙研究センター(FNCS)はUFO問題を研究するための公式グループを設立しました。この国立宇宙研究センターはフランスの有名な科学者クロード・ポエルの指揮下にあり、研究分野は多方面にわたっていて、全ての主要な政府研究機関——国立科学研究所センター(NCSR)、天体物理学



▲カーター大統領

研究所、国立気象学会(NMS)、諸大学など——から研究員が活動に参加することになっています。こうした動向は、不可思議なUFO現象を理解するための国家レベルにおける大きな一歩となるものです。

アメリカに關しましては、前に触れたプロジェクト・ブルーブックがU

■地球の次代を担う若者達のために

我々グレナダ代表団がこのようにいささか長い演説をしてみましたのは、我が国の首相がUFO研究の問題

Oは米国の安全保障にとって脅威ではなく、また地球外から来たものでもない」と結論づけてしまったので、米空軍はそれ以降、UFOへの関心を払っていないように思われます。少なくとも一般大衆の目にはそう映っています。しかし、今や新しい大統領がホワイト・ハウスに入りました。彼は大統領選挙中の公約として、UFOに關してもっとオープンな姿勢をとり、政府が集めているUFOに關するデータをもっと一般大衆が入手しやすいうにする」と約束したと報道されています。

さらにも、アメリカでのUFOに對する関心の高まりに應えて、ホワイト・ハウスは米航空宇宙局(NASA)にUFOの調査を再開するかどうか再検討するよう指示しました。これは、国家レベルでのUFO研究におけるもうひとつの大きな一歩です。我々の考えでは、これはアメリカ合衆国の新大統領の誠実さと、UFO問題全般に關する大統領の率直公正な関心を示すものであります。(注II既にご存じのように、残念ながら昨年12月末のNASAの答申はUFO研究再開の必要性なしというものだった)

をどうして持ち出してきたのか、特別委員会の皆様によくご説明するためであります。各国代表の皆様時間を浪

費させ、国連総会での仕事が馬鹿にされるようにするためには決してないことをご理解いただきたく存じます。

過去数年間にわたり、国連とその加盟国に對してUFO現象に關する問題が提起されてきております。しかし、1973年以降世界的に増加しているUFO活動に刺激を受けて、いやしくも1国の国連加盟国が正式にUFO問題を国連總會の場での討議のために提起するだけの勇氣と関心を持ち、透察力を示したのは、これが初めてであるということの皆様を示したく思ったわけです。

グレナダ代表団は、他の多くの民間人や科学的なグループ、さらには公式には表明していないが我々と同じ考えを持ついくつかの国々と同様、UFO研究の問題は国際社会の問題であり、従って国連が取り上げるべき問題だと考えています。というのも、我々はUFO問題の中に、簡単に言うると、全人類にとつての非常に新しく広大な未知の分野を見るからなのです。

我が国の首相は先日の国連總會で次のように申しました。
『科学的諸発見に照らして考えれば、この惑星が神の創りたもうた唯一の場所であると考えるのは虚偽以上の何もありません』

DR. ALLEN HYNEK
Air Force consultant for over 20 years on PROJECT BLUE BOOK, is the world's leading expert on UFOs

THE HYNEK UFO REPORT
*Distills over 12,000 sightings and 140,000 official Project Blue Book pages.
*Separates the real from the false, and
*Reveals what the Government suppressed and why

「UFO現象が本当であり、それを研究し理解し、ついには解決する努力をすることが、宇宙に關する人類の展望を革命的に変革するための深遠な効果を与え、もしかすれば跳躍台になるかもしれない」と真剣に考えていなければ私は今日UFO問題などに1秒たりとも時間を浪費などしてはいないだろう」
J・アレン・ハイネック博士



「科学というものは、観察の結果得られた事実によりそれが絶対に不可能だと証明されない限り、何物であれ可能性があるという考え方をしなければならぬ」
ヘルマン・オーバーヘルト博士

天文図書の

地人書館 〒112 東京都文京区後楽1-1-10
☎03(815)4422 振替東京6-1532

新刊

●実用性豊かな入門解説書

天体観測ガイド 天文観測年表の使い方

下保茂著 B5変型 160頁 定価1000円 160円
年表を自由に使うため、年表に出てくる言葉の意味や、種々の数値が表わす天文現象、数値のない日の計算法などを解説した。

●1年間の総ての天文現象がひと目でパッチリ

'78天文観測年表

天文観測年表編集委員会編 B5判 200頁 定価1000円 160円

●星座早見盤つきの“天文ポケット年鑑”好評、残部僅少

'78天文手帳

「天文と気象」編集部編 A6判 192頁 定価480円 200円

●サマルカンド開都2500年記念複製版

へべリウス星座図絵

—付 ウルグ・ベグ星表—

藪内清訳・解説 A3判 150頁 箱入 定価4500円 690円

好評発売中

●天文学習に役立つ天文ファン待望の書

天文観測辞典

古畑正秋監修 A5判 380頁 定価2900円 200円

●天文書のベストセラー、早くも第3版

天文の計算教室

斉田博著 A5判 228頁 定価1500円 200円

●Nature誌がアマチュア必読の書と激賞

宇宙の発見 望遠鏡による天文学入門

アシモフ著 斉田博訳 A5判 330頁 定価2500円 200円

●SFよりおもしろい

未知の宇宙 そのナゾに
いどむ

リービット著 斉田博訳 B5変型 210頁 定価2000円 200円

●ヘール天文台校閲による天体写真の決定版

パロマ天体写真集 (永久保存版)

大沢清輝解説 B4判 定価1700円 240円

●この1冊で天体写真がパッチリ！

天体写真入門 初心者のための
徹底ガイド

太田健太郎著 B5判 144頁 定価800円 160円

宇宙の彼方に生命が存在する可能性
があるという仮説はますます勢力を得
てきており、今や国連においても公然
と語られるはじめています。現に197
7年6月20日から7月1日にかけてウ
ィーンで開かれた国連宇宙平和利用委
員会第20回会議では、地球・文明に関
する問題が何度も提起され、わが地球
上で地球外文明とのコンタクトが行わ
れれば大変な衝撃を与えるだろうと話
し合われました。UFO現象の研究は
地球外生命の存在を確認し、地球上の
人類に全く新しい生活スタイルを与え
ることにより最終的な解答をもたらす
ことでしょう。

私が現在提起している事柄は、未
確認飛行物体とその関連現象に関する
研究を先行し、調整し、結果を配布す
るための国連の機関または部局を設
置しようという呼びかけです。
我が国の首相が既に明らかにしまし
たように、グレナダは当案件について
は非常に柔軟な態度で臨む用意があり
公式な機関を設置するための討議に入
る前に、国連事務総長、各専門機関、
そして国連の他の機関の助力をいた
だいて、国際的なUFO現象の現状を再
調査して、次の第33回国連総会に報
告書を提出するための小委員会を設
置しようという決議案の用意もしてあ
ります。今日の世界に起こりつつある技
術的進展および他の進展にかんがみて、

このUFO現象をもっと深く掘りさげ
て考慮したいという国があるかもしれ
ないと考え、我々は一度に多くは望ま
ず、まず着実な第一歩を踏み出した
と考えました。
実はその決議案の案文も用意がで
ているのですが、それを皆様に提示し
たいです。事前に、当案件に対する興味
をわきたち、早く演説したいと待ちかま
えておられるに違いない他の国の代表
団の方々のご意見をお聞きしたいと存
じます。
我が代表団は、当委員会の各国代表
各位が我が国のサー・エリック・ゲー
リー首相からの呼びかけを受け入れて
我々の演説を支持し、今日のこの日を

「どこからであれ、いったん我々が真
実に目覚めるなら、世界はひとつに結
束しなければならぬ理由を悟るであ
らう。その答えは、人類にとって良い
ものばかりで満ち満ち、科学的知識と
文化的知識がふんだんに与えられるよ
うなものかもしれない。あるいはまた
人類の究極的破壊を意味するものかも
しれない。重要なことは、人類が自分
自身を発見できるように真実を知ること
である」
L・ストリングフィールド氏
我々の世界の全ての人類、特にこの地
球の次代を担って立つ若人達の利益に
とって歴史に残る日にするために、グ
レナダの提案にご賛同いただけるよう
心から願っております。

取材協力 ■ 国際TM協会 / ポールR. マッソン
久保田洋子

空中浮揚 その力は 隠された 能力だ！ 挑戦は揚

朝夕2回の瞑想が、深い充足感をもたらし、強い精神力とエネルギーがわき出てくる！ TM(超越瞑想)と呼ばれるこの瞑想法の原理は、従来の瞑想法とは大きく違う独特なもので、さらに驚くべき事実が隠されていた！



▲スイスにある国際TM協会の本部。各国のリーダーがさらにここで修練を積んでいる。



▲世界各国でTMを学んだ人は200万人の数にのぼる。



▶ TMの創始者、マハリシ・マ
ヘッシ・ヨーギ (63才) 氏。

語る

TMは自然で楽しい経験

— TMの始まりについて聞かせて下さい。

「TMの創始者はマハリシ・マヘッシ・ヨーギ先生(インド人)で1958年頃から世界の各地を訪ね歩いて、TMを教えてきました。最初は指導者はマハリシ先生1人でしたが、この20年の間に2万人に増えました」

— 日本でのTMの歴史はどうですか。

「1970年にマハリシ先生の一番弟子が来日したのが始まりです。日本は東南アジアの中では、最も組織的に充実しているといえます。私が教えたのは1973年からで、いま、日本

での指導者はここに居る久保田さんを始め、5人います」

— 他にどうい国々でTM運動が盛んですか。

「アメリカ、カナダ、フランス、ドイツ、イスラエル、ニュージーランド、オーストラリア、インドと世界中にわたっています」

— TMの教えを受けた人は、世界中にどの位いるのですか。

「約200万人です」

— マハリシ・マヘッシはインド人ですが、特にインド文化の影響というものはありますか。

「それは全然ありません。TMの教え

は世界共通のものです」

— TMは日本語では超越瞑想と訳されていますが、普通の瞑想とどう違うのですか。

「一番大事な事は、簡単に自然で誰でも出来るということ。今まで「瞑想」というと、非常に神秘的で、かなりの集中力を要する特別なことのように思われてきましたが、それは大きな間違いなのです」

— と、いいますと集中力というのは特に必要ではないわけですか。

「黙想などの場合は、ある「命題」があつて、その一点に心を集中します。しかし、マハリシ先生の考え方は、それは心の自然な動きに反することなのです。マハリシ先生の考え方はこうです。私達の心は常に新しい物、楽し

◀国際TM協会日本地区代表者、ポールR. マッソン氏。



ポール・マッソン氏

超越瞑想の原理を

い物を求めているので、ある一点にのみ長時間を集中するということは苦痛で至難の業であり、誰でもが簡単にこなせるとは限らない。瞑想というものはもっと心の動きにあふれた自然で楽しいものだ、という考え方です。TMの場合は「命題」ではなく「想念」ということばを使います」（久保田）

——それは命題とどう違うのですか。

「『命題』には何らかの意味がありますが、『想念』とはある音（マントラ）と私達は呼んでいます（の組み合わせで特別な意味は何もないのです。あるテクニクで、その想念をくり返すことによって、私達は思考の源ともいべきある地点まで達することが出来ます。普通、人間の意識は、眠っている状態、起きている状態、夢をみている状態の3種類に分けられますが、私達が瞑想の果てに行き着くのは、これら3つの意識を越えた第4意識状態です。私達はこの意識のことを純粋意識と呼んでいます」

——その純粋意識について、もう少し詳しく聞かせて下さい。

「この純粋意識は、時間、空間を越えた絶対的なものです。普段、私達は物の表面のみしか考え、意識をおよばさない、つまり、自分の意識のほんの5%程度しか活用していないわけなのです。しかしこの純粋意識に達すると、意識の100%近くが開発され、非常に力強い考え方ができるようになります」

——純粋意識に達した時は、どういう状態ですか。

「信じられないことかもしれませんが、その段階に達した時は呼吸が止まっているのです。医学的には、それは死を意味しますが、私達にとっては、完全に解放された安らぎを意味します。非常に深い充足感と安らぎを経験することが出来ます」

——TMの目的は何ですか。

あなたも空中に浮揚する

——マハリシ・マヘッシは空中に浮揚して瞑想すると聞きましたが。

「はい、私も、久保田さんもそれは可能です。しかし、今はマハリシ先生のいつかでそれを公開してはいけないことになっています。曲芸師と間違えられるのは困りますから。もっとTMに対する社会の意識が高まった時には公開できると思います。」

空中に浮揚することはそれほど珍しいことではなく、純粋意識を充分に開発できた時、いろんな能力が自然に身につくようになりうるというだけのことです。そして、それは誰にでも可能なことなのです」

——いろんな能力とはどういう能力のことですか。

「例えば空中を飛んだり、体が消えたり、壁を自由に突き破ってあちら側へ

「先ほどもいいましたように私達は自分の意識、能力の5%しか使っていないのです。TMの目的は、純粋意識に達することによって、自分の隠された能力を引き出すことにあります。しかし、もっと大切な目的は、自己の能力を開発することによって苦しみをなくし、真の安らぎを得ることにあるのです。1人1人が健康な楽しい気分を毎日を送ること、人類全体の生活のレベルアップにあるのです」

行ったり、テレパシーが備わったりします。TMの基本的な瞑想を充分にマスターした後にはそういう高度な技術を64種類ほど修得することができるのです」

——それは普通、ESP（超能力）と呼ばれているものですか。

「マハリシ先生はこういった能力をそう大した事だとは思っていません。何故なら、彼は人間の能力は無限だという考え方だからです。純粋意識を充分に開発すれば、やりたいと思うことのほとんどが可能なのです。」

宇宙のどこへも自由に行けますし、過去と未来を往復もできます。しかし、決してこういった能力を備えることが、TMの目的ではないのです。TMの本来の目的は先ほどもいいましたように、人間全体の幸福にあるので



▲楽しみに空中浮揚をしている人達。最初はごくわずかな時間しか浮くことができないが修練を積むことによって、その時間は徐々に長くなる。この経験は誰でも可能だという。

す」

— TMは具体的な病気の治療にもなるのですか。

「科学的にも生理学的効果は実証されています。体と意識は非常に密接な関係にあるわけです。瞑想中、私達は非常に深い安らぎを体験するわけですが、そうすると、体も完全にリラックスして、自然の治癒能力が増すというわけです。現に瞑想中は血液中の乳酸塩濃度が減るといったデータがあります。高血圧、ぜんそく、不眠症の人には非常に効きめがあるという裏づけもなされています。そういう意味ではTMは非常に合理的、科学的な瞑想法と



▲空中で瞑想することはとても楽しく、新鮮な経験です。

— 結局、自律神経を休めることにもつながるわけでしょうか。

「はい。非常に効果的に自律神経を休めることができるわけです」

— と、すると現代人には非常に効果的なストレス解消法といえますか。

「そうですね。現代人は機械に例えれば、オイルが足りなかつたり、あちこちが故障したりといった状態なので、非常に効きめがあるのではないのでしょうか」

— 先ほど聞き忘れましたが、何か食事制限のようなものはあるのですか。

「いいえ、そういった規約めいたものは一切ありません。すべて自由で、自然で、そして完全な自力本願なので、す。

— 歌手のベギー・リー、ステイビー・ワンダー、俳優のバート・レイノルズ、クリント・イーストウッド、カナダの有名な魔術師ダグ・ヘニングなどがいます」

— 私達の知っている著名人(?)でTMを学んだ人がいますか。

— 深い安らぎの結果でしょうか、自然にそういったものを体が受けつけなくなるのです。タバコやお酒にしたりして同じです。それはごく自然な結果なのです。アメリカの政府はそのことに気づいてTMを取り入れたのです」

— 犯罪をおかした人の社会復帰にも役立つと聞きましたが。

「アメリカでは刑務所でTMを教えています。刑務所の中はストレスが非常にたまるので、効果的なのです。精神病院でも患者にTMを教えています」

— アメリカではTMが大学の教科の一つになっていると聞きましたが。

「はい。いま60くらいの大学が、創造的知性の科学」としてTMを教えています。カナダの場合には必修科目になっている高校もあるほどです。その他、イスラエルの大学でもTMを取り入れ

マハリシ効果を高めよう

— TM運動をどういう形で社会に反映していこうとお考えですか。

「瞑想というと、普通、自分の内側だけに閉じこもりがちですがTMの場合には決してそういうことはありません。ここに、面白いデータがあります。TMを行なっている人がその町の1%に達したとき、社会的に非常に良い変化が現われるということを示したグラフです。私達はこのことを「マハリシ効果」と呼んでいます。自分だけが深い充足を得ていたのでは何もうらない。多くの人にその輪を広げ、社会的にも良くなるのが大切なのです。ですから、世界平和も私達の目的の一つなのです」

— アメリカの陸軍で麻薬阻止計画にTMを応用していると聞きましたが。

「その通りです。TMを行なっている

— アメリカの陸軍で麻薬阻止計画にTMを応用していると聞きましたが。

「その通りです。TMを行なっている



▲マハリシ効果が高まると社会の調和がとれてきます。

「入学はいつでも随時受け付けています。毎週木曜日に八重州で入門講義
——TMテクニックを学ぶにはどうい
う手続が必要ですか。」

「あまり詳しくはお教えできませんが、これは世界各国共通の方法で行なわれています。原則的には、基本的なテクニックはそれぞれの国のリーダーが教えることになっています。マハリシ先生が過去20年間教えてきた内容を

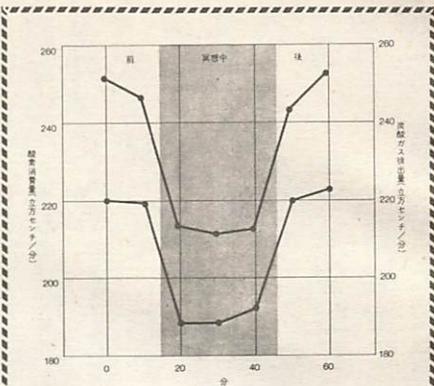
「今27人の人が参加していますが、会社員、学生、主婦と、多方面にわたっており、年齢もいろいろです」
——「どうい講義内容なのですか。」

「養成コースに参加している人達はいっぱいいます」
——「養成コースに参加している人達はいっぱいいます」
「それは、その養成コースを行なっています」
「それは、その養成コースを行なっています」

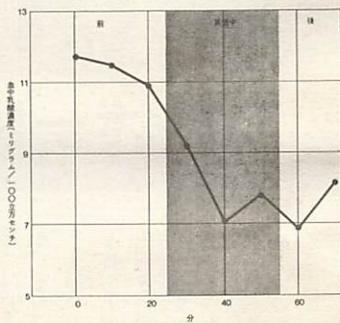
「TMの本」を20名の方に進呈。
申し込み先：〒104 東京都中央区八重州5の5 幸田ビル5F 国際TM協会八重州センター
国際TM協会住所：〒227 神奈川県横浜
市緑区美しが丘3-12-15
☎045-9011-0364

「TMの教えは成就するわけですね。」
「そうです。最後にもう一度くり返しますが、私達の目的は決してTMの組織を強くすることではなく、個人の苦しみ、悩みをなくし、自己の能力を開発することにより、社会に大きな調和をもたらすことであると思っています」

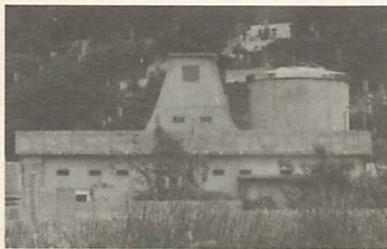
「ふきこんだビデオテープがあつてそれを見ながら学ばうわけです。そして、講義が終了に近づくと、マハリシ先生がそれぞれの国を訪れ、最も大切な教えは先生自ら各人に教えるのです」
——最後にマハリシの教えをうけて、TMの教えは成就するわけですね。」



▲酸素消費量の変化 瞑想が、被験者の酸素消費量(上曲線)と炭酸ガス排出量(下曲線)に与える影響がそれぞれ20および15ケースについて記録された。どちらの割合も、著しく減少した(真中の部分)。被験者が瞑想を止めると間もなく、消費量と排出量は瞑想前のレベルにもどった。



▲乳酸塩濃度の変化 血中の乳酸塩濃度の急速な下降が、瞑想を始めるように求められたあとに目立っている。乳酸塩は、主として筋肉組織の中の嫌気性新陳代謝によって作られる。その濃度は、一般に休息中の被験者においては減少するが瞑想中の下降の割合は、正常な割合より、3倍以上急速であることがわかった。
(以上、日本経済新聞社・サイエンスより)



重力研究所
〒798 宇和島市中央局私書箱33号

空飛ぶ円盤の科学研究誌

宇宙艇 隔月刊 B5判 (増頁)

内容 A) 空飛ぶ円盤の理論研究 B) 空飛ぶ円盤の試作
C) 時間反転機の理論研究と試作

☆ 部分品を頒布します(カタログは、宇宙艇巻末にあり)

誌代 A) 4,000円(大学生及び社会人)

B) 3,500円(高校生以下)

入会金 500円(誌代にプラスのこと)

振替 徳島 28986 (又は、現金書留にて・切手は不可)

☆ 超相対性理論(原著) 定価 3,000円

発売中 200円 (同じく切手は不可)

反重力エンジンの原理

エドウィン・リックマンはよく不思議な夢を見た。彼は、英国の電気工事会社の広報課に勤めている。だが彼は機械を設計する夢を見た。といっても、広報用の機械ではない。眠っている間に彼の意識は別の宇宙にさまよい出るので。そこで彼は、一種のエンジンが台所のはかりに乗せられて目方を量らされているのを見た。このエンジンの構造を明らかにしたあと、彼はロンドン

のインペリアル工科大学のエリック・レイスウエイト教授にこのアイデアを持ち込んだ。レイスウエイトは、電磁推進技術の分野に数々の独創的な新機軸をもたらしたことで世界的に知られた人である。教授はアレックス・ジョーンズというもう1人の素人発明家のアイデアをも取り入れて、小さな「黒い箱」に入った可動模型を1台作りあげた。1974年11月、その小さな黒い箱はインペリアル大学で、リッ

●このレポートは、UFOの運動をそっくり再現する反重力装置を建設しようとする科学者たちの努力を紹介するものだ。私は、UFOの技術は広く信じこまれていくほど複雑なものではなく、その構成部品はどれでも通信販売カタログで入手できる程度のもので考えている。米国は、ひょっとすると秘密の宇宙計画を進めており、それが多数のUFO目撃事件と関係があるのではないか？ これらのショッキングでスリリングな考察と推測を踏まえて、原子科学、宇宙探査、電磁力、秘密の軍用機などUFO研究者を悩ましてきた多くの問題に興味津々とした説明を加えたい。

T・B・ポーリック

クマンがまさしく夢に見たとおり、台所のはかりのうえに乗せられて、科学者や技術者、それに報道陣の目のまえで公開された。

レイスウエイトがスイッチを入れると、箱はブーンという音を発し、はかりの指針は12ポンドから15ポンドの間で揺れはじめた。箱の中の何物かが、箱を独力で浮き上がらせようとしているのである！

レイスウエイトが箱を開くと、中には長さ1フィート、直径1インチほどの、電気モーターで駆動される回転軸が見えた。回転軸の上部には、1本のピンにゆるく取り付けられた長さ6インチ、厚さ4分の1インチくらいの2本の小さな棒がある。これらの腕の先には、電力駆動の小さなジャイロスコープが1個ずつ付いていた。全部が回転を始めると、ちょうつがい留めの2本の腕は、エンジンの調速器のボールのように遠心力で外側に水平に広がる。だが、ジャイロの発生するすりこぎ運動力のため、2本の腕は水平面より持ち上げられて鈍角を形作る。この上向きの力が浮力を生じて、装置全体の重量を軽くするのである。

レイスウエイト教授は、量が等しく、方向が反対の反作用を生じることなしに1つの力を発生させることが可能だと信じている。これはニュートンの運動の第三法則には違反する。むしろ批判的な人たちも、その目で実験を見て

造

いながら信じようとはしない。たしかに、思考方法の全体系を混乱させることのないような納得のいく説明がなされない限り、職業科学者は、学校で教わった法則が間違っているとは信じないだろう。そのような説明がなかったなら、レイスウエイト教授と彼のおもちゃのエンジンは、そのうちにインチキとして片付けられてしまうだろう。

製

問題レポート

●UFOの構成部品は 通販カタログで入手できる!?

反重力エンジン による

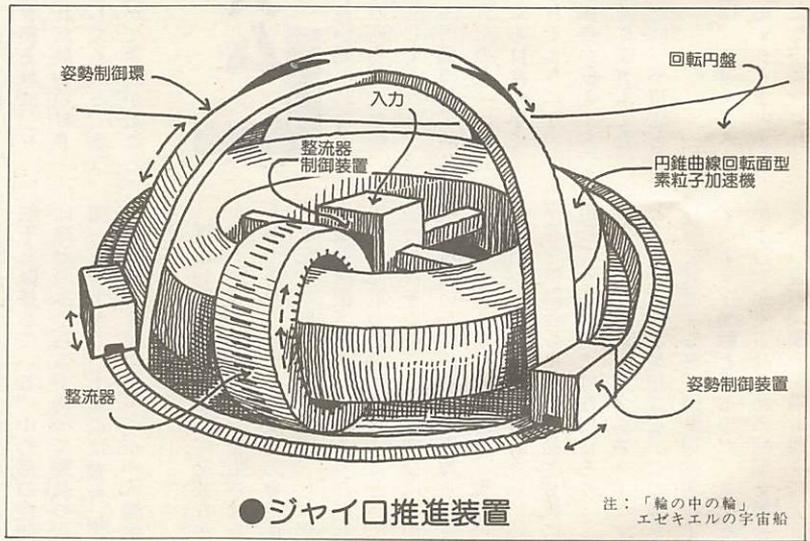
職業からそのような運命を予見しながら、教授は、計算式を発表することを頑固に拒み続ける。

たまたま私はこの数年間、物理学でもかなり急進的な理論を公式化しようと努力してきた。この理論は、アインシュタインとプランクの説を統一し、相対性理論と量子力学を簡単明瞭のように肉眼でも見えるようにしようというものである。イン

ベリアル大学での公開実験に関する最初の新聞記事が私が読んだのは、私の理論が反重力の定義にまで発展したところであった。レイスウエイト教授の発見こそ私が必要としていた証明

であることをさとした私は、教授に手紙を書き、お互いの進歩のために2人の発見を交換し合おうと申し出た。だが彼は私の申し出を拒否して、少なくともあと1年間はいかなる計算式も公表しない旨を繰り返した。私の理論は反重力エンジンの働きを説明するのに役立つものなので、それをここに発表すること

にする。
重力の影響下では、回転するジャイロやおもちゃのコマは、回転数が低下すると、ぐらぐら、首を振りはじめると、この首振りを術語では「すりこぎ運動」と言う。この首振り、重力の垂直加速度で決定される軸の周囲に螺旋線（らせん）をえがく。さて、この重力の加速度の方向を90度変更できれば、すりこぎ運動の軸も同じく90度変化する。この水平



●ジャイロ推進装置

注：「輪の中の輪」エゼキエルの宇宙船

盤

姿勢のため、すりこぎ運動の軸は水平面より上昇して下方に振れる。この作用が反重力を発生するのだ。むしろ、重力を変化させることはできない。しかし、遠心分離機が発生するような強烈な力なら重力を上回ることもありうる。レイスウエイトと私自身が別々に考え出した着想は、どちらもこの要求を満たすものである。

円

ここまでくれば、このアイデアを発展させるにはそれほど創造的天才は必要でない。前述の2本の腕を1枚の大きな円盤で置きかえれば、円周上に多数のシャイロを並べて浮力を増加することができる。これが原始的な空飛ぶ円盤であることを認めるのに大した想像力はいらないだろう。

はずみ車から発生する遠心力と、それが生みだすすりこぎ運動の量は、はずみ車の質量で限定される。しかし、はずみ車を電磁力で置きかえることができれば、はずみ車を無限に加速することも理論的には可能だ。この大仕事が可能なのは、すでに1940年代

出現と消滅のメカニズム

空飛ぶ円盤第1号の図面の細部を仕上げた私は、ブリティッシュ・コロニア州ケロウナのW・K・アラン氏に電話して、装置のデザインとそれに関連して私のベクトル四次元幾何学の原理を彼に説明した。アラン氏は数学と物理学の学位を持つ退職教師で、18年にわたってカナダ西部におけるUFOの科学的記録の収集に当たっている人である。この分野ではイリノイ州エバンストンのノースウェスタン大学のアレン・ハイネック博士とくらべられる人でもある。私たちの話を延長回線

で秘書に記録させたアレン氏は、私のにカリフォルニアで発明されている。この装置はベータトロンと呼ばれる。ベータトロンは直径1フィートほどの素粒子加速器で、何10億電子ボルトの力を発生させることができる。さて、電子のような素粒子は、静止している時はその質量は零に等しいが、光速に近い高速度まで加速されると、巨大な遠心力を生じる。円盤の周囲のシャイロ装置を多数のベータトロンと同じような素粒子加速器に置き換えれば、レインニア上空で目撃された最初のUFOと同じような運動をしてくれる、まぎれもない空飛ぶ円盤ができあがることになるのだ。

見よがしの尾翼などはない。主回転子は、LPレコードの中心のレーベルを切り抜いたような直径約30フィートの薄い円板である。この輪は磁気ベアリングによってカウリング内部に位置を留めており、そのため空飛ぶ円盤の周縁部は広く平らな形となっている。この主回転子の内側のふちにはもう1つの幅のせまい輪があって、回転力をつり合わせるため、逆方向に巻かれた回転子を保持している。中心部の空間には球形のふくらみがあって乗員の居住部となっており、上部には飛行甲板が、下部の倉庫にはエネルギー発生機や着陸装置がある。

原始的な空飛ぶ円盤は、必要なエネルギーをガスタービンで発生させることができた。しかし、反重力を可能にする完全効果理論によれば、レーザー光線を同調させることにより核融合を起こして電力を発生させることができるのだ。その詳細は別の機会に書かねばならないが、高電圧の光線放射ダイオードのようなものである。現代の空飛ぶ円盤を設計した技術者なら、同じ原理を核融合エネルギー発生装置に応用しても不思議ではないだろう。

環上のベータトロンがスタートすると、コロナ放電が起こる。この輝きが外殻を貫通すると、円盤周縁部のネオンのような光輪となるのだ。主回転子が浮力を発生させるため回転を始める

て回転し始めるのである。

素粒子が光速まで加速されると、イオン放電が始まる。そのため飛行中の円盤全体が明るく輝いて、目撃者の目にうつるのである。円盤の周囲の空気はイオン放電のため、地上の電気回路はショートする。だから円盤が頭上近くにくると、自動車のエンジンが止まったりラジオが聞こえなくなったり、電気装置が停止したりするのである。

1972年発行のフランスの「SCIENCE ET Avenir」誌に、超音速で飛行する航空機の飛行経路の空気をイオン化させてソニック・ブームを軽減しようという米国の秘密研究の記事が出たことがある。私には空気をイオン化すればなぜソニック・ブームが軽減できるのかが理解できなかった。もしそうならば飛行機の空気力学的縦面にも影響が出るに違いないが、翻訳のとき一部が欠落したのである。しかし、その記事の筆者に自分の書いていることがよくわかっていれば、同じ技術が、UFOがあれば高速で飛行するにもかかわらず音をたてないという事実の説明にもなるはずである。空気をイオン化する場の効果と同じものが、急に方向を変化するときの恐ろしい加速から乗員を保護しているのだから。

UFOが信じられないほど急激に加速することはもともと説明できる。素粒子が静止しているときの重量は無

視してもよいくらいのものなので、ベータトロンはスイッチをほんのひと押しするだけで発進・停止できる。動力が切られた瞬間、ジャイロの姿勢は変化させることができ、そのあとふたたび動力をかければよい。この短い瞬間に飛行方向は180度変化できるのである。

この理論の当然の結果として、もう1つの宇宙が私たちの宇宙と並行して

力線にそって飛行する

アラン氏に話を戻そう。氏は私に、ベータトロンは高周波のマイクロ波を発生させる、と語った。これらのマイクロ波は、水を含めあらゆる物質の温度を上げる。だから、UFOが着陸した場所では、草木や結晶水を含んだ岩石が焼け焦げたのである。UFO着陸地点で発見された不運な動物たちは体内から煮られたようになっていたという。職業科学者はこの現象を全く不思議だと主張したが、こんなことは、台所に電子レンジを持つ主婦ならだれでも容易に考えられることだ。

それなら円盤の乗員も体内から煮られる危険にさらされているわけだ。ところが、磨き上げられた金属は完全にマイクロ波を反射する。UFO乗員として有名な写真には、金属張りのブラステックのような飛行服を着た男が写

っている。明らかにUFOの設計者たちは、宇宙船の構造の中にマイクロ波遮蔽板を組みこむかわりに、乗員に防護服を着せるといふ経済的な方法をとったものと思われる。

同じ四次元の空間に共存することが可能となる。それは、幾組かの三次元のテレビ番組が同じ空間に共存するのに全く同じ理屈である。周波数こそ四次元の座標なのだ。技術が反重力の発生まで到達すれば、物質の周波数の制御技術は、同じ理論から生まれる。これでUFOが出現したり消滅したり——特にバミューダ三角海域で——する不思議さも説明がつくのである。

この反射飛行服の特徴は、マイクロ波ばかりでなく周囲の一切の照明を反射することである。だから、空からの光が唯一の光源である場合には、UFOの乗員たちは青いユニフォームを着ているように見える。主要光源が地上からの反射光であるときは、彼らの服は緑色や茶色に見えるのである。雲が空をおおっている場合には純白の服を着ているように見えるし、深い影の中にいるときは輝く黒色に見えるのだ。

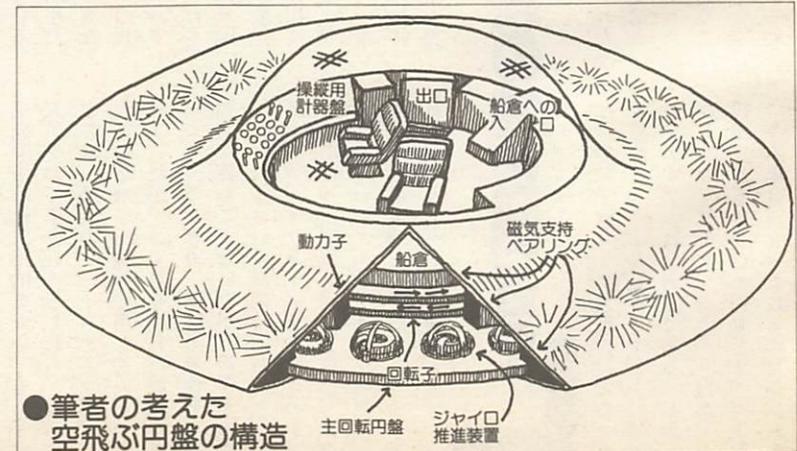
地球の宇宙飛行士たちも飛行服は着心地のよくないものと考えている。だから彼らは、船外活動のとき以外は宇

宙服を身につけない。同様に、私たちが目撃する空飛ぶ円盤は地球軌道のどこかに静止している大型母船から発進した偵察用の小型機ばかりなのだと考えてもいいだろう。強大なエネルギーが必要であるのと、ジャイロ推進が強力な重力場の中では本来効率の悪いものであるところから、飛行服の着心地という推定はUFOの技術の全知識と一致するのである。それは目撃者の証言からも立証されるのだ。

総論によると、ジャイロ推進は、電磁力の傾度の急なところでは、偏差を生じたり、場合によっては失速さえする傾向がある。最初のころ発電所上空でよく空飛ぶ円盤が目撃されたのは、そのせいかもしれない。私たちの宇宙飛行士が月面のマスコンの周囲の場の影響を調査したのと同じ理由で、宇宙人たちが発電所をとりまく場の影響を調査しても不思議はないだろう。

ジャイロ推進は、高圧線の周囲の電磁場からも影響を受けて、操縦が困難になる。送電線の付近でもUFOはしばしば目撃されている。

地球に電磁場が存在するため、地球の周囲には海流や気流のような力線が生じる。定期航空路の操縦士たちがジェット気流を利用するように、UFO



● 筆者の考えた空飛ぶ円盤の構造

もこの力線にそって飛行する。UFOの飛行経路がだいたい一定しているのはそのためである。海流や気流が変化するように、これらの力線も年々少しずつ変化する。だからUFOの飛行経路も少しずつ変化するのである。

ふつう、電磁力は重力や遠心力とは根本的に違うものと信じられている。だから、私の理論の力学的な面を理解しないでは、いかなる科学評論家も、

ジャイロのすりこぎ運動が反重力と電磁場の相互作用だという説明を受け入れてはくれないだろう。うまく言い抜けようとしているのではない。しかし、完全効果の当然の結果として公式化された統一場の理論は、これらの現象が基本的に同じようなものであることを証明しているし、各現象が違う性質を

UFOは軍用実験宇宙機

空飛ぶ円盤の技術で最も驚くべき事は、地球と全然異なるものは何もないということである。基本的な部品はすべて通信販売のカタログで手に入るようなものばかりである。はじめて目撃報告が現れはじめたころからずっとそうなのだ。その原理は非常に簡単に自明のもので、マニアならだれでも考えつきそうなものばかりである。私が知っているだけでも5人が、反重力エンジンの設計で同じ結論に達している。その3人はお互いに全く関係なしに仕事を完成したのである。ベテラン科学者は1人だけで、2人は高校さえてでない。言葉を換えて言えば、歴史を通じて何人かの無名の技術者が、多少とも実用的な空飛ぶ円盤をすでに発明したかもしれないのだ。そして、その記録が残っていたとすれば、歴史の古い大図書館で焼却処分してしまったのかもしれない。

持つように見えるのは、波長や位相の関係によって決定されているだけなのである。レイスウェイトはまた別の考え方をしているが、それでも、用語は違うが同じような結論に到達したらしいことが、言葉の端々からうかがえる。

もし多くのアマチュアたちが、技術教育の助けも借りず、資金も設備もなく、十分な時間もなく、それにいちばん大切なことだが、同じ問題を研究している人たちがお互いに連絡しあうこともなく、空飛ぶ円盤の秘密を発見していたとすれば、チームを組み、十分な設備のある研究所で豊かな資金を与えられて研究している職業科学者たちが反重力の秘密を発見するのは、ずっと早いのではなからうか。

空飛ぶ円盤の技術は原爆を発達させたのと同じ物理学に密接な関係があるのだから、マンハッタン計画が設立されたのと同じくして「ウエッジウッド計画」がスタートしたとしても不思議ではない。大戦の終わりが、ソ連軍がエルベ河とアムール河を渡って進撃するのを防ぐため、原爆は秘密のペールをぬいだ。だが空飛ぶ円盤は、レーザー光線研究や生化学兵器、最近

のXB70爆撃機のように、秘密にまつまれたままである。

この推測が事実なら、スプートニクに先を越されたにもかかわらず、宇宙競争で米国がソ連を追い越した理由も容易に理解できる。米国の本当の宇宙計画は第二次大戦の終結くらい秘密のうち開始された。ヒューストン宇宙センターやケープ・カナベラルは、米国が勝利をおさめることができることを、米国が実際はどんなに進んでいるかを暴露することなく納税者に示すために仕組まれた技術の展示場にすぎないのだ。ソ連では、失敗したさいの民衆の当惑を避けるべく、どのロケット打ち上げも、完全に成功するまでは秘密にされてきた。それと対照的に米国は、どの実験もテレビの生中継で放送する。彼らはその以前から宇宙に出ており、公表される飛行も定期航空よりもほんの少し危険が伴うにすぎない所までできているからである。「未知」に対する探険でアポロ計画ほど危険な探

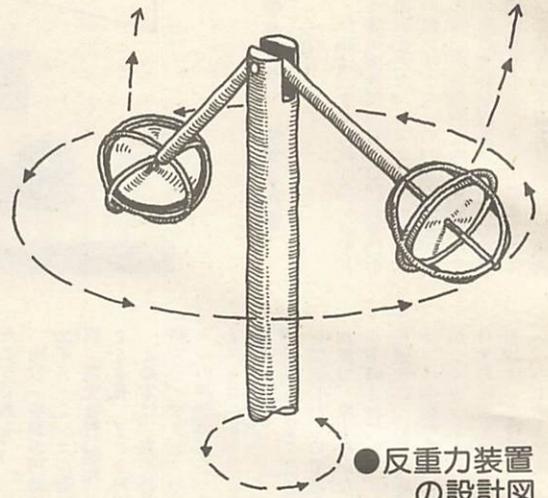
UFO技術の問題で意見を聞かれたある職業科学者は、光速に近い速度まで加速された素粒子を、ベータトロンのドーナツ型の中に閉じこめておくことはむずかしいと答えた。そのうえに、そのような高エネルギー状態にあって

険はなかった。それでも、アポロ以外の探険計画で犠牲者の出なかった計画はないだろう。宇宙飛行士が死亡事故を起こしたのは地上の訓練のさいだけである。驚くべきことだが、事実なのだ。

最近、空飛ぶ円盤は他の惑星からの訪問者ではないかと考えるのがはまっている。ジャイロ推進の効率は宇宙空間では非常に高いので、これ以外の惑星探険手段は実用的でない。もし宇宙人がやって来ているとしたら、彼らはまさに「反重力ジャイロ・エンジン」つきの空飛ぶ円盤を使用しているのだろう。だが、ごくありふれた説明がびったりくるかぎり、あまり風変わりな説明は持ちこまないのが、科学上の仮説をたてるさいの原則である。だから、エーリッヒ・フォン・デニケンの手で有名になった理論も、UFOはどこかの国の「シンク・タンク」が開発した秘密の軍用実験宇宙機だというありふれた説にくらべると真実味がうすい。

人工円盤の完成図は?

は、素粒子はマイクロ波だけでなく、X線のようなより高エネルギーの放射線を出す。これは利点である。だが、ひとつのデザイン、ジャイロ推進、が観測されるUFOの運動をすべて説明できる場合、たったひとつ技術的な欠



●反重力装置の設計図

た完全に使用できる。ロケット噴流として放出する必要がないからだ。それに重力のない空間では、ひとたび回転をはじめたジャイロを駆動する

動力はごくわずかで済む。ジャイロ推進の中心となる、燃料ばかり消費して効率の悪い素粒子加速機は、地球と宇宙基地間のシャトル飛行に使用するだけで済むだろう。レイスウエイト教授の

実験を見た人たちは、もったいぶしい批評をする。だれもが見たように、エンジンは上がったりがつたりした。だから、

外見上正味の浮力は零ではないか。それにもかかわらず教授は、彼のエンジンの浮力は落下力を上まわると主張する。だが残念なことに、同じデザイン

の模型を設計製作し、器用に正確な推力を測定したあるアマチュア発明家は、

反対者に同調せざるをえなかった。彼の模型はただ上下運動をしただけで、正味の推力は零だったのである。私の理論でも、レイスウエイト設計は

たったことで、あとで不利な立場に追いつたこと、こまればようとしている。教授を批判する人たちは、この重大

な手順のミスを取りあげて、これこそ彼の精神が正常でなくなった証拠ではないかと考えている。しかし、すべての急進的な考え方に反対する人々は、彼らの現在の意見を確認するような結論には、前後の見境もなく飛びつきがちなものであり、この本質を見きわめることはあまり得意ではない。レイスウエイトの模型が反重力エンジンであるという表現が誤解をまねくものであることは否定しがたいが、問題は、

ニュートンの運動の第三法則が正当に理解されていないことを証明することなのである。レイスウエイト教授の設計の真価は、同時に同量で、逆方向の反作用を生ずることなく、1つの方向に作用を生じさせるようにベクトルを操作することが可能だ、ということを示した点にある。大学での実験に出席した人はみな、レイスウエイトの装置が上昇したり下降したりしたことを認めている。空飛ぶ円盤の操作が可能になるのは、作用と反作用を時間的に分離したときなのである。

ジャイロスコープのフライホイールを回転する原子と考えれば、電磁場は加速度ということになる。同時に交互反作用を生じることなく交互運動を生じることができれば、レイスウエイトの原設計を完全なものにするため必要

なのは、往復運動を修正する動力に整流装置を追加してやることだけであらう。往復推力を直接推力に変換するには現在でも数種の機械的・電磁的装置が入手可能であり、お互いに連絡なしに基礎模型を開発した発明家が少なくとも2人、特許を取得するため試験を続行中である。成功したとはつきりご報告するにはまだ早すぎるが、ニュートンの運動の第三法則の解釈に重大な突破口が発見されようとしている今となっては、だれかが真実の空飛ぶ円盤を建造するのは時間の問題である。

今日のUFO目撃報告は、前世紀から今世紀への変わり目における航空機の歴史の何かを繰り返しているのかもしれない。当時空を飛ぶ航空機は、現在目撃される空飛ぶ円盤ほど多くはなかったのである。飛行機が頭上を飛ぶ——いや自動車が通過するのを見るため、近所の人々が1人残らず道路へかけ出したのを私は記憶している。19世紀の実業家は、飛行機の実用化のため相当な資金援助を与えたはずである。彼らの援助した職業技術者や資金力のあるアマチュアが人間を空中飛行させるのになぜ成功しなかったかは、正當に語り継がれたことのない歴史の一部なのだ。飛行機が空想の産物でないことを世界に証明したのは、わずかな暇々にタコを飛ばしていた2人の自転車屋だったのである。

増野一朗訳

点があるからというだけの理由でそれを捨て去ってはいけない。ベータトロン放射の問題には、解決策がいくつもある。原子核融合を磁気ビンの中に閉じこめるための最近の研究は、ジャイロ推進の放射を閉じこめるのにも役に立つ。当座の解決法は、素粒子加速機が必要なのは地表付近の重力を克服するために強大な遠心力を発生するときだけだ、という事実の中に、見つけたすことができるだろう。重力の加速度はほとんど無視できるはるかな宇宙空間では、数日間作動させれば宇宙横断に適した速度までゆっくりと加速できる、放射線も出さない機械的ジャイロで十分である。これなら現在でも容易に入手できる。燃料もま

高梨純一の BookGuide

3

いで発行したいいわゆる「CBA宇宙シリーズ」の内容を一通り大雑把に紹介してみよう。

高文社のシリーズは、第1冊が昭和29年の8月に発行され、第2冊がその1年後、その後は、ほぼ9カ月毎に次のように発行された。

No.10「空飛ぶ円盤実見記」ジョージ・アダムスキー、デスモンド・レスリー共著 高橋豊訳（高文社刊、昭和29年8月発行、260頁、280頁）

No.11「続空飛ぶ円盤実見記」セドリック・アリンガム著 岩下肇訳（高文社刊、昭和30年8月発行、160頁、160頁）

この本のタイトルは、後に、この本の本来のタイトルである「火星からの空飛ぶ円盤」に変えられたようである。

No.12「空飛ぶ円盤は実在する」エイメ・ミシェル著 田辺貞之助訳（高文社刊、昭和31年6月発行、258頁、220頁）

●高文社の「空飛ぶ円盤シリーズ」
今回は、すでに前回で一言触れた我が国最初のUFO図書専門の出版社となった高文社の「空飛ぶ円盤シリーズ」の初期の分と、その後、非科学的な地軸変動説で我が国の素朴な円盤ファンたちを恐怖と混乱のルッポの中にまきこんだCBA（宇宙友好協会）が相次

いで発行したいいわゆる「CBA宇宙シリーズ」の内容を一通り大雑把に紹介してみよう。

には無縁の代物だ、と思ったのかも（？）

ともかく、このNo.10とNo.12に見られる重大な誤訳と誤植（？）の結果、当時我が国の代表的なUFO研究者をして、「ケネス・アーノルドの円盤目撃の日」について、2説ある（その人はNo.10だけを見たので2説あるように思ったのだが、No.12の本も参照すると、3説あるように見える）という著名な迷言を宣言させたのは、有名である。

No.13「空飛ぶ円盤同乗記」ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳（高文社刊、昭和32年9月発行、250頁、220頁）

No.14「空飛ぶ円盤と宇宙」トルーマン・ベサラム著 久保田八郎訳（高文社刊、昭和32年11月発行、180頁、200頁）

これも後に、「空飛ぶ円盤の秘密」とタイトルが変更になっているようである。

これらの翻訳書については、読者もよくご存じだと思うので、いちいち詳しくは述べないが、我が国の今日のUFOファンにとって、これからの道を踏み外さずに進んでもらうために、これらの原本のUFO研究界における正しい位置（あるいは価値）について、簡単に説明しておきたい。

上記の5冊の中、エイメ・ミシエルの原文については、これは本格的な科学的研究者だから別格として、他の4冊の中、アダムスキーの「空飛ぶ円盤実見記」（原題Flying Saucers Have Landed）が発行されたのは、1953年の

9月30日で、画期的な宇宙人との接触は、前年1952年の11月20日に行われたことになっている。これは、ケネス・アーノルドのUFO目撃によってこの問題がクローズアップされて以来、ほぼ5年5カ月後である。

その間、身長3フィート（90センチ）内外の小人が着陸した円盤と共に目撃されたという実例はいくつかあったが、人間そっくりの体格の、しかも人間より遙かに美しい宇宙人を目撃したという実例は、一つもなかった。

この間、フランク・スカリアがひっかけた「金星からの小人」のような話も現れているが、当時は他の天体からの飛来者は、人間よりも体格の劣った、多分人間よりもみにくい容顔の持ち主にちがいない、と考えられていたので、その線にそってそういうベテンス話が捏造されている。

つまり、その当時、他の天体からの飛来者が、人間そっくりの体格や容顔をしているなどというのは、非常識もよい所で、そんな話を持ち出したら一べんに笑いとばされて信用してもらえないと一般の常識人は考えていた、と思う。

そんなことを言い出せるのは、本当の非常識な、付けやきばの教養を持った人で、しかも非常に厚かましい人だけだろう、と考えられていた。

それを平然として言い出したのがアダムスキーである。当時の、私を含む世界の科学的なUFO研究者たちは、あ然とし、よくもこんな非常識な厚かましい人物が現

れたものだと思ったものである。だが、我々世界の本格的なUFO研究者たちの懸念の反対にもかかわらず、それ以外の階層から、その話を信用出来る人々が続々と出て来て、彼の追隨者が次々と増えていった。

その結果、発刊された大評判となったのがこの「空飛ぶ円盤実見記」だと考えていい。

これには無論、この本の前半に収容された英国の著名なライター、デスモンド・レスリーの、太古以来のUFOについての緻密な研究が大きな力があったと考えてよいが、その背後には、世間一般の人々の、科学に対する反感、ミステリアスなものに対する志向、それに地球の未来に対するロマンに満ちた願いなどというものが、大きな要素をなしているものと考えるなければならない。

さて、アダムスキーの「……実見記」の思いがけない成功によって、その後続々と現れて来た同様の「コンタクト・ストーリー」は、当時の我々になんか印象を与えたか？ それはまさに、物欲と名譽欲、それに商魂や厚かましさをドロドロにとけ合った悪臭ふんぶんたる世界であると思ふ。

まず、アダムスキーの本の大成に一計を案じたイギリスの出版社が、舞台をスコットランドとして、体験者を現地人とし、空飛ぶ円盤の飛来先を金星から火星に変えて、1冊の本を捏造した。これが、アリンガム著の「火星からの空飛ぶ円盤」である。

この場合には、出版社は、ア

ムスキーの話を通じていたものと見えて、ほとんどその話にそって全体の遭遇談を組み立てている。この際、私が、著者がと言わずに出版社がと言っているのは、その後の調査の結果、アリンガムは全くの架空の人物らしいというのが今日ではすっかり定説になっているからである。

しかし、この場合はまだ、コンタクトが起つたのはアダムスキーの体験の後の1954年の2月18日、アダムスキーよりも進んだ体験を何もしていないと言っているから、また殊勝と言えらるだろうが、やがて、アダムスキーの体験談の成功にあやかっ、それよりも前に、それよりも進んだコンタクト

をしたというコンタクトタイが現れて来た。

言うまでもなく、これがトルーマン・ベサラムである。(トルーマン(真実の人)とは又皮肉なフアーストネームである!)彼の体験は、アダムスキーの体験より5か月以上前の1952年6月のことで、しかも着陸している円盤に乗せてもらい、そこで32人の船員を従えた非常に美しい女船長に会い自由にいろんな話を交し、その後も何度となくコンタクトしているといった内容である。

この話を聞いた時、さすがのアダムスキーも「しまった、先を越されたか!」と慨嘆したにちがいない。

▶「宇宙人?着陸す!!」

空飛ぶ円盤は実在する



▲「空飛ぶ円盤は実在する」



▼「空飛ぶ円盤実見記」



なお、こういうコンタクト・ストーリーの出版の続編としては、それから一年半ばかり後、我が国U.F.O.研究史上に底抜けのテンションオペラート式U.F.O.研究団体として名を残す「CBA」(宇宙友好協会)が、その天人共に許し難い「地軸変動説」の妄説(昭和35年のある日、地球の南北の軸が突然45度ガクンと傾き、世界大洪水が起り、地球人類の96%98パーセントが絶滅し、同会の会員だけが空飛ぶ円盤に救い出されて、他の天体まで連れて行っってもらえる、という妄説)をかかけて大々的な

●「CBA宇宙シリーズ」

しかも、そこへ更にダニエル・フライが現れて、自分の体験はそれからもう2年前の1950年の7月4日のことだと言いつ出した時には、更に更に、どこへも持って行きようのない激しい憤怒を感じたにちがいない。

そこで、あわてて書いたのが、今度は円盤の中にも乗せてもらい、その搭乗者と自由に話しを交す第二著「空飛ぶ円盤同乗記」だった、と考えられる。

だが、とも角、当時は、アダムスキーの成功にあやかっ、名譽と金のおこぼれにあずかろうと、いろいろな非常識なコンタクト・ストーリーが続出した時代で、私などにいわせれば、みんな全くのいつわりごとばかりで、歴史的興味を持つ人以外は、すべて一括してかきやり捨てるべきもの、と思う。

- キャンベーンを展開する前年から同年初めにかけて、非常に速いペースで次々と刊行した次の9著がある。
- №15「精神感応」(テレビシイ) アダムスキー著 久保田八郎訳 (昭和34年6月発行、250円以下全て価格は同じである)
- №16「我々は円盤に乗った」D・フライ、B・ネルソン、R・ランバ共著 (昭和34年6月発行)
- №17「地軸は傾く」R・スタンフォード著 (昭和34年8月発行)
- №18「土星の恋人」M・ハスク著 (昭和34年8月発行)
- №19「宇宙交信機は語る」G・H・ウイリアムソン著 (昭和34年10月発行)
- №20「宇宙語、宇宙人」G・H・ウイリアムソン著 (昭和34年10月発行)
- №21「宇宙の彼方より」D・ハワード著 (昭和34年12月発行)
- №22「宇宙人を呼ぶ」J・マツコイ、他著 (昭和34年12月発行)
- №23「続・宇宙の彼方より」D・ハワード著 (昭和35年4月発行)

記事の中からいくつかを選んで、「空飛ぶ円盤研究シリーズ」として32頁前後の小型小冊子として刊行を始めている。

№24「空飛ぶ円盤は宇宙機である」河津薫著(昭和33年7月発行) この分だけは、「宇宙機」に載った記事の再録ではなくて、同会で募集した空飛ぶ円盤関係の論文の第一人選である。この筆名は斎藤守弘氏の匿名だと聞いている。

№25「U.F.O.報告書の研究」志村甫著(昭和33年10月発行)

№26「宇宙人? 着陸す!!」高梨純一・金沢元基共著(昭和33年12月発行)

№27「空飛ぶ円盤展開史講座」高梨純一著(昭和34年4月発行) 残念ながら、このシリーズは、この4冊で中絶した。

訂正 前回(3月号)の№6「空飛ぶ円盤なんでも書」の紹介のうち、58頁下段4行目から8行目の()の中は次のように訂正します。

(なお、筆者の書いた分は、その後発行された近代宇宙旅行協会発行「空飛ぶ円盤研究」59頁に、「九」誌昭和30年12月号に載った我が国初期の円盤記事の一つである、同じく筆者の「空飛ぶ円盤をめぐる最近の話題」と共に再録してあるので興味のある方はごらん下さい)

1967年から明けて68年の冬期3カ月間、カリフォルニア大学はデービスキャンパスで、同大学工学教授P・S・モラー博士の主催によってUFO講座が開かれた。

昨今のUFO目撃事件が全地球的な規模に拡大しつつある事態に呼応し、同博士は、同じ大学の同僚の協力を得

4 カリフォルニア大学でUFO講座開設

「UFO目撃例にたいする知的関心が同大学の中で急速に高まりつつある。1967年から翌1968年の、冬期3カ月間にわたるUFO講座が新たに開かれ、カリフォルニア大学デービスキャンパス内は、豊かな知識を博する物理学教授、社会分析学を専門とする政治学教授並びに多数の学生諸君が一堂にあつまつた。講義を担当する人物はモラー教授だ。政治学教授のデニス・リビングストン博士がこれに加わり、そのほかは聴講の認められた三十余名の学生たちである。学生たちが専攻している科目は自然科学や物理学や一般教養科目など等しく多岐にわたつ

て、この現象が我々の社会におよぼすさまざまな社会的、科学的意義を検討すべく、デービスキャンパスの学生たちとともにUFO講座を開講したものである。

そのいきさつは次のような内容であった。

「空飛ぶ円盤」それがおよぼす社会的・科学技術的意義」というものであった。その講義の要旨は次のとおりである。

■オープンマインドの重要性

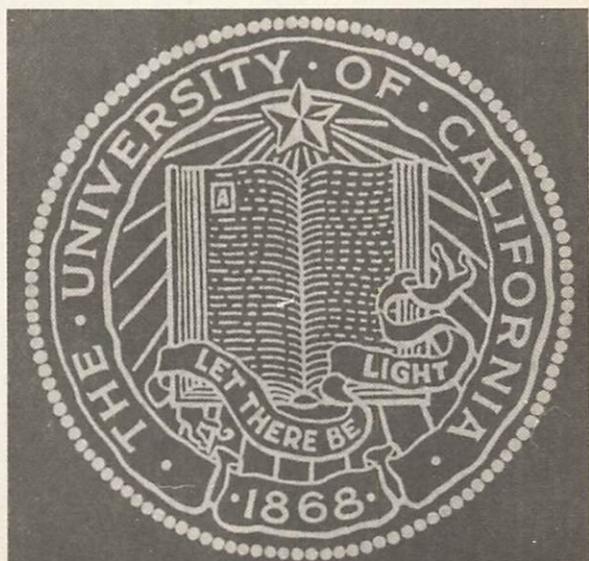
講義のテーマは『空飛ぶ円盤—それがおよぼす社会的・科学技術的意義』というものであった。その講義の要旨は次のとおりである。

まず、これらの現象にたいするオープンマインドの必要性を強調すること。何はさておき、これはいま最も肝要なことである。というのも、これまで当問題にたいする正当な評価が幾多の迷信や障害行為などで完全に無視され、今ではこのオープンマインドを要請することすらきわめて困難な状況下

にある。

1951年以前、大衆は、政府におけるUFO問題解決の任を負う空軍が公式に、UFOを地球外宇宙機である旨の实在論を採用しようとする気配をみせたとき、その判断を受けられる努力をおしまなかつたのだ。ところが、1951年以降になつてしまつと、それまで空軍当局が一般大衆に公表してきた見解をいっきに反転させ、情報そのものにふるいをかける活動を開始した。したがって1951年以降になると、ほとんどの人たちの客観性がそれから影響を受けないわけにはゆかなかつた。

今回の企画の意義は、否定的なUFO研究学者や自分を予言者として金星人がえらんだと主張している狂信者たちの、いわばあらゆる領域のUFO



▲カリフォルニア大学の紋章

問題に示してきた大偏見にたいする大胆な試みであると申してよからう。それで、講座期間いつも後席に現れ、討論が重ねられているあいだ、ずっとクスクス笑いをしてきた3人の男たちの態度にたいして、学生諸君は何ら影響を受けず、別に驚きの同情を示すものもいなかった。不信のそのような出現はあらかじめ想定されていたことである。



▲1951年8月31日夜、コダック35を使用してあの有名なラボックの光体群(左)をとらえた米テキサス州のカー・ハート少年(当時18歳)

ところが、当講座にたいして当然にオープンマインドが認められてしかるべきだと思ふ別の分野からはるかに強烈な否定的見解が出現して、そのため、限られたスケジュールの中で多大な時間が浪費されてしまった。しかし実際のところ、元の国立航空諮問委員会理事ヒュージ・ドライデン博士が『空飛ぶ円盤如きものは実在しない。全くナンセンスだ!』と発言した否定的見解は、UFO問題の客観的研究を意図する当講座に百害あって一利ないものであった。

■UFO問題の2つの危機

UFO問題の否定的処遇から二重の危機が発生している。最初の危機とは、ひじょうにはつきりした狂人による産物であろうとする大前提から、あえて科学界が客観的接近を否定し、それゆえに真剣な探究にたいする無関心をよそおっているということである。第二の危機は、空軍の調査班が、彼ら自身の手で行った真剣なUFO調査とそこからえられた結論——この結論の大部分は一般大衆から秘守されている——を保持するために、狂人によるイカサマと第一の危機を煙幕として十分活用しているということである。次はその好例である。

すなわち、UFOを肉眼で目撃した人々が空軍当局に詰問された多くのケースがあるのだけでも、この場合い

つもきまっていた空軍によってとられた策略とは、目撃者自身が幻覚を起こしていたのだという点を本人に知らせ充分に納得させることであつた。だがそれにもかかわらず快くインタビュアーに就てくれた目撃者たちはこの「幻覚」なるものを詳細に発表している。しかも彼らは最大限目撃写真を提供しようと努力している(ところが実情はこれらの写真類の大部分は、一般大衆に公表されていない)し、人々にたずねてこれが地上の航空機と識別できるか否かを確かめてもいる。

■疑惑こそ科学を導く

「これまでの科学的体験からしてそのようなことはあり得ない」とする懐疑形態論がとかくエゴ的に陥りやすい科学そのものに適正な規格性を与えている、とする考え方がまちがっているとともに「何故か」と疑惑を抱くことが懐疑論を確立するのであるとする考え方も誤っている。つまり真摯なる疑惑こそ科学そのものを導くのである。一体、我々人類がすべてのすべて、万物の最高峰であるなどと、これまで人間が創造してきた計器類によって測定しうる誰が断言できるだろうか! オープンマインドがつねに要求されているのはこの点なのである。

今日、科学界のほとんどの人々が、この宇宙のどこかに「必ず我々と同様の知的生命が存在している」ということ

を受け、入れている。そしてそこから派生する疑惑が、彼ら異星人はどのような方法を駆使してこの地球へやって来るのか、という問題を提起する。

ところが科学者のほとんどが空飛ぶ円盤実在説を軽視している主なる理由というものは、光速問題に関する物理学上の知識の限界にあり、そこにしつように固執しているからなのだ。もちろん今日の我々の物理学上の知識では、光速以上のスピードで旅行できないということを証明しているために、この段階の知識を大前提にすれば人類は永遠に宇宙をまたいで旅することは不可能のように思える。

だが歴史というものは、その時々々の定説を覆そうとした場合に社会がそれを拒絶した無数の事例に満ちている。人類が大気音速というものを率先して研究し、率先してこれを解決したことによって、さらに音速問題がもっと高次元な理論的境界を提供しているということを我々は確信するにいたつたというところを、技術工学者たちは思い起こすであらう。

他の一方で、疑惑を持つことも大切なことであると申し述べておきたい。ものごと疑問を抱くことはさほど重要ではないと考えるのは極端に不公平である。たとえば、一般的にいって、学生諸君は懐疑的であるために、この講義内容とかつまた自分自身にたいして鋭い質問を展開してきた。実に本講



▲ラボックの光体を目撃したテキサス工科大学の3教授。左から、化学専攻オーベルグ教授、石油工学部長ダッカー教授、地質学専攻ロビンソン教授。それに、討論に加わったジョージ博士。

座が狂信的レベルに陥らぬよう比較的高次な状態を維持できたのはこのような過程を通じてであった。

科学的学際的性格をもつ仮説はまず論文形式をとり、その論文が完成すると新説は講座を開講する。学問はこのような口筆過程をへる。しかし社会科学の立場から考察すると、この問題は別の興味ある意義と次の事柄に係属した認識を提示せざるを得ない。つまり、高次な文明社会が現れた時、未開人がそれに直面すると、いつもきまっていたらはその未知に恐れおののき、その

混乱がかれらの文明の崩壊に決定的な衝撃を与えてきたという事実、この世界の歴史は満ちているという点である。

アメリカインディアンの文明はその好例であった。

ゆえにこれと比較して、「我々地球人はいまだ原住民のごとき存在ではないのだ」と、ある人種「地球外文明人」がこのことを我々に気づかせようとしているのかもしれない。

■第3の疑問

別の問答——すべての人間があらゆる分野でいろいろな仕事を行うのは、未知なるより高次な意義を発見しようとする永遠の欲求にかりたてられるからであるが、UFOの真相とは何ら関係のない、UFO問題から派生したU

F0教という宗教儀式は、これとごく似た行動パターンをとっている。

そこで第三番目の疑問が浮かんでくる——すなわち、一体何が彼らの見解なのであろうか、という疑問である。彼らの考えていること感じていること

といえは、原住民たちが自分らの天然の洞穴の中で文明人をしげしげと観察しじつと眺めている、我々もそういうことと同様のことをやらかしているともいえるのであろうか？ この場合の学者の解答は次の如きものである。我々の祖父たちがのこしてくれた過去の歴史から学び、そこから得た知識を応用駆使して、社会学者たちはありうべき未来社会実現のためにその将来への見通しを展開しそのために準備してきたし、今日もなお日夜、熱意を注いで努力しているのであると。

5 モラー博士の巨大磁場推進システム

私（モラー博士）は、空飛ぶ円盤に関する技術工学的意義への好奇心が日増しに強烈になってゆくのを覚えたため、はるかなる探検の下準備として、ついに外部情報源へ接近、そこで、急激にそのポリウムを加えつつある様々なデータ類を相互に関連づける作業を手伝ってきた。

一般的に起こりうるであろうと想定される反論に対処するため、私の領域

まって新たな衝撃波を生み落としたのであった。

すなわち、UFOがおよぼす環境的影響とか、UFOの推進原理に関連ある磁極場問題とか、はたまたブラズマ現象から発生する環境的影響とか、今日の我々が築き上げていく技術的知識との相互にみうけられる意義にたいしての感銘であった。

UFO問題に客観性を保証し、同時にまた科学者をして強烈な確信力を起こさせ、そういう土台から彼らが当問題に深く取りこんでゆこうと決意する、そのためにすこぶる効果的な方法であったと考えるものだ。

技術に関する講座中の刺激的研究領域とは、UFOの性能と、環境へUFOが及ぼす影響問題を二重写しにしたような人工推進システムに関するものであった。

これまで報告されているUFOの性能についての物的証拠を私はよせ集めている。

私は、きわめて有益な実現が可能な人工推進システムをデザインしたが、それは非常に強力な交流磁場100キロガウス以上を必要とするものであって、これは超伝導体の開発によってのみ確保できる。

誠に残念なことに、この人工推進システムは特許的性格を帯びているのでここではその特質についてヒントを提示しうるだけである。

■巨大磁場内での人間の変化

10 キロガウス以上の巨大な磁場内では、渦巻き現象が物質の内部で発生する。そこでもし何らかの運動を人が起こすならば起電力は増強され、それがショックで活動は停止し、一時的なマヒ状態に陥るだろう。ちょっと腕を動かしてもビリビリするような刺激を受けるだろう。きわめて弱い磁極場に頭部を入れるだけでも、その人は発生する第三の磁力によって「星々」を望見するであろう。まして途方もなく巨大な交流磁場内においてビリビリした感じやマヒ状態を起こさせるのにわざわざ肉体を動かす必要はない。

このきわめて意味深長な相関性は例のNICAPが発行している『UFOエビデンス』のごとき出版物で明らかにされているが、そこには十分に信頼できる無数の事例が証拠として提示されている。目撃者がUFOに遭遇した

とき、前の現象と同様の一時的マヒ状態とビリビリ感じる刺激を被っている」と『UFOエビデンス』の中で報告されている。しかもこのような体験をもつた人たちはこれまで「磁場の効果」なる現象について何も知らなかったのであり、わずかに少数の科学者達がこの効果に気づいていただけであった。

■タンゲステンの変化

さらに技術的相関性の別の点について申し述べておこう。たとえば、タンゲステンのような物質を磁場内におくと測定された電気抵抗は大幅に増す。これと似たような現象がUFO近く自動車や家屋の電灯に発生しており、文字どおり、うす暗くなって、全く消えてしまう報告事例が何百とある。

乗客をいっばいに乗せて南アメリカを飛行中の航空機に関する事例は好例であろう。これまで何の故障もなかつ

た客室の照明が実に1時間以上もうす暗くなったのである。この間ずいぶん多くの乗客がUFOを目撃しており、このUFOによって航空機はコントロールされていたという。このピストンエンジン機は客室の照明用としてタンゲステン製フィラメントを使用していた。他方蛍光照明を用いている最新鋭機はUFOから影響を受けたとは報告されていない。旧式機がUFOの影響下にあった間、その磁気羅針器もずつと機能を怠っていたという。

毎秒1サイクルで光度を変化させながら空中でUFOが乱舞しているとき付近の民家の電灯もそれと同じリズムで消えたりついたりしたと、別の体験談が報告しているケースもある。

■プラズマ利用の人工推進システム

さらに問題を進展させると、なぜそんな多数のUFOが超高圧電線の付近

に出現するのか？ この疑問に応えうる確かな解答は見当たらないが、交流の高圧動力源から、これに触れずこれを誘導することによって電力の供給を実現することは可能なのである。しかしながらある種の科学者たちが指摘しようとしている説明とは異なっている、つまり高圧電線付近にあらわれるUFOとは、実のところプラズマ現象か球電ではなからうかというものである。

私の見解を申すと、この考えはこの世界でタブー視されているある事実を説明づける一ケースにすぎないのであって、しかもこの説明をタブー視されていない今日の科学知識によって試みているだけのことだ。

巨大な磁場を用いた人工推進システムはプラズマ（イオン化空気）をとめない、このプラズマ自体を利用することが可能となる。かりにこのような推力システムが開発されるとその最適条

宇宙の謎ミニ展

催開は



UFO出現

- 直径3mのUFOを展示
- 各地のUFO目撃写真を一堂に
- 宇宙大戦争ゲームetc...

とき

53年 3月9日～5月9日

AM10:00→PM5:00(毎週水曜定休)

ところ

京都ナショナルショールーム
京都・四條河原町高島屋5階
TEL 075(223)2281(代)

入場無料

件に近いタイプは円形となるだろう。そして推力とコントロール機能を最大限にもってゆけば多分その周囲にプラズマが発生する。このプラズマを用いると暗闇の中でもまぶしく輝き、そのイオン化程度に応じて色彩を変じ、推進機のパワーやスピードの度合を示す。このことがこれまでの乗物の操縦法に革命をもたらさなければならぬ。

かような技術革新はUFOレポートの中に述べられている内容と酷似しており、従って、このような研究活動を通じて、これまで報告されてきた無数のUFOレポートにきわめて有益な特質が見られることを我々に気づかせるのである。

我々の技術的知識と、UFOが提供している性能の相互関連性についてさらに付言すれば、高スピードと低速のときの音量の少なさ、しばしば報じられている熱、UFOが接近したときによく発生する自動車の点火装置の故障等々、いずれも公正な技術的立場から十分に説明できるものである。かくして、このような技術上の知識が、大気圏内のUFO性能に対して展開してきた多くの質疑に合理的に反応し、有益なる解答を提供した。

■科学界を

感じがいさせたのは迷信活動

さて、ここで結論を申せば、今回の画期的な講座にささげられた時間は、質

疑応答によってえられた深い意義と、技術的相関性を前提として始められた開講時のスケジュールに反して、あまりにも短期間すぎたと感じざるをえない。学生諸君はもっと多くのUFO知識を求めており、この問題にたいして恐怖や非常識を徹底的になくしてゆかねばならないと全体的に感じていた。

できれば、このような講座がいたるところで開かれ、それが客観的方向へ科学界を導く役割を演ずるようになれば、もはや無知から生まれた邪悪な迷信活動は完全にストップするのである。科学界に問題は全くナンセンスだ



米大学人とUFO問題

■カリフォルニア大学の J・ハーダー博士

以上が、勇を奮って科学者が開講したカリフォルニア大学キャンパス内でのUFO教育の経過であった。同じくカリフォルニア大学バークレイ校舎で工学の教鞭をとるジェームズ・ハーダー博士も、問題については実に重要なわまりない問題としてとらえており、これまで彼独自の研究によって、いわゆる、世間にその筋から流言されている事柄以上の奥深い意義が潜んでいるのだとたびたび強調してきたのである。

と感じがいさせたのはこの迷信なのであるから。この迷信サイクルがそれまでほとんど拒否反応を起こすことなく、恐怖と迷信自体を食わせながら生活を続けていたわけだ。

価値ある多数の技術的情報を相互に関連づけようとする試みは、もっと理論的に深い思考と探究姿勢がぜひとも必要である。このような接近が行われるとこれまでかき乱されてきたUFO問題は、教訓的な意味あいをふくんだ有益なものとなり、確認飛行物体として、初めて公認されることになるだろう。

それというのも、同博士の主張は、博士が民間一流のUFO調査団体「APRO」の科学調査部長を兼ねており、この外部団体活動を通じて未知の体験をした一般市民からよせられる豊富なUFO情報に接近できるとともに、これらのデータに同大学内のコンピュータ分析を施してその統計学的成果をもって帰着した結論であり確信であるからだ。UFO地球外宇宙機論は暗にハーダー博士が示唆しているものなのである。

さらに彼は、UFO研究のために科学財団を設立することはよいことだけれども、これが一見前向きに進んでい

るように見えて、実は後ずさりするような心を閉じたやり方を前提にするなら、いっそやらぬ方がよい、とこれまでの科学的姿勢にたいして批判的である。

現にアメリカ政府が1960年代の後半、約3カ年を費してコロラド大学へUFO調査を依頼したのであるが、ひもつきとそれゆえに出された否定的結論にたいしては「全くしろうと好みである」と簡単にかたづけられている(1973年12月20日タイムズ参照)

■スタンフォード大学の 共同研究

『UFOと宇宙』第19号18頁から19頁にかけて「新しい科学的対話を目指して」スタンフォード大学での地球外文明共同研究」と題した記事を筆者は掲げた。1974年8月29日、30日の両日にわたり、メリーランド大学カーロン教授とスタンフォード大学スターロック教授の呼びかけによってスタンフォード大学内で、UFOを中心にした地球外文明問題の科学的討議が開かれたのである。これに臨んだ科学者、教授は24名であった。

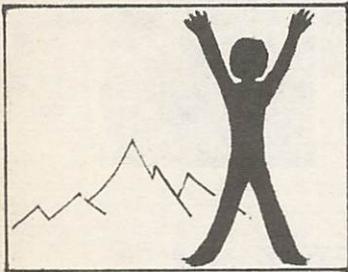
「また今日UFO問題は、個人的活動かあるいはUFO研究センターと行動を共にしながらも、アマチュア組織のみならず、一連の科学者たちの手によってデータが集められ調査される、そのような舞台に近づきつつある。地球

心と体の統一強化

超道

◆超道師範資格取得講座

- カール・ヘニングガーの指導によりアメリカでブームを呼ぶ画期的運命転換システム「ボーダ原理」、大脳生理学、深層心理学による独創的中枢能力開発によって、心と体の統一強化をはかる。



- 通信講座部 (基礎科3ヵ月) 1日10分の行法練習を自宅で行うだけで充分効果のあがるシステム指導。受講料:9,000円(スクーリング付)
- 通学部 (基礎科3ヵ月) 銀座会場で毎月1回直接個人指導を徹底的に行なう。受講料:15,000円

申込方法 ハガキに通信、通学の別を明記の上、超道受講と書いて申込み下さい。受講料は教材到着後振替又は現金書留でお近くの郵便局からご送付下さい。

唯超学会 (UFO係)

〒104 東京都中央区銀座 2の8の17 (中川ビル1号室)
TEL 03 (567) 6718
資料呈:超道資料(通信・通学の別)と書いて、切手50円同封下さい。

1971年アリゾナ大学でAPROがUFO講座を開催した。アリゾナ大学といえば第一級のUFO科学者、ジームズ・マクドナルド教授がいる。博士は1971年になぞの死をとげているが、1966〜7年頃からこの年

■アリゾナ大学の J・マクドナルド博士

ながらもこの対話は首尾よくスタートしたのであり、心おどるような新発見を目指して実りある科学的探究が促進されんことを我々は願うものである」と、最後がしめくくられている。

ドレイク大学では、成人向けのUFO講座をもっているブラッグ教育学部長が「問題を教育の正課として採用すべし」と教育界にも申し、自らすすんで自作論文を州立学校の教科書に掲載している。その科学的姿勢と実証主義については『UFOと宇宙』第32号を参照されたい。

1971年アリゾナ大学でAPROがUFO講座を開催した。アリゾナ大学といえば第一級のUFO科学者、ジームズ・マクドナルド教授がいる。博士は1971年になぞの死をとげているが、1966〜7年頃からこの年

にいたるまでの真摯な啓蒙活動は立派なものであった。米国報道連合会、カナダ航空宇宙協会、合衆国議会、国連での演説、大学での講演等々を行ってこの年オーストラリア・ニュージーランド科学振興協会『ANZAS』でUFO会議が開催されるのに賓客として招かれていたのであるが博士の死によってとうとう実現しなかった。

しかし、ジームズ・E・マクドナルド教授の名とアリゾナ大学の価値ある活動は未来に語り伝えられるであろうことを筆者は信じて疑わない。なお、同博士のコンドン白書にたいする痛烈な批判については『UFOと宇宙』第31号を参照されたい。

マクドナルド教授がUFOに接近したからといって宇宙人と直接にコンタクトしたり、UFOに同乗したわけではない。今やわが国にはぼう大なUFO情報が未処理のまま散在しているように、彼もまた米国内のそれらを集め

て、ときには現地に行き、ときには体験者をインタビューして地味な活動を継続しつつ、しかも彼自身の学問的知識を巧みに活用してひとつの結論にたどりついたのであった。国連まで足を運ぶという事は確たる信念がなければとうていできないことだ。

しかしこのような信念は、日本の科学者が何も米国まで出張して植えつけてこなくても、この国内で確立しうるものである。国連の宇宙平和利用委員会への働きかけも当然のことながら、もっと身近なところ、つまり国連大学本部にUFO問題をとり上げさせることだっただけ全く可能なのだ。学者たちが、その「気」さえ起こせば。

1950年に刊行されたフランク・スカリー著『UFOの背後』の中ではUFO墜落事件のいきさつがとり上げられており、この事件をある一科学者が周囲を警戒しつつデンバー大学で講演したということが記されている。

かような動きは必ずしも米国内に限ったことではない。何故なら、UFOは後進国、先進国を問わず地球のいたるところに出現しており、それに呼応するかの如く世界の科学界や大学の中で似たような動きがくりひろげられているからである。

米国内だけでもずいぶん多くの学府がこれを討議しているが、そのリストは終編にゆずることとして、いずれにしても我々は、人類の2千年史というものが、忍耐強い平和運動とか地道な教育策を通じて「宇宙史」というその未来への確かな手応えを得たのだ、という事実だけは気付いておく必要があるだろう。

UFO問題はとっくの昔に第一関門を突破し、今日では、社会啓蒙、学際的体系化、国策へのプレッシャーという手順段取りの段階までできているのである。

あなたはその美しい現実に耐えられるか……

三人の宇宙人遭遇体験者来日!! コンタクティ

古山晴久氏

米国在住7年間に
幾度かのUFO目撃
と宇宙人との会見
を実体験し、すで
に彼等が平和裏に
地球に来ているこ
とを確認した。



シャーロット・プロップ女史

故アダムスキーと
共に活躍し、数10
回のコンタクト体
験をもつ。UFO搭
乗員達の飛来目的
と、その文明の実
態を明確にする。

X氏

宇宙人と地球の各
界要人との重要会
談に立ち会った貴
重な体験をもつメ
キシコからの人物
で、来日中にその
内容を公表する。



必見必聴・世界のUFO最前線

来日記念大講演会 未公開UFO実写映画等上映

5月4日(木) 午前10時～午後6時
牛込公会堂(東京都新宿区^{牛込}笹塚町15
・地下鉄東西線で神楽坂駅が国電飯
田橋駅下車) 会費3000円で一般公開

来日記念特別講習会

東京都内における5月6日(土)7日(日)の二
日連続のUFOと宇宙人に関するセミナー。詳
細は当グループ宛「説明申し込み書」を御請
求下さい。参加資格なし。人数制限は先着順

三人の来日メンバーの体験を通し
UFO・宇宙人問題を徹底究明す

京都講演会 5月14日(日)10時開場 京都府婦人
センター(左京区下鴨半木町) 会費3000円一般公開

高知講演会(5月13日)は次号広告参照

空飛ぶ円盤と宇宙人に関する教育誌

UFO教室

第4号 ◎UFO着陸事件取材レポート ◎「UFOと宇宙と人類」 ◎生命の宇
宙的視覚 ◎宇宙の哲学を学ぶ若い友へ ◎センター活動報告 ◎連
載「宇宙のバイオニアー」月、火星、金星への旅 第4回 名誉他
頒価360円 送料140円(書店不扱い。振替送金のみ。現金、切手不可)

進化した宇宙人その他の惑星に関する 質疑応答集

ジョージ・アダムスキー著
1965年版(本邦初訳)

惑星間宇宙の諸状態、UFO飛来の目的、宇
宙人の社会と文明などの、具体的な解答集
350円 送料100円 訳:竹島 正

UFO界情報

日本空飛ぶ円盤研究会

荒井欣一代表

前号で予告した「1977年UFO年鑑」、4月上旬発行を目標に進行中。内容予定は左記のとおり。
「UFO年鑑」限定千部。予約制。
●未公開カラーUFO近接撮影
●77年UFO年表
●各県別UFO目撃記録
●優秀研究論文発表
●UFOフエスティバル講演記録
●テレビ、ラジオ内容要約
●雑誌、単行本掲載記事要約
●77年発行のUFO単行本案内
●UFO30年史年表
●過去30年のUFOブックリスト
●日本UFO目撃地図
●国内UFO研究団体案内
●その他写真、図版類多数
※価格予定2千円(送料別)。申込は往復葉書に住所、氏名、年齢、職業等を記入して研究会宛郵送(締切3月31日)。申込1千部で締切。小学生不可。〈〒114 東京都品川区東五反田2-19-18〉

近代宇宙旅行協会

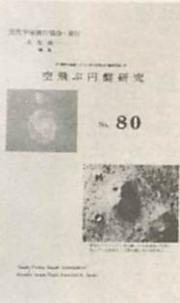
高梨純一代表

※注意 本誌2月号「ブックガイド」に発表した「UFO関係書一覽表」を申込み場合は必ず、「何々がほしい」と書いた紙と、50円切手を貼った返信用封筒を同封のうえ、申込みの封筒の裏に自分の住所氏名を明記のこと。また中に入れる封筒は、開封のとき一緒に切ってしまう恐れがある

あるので小さく折って下さい。

国内UFO写真一覽表作成のため、UFO写真を募集。撮影者はプリントと撮影時の詳しいデータを当会宛郵送のこと。匿名希望の場合も本名は必ず知らせて下さい。
大阪梅田阪急駅構内・紀伊屋書店の「自費出版物販売コーナー」で当会誌の販売決定。前号予告の「第3回UFO研究協議会」は予定どおり3月26日午後1時から大阪リバーサイドホテルで開催。

●会誌「空飛ぶ円盤研究」80号発行
〈〒560 大阪府豊中市夕日丘2-17-12〉



日本宇宙現象研究会

並木伸一郎代表

第1回UFO研究者大会、6月開催を企画中。
●会誌「UFOマンスリー」9号発行
行中「未確認飛行物体」8号4月発行
〈〒150 東京都渋谷区神山町5-1-2〉

日本GAP

久保田八郎代表

毎月第2土曜日午後1時から6時まで上野「東京文化会館」4階会議室で例会を開いている。

●会誌「GAPニューズレター」63号発行中。

〈〒133 東京都江戸川区本一色町3-65-18-18〉

GAPニューズレター



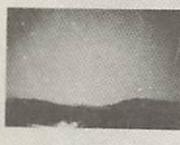
重力研究所

清家新一代表

研究所の細部について、工事を統一行中。
タキオンは、速度が上がるにつれてエネルギーを失うが、それを示すセットを作製した。また、パワー・コイルの実現に近づきつつある。

●会誌「宇宙艇」隔月発行。
〈〒798 愛媛県宇和島私書箱33号〉

宇宙艇



日本UFO研究会

平田留三代表

会員の懇親会、イベント用貸出し資料の製作を準備中。
●会誌「JUFORA」体刊中。ス

タイトルを変えて夏復刊予定。
〈〒673-003 神戸市垂水区神出町五百蔵142-1161〉

静岡市中田2丁目「伊加麻神社」会議室で開催。10時～5時。会費300円。今回は、日本UFO研究会(青島光男代表)、ケニスマレ・ファンクラブ(鈴木麻仁代表)、日本超宇宙通信協会(秋山真人代表)、全日本コンタクト大会・実行推進協議会(丹羽豊代表)、ユーフロジストクラブ、以上5団体の共同研究会。
●会誌「ユーフロジスト」35号発行中。

アダムスキーの弟子であったシャロット・ブロッブ、「宇宙の友人たち」の著者・古山晴久氏、メキシコ政府関係者の3人が5月に来日。日本未公開UFO実写映画等の発表を含む講演を各地で行う。
講演予定は次のとおり。
東京公演 5月4日(木) 10時～6時/新宿牛込公会堂(定員500名) 入場料3千円
四国講演 5月13日(土) 京都講演 5月14日(日) 1時～6時/京都婦人センター/3千円
その他5月6、7両日に特別講習会が行われるが、人数制限があるので説明申込書を当会に請求すること。
なお4月1日(土) 1時～5時まで渋谷勤労福祉会館で定例懇談会が開かれる。会費200円。
●会誌「UFO教室」3月下旬に4号発行。
〈〒351-12 埼玉県入間郡日高町高萩2648-38〉

ユーフロジスト

安斎純夫代表

日本宇宙UFO研究会

並 幸夫代表

九州連合結成準備中。
●会誌「UFO」7号発行中。
〈〒834 宮崎県児湯郡高鍋町蚊口浦〉

日本超自然現象研究会

志水一夫代表

現在活動休止中。
●会誌「世界の超自然現象」体刊中。春頃に「フロンティア・サイエンス・モニター」刊行予定。
〈〒167 東京都杉並区南荻窪1-34-17〉



ユーフロジストクラブ

平野泰敏代表

第3回静岡県UFO・超常現象研究同好会の集いを4月9日(日)、



ユーフロジスト

高坂烈麿氏からの情報
2月4日(土)、テレビ朝日、独占女の60分でキャッシー中島が高坂氏から教わった方法で子供たちとUFOを呼ぶ。その時間、高知でUFO目撃あり。

第一次大戦中に撮影された翼のある宇宙人

■ロバート・シエーファー

写真史上最も驚くべき写真の1つが

1917年の夏、英国の片田舎で撮影された。まだ汚されていない英国の田舎、ヨークシャー州のコティングレイ谷で、ある日の午後、2人の少女が戸外へカメラを持ち出した。帰って来た2人が写していた1枚の写真には、今まで記録されたことのない生物が写っていた。数週間後に、同じような写真が1枚現れた。そして3年後にはふたたび一連の同様な写真が撮影されたのである。これらの写真は専門家の手できわめて注意深く調査されたが、インチキは発見されなかった。写真の中の翼のある生物は、妖精といわれているものである。

1917年7月に撮影された最初の写真には「フランセスと妖精たち」という、多分に誤解されやすい題が付けられている。写真には翼のある生物が

5人見える（1人は他の2人の陰にはとんどかくれている）。彼らは陽気に踊っており、UFOの乗員がよくそうだったと報告されているように、空中に浮かんでいるのではないかと思われるほど軽そうに見える。9月に写された2枚目の写真は「エルシーと地の精」という名で知られている。写って

いるのは「想像できる最も奇妙な妖精」といわれているように、とがった帽子をかぶり、ひだえりのある服を着て2本の管楽器のようなものを持った生物である。たしかにこれは、私たちが宇宙人に期待する服装とは違う！しかしやがて分かるように、これには十分な理由があるのかもしれない。

シャイロック・ホームズの作者が徹底調査

コティングレイの写真が本物であることを証明する証拠が少女たちの証言だけだとしたら、インチキ扱いされるのも無理はないだろう。懐疑論者たちはUFO写真をデッチ上げるのがどん

なにやさしいことかいつも言い続けているし、心のせまい彼らにも理由はある。しかし、コティングレイの写真は当時の最も学識もあり尊敬を受けてもいた人物の1人、サー・アーサー・コ

ナン・ドイルその人によって徹底的に調査され、ほんものであると宣言されているのである。

シャイロック・ホームズの物語は誰でもよく知っている。しかし、超常現象の科学的調査者としての、そして特にコティングレイの写真の真实性を証拠立てるために道を開いたドイルの役割は、今日もまだあまり知られていない。コナン・ドイルの輝かしい足跡を追う今日の真面目なUFO研究者や研究団体は、知ると知らぬにかかわらず、彼に感謝の気持ちをささげなければいけないのである。

シャイロック・ホームズを作り出したドイルは、あの有名な名探偵の熟練した調査ぶりと判断のするどさをもってこの写真を調査したが、不審な点は何もなかった。彼はあらゆる可能性を注意深く考え、写真がインチキでない



ことを確信して、疑い深い世の人々に妖精の存在を証明する1冊の本を書いた。UFOを研究している人なら、妖精だの翼のある宇宙人だのという新しい考えに石頭の科学者たちがどんな抵抗を示したか、よくお分りになるだろう。

ドイルがコテイングレイの写真の信ぴょう性を確信するようになったのは次のような理由によるものである。

●写真を写した少女たちでは、悪ずれたインチキをでっち上げるのは無理だった。彼女たちがカメラについて知っていたのは、シャッターの押しただけだったのである！現在の有名なUFO写真の多くも、同じ理由で本物と考えられている。だから、ここでも同じことが言えるのだ。その上、純真で親切な少女たち（2人は10歳と13歳である）が人をだますのは全く不得手であることは、科学的なUFO研究者なら誰でもよく知っていることである！

●写真は英国コダック社の研究室へも送られ、数人のベテラン写真家の手で徹底的に調査された。コダックの専門家たちは十分すぎるほど慎重だった



フランセスと妖精たち。1917年7月のよく晴れた日にエルシーが撮影した写真。写真専門家にも修正の跡はまったく発見できなかった。

が、それでもコテイングレイの写真からは何のインチキらしさも発見できなかった。熟練した写真家で、また適当な設備があれば同じような写真を作り

上げることはできる、と彼らは指摘した。しかし少女たちはそのような設備を持っていないし、たとえ持っていたとしても使いかたを知らないだろう。

だから、誤って「妖精」と呼ばれるようになった翼のある生物の写真は、本物と考えなくてはならない。

●高度に熟練した写真専門家たちがこの写真を調査し、修正や特殊撮影の形跡はぜったい無いと断言している。長年の経験を積み特殊撮影技術にも精通している商業写真家のH・スネリング氏もこう言っている。「スタジオで手を加えた形跡は全くない……修正されないままの写真である」と。スネリング氏は、この写真がインチキでないことを証明するためには自分の今までの名声をかけてもよい、とまで断言しているのである！

UFOの専門家なら、インチキがあれば見抜くことができる。だから、かといひ詐欺師にもだまされないのだ。たとえば、UFO研究センターには1千件以上の世界各地からのUFO着陸報告のカタログがあるが、その中ででっち上げだとして拒否されたものはただの1件もない。これを見ても彼らがどんなに注意深い分かるだろう。とにかく、UFO調査官の大部分はなはだ疑い深い。彼らはいつても、UFO目撃者は子供でも偏執狂で何とかして

1917年の夏、英国の2人の少女がカメラを持ってヨークシャー州コテイングレイ谷の田舎に出かけた。帰つて来た2人が写していた写真には、今まで記録されたこともない生物が――

話をでっち上げようとしているのではないか、という疑いをもって仕事をしているのである！

コテイングレイの写真は、現在ある「古典的」なUFO写真が受けたのと同じくらい注意深い調査を受けた。だ

なぜ第一次大戦中に目撃されたか

さて、それらの写真が本物であることがはつきりしたところで、どのような結論が引き出せるか？ まず第一に写真の中の生物はたぶん妖精ではないということである。妖精の存在を信じることそのものが、すでに馬鹿げたことだからである。その上、UFO現象の科学的研究家の一人として有名なジャック・バレーも、過去の妖精目撃と現代の宇宙人目撃との類似性を指摘しているのだ。

「時代的地方性」とでも言えるものがある。ひとりよがり的一种で、後世の人にとってはまことに迷惑なものである。これがあるために人々は、不思議な現象が発生するとその当時から信じられていた考え方にそれも当てはめようとする。たとえば、1896年から97年にかけて目撃された不思議な「飛行船」は、ジュール・ヴェルヌが考えたような機械として説明されてきた。それが未知の飛行物体に対する当時の人々の考え方だったのである。も

から、それらは本物に違いないというあらゆる理由がある。近年蓄積されつつあるUFOに関する証拠のほとんどすべてを否定する気にならなければ、コテイングレイの写真を否定することはできないだろう。

もちろん、今われわれは、それがUFO

だったに違いないことを知っている。目撃者たちは、当時の誤った考え方にまどわされて、それが飛行船だったと報告したのだろう。同じように、1920年代には、UFOは広く知られていなかった。だが、妖精物語はよく知られていた。だから、翼のある小さな生物が、宇宙人であると正しく認めら

れる代りに、よく知られた（だが物語の上での）生物だと信じられるようになる。なっても不思議ではなかったろう。

信頼できる宇宙人の写真はまことに少ない。だから私たちは、コテイングレイの写真からできるだけ多くの情報を引き出すよう努力しなければならぬ。有名な宇宙人研究者マッキャンベ

エルシーと地の精。1917年9月にフランセスが撮影した写真。これも徹底的に調査されたが、手を加えた跡は発見されなかった。



ルは、その著書『UFO研究』の中でこう言っている。「だから、彼らの外観こそ、彼らの故郷の環境と、進化の過程における彼らの位置とを推測する重要な手がかりになるだろう」。彼の著書はあの有名なハイネック博士も「おそらく、人類にとって絶大な恩恵となりうる知識の玉手箱」とほめたたえている。マッキャンベルが発展させた方法を使って私たちは、写真の生物についてどのような知識を学びとれるか？

生物は非常に小さい。身長はせいぜい30センチから46センチである。このことは、彼らが重力の大きい巨大な惑星から来たらしいことを意味する。身体は厚みも薄いように見えるし、懐疑論者たちは事実、「妖精」はボール紙で作った人形のように平たい二次元的生物だと主張する。だがマッキャンベルは、温暖な気候のもとでは体の薄いほうが体内の余分な熱を放散するのに有利である、と指摘する。このことは少女たちの、妖精たちは暖い日のいちばん暑い時分によく現れた、という記述とも一致する。

マッキャンベルは、「地球上で身のこなしの軽いこと」からも、彼らは重力の特に大きい惑星から来たのではないかと推測されると言っている。コティングレイの写真の「妖精」ほど優雅な生物があるだろうか！ これらすべての点は、偶然にしては話がうますぎるほどよく合致する。だから、彼らが

現代の宇宙人は、重力を克服する、というより中和する方法を知っているらしい。マッキャンベルは、彼らが空中に浮かんだり飛行したりするのを目撃したという多数の例を引用して、彼らの着衣に何か重力をしゃ断する装置が付属しているのではないかと述べている。1920年代の宇宙人は反重力装置の開発が完成していないため、まだ翼が必要だったとも説明できる。

重力の大きい巨大な星から来たらしい

宇宙人であるなら、太陽に近い巨大な惑星から来たに違いない。

コティングレイの写真に現れた生物はすべて翼があり、このことは彼らに空中を飛行できる能力があることを思わせる。これは、宇宙人と至近距離で出会った人たちがよく、彼らが「空中に浮かんでいた」とか「飛行した」と報告している事実とも一致する。しか

いよいよ深まるUFOの謎!! UFOの人間誘拐と家畜虐殺!!

これらは目下世界のUFO研究上最も重大な問題です。ほかに——
UFOの着陸、搭乗者の活動、着陸痕その他の物的証拠、接近目撃の後遺症、その他の生理的効果、等々……
当会は、これらを重点的に研究し、詳細に会誌上で報道します。ほかに、UFO界の内情も……

我が国で最も歴史が古く、最も信頼出来る——
会誌『空飛ぶ円盤研究』（隔月刊）現在81号!!
B5判、オフセット印刷、写真豊富、内容充実
我が国のUFO研究者必備の科学的情報誌です!!
入会金なし。会費 半期（会誌3冊）1,200円
1期（会誌6冊）2,400円

（住所・氏名・年齢・職業（学校）を明記してお申込み下さい。）
（見本誌入用の方は、400円（切手可）をお送り下さい。）

【会誌バックナンバー】但し、70号までは主として複製版。

1-10号	3,320円	11-20号	3,480円	21-30号	2,740円
31-40号	2,240円	41-50号	2,700円	51-60号	3,080円
61-70号	3,400円	（いずれも送共。バラ売りも出来ます。）			
（特別割引）					
1-70号全そろい	18,000円（送共）				
1-80号全そろい	20,000円（送共）				
72号-80号（原本）	2,000円（送共）				
「空飛ぶ円盤特別情報」	1-12号……………1,000円（送共）				

近代宇宙旅行協会

（創設満21年目） 会長 高梨純一
（☎530-91）大阪中央郵便局私書箱910号
（郵便振替）大阪8301番
Tel: (06) 761-3017・852-7746

しながら、ウエスト・ヴァージニア州を震え上がらせたあの気味悪い「蛾人間」以外は、現代の宇宙人で翼を持つ例は報告されていない。しかしそれは、50年前の宇宙人は技術が未発達で、背中に付けた翼などの外部装置がなければ空中を飛べなかったのだという仮説を立てることが許されるなら説明できるのだ。

ある人々は、コティングレイの「妖精」が本当に宇宙人なら、宇宙船も目撃されたはずだと主張するかもしれない。だが、目撃されなかったと断言できるか？ 1947年以

の中の一枚である。エルシーがやって来たときこの生物は、一心に標本を採集していたのではないかと、エルシーもフランセスもどちらも、生物たちはコティングレイ谷の植物の周囲を動きまわっていたと報告している。このことから、彼らには充実した高度な植物研究計画があったのではないかと思われるのである。



前のUFO目撃の系統的な記録は残っていない。「妖精」たちは宇宙船をどこか地下の秘密基地に隠しておいて、少女たちが家に帰ったあと夜間だけ宇宙船で飛行したのかもしれないのだ。

最初の一連の写真は1917年夏、つまり第一次大戦の最中に撮影されている。だから、妖精たちの宇宙船が目撃されたとしても、そのころよく英国上空に侵入したドイツの飛行船と間違えられたことも考えられる。UFOだと確認されたことはまずなかっただろう。また生物たちは、偵察飛行をこっそり続けるため、宇宙船の船体にわざとドイツの記号や標識を描いていたかもしれない。

彼らはどうして、第一次大戦の最中にはじめて目撃されたのだろうか？ 銀河系内の惑星の発達状態を継続的に

何十人ももの小さな生物が忙しそうに

コティングレイの写真の信頼性を証明するかのように、イングランドでもスコットランドその他でも、当時同じ、イトシャジンの花束をエルシーにささげる妖精。

調査するための定期調査で、地球が恐ろしい戦争手段を開発したことを察知したからではないかと推測する人もある。彼らは調査にやって来た。彼らの計測装置は、地球人がはじめて毒ガスなどの恐ろしい兵器を使用していることを明らかにした。このことは、地球の全生命が死滅してしまう可能性があるばかりでなく、周囲を汚染し、宇宙発展計画そのものをくつがえしてしまふ恐れさえある。宇宙人たちがこの時期を選んでやって来たとしても不思議ではない。

彼らがどのように、どこで、どんな方法で介入してきたかは明らかではない。しかし、彼らの介入が成功したことだけは確かである。毒ガスはその後兵器としては使用されなくなったからである。

そのような目撃したという報告が続出した。お互いに遠く離れた大勢の目撃者が同じ妄想を見たという話はあ

「妖精」たちは生物標本を採集していたのだと説明する人もある。

りえない！ もしそうだとすれば、私たちはいっさいのUFO目撃報告を否定してしまわねばならなくなる。

有名な見神論者でゲラーの透視力のような超能力に関する著書もあるジョー・フレイ・ホドソン氏は、「妖精」を見るために、フランスとエルシーに案内させてコティングレイ谷まで出かけた。そして3人とも、何十人ももの小さな生物たちが忙しそうに働いているのを目撃したのである。たしかに、3人の正気な人間が同じ幻を見たということとは考えられないのだ！

その後間もなく同じような目撃報告が、ウエスト・エセックスからも、マン島からも、アイルランドからも、ニュージールランドからも、カナダからも、それに米国からも殺到しはじめた。そのどれもが、コティングレイの写真によく似た翼のある生物を見たという点で、驚くほどよく一致していた。サー・アーサー・コナン・ドイルは妖精の科学的調査のため、目撃報告の言わば「手形交換所」を設立した。といっても、重要人物たちへの「直通電話」は設置されてはいなかった。電話技術

そのものがまだ未発達だったからだ。目撃報告を収集する方法は郵便しかなかったし、報告の信頼度を計算するためのコンピュータも、むろんなかった。

1921年にドイルは、世界各地から殺到する翼ある妖精の目撃報告を整理した結果、こう書いている。

「写真術の発見以前にもこれらの小さな生物が存在したことについては、無視することのできない証拠が沢山ある。これら多種多様の目撃者たちは、そのような証言をしたからといって利益になることは何もないし、金銭的な打算は全くない……1、2件は巧妙な冗談もまじっていたが、その他の報告には全面的に信頼できる例がいくつも見えられた」

50年前にも他人をだまして笑いものにする人間はいた。しかし、コナン・ドイルのように賢明で学識ある人物は彼らにだまされるにはあまりにも世間なれしていた。彼の足跡に従う今日の尊敬すべきUFO研究者のように、ドイルは信号音と雑音を注意深くよりわけた。あとに残ったものが、極めて信頼できる目撃者が翼のある妖精と表現した純粹の報告である。

コティングレイの写真が意味するのは明らかだ。われわれは、偏見や無知のためにこれらの写真をただちに否定することはできない。それらは権威ある専門家たちの手で徹底的に調査さ



ジョージ・アダムスキー

があなたにおくるメッセージ

テレパシー

訳・久保田八郎 ￥550 送料140

テレパシーすなわち宇宙語／人間の四つの感覚器官／触覚／細胞から細胞へ伝わる印象／肉体細胞から来る印象／感情が肉体細胞におよぼす影響／他の遊星から来る印象と地球の習慣的な想念／自我の抑制／弛緩・関心・感受性／透視・透聴・予知／思考と推理

生命の科学

訳・久保田八郎 ￥650 送料140

生命の分析／心とその成分／宇宙の法則の応用／万物の相互関係／意識英知及び生命力／“新鮮さ”は人間の若返り薬／宇宙的記憶／宇宙の一体性／宇宙的細胞と肉体の細胞の活動／意識による旅行／宇宙空間の探険／絶え間なき進歩の報い



フレッド・ステックリング著

なぜ空飛ぶ円盤は来るのか

訳・久保田八郎 ￥750 送料140

好評発売中

当社の出版物が書店にない場合は振替・現金書留・小為替・低額切手などで直接ご注文ください。

文久書林 ● 〒113 東京都文京区白山1-29-12

電話(03)813-2495 振替 東京4-2521番



れインチキなものでないことが分っているからである。英国だけでなく世界中にわたって沢山の証人が、お互いには何の連絡もなくそれぞれ独立に、まるで妖精のような服装をした翼のある小さな生物を目撃した、と証言しているのだ。UFO目撃の記録をもいっさい否定する気にならなければ、これだけ多数の文書で証明された目撃報告を否定し去ることはできないだろう。

コティングレイの写真こそは、UFO研究者が対決しなければならぬ未解決の大きな謎の一つと考えねばなるまい。あの生物はどこから来たのか？ その目的は？ 真に科学的なUFO研究者は、敢然とこの謎に立ち向かわなければならないだろう。

増野一郎訳

シンセサイザー・ミュージックの極限をとらえた
感動のスペース・シンフォニー!

SPACE
SOUND

宇宙組曲

惑星ロケットの出發 a) 秒読み〜噴射音 b) 成層圏離脱/太陽のかなたに a) 軌道修正
b) タイム・トラベル/銀河飛行/恒星の明滅/UFOとの遭遇/他全12曲
●UXP-750-EB ¥2,300



壮大なスケールとロマンで構成され
た感動のスペース・シンフォニー
銀河交響曲/SFF

●UXP-748-EB ¥2,300



電子美学の極限を追求する異色グループ
幻星/クラスター

●UXP-749-EB ¥2,300



NEU!

新感性の極致をクリエイトするスーパー・グループ
電子空間/ハイ

●UXP-702-EB ¥2,300

宇宙空間を浮遊する電子美学の真髄
太陽讃歌/ハルモニア

●UXP-739-EB ¥2,300



ドイツ前期ロマン派の吟遊詩人“ノヴァ
リス”をその名の由来とするスペース・サ
ウンド・クリエイター

銀河飛行/ノヴァリス

●UXP-730-EB ¥2,300



力集
総特

第3種接近遭遇——宇宙人との出会いはすでに始まっている。本特集は、UFO事件史上特筆すべき「未知との遭遇」の諸相をあなたにお伝える。まさしくここに、謎に満ちたUFO事件の核心がある。信じる、信じないは、やがて時が決定を下すだろう。なにしろ事件は今も世界中で絶え間なく起きており、次はあなたかも……。

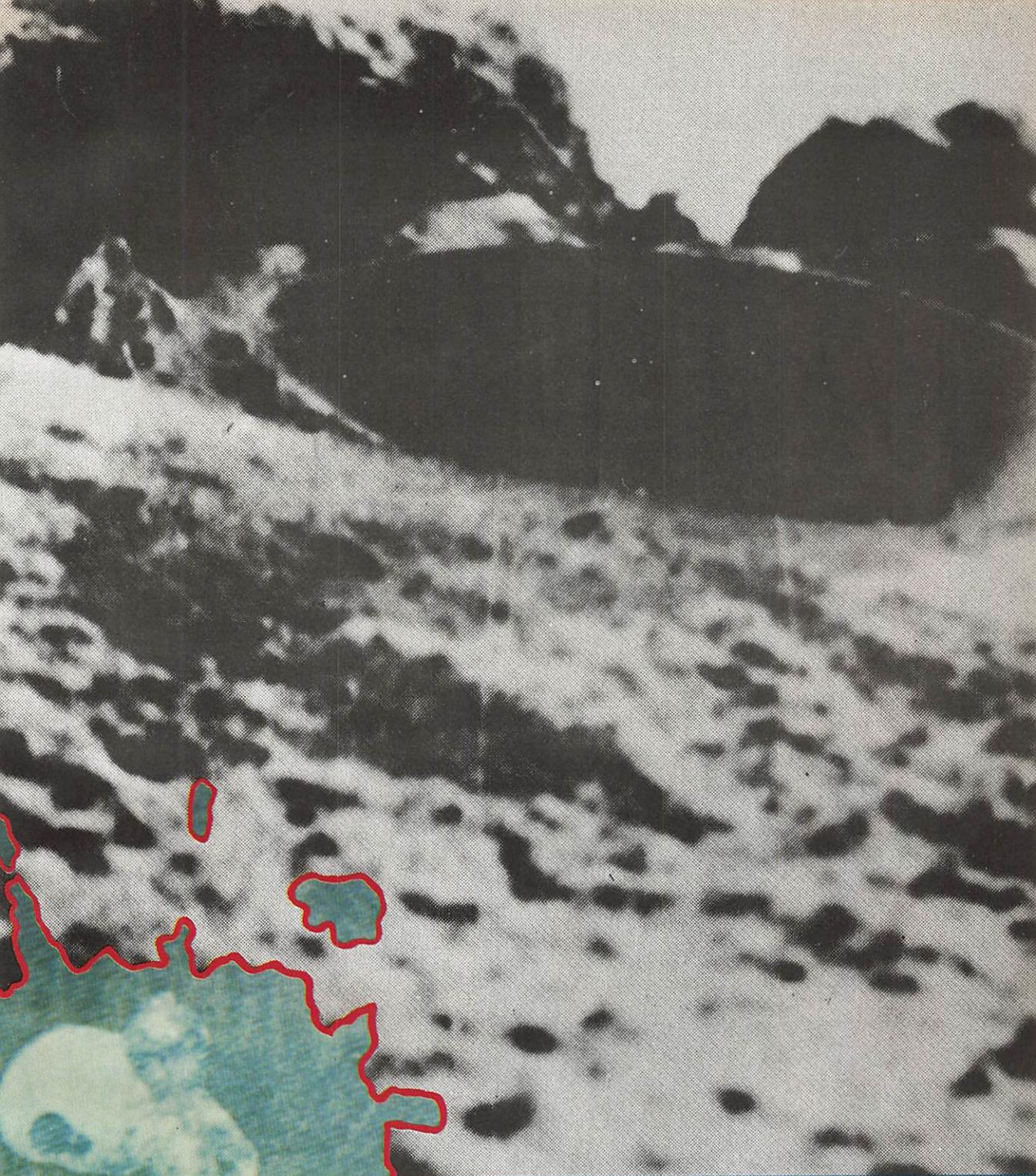
新情報
満載！

●世界各地の第3種接近遭遇を徹底追求！
私は宇宙人を見た！

1949年、西ドイツに墜落3つの円盤が墜落し、乗員3名のうち2名が即死。生き残った身長約1.5mの銀色の宇宙人をおある新聞記者が撮影したというもの。この宇宙人もその後すぐに死亡したが、アメリカのUFO研究家レイ・スタンプオードによると、彼の友人の米空軍大佐がオハイオ州デイトンの空軍技術情報センターの一室で複製カプセルに入ったこれら3人の宇宙人の遺体を目撃したという。



〈協力〉日本宇宙現象研究会（並木伸一郎、志水一夫）矢追純一
〈イラスト〉もとのりゆき、ながしまけい

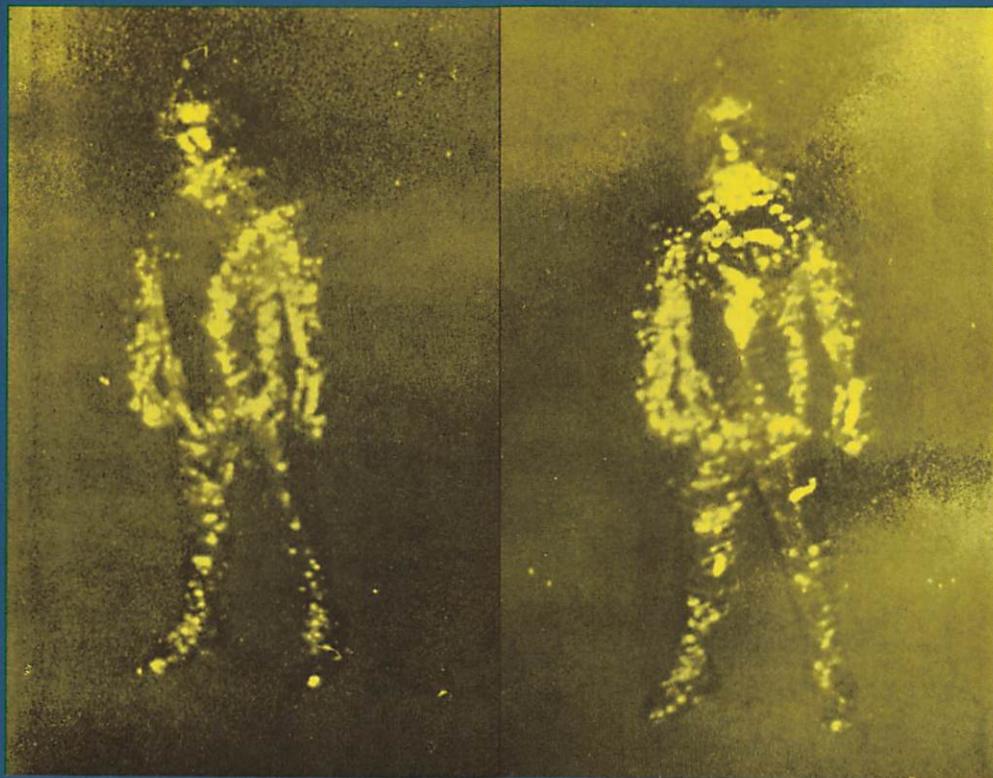


◀1967年7月21日の午後、アメリカ・ノースキャロライナ州の村のロニー・ヒルが、着陸した円盤から出現した小人宇宙人を撮影したというもの。

宇宙人の背後に見える卵型の白い物体が円盤だといわれている。

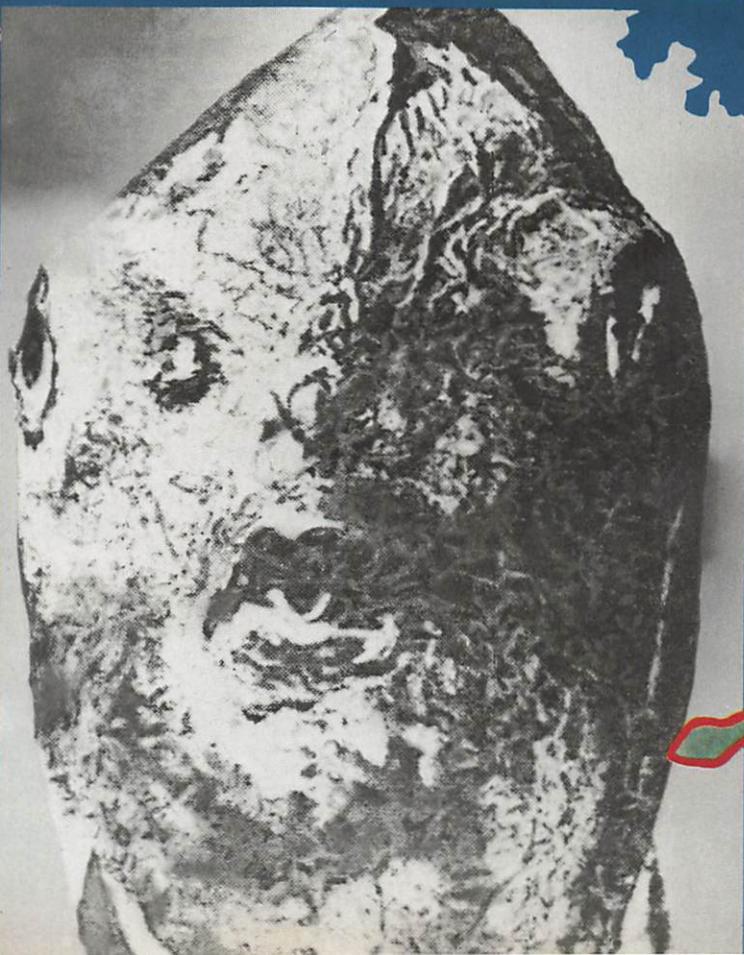
▲1952年7月31日、イタリアのベルニナ山中に円盤が着陸し、中から1人の宇宙人が出現。目撃者のジャンピエトロ・モングッチはこの様子を連続写真に撮ることに成功した。円盤の左側に宇宙服をつけた人間々の姿がはっきり写っている。

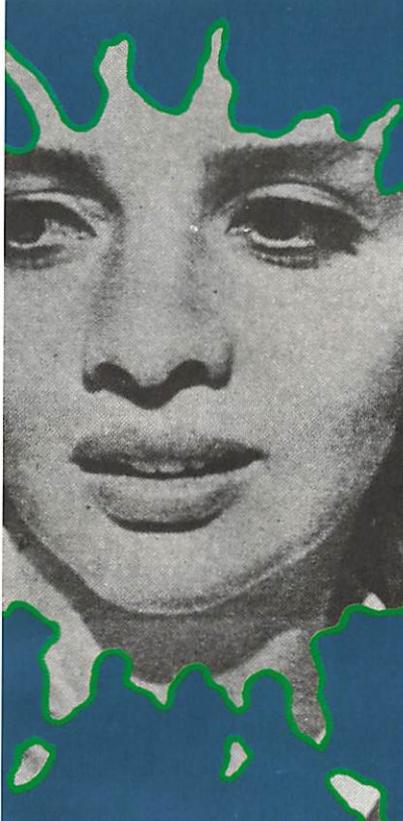
私は宇宙人を見た！



▲1974年9月17日夜、米アラバマ州フォークビルの警察署長グリーンハウが“UFO着陸”の知らせを聞いて現場に向かう途中で出会い、ポラロイドカメラで撮影した宇宙人？ 宇宙人は身長180 cmで銀色の服を着ており、グリーンハウが車で追いかけると猛スピードで走り去ったという。

▶1968年2月26日付の米国ナショナル・エグザミナー紙によると、これはソ連の農夫・ワシリイ・テュビチエフが、円盤墜落現場で発見した円盤搭乗員の焼死体の頭部。かなりグロテスクだが、頭部以外は普通の人間とほとんど同じであったという。





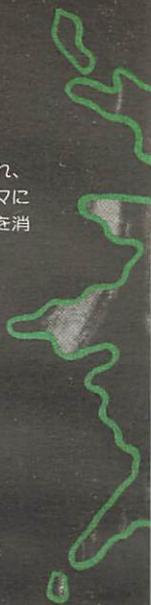
◀1954年2月18日午後4時20分、イギリスの実業家セドリック・アリンガムが、彼との会談を終えて円盤にもどる火星人の姿を背後から撮影した。アリンガムによると火星人の身長は180cmで頭髪は褐色で短かく、皮膚は濃いタンニン色。もしも地球人の服装をすれば地球人と見分けがつかないという。

▲1952年11月20日、ジョージ・アダムスキーがカリフォルニア州デザートセンター付近の砂漠でコンタクトした金星人“オーソン”を、アダムスキーや目撃者のアリス・ウェルズらの証言をもとに女流画家ゲイ・ベッツが描いた等身大の油絵。アダムスキーによれば、この絵は85%正確だという。

私は宇宙人を見た!

▼1956年4月、ニュージャージー州を歩いていたハワード・メンジールが、目の前に着陸した円盤から出現した男女の金星人に撮影許可をもらって撮影したという連続写真。上が男性、下が女性。

▶これは、米カリフォルニアのアダムスキー講演会場に現れ、“宇宙人”だと噂された謎の美人。彼女は会場で大勢の人々に質問を浴びせられたが何一つ答えられず、いつの間にか姿を消したという。住所年齢国籍は現在も不明。



サンマルタン・ストーンの謎

空中を浮遊するように静かに近づいてきた宇宙人は、私に石を手渡した……



1954年、現在はブラジル在住のアルベルト・サンマルタンが、スペインのマドリッド郊外に住んでいた頃のことである。その日——11月17日の午前2時30分、もともと眠れない夜を過ごしていたサンマルタンは、ある神秘的な強烈な力が自分を引き寄せようとしているのを感じた。導かれるままに家を出て、ふらふらとマドリッド大学都市構内を歩いてラ・コルナ・ハイウエーの橋のたもとまでくると、そこで髪の毛の長い、身体にびったりしたウエットスーツのようなものを着けた男に出会った。

その男は地球語を話すことができないのか、サンマルタンに向かって親愛の情をあらわす態度で石をさしだし、受けとれという身ぶりを示した。サンマルタンが無意識のうちにその石を受けとると、彼は片手を上げて挨拶のような格好をし、背を見せてゆっくりと歩きたし、橋の付近で見えなくなった。

あつげにとられていたサンマルタンは、やがて橋の下方の空地からドーム型の円盤が夜目にもはっきりと光りながら飛び立って行くのを見た。翌朝その空地へ行ってみると、円盤が着陸していたと思われる場所に円形に焼け焦げた着陸痕がはっきりと認められた。

手渡された石は長さ12cm、幅4cm、厚さ2cmくらいで薄緑色をしており、表面に不思議な文字のようなものが彫られていた。サンマルタンは笑いに

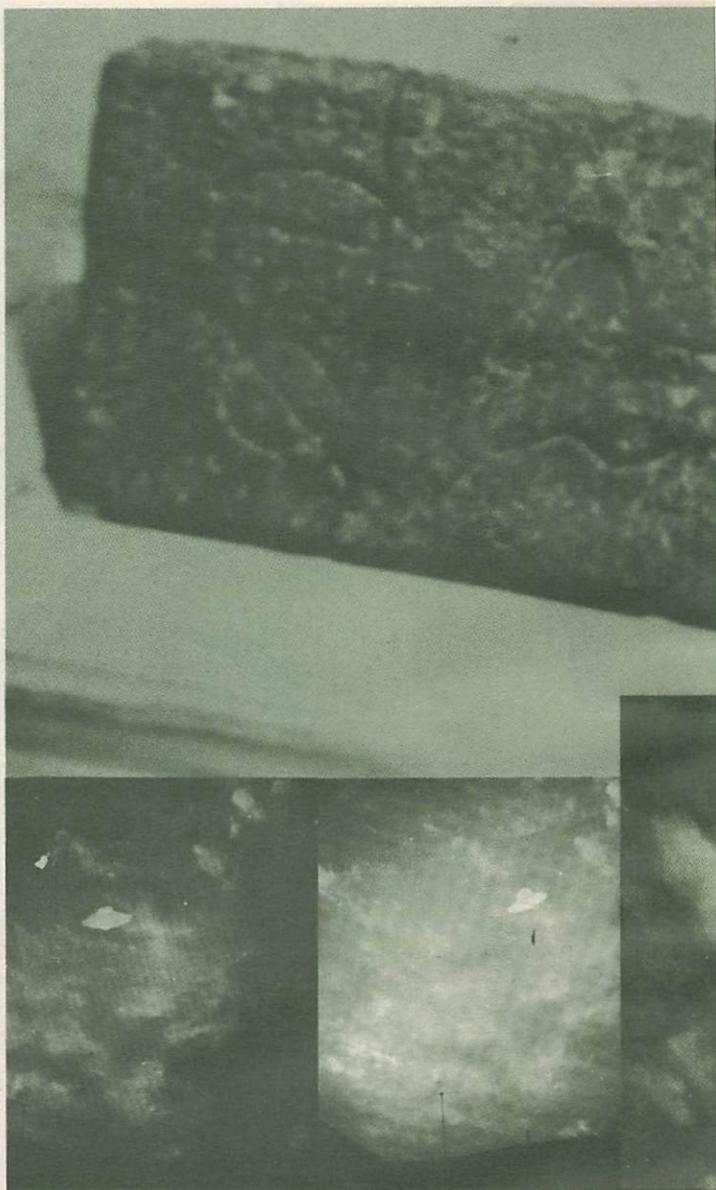
私は宇宙人を見た!

サンマルタンが撮影したUFOは奇妙な格好をしていた。

宇宙人に石をもらったアルベルト・サンマルタンは、石の研究を深めるためにスペインからブラジルへと移住した。そして1965年、サンパウロ郊外で奇妙な形のUFOを目撃し、8枚の連続写真におさめることに成功する。私は彼の説明を受けながらその写真を見せてもらったが、どう見ても帽子のような形のこのUFOはいったい何を意味しているのか? これが偽造写真ならば、こんなへんてこな形のものにする必要はないと思われる。しかも一枚ずつ形を変えている。もっと格好のよいやり方はいくらもあるはずであり、まして彼の持っているサンマルタン・ストーンはその信ぴょう性を認められつつあるのだから……。それにしてもこの連続写真に写っているUFOはじつに興味深い。形を刻々と変化させており、周囲の雲の状況や屋根などの位置関係から見て、UFOが短時間に移動しているのがはっきりわかる。

このUFO目撃の2年後、1967年にもサンマルタンはやはり同じようなUFOを連続写真に撮っている。これらはすべて未発表のものばかりであり、サンマルタンは特別に私に公開してくれたのである。彼といっしょに撮影現場へ実際に行ってこれらの写真と照合してみたが、確かにその場所から撮影したものであることがわかった。これらはじつに奇妙な形のUFOだが、いずれも肉眼では非常に見分けにくいほどぼんやりとしか見えなかったそうである。写真でも大変うすく見にくかったのを焼き付けの段階で暗めに焼いて、このような形であることがはっきりしたという。形を刻々と変化させているのは、円盤の推進原理と何らかの関係があるのだろうか? アルベルト・サンマルタン自身が、第3種接近遭遇者として宇宙人から手渡された石の謎とともに、この写真には大変興味深いものがある。

資料 矢追純一「写真で見る空飛ぶ円盤200集」1974.



なりたくなかったのでその夜の奇妙な宇宙人と石のことはだれにも口外しなかったが、あるときついに、大学かどこかの研究室で分析してもらおうと決心し、石を持ってあちこちの研究室をたずねた。が、だれもこの文字を解読することはできなかった。

石の分析結果の中で最も興味深いのは、ブラジルの鉱物分析研究所が出した次のような結論である。

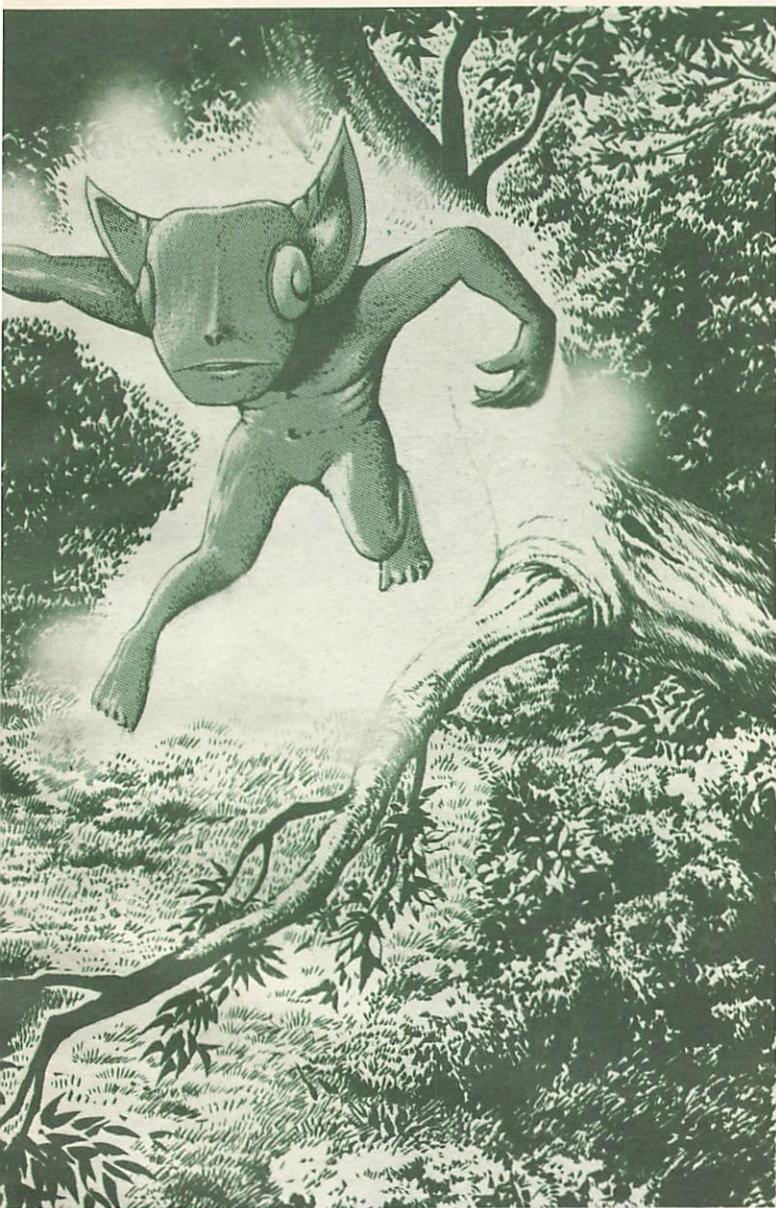
「この石は人工のものである。しかし地球上の科学では造ることができない」

さて、ブラジルに移り住んで石の研究を続けるアルベルト・サンマルタンと、ギレルミ教授は、宇宙人にももらったこの石を削り取って各国の研究所に送り、分析を依頼していた。そこでブラジル取材で2人に会った私も、もうこれ以上削っては石の原形がわからなくなるというのを強いてお願いして最後の一片を分けてもらい、調査のために日本へ持って帰った。そして早速、東海大学金属研究室に分析を依頼したところ、驚くべき事実が判明したのである。アポロ宇宙船が月から持ち帰った「月の石」の分析結果に、成分比が酷似しているというのだ。とするとやっぱり、サンマルタン・ストーンは宇宙人が月から持って来たものなのだろうか?

(矢追純一)

ホプキンスビルの不死身怪物

その日、ガイザー・マツギー農場にいた
11人全員は悪夢のような体験をした。



「宇宙人」との遭遇としては古典的なケースになったこのケリー・ホプキンスビル事件では、UFOはほんの端役にすぎず、主役はすくなくとも2匹以上目撃された不死身の怪物である。アメリカのケンタッキー州ホプキンスビルから10kmほど行くとケリーという小さな集落がある。そのガイザー・マツギー農場が事件の舞台となった。1955年8月21日には、8人の大人と3人の子供が現場に居合わせた。当時その農場を借りていたサットン家の人々である。夜の7時頃、庭の井戸で水を飲んでいたビリー・サットン少年は、銀白色に輝く物体がすぐ近くの溪谷へ降下していくのを目撃している。ビリー少年の話には、だれも本気でとりあおうとはしなかった。だが1時間もたないうちに、農場にいた11人全員が悪夢のような体験をすることになるのである。

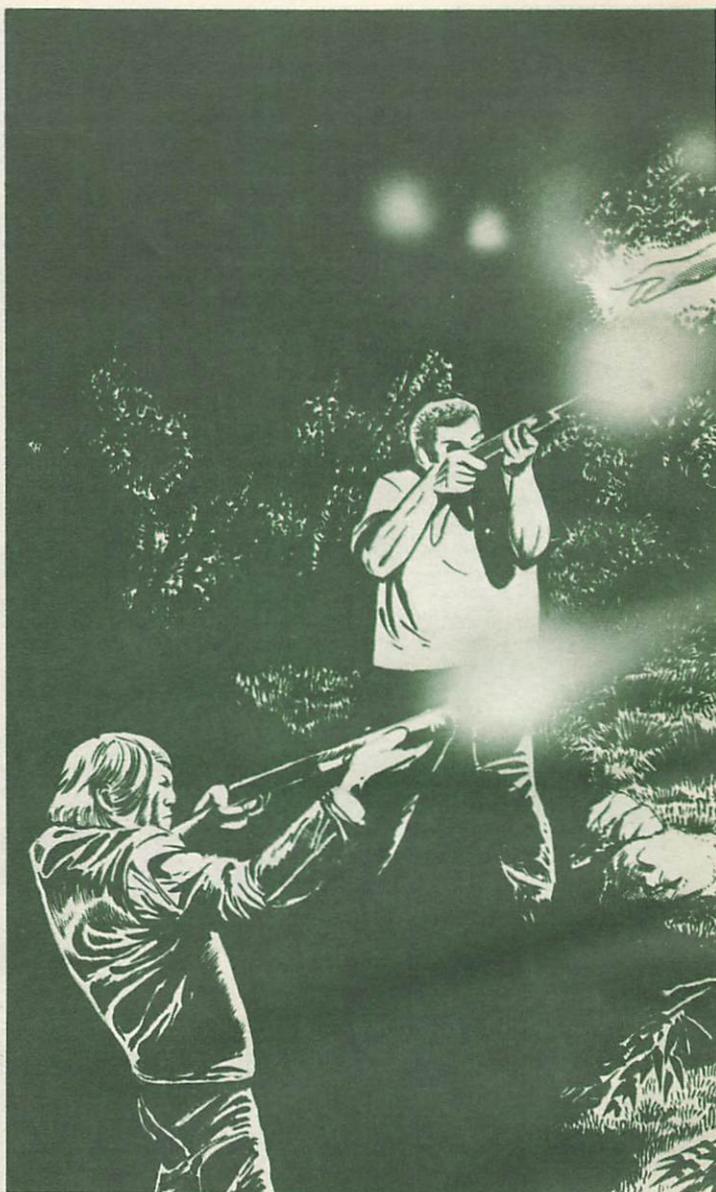
裏庭で犬が急にけたたましく吠えはじめた。サットン家の息子たち2人が銃を手に裏口へ行って様子をうかがうと、怪光を発する不気味な生物がやってくるのが見えた。身長は1mぐらいしかない。卵形をした異様に大きな頭をもち、これまた大きな目玉が黄色く光っていた。全身は柔らかな光をはなつ金属で覆われていた。かぎ爪のある長い両手を高く上げて、ゆっくりと家に向かって近づいてくる。家まであと6mになったとき、2人は怪物めがけ

私は宇宙人を見た!

ライフル弾が命中するとバケツに当たったような音がする。

ケリー・ホブキンスビル事件については警察と米空軍により広範な調査が行われ次の事実が判明している。まず目撃者たちはこんな奇想天外な話を作り出すほど想像力が豊かではないし、人目をひこうとウソをつくような性格でもない。彼らが銃弾を乱射したことは確かです。ドアや窓をはじめ戸外にも弾痕が残っていた。サットン家の人々から事情を聴取した警察は、彼らが心底おびえており、酒は一滴も飲んでいなかったと語っている。目撃者たちの証言は、事件が起きた時にいた場所ですら若干異なるが、ほとんど同じ内容だった。サットン家の人々は、警官たちが家の周囲をくまなく捜査しおわるまで家の中に入ろうとはしなかった。現場に向かっていた警官の1人は、南西の方から農場へと飛んでいく数個の奇妙な“隕石”を目撃している。捜査員達は家の周囲に奇妙な跡がいくつか残っているのを見つけたが、UFOが溪谷に着陸した証拠は見つけられなかった。しかし、農場の近くで軍事兵器の秘密テストを行っていた事実はない。また怪物が猿ではないかという疑問も、当時その近くで巡回サーカスやショーは開かれていなかったということで否定された。この事件に登場した不死身の怪物に似た例としては、ハイネック博士がJ・パレーとの共著で触れているH氏の例がある。彼は、航空機らしいものが落下して地面に激突するのを、3人のハンターと一緒に目撃した。近づくと、機体のそばには4人の乗員が立っていた。H氏はその1人がかけて発砲し、右肩に命中させた。弾が当たると、その人影は1回転して両ひざを地面につけたが、他の乗員達の助けを借りて起き上がると「おい、いったいどういふつもりだ」と叫んだという。

資料 C. Bowen, ed.: *The Humanoids*, 1969.
J. Vallee: *Anatomy of a Phenomenon*, 1965. J. A. Hynek: *The UFO Experience*, 1972.



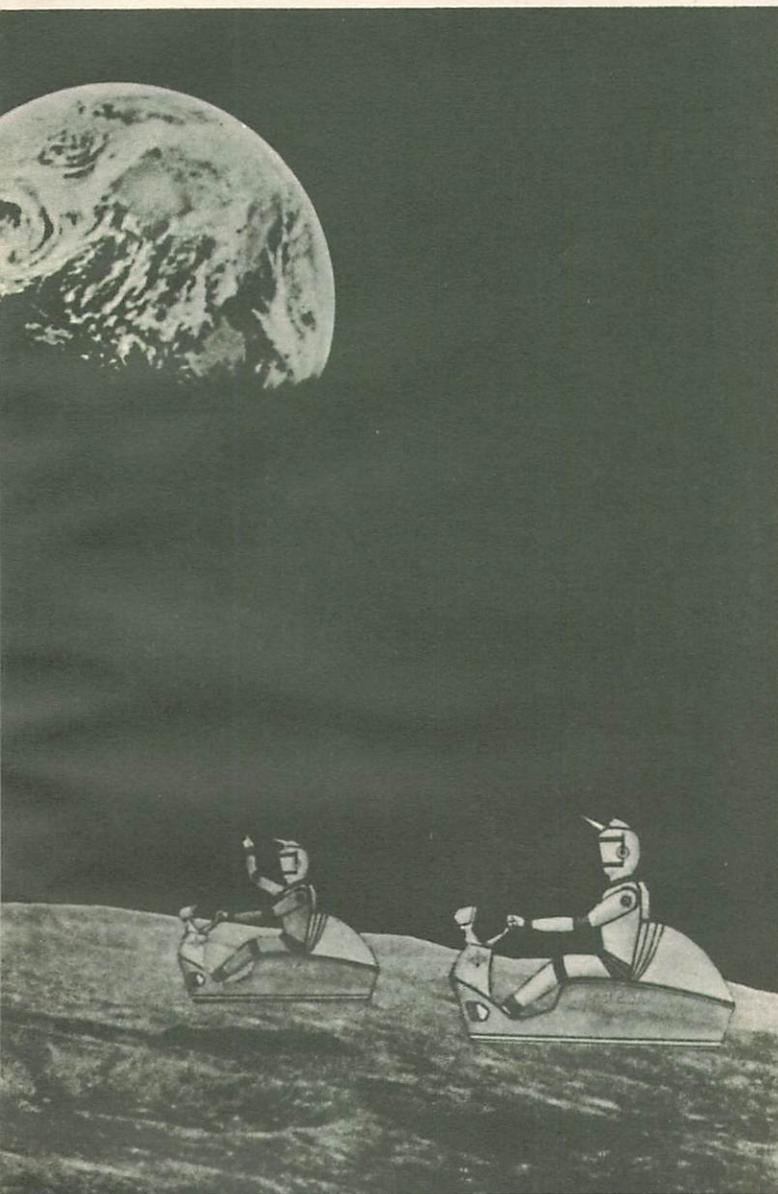
て発砲した。すると、怪物はトンボ返りをして、ちょこちょこ逃げた。と思う間もなく、別の怪物が窓の外に出現したので、すぐさま窓ごしに銃弾を浴びせた。見事しとめたかどうかに見ようとしたとたん、今度は屋根からかぎ爪のある手が伸びてきた。あわてて屋根根に向かって乱射していると、近くの樹上にまたもや一匹の怪物が姿を現した。こちらの怪物にも弾を浴びせると確かに命中したのに、怪物は樹上からふわりと地面に降り立ち、闇の中に消えてしまった。

怪物たちは全く音をたてず、すべりように移動する。樹上から落ちた時も音はしなかった。家に近づく時は必ず両手を高く上げ、両足で立ってゆっくりと進んでくる。そして弾に当たったり光を浴びたりすると、両手を下ろし飛び跳ねて逃げていくのである。弾が命中するとバケツに当たったような音がした。怪物たちが家の中に侵入しなくなったのは、銃で撃たれたためというより、照明のせいと思われた。

サットン家の人々は家に逃げ帰って閉じこもった。その後も怪物たちは窓の外にときどき姿を現す。家を包囲されっぱなしの状態に耐えかねた彼らが2台の車に分乗し、ほうほうのていで脱出したときには1時になっていた。

コレンダー星人と会った男

自作の無線機を操作していたボブは女性宇宙人の美しい声をキヤツチした……



偶然のキツカケで宇宙人とコンタクトし、宇宙人のいろいろな基地を見学したと主張している人は少なくないが、アメリカの電気技師ボブ・レナードは宇宙人のガール・フレンドまでできたという。彼は1942年マサチューセッツ州ピッツフィールドで生まれ、高校を卒業後、同市のゼネラル・エレクトリック社に入社した。1961年7月のある晩、自作の無線機を操作していた彼は、コレンダー星から来たという女性宇宙人の美しい声をたまたまキヤツチした。そのときは彼女の一方的な話で終わったが、交信機の作り方を教わったので1週間後から前もって約束した日にコレンダー星人たちと会話を交わすようになった。コレンダー星は地球から41光年のかたにあり重力は地球の約2倍。地球を訪れたのは相互理解と友好、平和のためで、いまや銀河系にまで知られるようになった地球の悲惨な状況をなんとか救うのが目的だという。このために彼らは円盤で地球を調査し、地球での活動のため地下基地の建設を計画していた。

1963年12月28日、ボブは宇宙人と一緒にエアカーでマサチューセッツ州の山岳地帯にある海底基地を訪れた。コレンダー星人は地球人そっくりで、美男美女ばかり。ホーム惑星では1m弱の身長だが、地球上では人間と同じ大きさになれる。1週間後、ボブは海底基地の物質電送装置でカリフォルニ

私は宇宙人を見た!

宇宙征服をたくらむカルラン星人は月面基地を攻撃した。

1968年になって、ボブ・レナードとコレンダー星人達とのコンタクトは突然打ち切られてしまった。彼らは地球から引き上げる際、コレンダー星の宇宙指導者の次のようなメッセージを残している。

1945年以降、太陽系政府内には陰謀をたくらむエリート・グループが存在していたことが発覚した。コンタクティーに接触していたのは、訓練を積んだ彼らの粒よりのスパイ達だったのである。彼らは次のような活動をしていた。

1. スパイ達は催眠術や薬、さらには精神に印象を植えつける機械を用いて、全くのいつわりを真実であるかのようにコンタクティー達に信じ込ませていた。実際に円盤に乗ったコンタクティーは2人しかおらず、その彼らも大気圏外には出ていない。すべてのコンタクト・ストーリーは、こうした手段によって与えられたものである。

2. コンタクトでは、ほとんど常にいつわりか誤解をまねく情報を与えていた。スパイ達のねらいは、コンタクティーが体験を打ち明けた時に、他の人々がまことに奇妙で全く非合理的な話だと受け取るようにさせることだった。

3. 悪名高いブラックメンは、実はこの陰謀グループの活動だった。

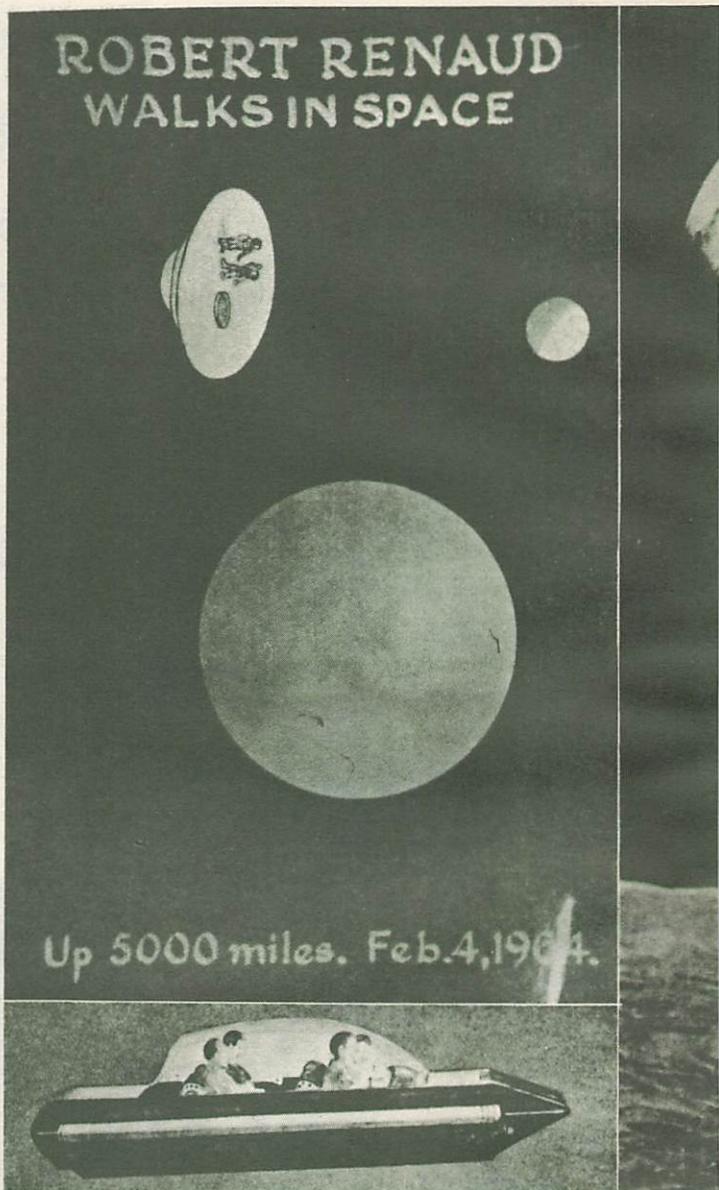
4. 彼らは何百という妨害行為、暗殺などに関係している。例えば黒人運動の指導者マルチン・ルーサー・キング牧師の暗殺も彼らの仕業だった。

このグループは悪い宇宙人のカルダン星人と共謀し、彼らから財政や人員の面で援助を受けていた。

コレンダー星人は、陰謀グループの離反者から知らせを受けるまで、この深刻な事態を全く気づかなかった。今や地球から撤退する必要がある。

それ以降、ボブ・レナードへの連絡はとだえてしまったという。

資料 J.W.Dean: Flying Saucers Close Up, 1970



ア沖の海底基地に送られている。そこは宇宙人の中央基地になっていた。1964年2月4日には、宇宙航行用の大型円盤に同乗し、8 kmの高空にまで行った。彼は宇宙服を着こみ、コレンダー星人と2人で円盤の外に出て、円盤の底部に立ってみた。そこから眺める地球や宇宙空間は彼に言いようのない感動を与えたという。

ボブはコレンダー星人の月面基地に2度招かれている。最初は1966年12月3日で、プラトリー・クレターターの地中にある基地を訪れた。太古の月には知的生命が存在していたが、核戦争で自滅してしまい現在のように荒廃した有様になったのだという。ボブが基地を訪れていた時、宇宙征服をたくらむカルラン星人が襲撃してきたが、見事に撃退している。彼が2度目に月基地に行ったのは1967年7月28日である。この時は小型円盤を自分で操縦して45分で月に着いた。月には17時間滞在し、宇宙服を着て基地の外に出て車輪のないスクーターのような乗物で走り回った。月にはコレンダー星人の基地が数多く存在していた。帰りは宇宙船に乗らず、自宅までわずか3秒間でレポートした。ボブが月へ行っている間は、彼にそっくりの宇宙人が身がわりをつとめていたそうである。

警官が目撃したソコロ口事件

宇宙人目撃に批判的なUFO研究者達もこの事件にはとまどいを隠せなかった。



1964年4月24日午後5時45分、ニューメキシコ州ソコロ口の警察官ロニー・ザモラは、同市郊外のハイウェイで、スピード違反の車を追跡中、突然、南西方向に青味がかった炎が上がのを見た。同時に唸るような音も聞こえてきた。付近一帯は、ヤマヨモギだけが茂る無人の不毛地帯であるが、ちょうど炎の見た方向には、ダイナマイトの貯蔵庫があったので、それが爆発でもしたのかと思ったザモラは、違反車の追跡を打ち切り、現場と思われる方へ急行することにした。

めったに車の通らない、荒野の中のがたがた道へバトカーを乗り入れ、何度かスリップしながら坂道を登り切ると、約240m向こうの、水の枯れた谷底に、白い楕円形の物体が見えた。ザモラは、車が道から転落して、上下さかさまになって立っているのだと思い、救出に向かう旨を署に無線連絡した。物体の下に2本の脚のようなものが見えたが、ラジエターだと思ったようだ。またこのとき、ザモラは物体のすぐそばに、白いオーバーオールを着た2人の白い人影を認めている。しかし、車をすぐスタートさせたので、この第1回の目撃はほんの2秒くらいで、詳しくは観察できなかった。ただ、「小さな大人が、大きな子供くらいの背丈だった」という。

ザモラは、物体のある谷から約50mのところまで車を走らせた。そこで車

私は宇宙人を見た!

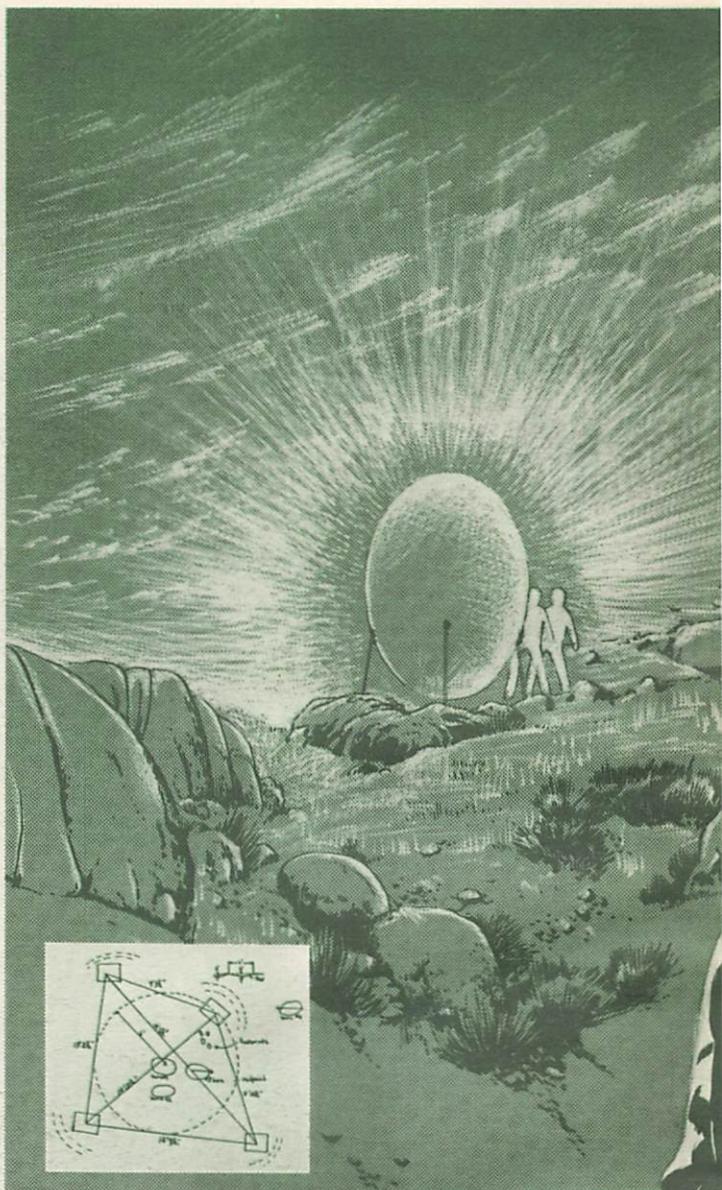
ブルーブックの依頼でハイネック博士も現地へ向かった。

ブルーブックの要請で、事件発生の4日後、私はソコロへ派遣された。当時の私はまだC E-IIIの現実的な可能性については深い疑問を抱いていたので、なんとかして、この事件を常識的に説明したいと思ったが、結局、あたりさわりのない説明を可能にする証拠は何も発見できなかった。それ故、ブルーブックは、この事件を“Unidentified”としてファイルしたのだ。1964年4月24日の午後、ソコロ郊外で、実体をもった事件が現実起こったというのが、私の意見だ。C E-IIIのケースは非常に奇妙な印象を与えるので、これまで報告されている何百という事例を捏造や幻覚として片付けてしまうという傾向がある。しかし、そのような解決の仕方を支持する証拠がほとんどないのに反して、私たちが未確定の原因によるきわめて現実的な現象を扱っているということを示唆する証拠は、はるかに多いのである。(アレン・ハイネック) この事件は、その直後からF B-Iやブルーブックによって詳しい調査が行われ、着陸痕の存在や目撃者が信頼のおける警察官であることなどから、少なくともザモラの捏造という可能性だけは排除される。さらに後日、近くのG Sに立寄った客によって飛行中の同物体とおぼしきものが目撃されていたことが確認され、一見不規則な着陸痕も、いかなる斜面でも4つの脚に均等に重量がかかるように設計された場合の配置になっていることが判明し、事件の評価はより高まった。そして、この事件は、1965年頃からの第2期U F Oブームのきっかけとなり、まだC E-IIIに対する偏見を持っていた多くのU F O研究者に反省をうながした。但し、否定論者のフィリップ・クラスは、2回にわたる目撃で、物体の形態が縦長から横長に変化していることなどから、球電現象説を唱え、人影は幻覚だという。

資料 J.A.Hynek: The Hynek UFO Report, 1977. B.Steiger, ed: Project Blue Book, 1976.

を降りて、物体の方へと少し歩き始めたとき、突然、ウォーツと唸るような音がしたかと思うと、物体の底部から、下の方がオレンジ色で全体は青白い炎が噴射され、静かに上昇し始めた。驚いたザモラは、踵を返し——それでも時々、後ろの方をふりかえりながら——北の方へ走って逃げ、反対側の丘の麓に倒れこむようにして身を伏せた。物体は楕円形で、底部に4本の脚と、側面に三日月と垂直な矢と水平線のようなものから構成された赤いマークがあったが、窓やドアのようなものは見当らなかった。

唸るような音が鳴り止んだので、ザモラが顔をあげると、物体は地上5mくらいのところまで上昇していた。それはやがてもの凄いスピードで南の方へと去って行った。ザモラは、パトカーへ戻ってラジオ局のネブ・ロベスに連絡し、物体が見えるかどうか尋ねたが、ロベスはザモラが何を言っているのかよくわからなかったようだ。そのうちに署のチエイヴズ警部から現在地を告げるようにとの無線連絡が入った。まもなくチエイヴズ警部は現場に到着、物体を見たザモラが主張するあたりの地面に、何か所か窪んだところがあること、また明らかに草が焦げたと思われる跡を発見したのであった。



閃光を放った宇宙ロボット

四角い顔にオレンジ色の目をしたロボットが宙に浮きながら近づいてきた。



本件の概要はAPROの機関誌などに記されているが、カリフォルニア州サクラメント出身の目撃者の本名は、希望により伏せられている。仮にA氏とでもしておこう。1964年9月4日の夕刻、同州シスコグロープの山中で弓矢による狩猟を楽しんでいたA氏と2人の友人は、一幕の狩りが終わった後、付近の探査を兼ねてそれぞれ別の道を通ってキャンプにもどることになった。ところが、日もとつぷりと暮れたころ、A氏は道に迷ってしまい、助けを求める火をたいてみると、空に明るく輝く1つの光体があらわれ、それがすべるように降下し、近くの峰の向こう側に着陸するのを目撃した。やがて、その方から何かが近づいて来るような物音を耳にしたA氏は、近くの木によじ登り、様子を窺った。満月の明りにぼんやりと照らし出されたのは、淡い色の潜水服のようなものを着て、透明なヘルメットを被っている2人の人間と、四角い顔にオレンジ色の目が輝き、歩くというよりフワフワと宙に浮きながら近づいて来る一体の黒いロボットであった。

彼らは、A氏がよじ登っている木のところまでやって来た。それから、A氏の数時間に及ぶ恐怖の体験が始まったのである。宇宙人とおぼしき2人は、A氏を振り落とそうと思ったのか盛んに木を揺すった。しかし奇妙にも幸いなことに、彼らは互いに相手を木の上

私は宇宙人を見た!

青味がかかった火花が飛び、ロボットは後向きに転倒した。

A氏がその後、もう一度現場にもどると、ロボットに射かけた3本の矢のうち2本を発見できたが、それらにはいずれも奇妙な筋がつき、1本には正体不明の金属性の塊がこびりついていた。この1本は、後に米空軍の調査官が来て持ち去り、その後返却されなかったという。また、その調査官は、事件は10代の若者の仕組んだいたずらにちがいないと告げたという。この事件はAPROのロレンゼン夫妻の耳に達するところとなり、顧問のカリフォルニア大学のジェームス・ハーダー博士に調査を依頼した。同博士はA氏に会見し、彼が事件を捏造するような人間ではないという心証を得た。また、A氏の友人2名も、事件の夜、空から光体が降下するのを目撃している。ただし彼らは非常に明るい隕石だと思っただけで、それがA氏の遭難と関係があるとは考えなかったという。

ロボット型のUFO搭乗者を目撃した例としては、1962年10月18日、アルゼンチンのコルドバ州で起こった事件が有名である。その夜タンクローリーの運転手ユーヘニオ・ダグラスは、モンテマイオスとイラヴェルテ間的高速道路を走行中、突然まばゆい光を浴び、顔に焼けるような痛みを感じ、車は溝に突っ込んでしまった。降りてみると、直径10mほどの楕円形の物体が道路に着陸しており、3個のロボットのようなものが、こちらの方へ向かって来た。驚いたダグラスが発砲すると、ロボットはくると向きをかえ、UFOに乗り込んだ。また1957年12月16日コネチカット州のオールドセイブルックでスター夫妻の目撃したUFO搭乗者も四角い顔で、頭の真ん中に青い球がついていたというからロボットだったのかもしれない。ただし、宇宙人とロボットが連れ立って現われたケースは本件だけだろう。

資料 C., Bowen, ed.: *The Humanoids*, 1969
MFSA「空飛ぶ円盤特別情報」No.4



このようにA氏は必死に防戦を続けたが、やがてもう1つ別のロボットが出現し、最初からいたロボットと向かい合ったかと思うと、両者の間にまばゆい閃光が飛び、ちょうどその中間あたりから、蒸気のようなものもくもくと吹き上がり、それを吸い込んだA氏は意識を失った。気がつく、すでに太陽は空に昇りかけ、謎の飛行物体も、宇宙人も、ロボットも消え失せていた。A氏は木を降りて歩こうとしたが、途中で力つきて倒れたところを、捜索に来た友人たちに助けられた。

に押し上げようとはしたが、まるで木登りということを知らないようだった。また、ロボットはフワリフワリと浮き上がったは来たが、木の枝が邪魔になってA氏のそばに近づくことすらできなかった。A氏は木のてっぺんの方まで登りつめ、ベルトで体を固定して防衛体制を整え、身につけているものを次に引き裂いては火をつけ投下すると宇宙人の方は木から遠去かったが、ロボットは全く動じなかった。A氏が残っていた3本の狩猟用の矢をロボットに射かけると、そのうちの2本は命中し、当たった箇所から青味がかかった火花が飛び、ロボットは後向きに転倒したが、すぐにおきあがっては、木のそばへやって来た。

バージニアの空飛ぶ蛾人間

灰色の翼を広げたモスマンは、その燃えるような赤い眼で彼女を見すえると……



1966年11月、空を飛ぶ奇妙な怪物が、ウエスト・バージニア州の西端、ポイント・プレザントを中心とするオハイオ・ヴァレーー帯を我が物顔に跋扈した。新聞記者たちは、この怪物どもに「モスマン」つまり「蛾人間」という呼び名を奉った。

ジョン・キールが、100名以上に及ぶ目撃者の証言から分析した蛾人間の特徴は次のようなものである。背丈は150〜210cm、肩幅は普通の人間よりはるかに広いが、下方にゆくに つれて多少せばまる。頭というものがなく、それ自体が赤色に発光する直径5〜7cmの眼球は肩の上近くに位置している。翼を広げたときの長さは約3m、使わない時は背中折りたたんでいる。飛行時の特徴は、翼をはばたかせないことで、しかも時速150kmで疾走する車を執拗に追跡したというから驚異的である。声はネズミのようにかん高いキイキイ声であるが、中には飛行中に機械的なブーンという音を聞いたという者もいる。

ここで典型的な目撃例の1つを紹介しておこう。11月27日の日曜日、ニューヘブンに住むコニー・カーペンター(18歳)は教会の帰途、国道62号線沿いのメースン郡ゴルフ場の人気のない芝生に一個の人影を認めた。最初は灰色の服を着た男が立っているのかと思っただけ、次の瞬間、それは3mもあろうかと思う翼を広げると垂直に上昇し、

私は宇宙人を見た!

それは赤い光球に向かって上昇し溶け込むように消えた。

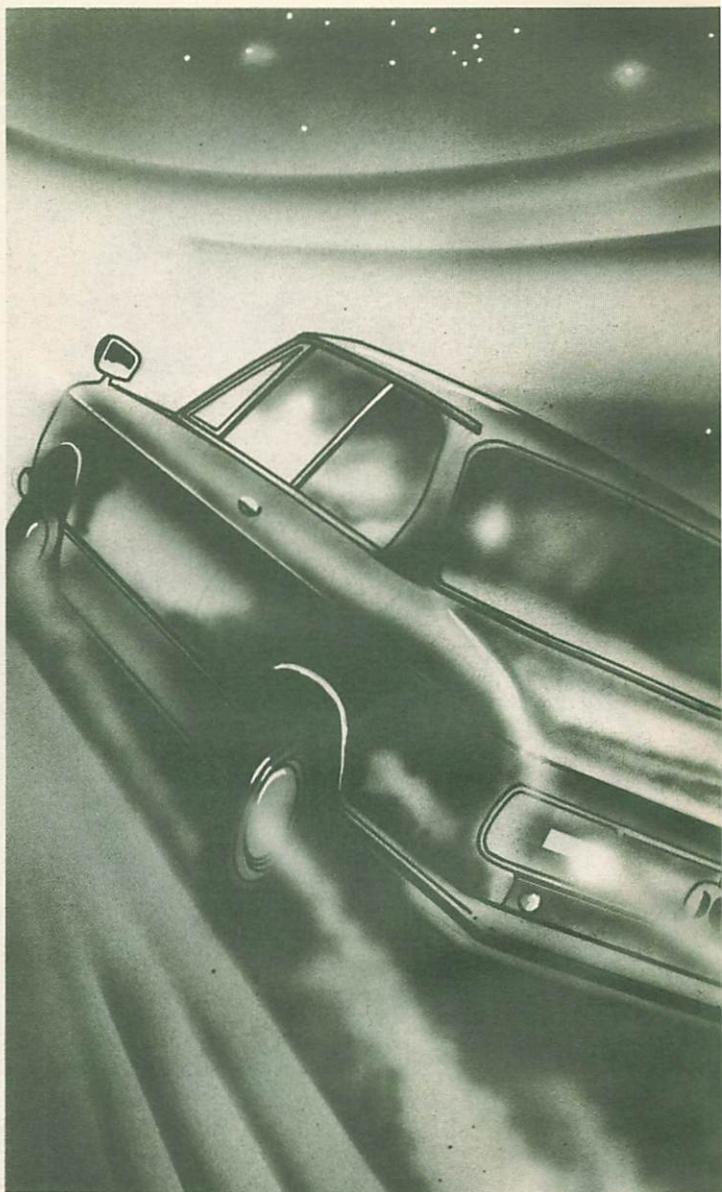
ウエスト・バージニアといえば、私たちは、1952年のフラットウッズを思い出す。9月12日の夕刻、エドワード・メイほか5人の少年と2人の大人が、丘の上で、脈うつような赤い光を放つ球形の物体と赤い顔にオレンジ色の輝く眼をもった背丈3mの怪物を目撃した。怪物は吐き気を催すような悪臭を発生しながら、宙に浮くようにして移動した。

ポイント・プレゼントは、このフラットウッズの西方約300kmのところにある。あるいは、ウエスト・バージニアは、ジョン・キールのいうように“窓”地域なのだろうか? これらの余りにも気味の悪い怪物とUFOは、宇宙から来たものではなく、超次元的世界から、ある種の“窓”を通して侵入して来た超自然的存在だというキール説は、それなりに魅力的である。ことに、蛾人間、UFOのみならずMIB(黒衣の男たち)までもが跳梁し、目撃者にボルターガイスト現象が付随して起こったことは注目に値する。コニー・カーペンターは、目撃の2ヵ月後、登校の途中、アクセントのない奇妙な喋り方をする男に、1949年型のビュイックに連れ込まれそうになった。蛾人間の最も初期の目撃者であるメアリー・マレットとリンダ・スカベリーも顔つきの異様な男女の訪問を受け、異常に長い指をした、頬骨が高く眼の細い東洋人風の男が、UFOフラップと蛾人間騒動について報道したメッセンジャー紙のハイヤ夫人を訪れた。また、コニーとリンダ・スカベリーの家では、その後、ボルターガイスト現象が起こっている。

空飛ぶ人間の例——1948年4月9日、ワシントン州ロングビュー上空にバック・ロジャース風の“鳥人”3人があらわれる。1963年11月16日、イギリスのケント州ハイスで、4人の青年が、UFOと頭がなくて幅の広い翼をもった生物を目撃。

資料 Flying Saucer Review Vol.14, No.4
J.Keel: Strange Creatures from Time and Space, 1970.

蛾人間はUFO搭乗者だったのだろうか? 67年5月19日午前10時30分、2人の婦人が、ポイント・プレゼントのC・C・ルイス農場の近くで、興味あるシーンを目撃した。最初、彼女らは輝くような赤い目をした一匹の蛾人間が、道路脇の木の上を旋回しているのに気がついた。と、もっと大きな赤い光の球が出現し、その木に近づくと、蛾人間はそれに向かって上昇し、溶け込むように消えた。そして、その大きな光体は北方へ飛んでいったという。

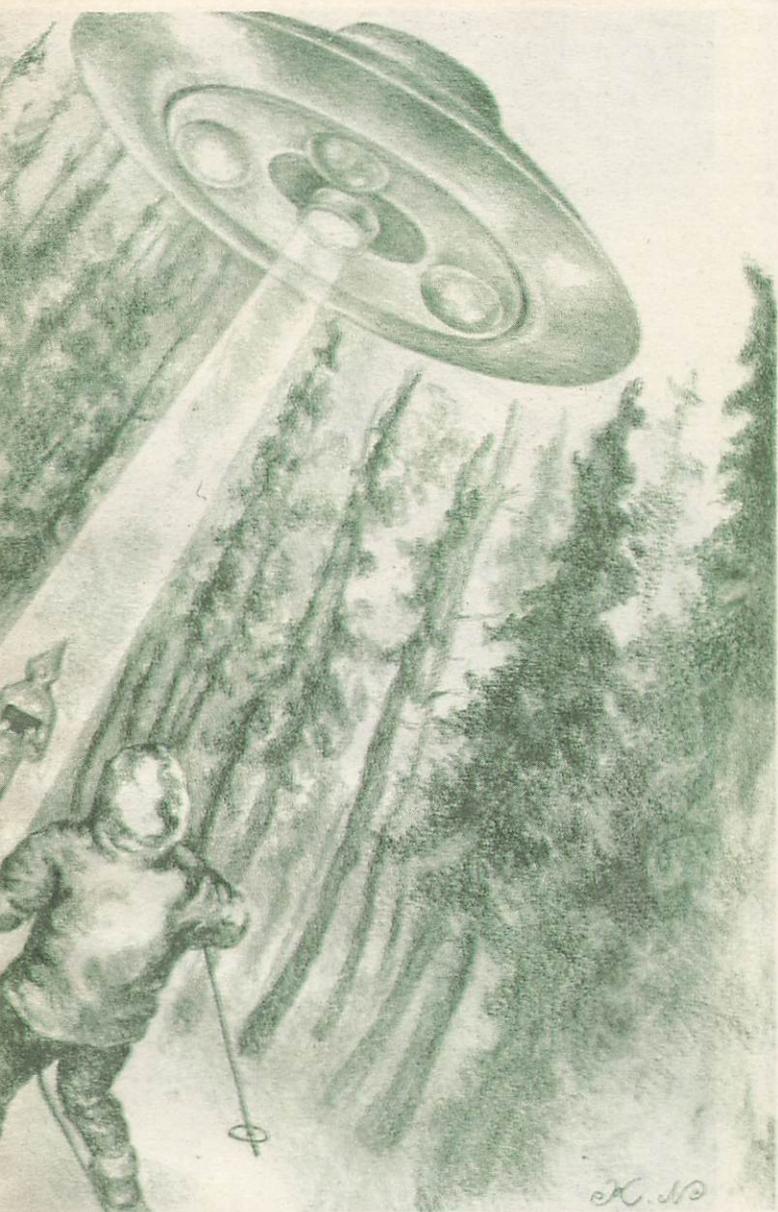


真赤に燃える眼で彼女を見すえながらまっすぐに彼女の車のフロントガラスめがけて突っこんできた。危ない!と思った瞬間、怪物は向きを変えて飛び去って行った。コニーは必死にアクセルを踏み、半狂乱のようになって家に飛び込んだ。彼女の眼は赤く腫れあがって、2週間後にジョン・キールが調査に訪れたときも、まだ赤く充血したままだった。

蛾人間の出没とほぼ併行して、この地域ではUFOが頻繁に、それもかなりの至近距離で目撃され、あるいは撮影されさえした。UFOフラップは66年の夏から始まり、67年の2月にピークを迎えた。蛾人間の方はその目撃例の大半が66年11月に集中したが、ともに67年の末まで当地方をにぎわした。

フィンランドの小人宇宙人

円盤から地上に伸びた光の中に小箱を抱えた小さな宇宙人が立っていた……



1970年1月7日、フィンランド南部ヘイノラ市の北々東16kmにあるイムイエルヴィの森で起こったこの遭遇はきわめて信憑性の高いケースとして評価されている。目撃者は、森林管理人のアールノ・ヘイノーネン（36歳）と農夫のエスコ・ヴェーリヤ（38歳）の2人。午後3時45分、2人がスキー訓練の途中、いつも休憩をとる森林中の空地へ着いてひと息入れていると、突然ブーンという音と共に、北の空から強烈な光を放つ雲が近づいてきたかと思うと、大きく回りこむようにしながら、2人のいる空地に向かって降下を始めた。雲は脈動しながら赤灰色に輝き、曳煙が上部から立ち昇っていた。地上から15mくらいの所まで降下してきたとき、円形の金属物体が見え始めた。直径約3m、底部の周囲には3つの半球が、中央には下に向かって20cmほど伸びた直径25cmほどの円筒があった。円盤はさらに降下し、地上3〜4mの高度で停止した。物体をつつんでいる赤灰色の雲は薄く明るくなった。ヘイノーネンの感じでは、雲は非常に近く、スキーストックで触られるほどだと思った。突然、中央の円筒からまばゆい光が発せられ、雪上に直径1mほどの明るい反射光を作り出した。驚いたことに、その光の柱の中には、黒い箱状のものをもった小人が立っていた。箱の丸い穴からは脈動する黄色の光が流れ出ていた。小人は身長約90cm、極

私は宇宙人を見た!

彼らの症状は、放射線照射を受けた人のものに似ていた。

〈ヘイノーネンの血圧を測ってみて、私は考えこんだ。血圧が非常に下がっており、それは彼が強いショックを受けたことを示していた〉〈ヘイノーネンの訴える症状は、放射線照射を受けた人のものに似ていた〉〈私は彼らがこのストーリーを捏造したのではないということを確認している。彼らが診察を受けに来たときにはショック状態にあったのだと考えざるをえない。何者かが彼らを驚愕させたに違いない〉(パウリ・カヤノーヤ博士の証言)

〈光の波が本当にヘイノーネンの着衣を通過したとすれば、それは、たとえばレントゲン光線のようなきわめて波長の短い光線であったに違いない。そうした光線を過度に浴びると、ヘイノーネンに見られるような症状が示される〉(ヘルシンキ大学電子物理学科のマッチ・トゥーリ教授による分析)

UFO ないしは UFO 搭乗者のもつ機械から発せられた光線による被害としては、以下のような症状がしばしば報告されている。皮膚の紅潮、火傷、発疹、目の腫れ、一時的視覚喪失、頭痛、植物系神経のコントロール減退、腕と手の部分的麻痺、反射と平衡感覚の障害、不快感、発熱などである。中には、白血病に罹り2ヵ月後に死亡したというケースもあり、放射能障害との類似性が注目されるが、怪光線の正体は不明である。

なお、事件当日のほぼ同時刻に、イムイエルヴィの森から15kmはなれたベイスティエルヴィ村と、10kmはなれたバアン村で怪光体を目撃したという報告がある。フィンランドにおけるCE-IIIのケースとしては、翌1971年2月5日、キヌラ地方の森林地帯で、2人の若い木樵が雪上に着陸中の直径5mの円盤型UFOと、ヘルメットと宇宙服のようなものを着た身長90cmの小人を見た事件などがある。

資料 Flying Saucer Review, Vol. 16, No.5
K.Gösta Rehn: Tefaten är här!, 1973.
(邦訳「UFOの謎」大陸書房)

この事件の後、ヘイノーネンは部分的な神経麻痺、手足の痛み、嘔吐感などに悩まされ、ヴィーリヤの顔は赤く脹れあがった。2人はパウリ・カヤノーヤ博士の病院に入院したが、約4ヵ月間はまともに働ける状態には戻らなかった。

小人は向きを変え、黄色の光が流れ出る小箱の口をヘイノーネンの方へ向けた。彼は目がくらんだ。次の瞬間、円盤から濃赤色の霧が吹き出し、大きな閃光が雪上を円型に照らし、そこから外に向かって、赤、緑、紫などの棒状の火花が弧を描きながら飛び出して来た。それは2人にも当たったが、何も感じなかったという。赤灰色の霧はみるみる濃さを増し小人の姿をつつみこみ、ついで光の柱も円筒部に吸いこまれた。あたりが再び澄明になったときには、円盤も小人も消えていた。

めて瘦身、なで肩で腕も脚も細く、顔は蠟のように蒼白、鼻は変わっていて鉤のようだった。着衣はビツタリ身体に合った明緑色のオーバール。膝まで届く暗緑色のブーツと、肘まで達する折り返しつきの手袋を着用していた。小箱を持った爪のような手は握り締めて光り、頭の上には金属的に光る尖った帽子があった。



ブラウンント島の怪物宇宙人

巨大な頭部、ガラス玉のように光る眼をした怪人が突然、白色の光線を発射した。



1972年1月下旬の金曜日の夜、ジャクソンビルのシーボード・コーストライン鉄道に勤めるベテラン電気技師ノーマン・チャステイン(当時60歳)は、愛用のキャビンボート・シーキャンパー号に乗って、セントジョン河の河口にあるブラウンント島まで夜釣りに出かけた。午前3時頃、オレンジ色や緑色に点滅する怪光体を目撃、それは島岸から15mほどのところに停泊中のシーキャンパー号の上空50mほどのところに停止した。それはドームをもった直径22mぐらいの円盤型の物体であった。チャステインが、けばけばしく飾りたてていたシーキャンパーのイルミネーションを消すと、円盤の光もパツと消えて、やがて黒い影だけがゆっくりと動き出し、向こう岸の断崖の方へ去って行った。ところが、UFOに気をとられている間に潮が変わり、ボートは岸辺に乗りあげてしまった。チャステインは、船を押し出すのにテコとして使えそうな木を探すため、強力な懐中電燈を片手に、暗い島へ降りた。幸い適当な木が見つかったが、それをかついでもどる途中、船まであと20mぐらいのところまで来たとき、懐中電燈の光の中に、これまで見たこともないような異様な生き物が船の近くの茂みの中で蠢いている姿が浮かびあがってきた。身長約150cm、不釣合いに大きな頭部、角ばったアゴ、先の尖った耳、オーバーサイズでガラス玉のよう

私は宇宙人を見た!

雨のしとしとと降る夜、裏庭に宇宙人の首が生えてきた。

下に紹介したのは、実はUFO事件史上最も奇怪な出来事のプロローグに過ぎない。チャスティンは、精神状態を疑われることを恐れ、島での遭遇については誰にも話さなかったが、3日後の雷雨の夜半、あのおぞましい臭いが、彼の寝室の窓から入ってきた。窓を嚴重に閉め、銃を片手に朝を迎えた彼は、夜が明けると、そっと裏口から外へ出てみた。その瞬間、彼は自分の眼を疑った。裏の草地には、あの怪物の頭とそっくりの、眼も口も耳もある肉色の塊が5つ生え、しかも例の耐えられない臭気を放っていたのだ。半狂乱になって引き抜くと、それには根まで付いていた。そのうちの4つを納屋に放り込み、1つを車に放り込んだチャスティンは、ジャクソンビル・ジャーナル紙の本社へと急いだ。その途上、余りにも臭いので、窓から顔を出して運転しているうちに、接触事故を起こしかけ、急ハンドルを切った途端、気味の悪いことに、肉塊はドアの内側にぶつくと血のようなもので流し始めた。ようやく新聞社にたどり着くと、疑いながらも、ともかく車のところまで来た数人の記者たちは、歯まで生えている頭状のものを見て、余りのおぞましさに声も出なかった。鉄道会社の同僚たちも、それを見たが、誰もただ啞然とするばかりだった。翌日になると、引っこ抜いた頭はみんなしぼんで、小さな桃色のスポンジ状の塊になってしまった。チャスティンは、それをもう1度、もとの場所に埋めなおしてみたが、何も生えてこなかった。いったい、この奇怪な生育物は何だったのだろうか?あるいは、胞種で繁殖する宇宙人だったのだろうか?

この事件は、1973年10月、原子物理学者でUFO研究者としても名高いスタントン・フリードマンの、ジャクソンビルのフロリダ短期大学講堂における講演を聞いたノーマン・チャスティンが、同氏に手紙で告白したものだという。

資料 Saga's UFO Report, Vol. 1, No. 6



に光る眼、口は半ば開いたような感じで、懐中電燈の光の中にはつきりと見えた。暗い灰色の服は体にびったりで、古風な男性の冬の下着のような感じだが、かすかに輝いていた。

異形の者とチャスティンは、ほんの数秒間、凍りついたように相手を凝視して立ちつくしていたが、突然、怪物は右手にもついていた直径7cmくらいの丸い器具を上にあげると、そこから白色の怪光線が発射され、チャスティンはほとんど目がくらんでしまった。同時に首のあたりから身体全体が痺れ始め、意識ははつきりしているのだが、ついに立って居られなくなり、付近の草むらに倒れこんだ。また、この怪光線に当たってから、何ともいえない、スカンクよりおぞましい匂いが髪の毛や衣服にこびりついてしまった。何とか回復してまともに歩けるようになったのは夜も明けて昼頃だった。潮が満ちて彼のボートは岸辺から15mくらいの所に浮かんでいた。チャスティンは力をふりしぼって泳いで渡り、水着に着換え、服を乾かした。そして消毒剤で髪の毛を洗って、いつまでも匂いの消えない服を捨てて、ようやくすっきりした気分になって家路についた。それでも怪光線の後遺症が、宙に浮くような奇妙な気分が残ったのであった。

毛むくぐじやらの怪物とUFO

直径30mのUFOと全身を長い毛でおおわれた2匹の怪物が3人の目の前に……



アメリカのペンシルバニア州グリーンズバークで、畑の上空に赤く輝く球体が浮かんでいるのが目撃された。スチーブン・ブラスキー(22歳)をはじめとして、近所の人々など15人以上がこの物体を見ている。1973年10月25日の午後9時頃の出来事であった。スチーブンは近所に住む少年2人を連れて現場に行ってみることにした。彼はライフルをかついでいった。UFOは畑へとゆっくり下降している。丘の上について3人は、ほとんど着陸しているように見える物体を認めた。それは直径が30mぐらいあり、ドーム型で大きな泡のようだった。UFOからは白く輝く光が出て、あたりを明るく照らし出している。そして、芝刈り機のような音をたてていた。

突然、一緒にいた少年の1人が叫び声をあげた。右手の柵のそばをのそのそと歩く2つの影を見つけたのである。スチーブンにはよく見えなかったが、彼は熊ではないかと考えた。たまたまライフルには曳光弾を1発こめていたので、彼は銃をかまえるや2つの影の頭上めがけて発射した。すると曳光弾の光の中に実に奇怪な生物が浮かび上がった。2匹とも黒っぽい灰色の長い毛で全身がおおわれている。目は黄緑色だった。両腕は地面につきそうになるほど前にだらんと垂らしている。怪物たちの身長は、そばにある1・8mの柵よりも高かった。1匹が2m、も

私は宇宙人を見た!

スチーブンは怪物の頭上に向けてライフルを発射した。

この事件でスチーブンが目撃した怪物はいわゆるビッグフットと断定してさしつかえないだろう。こうした怪物の目撃は昔から現在までずっと継続して起こっているが、UFOとの関係が指摘されるようになったのは最近のことである。

ビッグフットの目撃は北アメリカのほぼすべての州にわたっている。1960年にはウエストバージニア州で数多くの目撃が報告されているし、1966年7月31日にはペンシルバニア州エリーで有名な事件が起こっている。プレスキー島の砂浜で車の中にいた5人が着陸するUFOを目撃した。まもなく暗やみの中から背の高い類人猿のような怪物が車の方に歩み寄り目撃者たちをおびやかしたというものである。また1972年にはミズーリ州北東部に怪物〈モモ〉が出現した。この恐怖はルイジアナ州、アーカンソー州にまで広がっている。また最近では、1976年になってモンタナ州グレートフォールズで毛むくじらの怪物を目撃したという報告が続出している。

1970年代からUFO目撃に関連して急増しだしたこの怪物は次のような特徴を持っている。全身が毛むくじら、2mを越す巨大な猿のような姿をして、眼は黄緑色に光っている。赤ん坊のような泣き声を発する。そして、怪物の出現には異臭がつきまとっている。これらの特徴のうち、まず興味をひくのは緑がかかったぞっとするような眼である。おそらく夜行性動物と同じような網膜組織を持っているためであろう。また異臭についてエドガー・ハリスンは、人の注意をそらすために用いられる悪臭のガスであろうという説をたてている。

多くのUFO研究家は、ビッグフットが実際に人間を攻撃したという確かな報告を記録していない。ヘイデン・ヒューズやジョン・キールは、これらの怪物はUFO搭乗員が円盤から放した実験動物ではないかと推測している。

資料 Flying Saucer Review, Vol.20, No.1.



うー匹は2・5m近いだろう。小さいほうの怪物は、大きい怪物に遅れないよう大またで歩いているように見えた。2匹とも、まるで赤ん坊のような哀れっぽい声を出している。あたりにはゴムが焼けるのに似た異臭が漂った。

これまでに見たこともない毛むくじらの怪物たちは、3人のほうに向かってゆっくりと進んでくる。スチーブンは彼らの頭上に向けてもう一発ライフルを発射した。それから覚悟を決めると、大きいほうの怪物に狙いをさだめ、3発の銃弾をたて続けに打ち込んだ。その間、少年たちは彼のそばで震えていたが、一人はたまりかねてどうとう家に向かって逃げ出していった。銃弾を受けた怪物は哀れっぽい声を出すと右手を上げ、もう一匹に触れそうな動作をした。それから、怪物たちはゆっくりと向きを変え、森のほうへ歩み去っていった。気がつくのと、白い光を出して輝いていたUFOはいつの間にか消えてしまい、芝刈り機のような音もやんでいった。逃げ出さずに残っていたもう一人の少年とスチーブンはUFOの着陸していた場所が、地上30cmぐらいまで新聞が読める程度の明るさで光っていたと語っている。この事件の後、牛や馬はその場所に近づこうとしなくなった。

モレ夫妻の見た奇妙なUFO

黒い球形のUFOが2つに割れ、その中に人影が見えたという不思議な目撃談。



フランスの北部にあるフィニーという町ではその日がお祭りだった。老いも若きも町の広場に集まり、様々な催し物にうち興じていた。町はずれのモレ家でも娘がお祭り見物に出かけていた。1974年8月26日のことである。すでに夜の8時半を過ぎたのに娘はいっこうに戻らない。家にいた老夫婦はだんだん心配になってきた。9時5分前、たまりかねたモレ氏は外に出て道路を眺めやった。もはや宵闇がせまってあたりは暗く、星がいくつかまたたいている。5分ほど経った時、突然、空中に不思議な物体が浮かんでいるのに気づいた。それはじっと静止しているように見える。だが、そのあたりは高圧線が通っているのに、実際には物体がきわめてゆっくり下降していることがわかった。真ん丸な形で、まるで墨のように黒い。その黒い色と球の周囲を取り巻くかすかな白い光のため、薄暗い夜空を背景に物体はくっきりと浮き出ている。目撃者から南南西の方角にあり、200mほど距離が離れている。

モレ氏は家に駆け込むと夫人をひっぱってきて、彼女にもそのUFOを見せた。15分ほど見てみると、物体は地上20mの高さで完全に静止した。直径は8mぐらいある。この黒い球は徐々に縦に2つに割れていき、しだいに間隔が広がって2つの半月のようになった。2つに割れた際に生じた垂直部分

私は宇宙人を見た!

彼らはまるであやつり人形のような足どりで歩き回った。

この最初から最後まで奇妙づくめのUFO事件の目撃者となったモレ氏は当時63歳、妻は57歳。2人ともかくしゃくとして、どちらも視力は良好であった。現場は町のはずれで、まったくの田舎といってよく、目撃中にも道路を通る車は1台もなかった。付近一帯の空には高圧線が通っている。窪地にはオーサー川という小川が流れ、500m先でフラメンヌ川に合流している。野原には牛が何匹いたが、特に異常を感じた気配はなかった。また、EM効果も認められなかった。電気の異常はなく、TV受像機はオフになっていた。目撃者の老夫婦は、彼らが見たのは機動演習中の宇宙飛行士で、おそらくなにかトラブルが生じたのだろうという説を現在でも固守している。

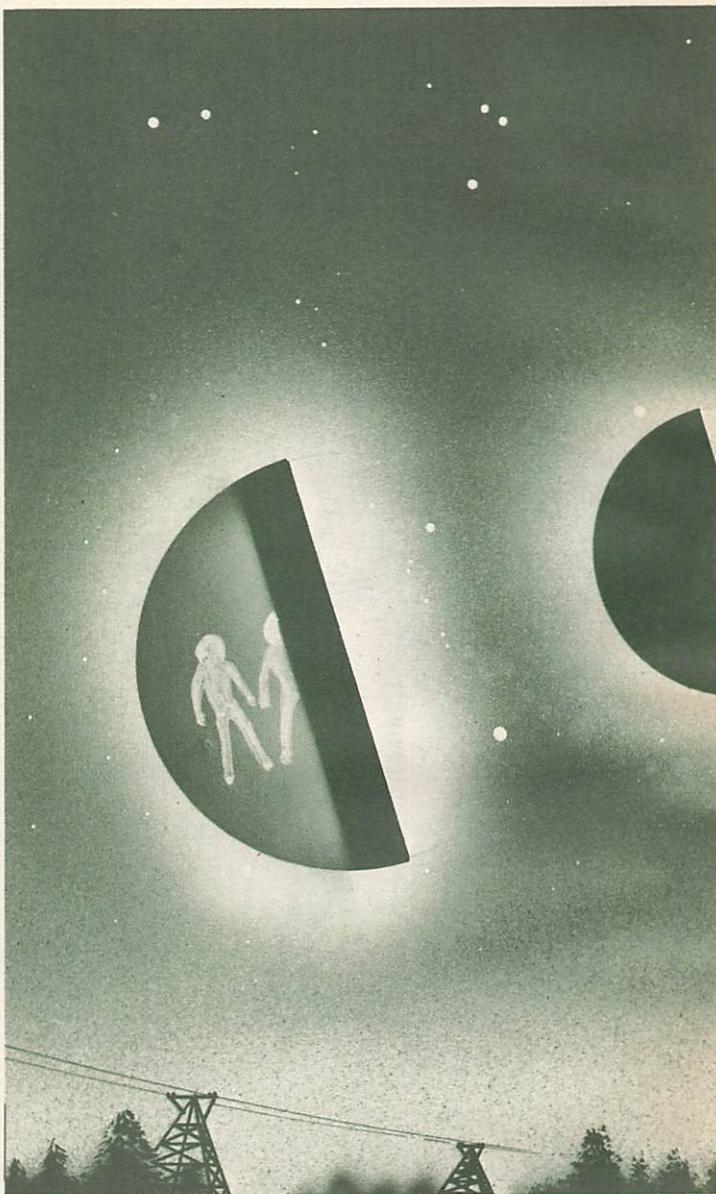
この付近では、1973年9月3日にも有名なUFO目撃事件が起きている。モレ夫妻の目撃地点から650mしか離れていない所で、直立した赤い円筒型のUFOが着陸しかかったという事件である。

UFOが分裂した例としては、次のようなケースが知られている。1964年4月11日午後6時30分、ニューヨークの医師ワーレン・B・オクスナー博士夫妻と2人の子供が、ピクニックの帰途、円盤型UFOを目撃。それは次第に丸くなり、ほとんど完全な球になると、ゆっくりと上下2つに分かれ、上の方の物体は薄らいで小さくなり、もう1つは45度の高さまで降りて来たという。

また反対に、2つのUFOが1つに結合した例としては、本誌16号で紹介したX博士の事件が有名である。X博士はフランス南部の小さな町で重要な公的地位にある人物で、1968年11月2日午前3時55分、頂部にアンテナ状のものをもった2機の円盤型UFOが1つに合体するのを目撃している。

分裂と合体——それはUFOの特徴的な行動の中でも最も奇妙で不可解なものだ。
資料 Flying Saucer Review, Vol. 22, No. 1.

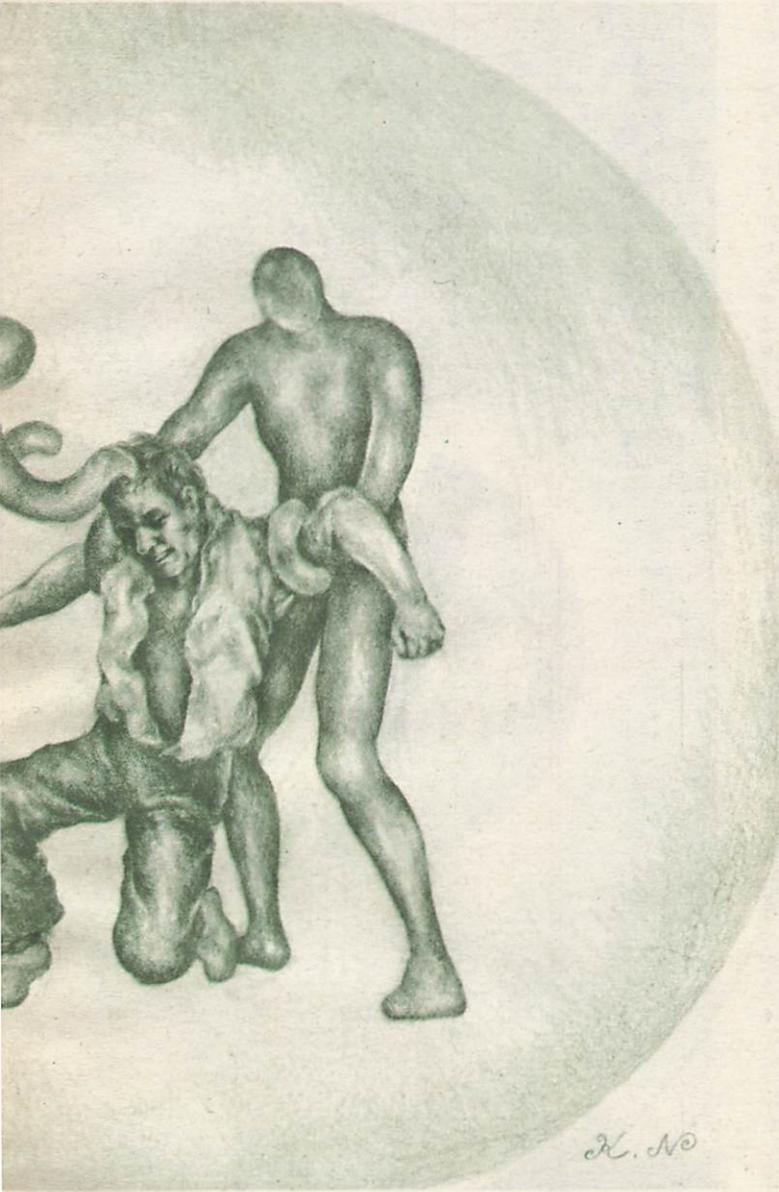
も、ほかと同じように白い光に包まれた。右半分の半月形は南南西に遠ざかり、だんだん小さくなってやがて夜空に消えてしまった。一方、左半分は元の位置にとどまっていたが、左側から右へ、つまり円弧のほうから垂直面へと黒いベールのようなものがかかっていくのが見えた。それにつれて人間に似た形が1つ、また1つと出現したのである。彼らは頭から足先まで薄い灰色をした金属製の服を着こんでいた。腕や脚の動きはよく見えたが、大きなヘルメットをかぶっているのが顔はわからない。まるであやつり人形みたいな足どりであちこち動き回り、腕や脚を機械のように動かしている。



このような状態が40分間も続いたろうか。モレ夫妻はその場にくぎづけになっていた。魅せられたような感じと同時に、次に何が起きるか、やや不安でもあった。しかし球体の中の2人は相変らず単調な動きを繰り返しているだけ。10時が過ぎ、モレ夫妻はまだ帰らない娘のことを思い出した。夫人は急いで家にひき返すと夕食の支度に取りかかり、モレ氏は車を飛ばして町まで娘を迎えに出かけた。気がせいっていたのでUFOのことは頭になかった。家族がそろってから皆で話し合ったがUFOがどうなったかは不明である。

宇宙人に毛をむしられた男

気がつくと、ディアスは半透明の球体の中に一人ぼつちで横たわっていた。



アルゼンチンの首都ブエノスアイレスの中央鉄道病院には、カルロス・アルベルト・ディアス(当時28歳)の恐るべき体験の記録が保存されている。事件は、1975年1月5日早朝、アルゼンチン南部のバイア・ブランカ地区で開かれていた慈善団体のパーティーで、ウエイターのアルバイトをしていたディアスは、午前3時頃ようやく仕事を終え、バスに乗り帰途について、彼の家は海岸近くのホアン・B・ジェスト通りに面していた。近くのバス停で降りて、人っ子一人いない早朝の街路を歩きはじめたのが、ちょうど3時50分だったが、家まであと100mというあたりで突然、すぐ彼の右のところに、空から強く輝く光線が降ってきた。稲妻だ、と思ったディアスは走って逃げようとしたが、どうしたとか、足が麻痺して動かない。そして、上の方に引っ張り上げられるように感じた。その時間に意識を失ってしまった。

気がつく、ディアスは、半透明のプラスチック状のものでできた球体の床に横たわっていた。直径約3mのその物体の内部には、窓もドアも器械もなく、ただ強烈な光が壁から放射され、床には空気の補給のためと思われる小さな穴があいているだけだった。

ディアスは15分ほど横になったままだったが、突然背後に3匹の異様な生物があらわれた。それらは体長175cm

私は宇宙人を見た!

中央鉄道病院の医師達は、繰り返し彼を診察したが……

A P R O は、この事件について次の2点を指摘している。第1は、実際に頭髪や胸毛がかなり抜けていること。もし自分で抜いたのだとすれば、ディアスが1冊の雑誌を除いて他のマスコミによる取材を拒否し、事件をA P R O に通報したペーテル・ロマニウク以外のU F O 研究家のインタビューも拒否していることは解せない。第2は、もし捏造だとすれば、バイア・ブランカからブエノスアイレスまで4時間10分でどうして移動できたのかという問題である。実際、病院でも彼がなぜバイア・ブランカの新聞の朝刊を持っているのか、誰もが説明に窮したという。両地点の距離は約785km、もし整備された高速道路があって、制限速度を無視しても5時間以内で到達できる距離ではない。従って、この事件は、ディアスが実際に午前3時30分頃職場を出て、自宅付近でバスを降りていたとすれば、真実としか考えようがないのである。

バイア・ブランカでは、この事件のあった2年前の1973年10月28日、トラック運転手のディオニシオ・ランカが、青い光と共に低空に浮かぶドーム型円盤と、その真下に立つ搭乗者に遭遇した直後、数時間におよぶ記憶を失うという事件が起こり、バイア・ブランカ病院のリカルド・スミロフ博士とエラディオ・サントス博士が催眠術と自白強制剤ペントタールで記憶を呼び起こしたところ、U F O 内部に連れこまれていた事実が判明した。

南米、ことにアルゼンチンとブラジルは世界的なU F O 事件多発地帯として知られ、1957年に小人型の女性宇宙人とセックスをしたブラジルのアントニオ・ヴィラス・ポアス、1958年の国際地球観測年にブラジル海軍が撮影した土星型U F O 写真や、1972年アルゼンチンでU F O 光線を浴びた文盲のベンツラ・マセラス老人が字が読めるようになった事件などが有名である。

資料 Official UFO, Feb. 1976.

MFSА「空飛ぶ円盤研究」No.75.

ぐらいで人間の形をしていたが、頭部は人間の半分くらいの大ささしかなく、顔は眼も口も鼻もないのっぺらぼうだった。体は細めで、淡いクリーム色をした柔らかいゴム質のもので覆われていた。腕はくねくねとよく曲がり、先端は切り株のようになっていて手や指がなかったが、おそらく吸盤のようなものがついていたのでろう、一匹がディアスの体をつかまえ、一匹が髪の毛や胸毛をむしった。残りの一匹はそばで見ているだけだった。彼らの動きは非常に緩慢だが力は強かった。ただ痛みはほとんど感じられなかった。

そうこうされるうちに再び視野がぼやけ始めて意識を失い、次に気がついたときには、ブエノスアイレス郊外のハイウエーの近くの草むらに倒れていた。仕事着を入れたバッグと、バスに乗る前に買った新聞がそばに落ちていた。時計は3時50分で止まっていたが、日はすでに昇っていた。午前8時50分通りがかりの車に助けられたディアスは、ブエノスアイレスの中央鉄道病院に着いた。ディアスは同病院の46人の医師たちから4日間にわたって繰り返し質問や診察を受けた。その結果、頭髪と胸毛が多数抜けていること、また目まい、胃腸の不調、食欲不振といった点が認められたのであった。



青年を誘拐し検査したUFO

巨大な円筒型UFOの強烈な光を浴びると、彼らは一時的に気を失ってしまった。



ヒル夫妻の体験以来、続発しているUFOによる人間の誘拐、身体検査事件。1975年、アメリカのメイン州で発生したこの事件も、その典型的なものといえる。10月27日の早朝、デービッド・スチーブンス(21歳)は友人とドライブ中に巨大な円筒型のUFOに遭遇し、強烈な光を浴びて一時的に気を失ってしまった。彼の記憶の空白を8回にわたる逆行催眠で埋めていくと、デービッドの奇怪な体験がしだいに明らかになった。

気がつくと彼はがらんどうの部屋に一人きりで立っていた。部屋は空中にあるらしく、窓ごしに友人の乗った車が横すべりしていくのが見下ろせた。しばらくすると、とうてい地球の生物とは思えない怪人が部屋に入ってきた。身長は1・35m、まるでキノコのような頭をしている。大きな白い眼はつり上がり、全然まばたきしない。鼻は小さくて丸い。口と耳、それに頭髮は見あたらなかった。脚も腕も2本ずつだが、指は4本で水かきがついている。紙のような材質の黒くて長いガウンを身につけ、靴も紙でできているようだった。怪物はテレパシーで「危害を加えないから、恐がらないように」と伝えると、彼を別室に連れていった。そこは病室のような感じの部屋で、手術台に似た白いテーブルがある。この部屋にも同じような怪人が4人いた。彼らはデービッドの右腕から血を抜き取

私は宇宙人を見た!

怒ったデービッドは、怪人の顔を思いきりなぐりつけた。

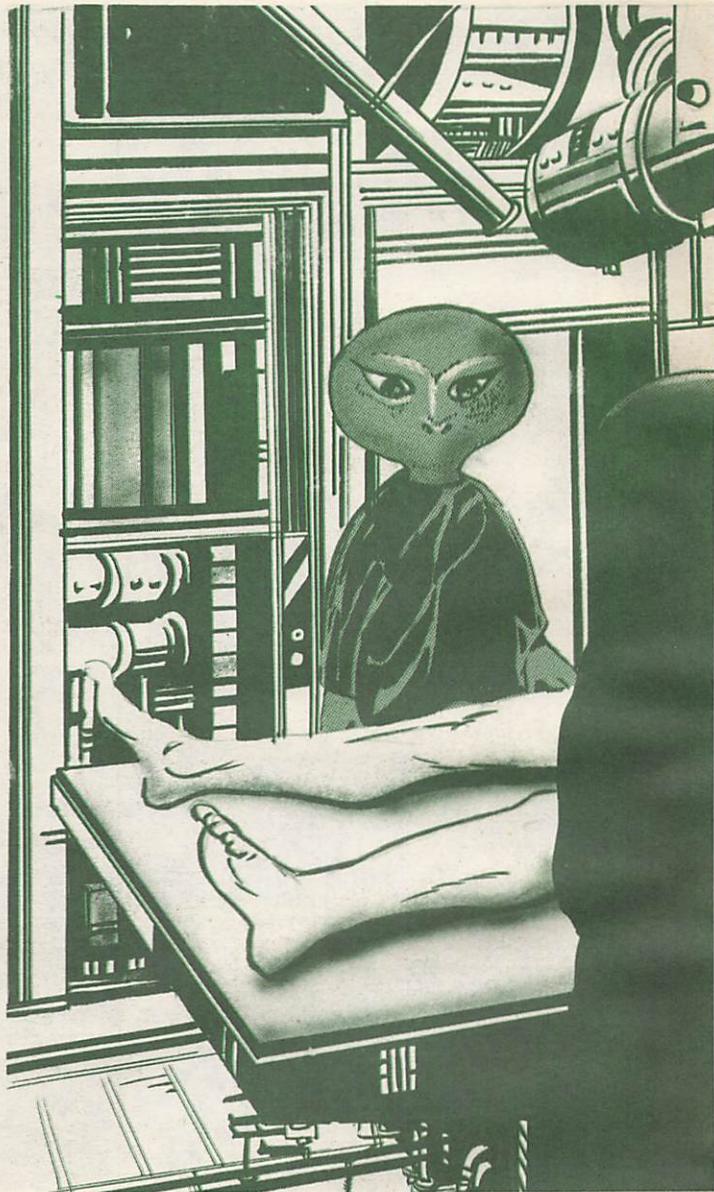
デービッドたちがUFOに遭遇した場所は、メイン州オックスフォードを南に下ったトンプソン湖のそばである。左手のトウモロコシ畑の中から巨大な円筒型の物体が上昇、怪光線を浴びせた。

だが2人は気を取り戻してからそのUFOを目撃している。その上、空中を乱舞する円盤まで出現したという。円盤が木の葉落としてトリップ池めがけて下降し、水面すれすれに飛んで急上昇すると池から濃い霧が発生した。

午前7時にやっとのことでデービッドの家にとどり着いた。家に足を踏み入れたとたん、2人は身体の内側に異常を生じた。頭がふらふらする。眼やのどが痛む。眼のまわりが黄色くなっている。呼吸困難、さむけ、歯痛など。さらに様々な幻覚まで起きるようになった。家族の依頼でハーバート・ホプキンス博士が逆行催眠を施したところ、デービッドがUFOの中に連れ込まれ身体検査をされた事実が明るみに出たのである。

UFO遭遇体験の場合、データを得る手段として催眠術はきわめて有効である。おなじみのヒル夫妻をはじめ、ハーバート・シャーマー巡査、パスカグーラの2人の造船工、最近ではトラビス・ウォルトンなど、催眠術によって驚くべき事実が明るみに出た事件は枚挙にいとまがない。ただ、逆行催眠によって引き出したデータにはどうしても曖昧さがつきまとう。UFO研究センターの第1回会議に提出した論文でA・H・ローソン博士が述べているように、催眠術をかけた者が話すことは自分が本当だと信じているというだけで、絶対の真実ではないからである。ローソン博士は催眠術で得られたUFO体験を奇妙さの度合いに応じて3段階に区別し、最も奇妙な超常的データを言葉通りには受けとれないとしている。超常体験と言語化では大脳の異なる半球が関係しているためという。

資料 Flying Saucer Review, Vol.22, No.2.

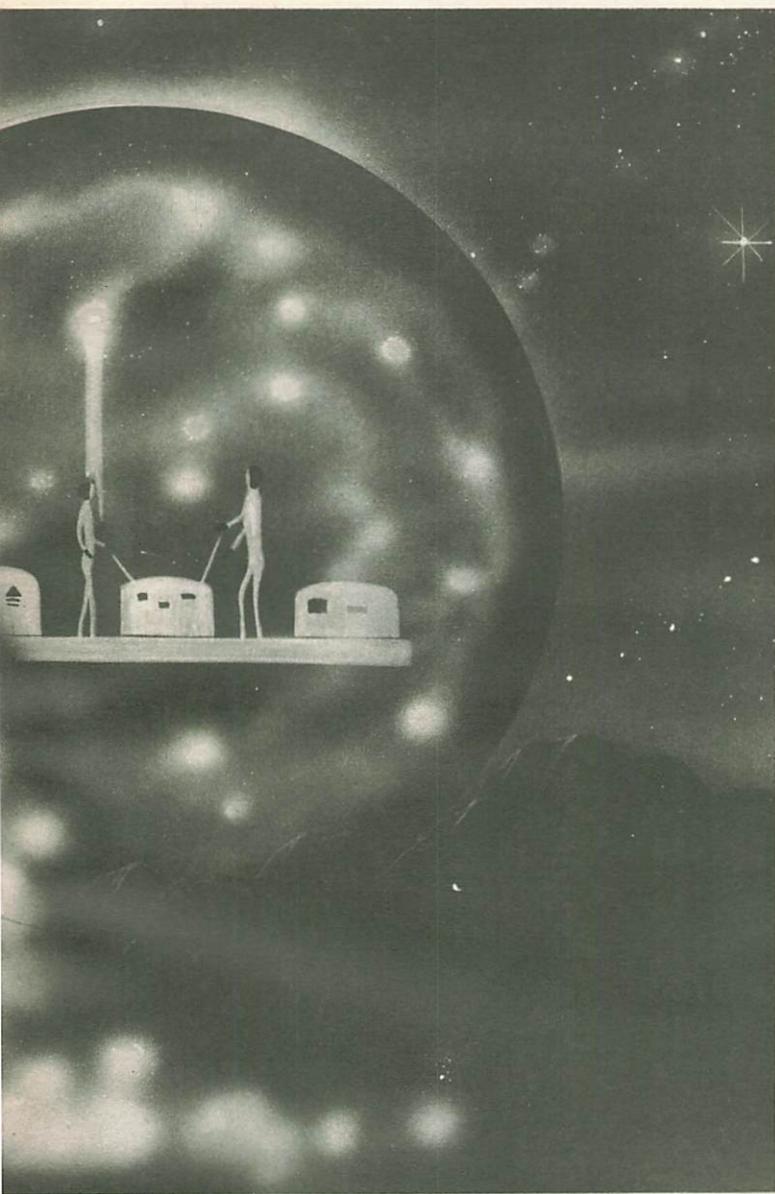


ると、無理にテーブルに寝かせようとする。腹を立てた彼は怪人の一人の顔をなぐりつけた。皮膚は人間よりも堅く、あざもつかない。怪人は数歩後退したが別に声もたず、じっと見つめるだけで仕返しをする素振りも見せなかった。それに、他の怪人たちがまったく反応を示さなかった。なんとなくかわいそうになった彼は、天井から明るい照明があたっているテーブルに横たわった。

デービッドは衣服を脱がされ、頭のとっぺんから爪先までくまなく身体検査された。検査には機械が使用された。四角い形をして側面に計器、中央につきまみのある機械で、そこから1・2mのコードが伸び、端に小さな装置がついている。この装置を彼の身体のすぐそばで動かしながら検査した。装置は直接身体には触れなかった。さらに髪の毛や爪もサンプルに取られた。試験管に入れた血液のサンプルはしばらくテーブルに置いてあったが、怪人の一人が部屋からはこび出していた。45分間近い検査がすむと、テレバシーで「前から君に注目し、研究したいと思っていた」と語りかけられた。そのあと右腕のつけねに注射され、最初の部屋を通過して車に連れ戻された。友人は彼の不在に気づいていないようだった。

透明のUFOと巨人搭乗者

美しく輝く巨大な球体の中に、私は目もさめるような赤い服を着た巨人を見た。



1976年6月22日の夜、光り輝くUFOがカナリア諸島を文字通り東から西に横切って消えた。その日の午後9時30分頃、グランカナリア島北部の町ギアのレオン医師は、病気の母親のために往診を依頼してきたピノ青年と共に、タクシーで患者の家に向かっていた。ラス・ローザスという場所にさしかかりカーブを曲がった時、彼らは前方に出現した巨大な球体を見て度肝を抜かれた。60mほど前方に、まるでコンパスで描いたような球体が地上から数メートル浮かんで静止していたのである。球体のまわりは美しいブルーに包まれていた。直径は3階建ての家ほどもある。球体は透明で、壁を通して背後の夜空の星がはっきりと見え、まるで巨大なシャボン玉のようだった。金属ではなく、ガラスで出来ているのではないかと思われた。その物体は夜の暗闇の中にじっと静止していた。医師たちは20分近くも至近距離から観察を続けた。球の内部には銀色をした壇があり、その上に計器盤のようなものが3つ、やや外側に傾いて立っていた。計器盤はかどばったところがなく、全体に丸みを帯びている。さらに壇上には2人の巨大な怪人が立っていた。身長2・8mから3mはあっただろう。目撃者たちは怪人の大きさにびっくりした。2人の巨人は黒い「潜水用ヘルメット」をかぶり、目もさめるような赤い色の服をびったり身にまと

私は宇宙人を見た!

球体はやがて大きさを増し、21階建てのビルほどに……

1976年6月22日夜、カナリア諸島に出現したUFOは、フェルテベンツラ島南部、グランカナリア島北部、およびテネリフェ、ラバルマ、ゴメラ、イエロの諸島で目撃されている。

同日の午後9時27分、フェルテベンツラ島の南東3海里にいたスペイン海軍のコルベット艦アトレヴィダ号の乗組員は海岸から上昇しながら近づく鮮かな光体を目撃している。光体は一定の高度で静止、本体自体の光は消え、下方に向けて回転する光線を放った。2分ほどたつと、光線のまわりを後光が半円形に取り巻いた。黄と青の混ざった鮮かな色である。その2分後、UFOは2つに分かれ、下側の小さいほうは後光の中に消えていった。上側は急速で不規則な動きをしながらラセン状に上昇し、これも最後には消えてしまった。一方、後光のほうは40分間変わらずに続いた。後光の輝きが陸地と海面の一部を照らしていたので、この現象がそれほど速く離れてはいなかったと推定される。

なおUFO目撃事件から2日後の6月24日に、グランカナリア島ガルダーのタマネギ畑で作物が直径30mにわたって全滅していたという。葉が焦げ、高温にさらされたことを示している。

巨人型UFO搭乗者の例——1963年8月28日夜、ブラジルのペロリゾンテ市郊外で、3人の子供が地上5mに滞空する直径4mくらいの透明で球形の物体を目撃。壁を通して、透明なヘルメットを被った身長2m以上もある1つ眼の宇宙人が4名搭乗しているのが見えたという。巨人型宇宙人と透明球型のUFOは何か関係があるのかもしれない。また1968年11月14日午後10時45分、スペインのサフラ・ウエルバ国道でも、身長2m以上もあり緑色の燐光を発する衣服を着た、目も口もない、黒い顔をした人影が目撃されている。

資料 Flying Saucer Review, Vol.23, No.3.

ついていた。手には大きな黒い筒をはめているので、指先は全然見えない。2人は互いに向きあって手を動かし、レバーを操作していた。目撃者たちには彼らの横顔しか見えなかった。レオン医師には巨人たちの黒い頭が非常に不釣合いに思えた。

運転手がヘッドライトのスイッチを入れてUFOを照らすと、球体は上昇をはじめ、付近の家の屋根の高さにまでなった。目撃者たちは球体の内部に透明のチューブがあるのに気づいた。そこから青い色のガスが吹き出し、球体の中を循環している。それと共にUFOは輝きながら大きさを増し、21階建てのビルほどになった。しかし内部の怪人、壇、計器盤の大きさはもとのままだった。医師たちは恐怖におそわれ、車の方向を変えると近くの家並へ向かった。一軒の家の中に逃げ込み、その家族と一緒に窓から光景をながめた。UFOは今や巨大な大きさにふくれあがっている。吹き出していたガスの動きが止まったかと思うと、物体はあつという間にテネリフェ島の方角に飛び去ってしまった。その際、形状は紡錘形に変わり周囲を鮮やかな白の後光が取り巻いていた。UFOの搭乗員については、他の目撃者たちもレオン医師の描写の通りだと語っている。



ウェールズ西部の宇宙人騒動

カサカサと枯葉を踏むような音がして振り向くと、すぐそばに奇怪な人間が……



1977年、イギリスのウェールズ西部では、連日のようにUFO目撃が相次いだ。それには数件の第3種接近遭遇も伴った。

そのうちの一件は、3月13日夜、ベニスムで起こった。午後9時頃、ガールフレンドを家まで送り届けたステイブン・テイラー(19歳)は、その帰り道、夜空に光体を発見したが、その時は大して気にもとめなかったという。数分後、道で友人に出会ったので、一応話してみたが、「冗談あつかいされてしまった。再び暗い夜道をたどってゆくと、向こうの方から、一匹の犬が、まるで何かに追いかけて来ているかのように、必死になって駆けて来た。これも余り気にならなかったというが、しばらくして、いつも見えるはずの農家の灯が見えないことに気がついた。よく見ると、それは、巨大なドーム型の物体が農場の半ば近くに立ちふさがっているためであった。この物体の周囲には、かすかな光の輝きが認められた。ステイブンは農場の入り口のところにもたれかかって、ともかくタバコを一服吸おうと思って、マツチに火をつけた。と、カサカサと枯葉を踏むような音がしたので右手の方をふりむくと、すぐそばに奇怪な人間が立っていた。瘦身で身長約180cm、老人のように頬骨が突き出し、丸くてつやつやした魚のように大きな目、そして口とおぼしき部分は箱型の装置で覆われ、そこから

私は宇宙人を見た!

深夜のTV映画を見ると、窓に奇妙な人影が映った。

ウェールズ南西部のUFOフラップは、1976年の12月頃から始まり、翌年の夏頃にはほぼ収束した。ただし散発的な目撃報告は12月になるまで寄せられた。その中で、CE-IIIのケースは下記で紹介した事件以外にも2件確認されている。

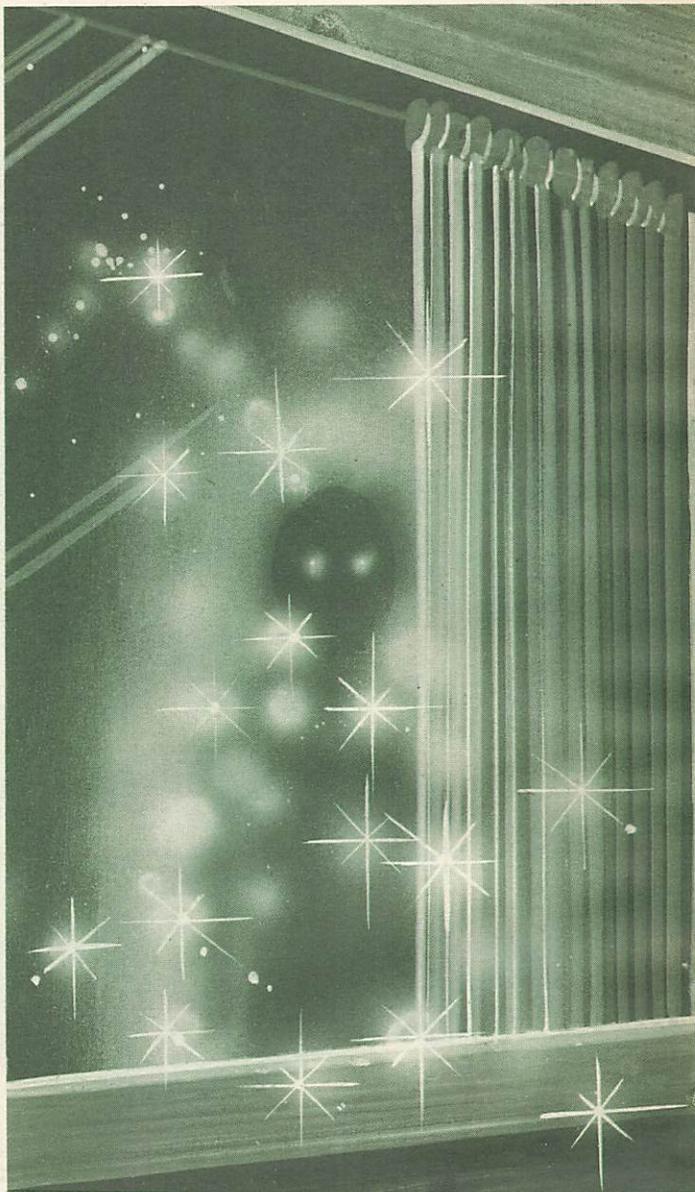
2月14日午後、校庭の片隅で遊んでいたブロードヘブン小学校の生徒延べ15人が2度にわたって200mほど離れた草地に着陸中のUFOを目撃、そのうちの数人は傍らに人影を認めたという。〈デビッド・R・ジョージ、9歳。2回目撃。最初は午後1時、2度目は午後3時35分から45分にかけて。巨大な銀白色の物体がブンブンという音を出し、輝いていた。形は先の尖った円盤型だった。銀白色の服を着た搭乗者を目撃したが、距離が遠くて特徴はよくつかめなかった。2度目の目撃のとき、1人の子供が恐がって泣き出した〉(BUFORA 地方連絡員ランドール・ビューによる調査の一部)

4月19日の午前2時、リトル・ヘブンのヘブンフォートホテルの女主人ローザ・グレンヴィル夫人は、母屋から約100mはなれた門のあたりに着陸している楕円形のUFOと、白いプラスチック製のようないボイラースーツ風の服を着た身長2mぐらいの2つの人影を目撃、双眼鏡で観察している。

CE-I、CE-IIのケースとなると枚挙に暇がないほどだが、リトルヘブンにあるジョセフィーヌ農場のヒューイソン夫人はポーリン・クームズ夫人がUFOに追跡されたのと同じ日の同じ時刻に、約100m離れた温室のそばに着陸中の「皿をひっくりかえしたような」物体を目撃、6月末には、ビショップストーン付近の野原で野いちごを摘んでいた2人の少年が、ドームをもった銀白色のバスくらいの大きさの円盤型UFOが飛び立つのを目撃、地上には着陸痕らしきものも発見された。

資料 Flying Saucer Review, Vol.23, No.1. & No.2. Herald of Wales, January 14, 1978.

ろうかと思われる人影が見えたのである。服は銀灰色で、顔の部分は黒かったという。黒色のヘルメットを着用しているようでもあった。夫人は2月のUFO追跡事件のとき調査に来たBUFORA(英国UFO調査協会)の地方連絡員ランドール・ビューに電話した。ビューは警察にも知らせるように指示した。怪人は約10分間、窓の外から2人をのぞいていたが、警察が到着したときには、すでにその姿は見えなくなっていた。



チューブが背中の方へと伸びている。服装は上下ひとつなぎで、材質は透明のようであるが透明ではなかったという。首からウエストのあたりにジッパーがついていたようだが、慌てて逃げ出したので、はっきりと確認はできなかった。

リトルヘブンのリップパーストーン農場のポーリン・クームズ夫人(31歳)は、2月24日午後8時頃、3人の子供と車で家に帰る途中、底部から円錐型の光を放つフットボール型のUFOに、約10分間も追跡されたが、それはちょうど2カ月後のさらに恐ろしい体験のブローグに過ぎなかった。というのは、4月24日午前1時頃、彼女が夫のビルと一緒に居間でテレビの深夜映画を見ていると、窓に背丈が2m以上もある

第3種接近遭遇事件史

現在までに概く200件以上が知られている第3種接近遭遇のケースから、代表的なもの100件を選び年代順に配置した。このうち約半数は本誌「バックナンバー」に詳細が掲載されているので、参照していただければ幸いである。(製作・志水一夫)

1914. 8 末	[加] ジョージ・ペイで8人の男女がオンタリオ湖上に円盤と2人の小人を自撃。	1954. 10. 16	[仏] バイヨレーで医師がUF0の着陸と身長1.2mの小人の出現を自撃する。	1958. 9 月	[日] 栃木県宇都宮市郊外で市役所職員が金属性の物体と2人の背の高い男を自撃。
1947. 7. 23	[仏] 測量士ホセ・ヒギンズが大きな円盤と目が大きくハゲ頭の3人の巨人に遭遇。	10. 18	[仏] ロワイヤンにて2台の円盤が着陸。両方から小人が出てきて人員交替をした。	12. 20	[ス] ヘルシンキボリで2人の青年が円盤から出てきた黒いやわかい小人に襲われる。
8. 14	[伊] カルニアで目の大きな8本指の小人が出現。ヘルトからマヒ性のガス?を発射。	11. 1	[伊] チェンニーナで紡錘型UF0からヘルメット着用的小人が出現。主線の持物を奪う。	1959. 6. 26	[二] ホイアナアいで神代と現地の人々が円盤のデッキから手を振る数人の人間?を自撃。
1949. 8. 19	[米] カリフォルニア州デス・バレーに不時着した円盤とその乗員らしい小人出現。	11. 8	[伊] モンツァで150人の人々が3本の足で着陸している円盤と銀色の服の男を自撃。	1960. 5. 14	[伯] パラケールで着陸している2機の円盤の脇に数人の小人がいるのが自撃された。
1950. 3. 18	[ア] ラーゴで円盤から降り立つセロフアンのような服を着た男が自撃された。	11. 28	[ベ] カラカスでトラック運転手が毛むくじやらで石のように固い体の小人と格闘。	1961. 4. 18	[米] ウィスコンシン州イーグルリバーで老人がUF0搭乗者からクッキーをもらう。
7. 2	[加] ステイヤー・ロッド湖で水面に浮かぶ円盤の上にロボットのような小人が出現。	11. 28	[西] トリッポ郊外でA・サンマルタが記号の入った石を円盤人から受け取る。	9. 19	[米] ニュー・ハンプシャー州で夫婦が円盤内で身体検査をされる。(ヒル夫妻事件)
1952. 9. 12	[米] 西バージニア州フラットウッズで少年たちが悪臭を放つ巨大な怪物と遭遇。	12. 9	[伯] リンダ・ベラ・ウイヌタで1農夫がやぶにらみて長髪・色白の円盤人に遭遇。	1962. 5. 24	[ア] ラ・ペンバで1女性がロボット?を自撃。現場から草のこげたあとが発見された。
11. 20	[米] 哲学者G・ブダムスキーがモヘベ砂漠で金星人と会見したと証言。	12. 10	[ベ] チコで着陸した円盤に近づいた2人の若者が毛むくじやらの小人に襲われる。	8. 19	[伯] デイアラアンでのこのげたあとが発見された。
1953. 5. 20	[米] カリフォルニア州ラジック・クリークで鉱夫が円盤から出てきた小人に遭遇。	12. 16	[ベ] サン・カルロスで若者が毛だらけの小人と格闘。すると爪で引っかかれる。	10. 18	[ア] コルドバでタンクローリー運転手が道路に着陸中のUF0とロボット?に遭遇。
8 月	[メ] シウダー・バレーでタクシードライバーが背の低い2人の男を自撃。	1955. 5. 7	[伯] バイア・フランカで、博士号を持つ航空技師が不時着した円盤と小人の死体を発見。	1958. 8. 28	[伯] ペロリゾンテ郊外で透明の小型UF0から降りた2m以上の巨人に石を投げる。
1954. 2. 18	[英] ロンリークスでセドリック・アリンガムが火星人と会見した後姿を撮影したと主張。	6. 12	[米] ロズンセルズに金星人だと名乗る2人の男が現われ金属板に謎のキズを残す。	10. 12	[伯] モンテ・マイツでトラック運転手がヘルメットをかぶった巨人に発砲。
3 月	[伯] サンタ・マリアで草を採取する茶色い顔の円盤人が2日続けて自撃された。	8. 22	[米] ケンタク・キー州ボアギンスビルに手にかき爪のついた大目玉の怪物出現。	10. 21	[ア] トランカアで農場1家かUF0と数人の人間?を自撃後、怪光線で攻撃される。
8. 20	[ノ] モスエントで2人の女性が円盤から降りてきた男に話しかけられる。	1956. 4. 7	[南アフリカ] エリザベス・クララが金星人の円盤に搭乗し金星上空まで行ったと主張。	12. 28	[米] ホワ・レナードがコロンダ・星人にマサチューセッツの地底基地へ招待される。
9. 10	[仏] カルニアルである工員が潜水服のようなものを着た2人の小人に遭遇。	1957. 5. 10	[仏] ミラモン・ボークールで灰色っぽいベージュ色の服を着た小人が自撃された。	1964. 4. 24	[米] ニュー・メキシコ州コロロで警官が谷間に着陸する卵型UF0と小人を自撃。
9. 17	[仏] スノソで夜間1人の農夫が潜水服のようなものを着た小人を自撃。	10. 10	[伯] 数名の海軍士官が円盤の着陸に遭遇。中に光る服を着た7人の小人がいるのを確認。	6. 5	[ア] バイヤ・フランカで医師夫妻が地球人を自称する円盤人に出会う。
10. 9	[仏] トゥールーズで3人の若者が2人の小人を自撃直後、近くからUF0が飛び去った。	10. 15	[伯] サン・フランシスコ・デ・サレスで1農夫が円盤内に連れ込まれ円盤人とSEX。	9. 4	[米] カリフォルニア州シスコ・グローブでハンターが2人の人間?とロボットに遭遇。
10. 12	[毛] ドライブ中の人がアモアの森で円盤に乗り込む銀色の服を着た小人を自撃。	11. 7	[米] ミンシントン州メリディアンでアロベラつきUF0から出てきた小人が自撃された。	11. 25	[米] ニューヨーク州フレイグ・コーナーズにUF0が着陸、大柄な怪人が出現。
10. 18	[仏] フーラソルで元パイロットら3人が、ガラスのような目玉を光らせた小人に遭遇。	11. 8	[米] ネブラスカ州カーニエでR・O・シュミットが円盤内に連れ込まれる。	1965. 3. 3	[米] フロリダ州ブルックスビルで老人が透明のヘルメットをかぶった円盤人に遭遇。

アメリカ アメリ
フランス フラン
イギリス イグ
ドイツ ドイ
イタリア イタ
スペイン スペ
ポルトガル ポル
ロシア ロス
中国 チン
日本 日本
韓国 コリ
インド イン
オーストラリア オス
ニュージーランド ニュ
南アフリカ ナフ
カナダ カナ
モロコシ モロ
ロシア ロス

1965. 7. 1	[仏] ヴァレンソールで農場主が着陸したUFOと数人のパイロットの小人を自撃。	1968. 11. 14	[西] サララの国道上に腕が長く緑色に輝やく服を着たのっぺら坊の巨人が出現した。	1974. 8. 26	[仏] フライング・フランジが28才の青年が誘拐され、のっぺら坊の怪人にも毛をむしられる。
7. 20	[ア] フェリス・アリスで自撃された。にいてのフロントの円盤人が自撃された。	1969. 2. 7	[伯] マチヤドという青年が黒い面をむき出しにいた円盤人から怪光線で攻撃される。	10. 25	[米] ウィオミンゴ州でハンターが黒い服を着たパイロットの円盤人にさらわれる。
7. 26	[伯] カラジンの円盤人が2つの円盤と4人の搭乗者を自撃後、激しい頭痛に襲われた。	5. 4	[伯] 1青年があごひげのある円盤人に5日間に通ってUFO内にとじこめられる。	1975. 1. 5	[ア] ハンター・フランジが28才の青年が誘拐され、のっぺら坊の怪人に毛をむしられる。
8. 15	[ア] サルトで5人の男がパイロエーに着陸するUFOを自撃、中に3人の人影を見た。	1970. 1. 7	[ア] ヘイナラ市郊外の森で箱を持った小人がUFOから降り立つのが自撃された。	2. 23	[日] 山梨県甲府市で2人の少年が着陸している円盤を発見、中からキバのある怪人出現。
8. 20	[ベ] クスコのサクサイウワマン遺跡で小型円盤の着陸と2人の小人を多数の人々が自撃。	4月	[米] ウィスコンシン州でアリスンで1弁護士がUFOに誘拐され、以後性格が一変。	7. 22	[日] 広島県三原市で真言宗の大僧正がUFOの着陸を自撃、長いカウソンの男と発見。
8. 20	[ア] マール・デル・アラダである夫婦の目前に楕円型UFOが着陸、数人の人影を自撃。	6. 27	[伯] ニエミールで海岸に円盤が着水、そのデッキ上で2人の人間が手を振る。	8. 13	[米] ニュー・メキシコ州アラモゴールで軍曹が円盤に誘拐され、血液を採取される。
9. 10	[伯] サン・ハオの丘の上に2つの円盤が着陸、小人が現われトマトをまきとって去る。	1971. 2. 5	[ア] キヌラ地方で2人の木樵が雪上に着陸中のUFOと宇宙服を着た90cmの小人を自撃。	10. 27	[米] メリケン州でドライブ中の青年がUFOに誘拐され、身体検査されたことが判明。
10. 23	[米] ミネソタ州ロング・ブレイクにてピール田に手足が生えたような小人が出現。	8. 16	[英] ネス湖でアリスンのような形の物体と灰色の服を着た3人の人影が自撃された。	11. 5	[米] アリソナ州ヒーパーで森林伐採工がUFOに誘拐され、5日後に鳴される。
10. 26	[伯] カノテイノである機械工が自撃でしわだらけの顔をした2人の小人に遭遇。	9. 22	[伯] 1青年が着陸しているUFOの中に入ってみると身長50cmの小人がいた。	1976. 1. 6	[米] ケンタッキ州スタンプフォードで3人の女性がUFOにさらわれ身体検査される。
1966. 11. 27	[米] 西ババージニア州ニュー・ヘブンで18歳の少女が翼のある怪人を自撃。	1972. 1 末	[ア] フラウラント島で電気技師がUFOに遭遇、異臭を発する小人に光線で攻撃された。	2. 19	[米] ニューヨーク市郊外で、土を採取している頭にライトをつけた人間が自撃される。
12. 2	[米] ドライアフ中のセールスマンが青く光る服を着た円盤人に道を尋ねられる。	10. 6	[伊] 国境近くの村で地面にとどくほど長いガウンを着た黒い顔の怪人を子供たちが自撃。	6. 22	[西] クララン・カナリア島で透明な球形UFOの中に2人の巨人が自撃された。
1967. 1. 11	[仏] アペイロンで数種のUFOが自撃されその内の1つの中に2人の乗員が見られた。	12. 30	[ア] 老人がUFOの窓の中に目のつり上った搭乗者を自撃、怪光線を浴びて人格が一変。	11. 14	[英] ウィンチエスターでドライアフ中の男女があごひげのある円盤人に車をのぞかれる。
2. 5	[米] オハイオ州で若者がテレビ番組で話す円盤人に襲われ、奇怪なやけどを負った。	1973. 10. 11	[米] ミシジッピー州バスカグラで2人の造船工が円盤内につれこまれ身体検査される。	1977. 1. 23	[英] トルビオ川の土手にUFOの着陸、透明な部分を通して2人の人間に似た搭乗者自撃。
3. 28	[米] オハイオ州モンロー・フォールズで工員が頭でつちの小人を車ではねる。	10. 16	[米] 中西部に住むある一家が深夜UFOに誘拐され生理的な検査をされる。	2. 4	[英] フロートヘッド小学校の近くでUFOの着陸、生徒たちが銀色の服を着た人影を自撃。
5. 19	[米] 西ババージニア州ボイント・ブレイクサントの農場で2人の夫人が娘男とUFOを自撃。	10. 17	[米] フラバマ州で警官がパイロエー上で銀色の服を着た男に遭遇、写真にキヤッチ。	3. 13	[英] ウェールズのベニムで1青年が巨大なドーム型の物体と目の大きな怪人を自撃。
7. 21	[米] カロライナ州でロニー・ヒル少年が球形UFOから出てきた小人を写真に写す。	10. 19	[仏] ドラキニオンで4人の若い男女がUFOの着陸を自撃、四角い頭の3人の巨人出現。	4. 14	[英] リトル・ベゾンの農場でクエムス夫妻が銀色の服を着た巨人を自撃。
8. 13	[伯] ビラル・デ・コヤスで3人の小人を銃でねらった農場監督が怪光線を浴びて死亡。	10. 25	[米] ベンソルバニア州グリーンスバーグに毛むくじけの巨人出現。	7. 23	[米] ニューヨーク州リナーで2人の女性があごひげのある円盤人を自撃。
8. 29	[仏] キュサック村で4人の子供が球形UFOと4人のとんがり頭の小人を自撃。	1974. 1. 7	[仏] ヴルヌトンで自動車整備工がUFOの着陸を自撃、2人のロボット風怪人に遭遇。		<主要参考文献> Bowen, Charles, ed: The Humanoids, 1969. Blum, Ralph & Judy: Beyond Earth, 1974. Loenzen, Cori: Flying Saucers, 1966. Loenzen, Cori & Jim: Flying Saucer Occupants, 1967. Volee, Jacques: Anatomy of a Phenomenon, 1965.
1968. 10. 9	[伯] リンズ市でタマゴ型UFOのそばに閃光を発する道具を持った怪人が自撃された。	5. 15	[日] 京都のある婦人が庭先でまぶしく光る身長40cmぐらゐの小人を自撃。		

並木伸一郎氏特別インタビュー 宇宙人問題にどう取り組むか？

——最近、世界的にみて、C E I—III（第3種接近遭遇）のケースが非常に増加し、その上にきわめて奇怪な様相を帯びてきたようですね。誘拐とか身体検査とか……。

並木 そうですね。初期の頃は、小人型の搭乗者をかいま見たという程度の事件が大部分で、しかも件数としても少なかつた。ついでに申しておきますと、当時、小人型搭乗者はリトル・グリーン・メン、つまり「緑色の小人」と呼ばれておりました。確かに、このタイプは時折、緑のコスチュームで出現しますが、いつもそうとは限らず、皮膚の色も決して緑ではないということがわかってきました。

それで初期の頃は、人間の方から危害を加えようとして怪光線で逆襲されたというようなこともありましたが、一般的には、搭乗者の方で人に見られたり、近づかれたりすると逃げるといふようなケースが多かつたようです。

しかし、60年代に入って、例のバーニー・ヒル事件以来、人間を誘拐し身体検査を加えるといった攻撃的な傾向が目立ってきました。現在も、そういう傾向はますますエスカレートして

いるようです。

思うに、初期の段階の連中は、いわばフィールド・インベスティゲーターで地球全般の調査が目的だったのではないのでしょうか。そして、その情報にもとづいて、今度は連中の間に、医者を中心とするプロジェクト・チームが結成され、人間そのものの研究を始めたかのような印象を受けますね。

ブラジルのAPRO代表であるオルボ・フォンテスが、UFO事件の歴史的推移を3段階に分けています。第一期は空中観察の時代、ワシントンなどの重要地域に出現するようになった第二期、そしてランディングの第三期というようにね。これは当たっていると思います。現在はいうならば第四期というところかもしれません。

——今後、そういう傾向はどうなると考えますか？

並木 現在ではアブダクション（誘拐）ケースはアメリカと南米に集中していますが、より大規模に世界各地で起こることも考えられましよう。それも個人的規模じゃあなく、一つの村全体がそっくりもって行かれるということも起こるかもしれません。

——搭乗者のタイプとしては圧倒的に小人型が多いようですね。

並木 目撃者は当然のことながら恐怖や驚きを感じるわけで、その証言は不明確なものが多く、見まちがいということもありますが、ただ小人タイプが多いといふことは、まぎれもない事実といえましよう。

——小人型でも耳があつたりなかつたり、いろんな点で多くのタイプに分けられるようですし、巨人型の例も比較的多く報告されているようですが……。

並木 それでね、タイプの異なるのはそれぞれ別の星から来ているんだという説もありますが、私は同じ特定の星からだと思えます。巨人とビッグミートホットントットが別の星に行つたとしたら、その星の目撃者は、きつと現在の私たちが抱くような当惑を禁じえないでしょう。

——蛾人間や毛むくじやらの怪物はどうなんでしょう。

並木 これは難しい問題ですが、可能性として、UFO搭乗者のベットの一種じゃないかと思えます。ちやうど、りこうな犬のようなものです。

それからですね、アブダクション・ケースですが、先程も述べましたように、現在のところアメリカと南米に集中している。これがやがて世界中で起こるといふ可能性もあるわけですが、今のところヨーロッパでは非常にメレヘンというか、美しいケースが多い

ようで、そのあたりをどう解釈すればよいのか、今後の課題だと思えます。

——今後の研究の方向について、どのように取り組んでいかれるつもりでしょうか……。

並木 残念ながら、日本では私たちの研究会がAクラスと認定できたC E I—IIIのケースは、今のところ1件しかありません。C E I—Iが大部分なわけですが、正直言ってその分類すらまだできていない現状ですから、まずその整理から始めねばなりません。コンピュータも安く手に入る時代なので、JSPSで購入する予定です。これと同時にC E I—II、C E I—IIIが起つてもすぐ対応できる体制を整える必要があります。C E I—IIに関してはカイガー・カウンタをすでに装備し、待ち受けております。

——もし、読者の方が宇宙人と遭遇した場合の注意を……。

並木 最初に申しましたように、誘拐というケースも増えていきますので、余り近づかず、しかし逃げ返るのではなく、物陰からしっかりと観察してほしいと思います。そして、これはC E I—I、C E I—IIのケースについても言えることですが、できることなら他の人を呼んで証人になってもらうことが望ましいですね。それと、その場で必ずスケッチをしていただきたいということ、身長なども付近の木や草と比較して、できるだけ具体的に把握していただきたい、ということでしょう。

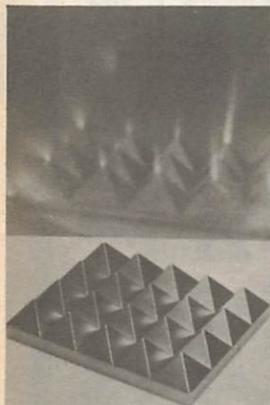
▲ ピラミッド製品発売中!! ▲

——— ピラミッド・エネルギーをあなたのものに! ———

ピラミッド・エネルギーの発見以来、この力を活用しようとする数々の研究が行なわれてきたが、ついにアメリカのパット・フラナガン博士を中心とするピラミッド・プロダクツ社の研究員達によって“ピラミッド・エネルギー発生器”の開発に成功した。そして次々に新製品が開発された。以下は当社が自信をもって皆様におすすめるピラミッド製品(アメリカ製)の数々である。

エネルギー発生器

(ピラミッド・エネルギー・ジェネレーター)



ジェネレーターとエネルギーの発生している瞬間。(キルリアン写真による)

多方向磁場内蔵の結果南北の磁軸に合わせる必要がありません。ピラミッド模型より数倍のエネルギーが発生します。この上に置くだけで、コーヒー、タバコは味がマイルドに、食物は新鮮さを長く保つようになります。

- ポケットサイズ (3×5インチ) ¥3,200(送料共)
- ミディアムサイズ (4×5インチ) ¥4,150(送料共)

エネルギー放射板

(ピラミッド・エネルギー・プレート)

ピラミッド・エネルギー(18ヵ月分)が注入してある特殊なアルミ板で、ジェネレーターと同じ働きをします。一週間に一度12時間、ジェネレーターの上に置くだけで100%エネルギーを放射します。枕の下に置けばこちよい睡眠ができます。

- ポケットサイズ (3×5インチ) ¥1,650(送料共)
- ミディアムサイズ (4×5インチ) ¥1,950(送料共)
- キングサイズ (8×10インチ) ¥3,500(送料共)

アクセサリ

(ピラミッド・メダル)



- ピラミッド・メダル (男性用) ¥3,950(送料共)
- ピラミッド・ペンダント (女性用) ¥3,150(送料共)

エネルギーをよく吸収し、放射しやすい特殊合金でできています。一晩ジェネレーターの上に置いて体につけると、あなたに宇宙生体エネルギーを補給することができます。

ピラミッド・テント

(モジュール・ピラミッドテント一式)

(組立式)

¥22,600(送料共)



ギゼーの大ピラミッドを正確に縮小し、ピラミッド・エネルギーで処理した特殊アルミ管製。ワンタッチで開くと四角錐の表面にエネルギー・スクリーンができ、方位を合わせると中にエネルギー場が出現する。植物の発育や、深い瞑想、安眠に役立ち、あなたの宇宙生体エネルギーを強化させます。

ピラミッド振子

(ベンデュラム)

ピラミッド・エネルギー振子を使うと潜在意識が呼びさまされ、振子が四通りの動きをすることによって様々な問題の解答が得られます。

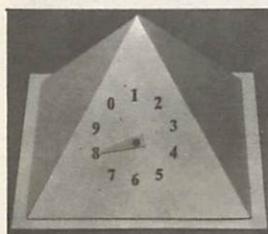
¥2,650(送料共)



パワーダイヤル

あなたの潜在能力を強化し、定的な希望を実現に導く働きをします。1~10までのある一つの数があなたの自己数になります。その数をセットして目的実現のため、ピラミッドに向かって潜在意識に呼びかけるのです。

¥1,850(送料共)



ピラミッド・レプリカ

¥2,450(送料共)

底辺13インチ、高さ8インチのアルミ貼り厚紙製ピラミッド。

ピラミッド・エネルギー研究セット

パット・フラナガン著「ピラミッドと宇宙生体エネルギーとの関連」とコンパス、高さ4インチ、底辺6インチの厚紙丸窓付ピラミッド模型3個がセットになっています。実験に最適です。 ¥1,700(送料共)

上記の商品は全てアメリカのピラミッド・プロダクツ社の製品で、それぞれ詳しい日本語の説明書が付いています。上記の他にピラミッド新製品のカタログがありますのでご請求の場合は200円切手を同封して下さい。

(総輸入元)
マンカインド株式会社

(〒150) 東京都渋谷区宇田川町12-3 ニュー渋谷コーポラス1104
TEL. 03-464-8075

●ご注文は現金書留か郵便振替(東京4-21690)に商品名を明記して当社までお申し込み下さい。

怪光線の口 バス運転手

完

鈍く銀色に輝く壁に囲まれた円形の部屋の中央で、アントニオは恐怖に身をふるわせ、油汗を流しながら立っていた。

彼の前には、12人ずつ2列に並んだ奇怪な姿の宇宙人が規格品のロボットのようにまったく同じ姿形のまま無表情にこちらを見ている。

どこからともなくさしこんでくる青白い光が部屋に充滿し、アントニオは息苦しさで恐ろしさに眼を大きく見開き、力いっぱい叫ぼうとした。

「助けてくれ！」

だが、声は出てこなかった。

■大声をだすと

宇宙人たちは倒れた！

不思議なことに声はのどのところまでとまってしまい、頭の中で何度も叫んでいる言葉は、バクバクさせるばかりの口からは声になって出てこないのだ。

全身が、何かの眼に見えない力でおさえつけられているかのように身動きひとつでできなかった。

あたりは恐ろしいばかりの静けさにつつまれ、彼自身の呼吸の音さえ聞こえなかった。

そればかりか、呼吸することさえできなかったのだ。

「UFOの中には酸素がないみたいでした。空気を吸いこもうとしても肺の中に何も入ってこない感じでものすごく苦しかったです。まばたきもできないのに涙だけがあふれて頬をつたって落ちていくのがわかりました。

宇宙人は全員、ゆから10センチくらいの空間に浮かんで、気味が悪いほど静かにこつちを見てました。その時、私の口から急に声が出てきたんです」

彼はありったけの声をはりあげて叫



▲アントニオ・ボガド・ラ・ルビア。

こつたのだ。

「驚いたことに、宇宙人たちは全員、ボタンとゆかに落ちて倒れちゃったんです。それはまるで糸が切れたあやつり人形みたいにいっせいにボタン！という感じで倒れました。どういいうわけだかわからないんですが、私はたぶん、彼らが大きな音に弱いんじゃないかと思いました。というのは、私が大声で叫んだとたんに、彼らはいちように手をあげ、頭のとっぺんのくるくる回るアンテナみたいなのを押さえたからです」

次の瞬間、室内の青白い光は急に強く輝きはじめ、ついにはまぶしくて眼をあけていられないほどになった。

と、倒れていた宇宙人たちは、再びいっせいに立ち上がり、何事もなかったかのように元通りの位置に並んで立った。

ふと気づくと、いつのまにか四角い金属製の箱のようなものがアントニオの眼の前にあった。

「それまでは部屋の中には何もなかったんです。椅子も机も、何かの器械や計器板みたいなものも……ただあるのは壁とゆかだけだったんです。

その箱は17センチ四方くらいの長方形で、下には脚が2本ついていてゆかに立ってました。高さは、ちょうど私

巨大UFO 火傷した

の胸のあたり、箱の上の方には両側からアンテナのようなものが突き出て、片側には別の把手のようなものが真横に突き出てました」

すると、宇宙人の中の1人がするすると空中を滑るように近づいて来て、腰のベルトからさがっている幾つかの細長い棒のような器具の中の1つを取りあげた。

「それは注射器のような格好をしたもので、宇宙人たちは何をするにもこの

器具を使うみたいでした。

その宇宙人が、この器具を箱の把手の部分にあてたとたん、正面の壁が急に明るく光りはじめ、そこに何かが写りはじめました。

はじめは、もやもやとビントが合わない画面でしたが、だんだんとはっきりしてくるにつれ、私はとびあがりそうになるほどびびくりしたんです」

何とそこには、アントニオ自身が裸になって横たわっている姿が写っていたのだ。

「私自身は洋服を着たまま立って見ているのに、画面の中の私はすっぱだかにされ、眼に見えないティブルの上に寝かされて両手をだらんとたらしのまま眠っているんです。

2人の宇宙人が、例の注射器のような器具を使って、私の身体の内側を検査しているみたいでした。

宇宙人の1人が器具の先から出る青い光を私の胸にあてると、その部分がレントゲンのように透けて見えまして、もう1人の宇宙人は、私の頭に光をあてていました。私の頭は、髪の毛の1本1本にいたるまで、まっ青に光って見えなりました」

この画像の意味するものはいったい何なのだろうか？

宇宙人は、どういふつもりでこれを

アントニオに見せたのだろうか？

彼らが地球にやってくるのは、われわれ人類をこのようにして研究調査するのが目的なのだからということをおわらせようとしたのか？

それとも、現段階では、地球人との接触はこの程度でしかないというふうとしたのだろうか？

■画面に展開した不思議な光景

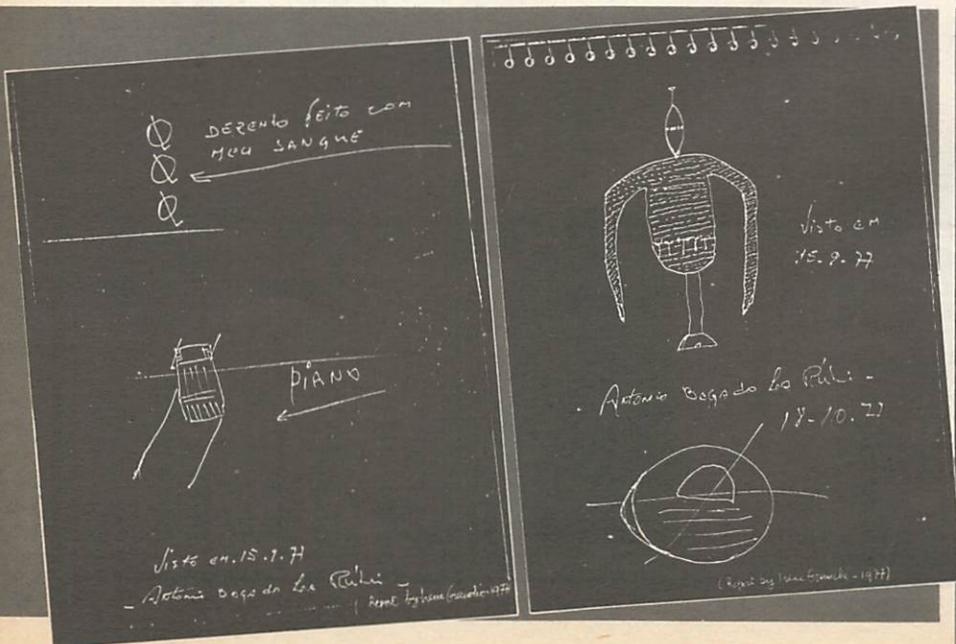
アントニオの記憶しているところによると彼らは次にこの不思議な器械をあやつり、次のような10のシークエンスの奇怪な画像を写し出して見せたという。

- ① 前に述べたアントニオが裸で寝かされて身体検査されるシーン。



●UFOの通り道
ブラジルで起こった
第三種接近遭遇事件

アントニオが遭遇した宇宙人は、象のようなシウ
だらけの肌の、目も鼻も口も耳もない1本足の宇宙
人だった。左のスケッチは、UFO内で宇宙人が操
作していた映写機(下) いずれもアントニオ自筆



② アントニオが裸で立っているシーン。
 ③ 服を着て靴をはいたアントニオが普段の姿のまま、手提カバンを片手に持ち、歩いているシーン。
 ④ 荷馬車が、ガタガタの田舎道を行くシーン。
 破れたシャツに麦わら帽子の農夫がつき添って歩いている。

これもどういいう意味なのかはまったく不明である。
 ⑤ オレンジ色の光に包まれた球型のUFOの脇に、なぜかアントニオが立っているシーン。
 ⑥ 今度は、青く光る球型UFOのかたわらに1人の宇宙人が立っているシーン。

⑦ 1匹の犬が、しきりに吠えたり、1人の宇宙人にかみつこうと追い回している。犬の吠える声はまったくきこえないが、非常に興奮しているらしく、口からよだれをたらし、ものすごい形相で、今にも宇宙人とびかかってその足をかみちぎりそうな気配になってきた。そのとき、突然、不気味なことが起きたのだ。今にもとびかかりそうだった犬が、まるでおカユのように（アントニオの表現による）頭から徐々に溶けはじめ、ついには完全に犬の形がなくなってしまうという。

ニオの声はふるえ、顔は青ざめ、非常に恐ろしいことを思い出したように、身体全体が小刻みにふるえだした。「画面の中の犬が宇宙人にかみつきそうになったとき、いきなり、画像を見ていた宇宙人の1人がものすごいスピードで私の方にやってきたかと思うと、私のすぐ脇に立ち、ふり向きざま、画面の中の犬に、例の器具から光線のようなものを発射させたんです。そのとたん、犬は全身から青い光を発して光り、やがて頭の方からだんだんにおカユのように溶けはじめたんです。

それを見たとき、私はあまりの恐ろしさに悲鳴をあげそうになりました。犬は溶けるそばから、ローソクの溶けかすのように流れてその場にかたまり、しまいは、そのかたまりさえ消えてなくなっていました。

私は、自分もあのような恐ろしいものにあうのではないかとそればかりをそれて、冷や汗をびっしょりかいて立ちすくんでました」

このシーンもまた、彼らの意図はよくわからない。

ひょっとすると、彼らに手向かう者はこのように抹殺してしまうぞという、われわれ人類への警告のみせしめだったのかもしれない。

⑧ 彼らの星と思われる所にある大きな工場らしいものが写った。右側に2列の白く長い建物が見え、

できあがったUFOがいくつか駐機していた。

左側には、もう1つの同じような工場が写っていて、そこでは未完成のUFOの周囲に大勢のロボット宇宙人が働いているのが見えた。

不思議なことに、彼らはだれひとりとして道具らしいものを持たず、ただ何か忙しそうに動き回っているだけだった。

工場の建物は、一点のシミもなく真っ白で、どこまで続いているのかわからないほど遠くへ一直線にのびていたという。

⑨ 電車……ブラジルにある日本製の電車に似ていたが、もつとよごれて古かった。

電車は、トンネルの中へ入り、視界から消えてしまった。

⑩ リオ市の最も混雑した通り、ブレジデンテ・バルガス通りが写った。ちょうどラッシュアワーらしく、たくさん車の車が立ち往生しているのが見えたという。

ここまで話した終えたアントニオはホッとしたように、坐っていたソファの背に身体をもたせかけ、眼を閉じた。やせて、頬がこけた額に汗がうっすらとにじんでいる。

事件のあと、体重が6キロも減ってしまい、いまだに原因不明の頭痛がし、身体中が焼けつくように熱く、猛

好評発売中!

アルファトーン

バイオフィード
バック装置



これを使って精神統一をすると速やかに効果が上がり超能力が発現します。

超科学七、八号（各三〇〇円・送料共）参照

二九、五〇〇円
一五、〇〇〇円

ESPカード…………… 五〇〇円
 〒一四〇〇円

キリリアン写真機用テストラコイル
 美顔器…………… 一三、〇〇〇円
 〒五〇〇〇円

超科学四号
 特集 超科学実験装置 参照
 五〇〇円 〒一二〇〇円

橋本電子研究所
 〒248 鎌倉市小町一―一五―一七
 ☎ 0467 (25) 3035

あなたの中に眠る超能力を引き出しすばらしい人生を送るための会

日本超科学会

会員は右記の品一割引、会報進呈、切手六〇円送れ。

烈なのどの乾きに悩まされているといふ。
冷たい飲物でひと息入れたアントニオは、さらに驚くべきことを話しはじめた。

■全身火ぶくれの 人体実験

「10のシーケンスが終わると今迄の宇宙人と交替に別の宇宙人がそばへ来て、器械の把手を操作したんです。するとまた壁に画像が写りはじめ、今度は、裸の私が立たされてしまいました。驚いたことにその画面の中の私は、まるでオーブンの中に入れられたように、だんだんに真っ赤に熱せられていって、しまいいは背中のところから煙が出はじめたんです。そのとたん、画面を見ている私自身も、身体中が生きたがら焼かれるように熱くなり、ついには耐えられないほどになりました。頭のとっぺんから足のつま先まで全身が火ぶくれになるんじゃないかと思ったとき、フツと画面が消えて身体の熱さも嘘のように消えました。」

「すると、今度はまた別の宇宙人が私のそばへ近づいてきたかと思うと、腰のベルトから例の注射器のような器具をとり出し、いきなり私の腕をつかむと、右手の中指にその注射器の先をつきさしました。不思議なことに、痛みは全然感じませんでした。注射器の中に私の血が抜きとられ、どんどんとまっっていくのが見えました」
宇宙人は、まるでわれわれがモルモットを使って実験するのと同じように、アントニオを実験動物としてあつかったらしいのだ。
「注射器に吸いこられたのは、たしかに私の血だったにちがいないと思えます。というのは、宇宙人たちに関するものは全部、青と銀色だけで、そのほかの色はまったくなかったんですが、注射器の中にたまっていた液体は、真っ赤だったからです」
この人体実験のあと、アントニオはいつの間にか最初にさらわれたところから3キロも離れた国道の脇に立っている自分を発見した。
「私のそばには、まだ1人の宇宙人がいっしょにいました。私は、ふと時間が気になり、自分の腕時計を見ると針は、私がUFOの中に連れこまれた時間、午前2時20分まで止まっています」
何気なく視線をもとに戻すと、驚いたことに、そこにいるはずの宇宙人の姿はあとかたもなく消えていて、空を見上げると、そこに巨大なUFOが、鈍い鉛色の底面を見せて滞空しているのが見えたのである。UFOには、窓らしいものや出入口らしいものは見当たらなず、ただ、夜目にもくろぐると、どっしりした大きさを感ぜさせて不気味に浮かんでいた。
やがてUFOは、何の音も発しないまま、静かに遠去かりはじめ、見るみるうちに小さくなって、暗黒の空間へと溶けこんで行ってしまった。
アントニオは、とぼとぼと、駅のある方向へと真っ暗な国道を歩きはじめた。身体のあちこちがズキズキと痛む。そのうえ身体中が火傷を負ったように火照り、ヒリヒリと痛かった。だんだんひどくなってくるのどの乾きとたたかいながら、ようやく駅前の広場にたどりついた彼は、駅の時計を見て驚いた。午前3時10分を指している。
UFOにとらわれてから50分の時間が経過したにちがいない。
「私のような早朝勤務の運転手たちを拾い集めてターミナルへ運ぶための専用バスをつかまえて、ようやく出勤することができました。」
でも、会社に着くと、また全身が焼かれるような熱さがひどさを増し、同僚に洗車用のホースで頭から水をかけてくれと頼んだんです。
同僚たちはみな、私の顔が草のように緑色をしているとあって気味悪がりました」

だが、彼は決して自分の奇怪な体験を話さなかった。そんなことを言おうものなら、皆に気遣いあつかいされるにきままっていると思ったからである。
彼の具合悪そうなようすを見て、上司は彼を会社の診療室へ送りこむことにした。
そのとき、診察にあたった、ネリ・

会員募集

日本
GAP
UFOと宇宙哲学
研究グループ

わが国UFO研究界の先駆者久保田八郎はジョージ・アダムスキー研究家としても著名であるが、1961年よりアダムスキー主宰の世界GAP（知らせる運動）組織の日本代表となり日本GAPを設立。以来あらゆる困難と障害を乗り越えてアダムスキーの特異な体験と宇宙的哲学の促進活動を展開してきた。機関紙「GAPニュースレター」はすでに63号まで発行。毎月東京文化会館の月例会で宇宙哲学を指導し、宇宙の法則と人間の真の生き方を探求。大阪・高知・熊本・新潟・岐阜・福知山・仙台・山形・札幌各支部設立。個人的奉仕活動として啓蒙運動を続行中である。真剣な探求者の参加を歓迎している。

不定期機関誌

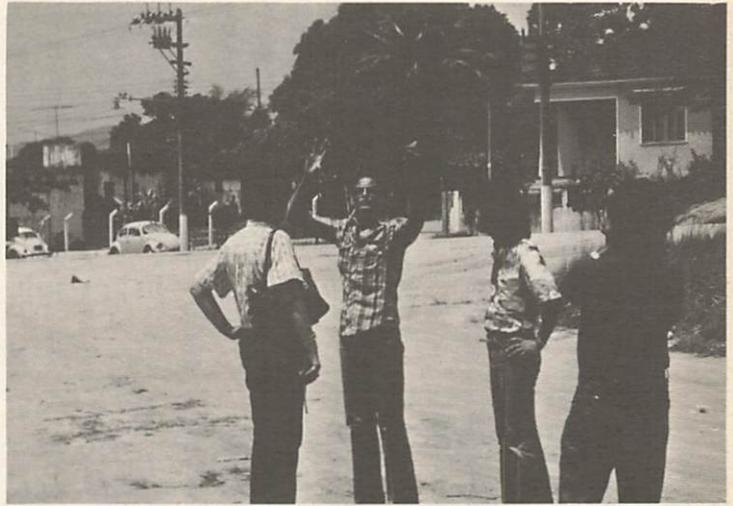
「GAPニュースレター」

第63号発行中

●本格的活版印刷・B5版・極上アート紙40頁●UFOに関連し他惑星における偉大な人類存在の認識と宇宙法則の探求専門誌
主要記事 ■ 世界の変動 Gアダムスキー 若さの泉-老化の時計 アリス・ウェルズ 昭和52年度日本GAP総会開催 フレッド・ステック リング氏夫妻の講演 / その他有益な記事写真満載

入会希望者は50円切手宛名明記返信用封筒を同封の上「UFOと宇宙」4月号で見たと書きそえてまず案内書をお申し込み下さい。入会は高校生以上に限ります。非会員に機関誌の1冊売りはしません。

〒133東京都江戸川区本一色町365-818 日本GAP(主宰)久保田八郎



▲解放されたアントニオが視線を上げると、鉛色の底面を見せて滞空していたUFOは、やがて静かに遠去かりはじめた。

カルボネル・ダビッド博士は、次のように証言している。

「彼のようすは、一見してわかるほど具合が悪そうでした。顔色は真っ青で、全身がブルブルとけいれんしているようでした。熱をはかってみて驚いたのは、彼の体温が42度もの高熱だったことですが、それよりも不思議なのはこのような高熱が診療室にいる間にいつの間にか平熱に戻り、再び42度の高熱にまで上がるといふことをくりかえしたことです。こんなことは通常考

えられないことなのです。そのうえ彼を裸にして診察してみると、

身体の内側に赤い斑点が、まるで火傷のようにできていて、しかもそれがわれわれの経験から言っても、どのような原因によるのかまったくわからないものなのです。彼にいろいろ聞いたとしても、ただ身体中が痛く、のどがかわくというばかりでした。彼が私の診療室にくるまえ、何か異常な体験をしたことは確かだとは思いません」

ダビッド博士は心理学的専門家でもあるのだが、博士のアントニオに対する心理学的所見をきくと、

「アントニオは、通常の人よりも義務感の強いほかはごく健康な精神状態の持主で、IQ指数は、むしろ普通よりも高いと思われる」という。

■友好的な宇宙人

ばかりではない!

その日、身体の痛みやのどの乾きをがまんしながら1日の勤務を終えたアントニオは、帰宅した夜から、いっさ

いの食物を受けつけなくなり、夜も眠れず、身体が焼かれるような感じはますます激しくなったのである。

土曜、日曜と会社を休んだ彼は、月曜日、やっとの思いで出勤すると、辞表を提出した。

彼の症状は、ひどくなる一方で、この日はついに、煮えたぎったお湯の中にはうりこまれたような感じになってきたからである。

辞表の理由を会社にしつこく問いただされた彼は、とうとう妻にも話さなかった、UFOに誘拐された奇怪な体験を話しはじめたのである。だが、彼の話をもとにきいてくれる人はいなかった。

「らしい、彼は職を失い、健康をそこね、今日なお、食欲がなく、焼けつくような感じと、ときどきおそつてくる全身の痛みを耐えて寝たり起きたりや生活を送っているのである。

「もし、不幸にして、私のような目にあつたら、絶対にそのことをだれにも話したりしないことです。そうすれば、少なくとも、気遣いあつかいされるのだけは、まぬがれることができずからね」

とアントニオは弱々しく笑った。

『未知との遭遇』……つまりUFOとの第3種接近遭遇には、このような不幸な出会いの仕方もあるのではないか。

前にも書いたように、この事件に非

常に似ている、アメリカ/ミンシッピ州バスカグーラの事件では、若い造船工のカルビン・パーカーが、事件後とうとう本当の精神異常になって病院に入院することになったし、同じブラジルでも、1975年に起きたバラ・ド・ビライ事件では、2人の若いOLがUFOからの光にさらされた後、そのうちの1人は数カ月後に死亡、もう1人も病気になるという不幸な結果に終わっている。

今回の調査に同行してくれた、APRO(空中現象調査機構、本部はアメリカアリゾナ州)のブラジル支部長、イレネ・グランチ夫人は、次のように言っている。

「宇宙人は、地球での戦争や災厄(さいごく)を見るに堪えてわれわれ人類を救うためにやってくる救世主だ、といったようなロマンチックな夢ばかりは見えていられない時代になってきたということではないでしょうか」

宇宙人とのコンタクトにもいろいろなケースがあり、友好裏に終わる場合もあれば、彼らにとっては何でもないことでも、われわれ人類にとっては大変不幸な結果に終わることもあり得るのです。

ひとつ言えることは、私たちは、いつこのようなできごとに出会っても、驚かないような心構えが必要だということでしょう」

グランチ夫人が調査したブラジルで

の事件には、このアントニオの場合とよく似たものもあるという。

メンドーサ・パンネッティ・ピレガスの場合は、やはり宇宙人によってUFO内に連れこまれ、左手の中指から、同じように血液を抜きとられている。しかも、テレビの画面のように、いろいろなシーンを見せられたことまでそっくりなのだ。

また、1969年にベリッツィで起きた事件でも、やはりUFO内で、テレビスクリーンのようなものを見せられたというし、私自身が今回のブラジル行でインタビューした、1976年のエルミニオ・レイス氏夫妻の事件の場合にも、同様にテレビスクリーンを見せられているのだ。

宇宙人たちは、これらのスクリーンイメージを見せることによって、いったい何をわれわれに知らせようとしているのだろうか？

少なくとも、われわれが彼らに危害を加えようとしたときは、必ず手痛い反撃に会うぞという警告を発しようとしていることだけは確かかなように思われる。

私が今回の取材行で訪れたポリビアには、2000年以上もの昔から、地元の人々が「月の谷」と呼ぶならわしてきた奇怪な風景の谷がある。

行ってみると、それはいかにも月の谷の名にふさわしい荒涼とした景色

で、アポロの宇宙飛行士が見た月の景観もかくやと思われるほどである。

それらは、いわゆる土柱といわれる、自然現象でできた土の柱の大群からなる峡谷で、水の浸蝕作用によるものである。

これ自体は、何の不思議もない自然の景観のだが、不思議なのは、2000年もの昔、インディオの祖先たちが、なぜ、月面の景色がこのような姿であることを知っていたのかということなのだ。

ひょっとすると、その頃もうすでに彼らは第3種接近遭遇を経験していたのではないだろうか？

そればかりか、彼らのある者は、訪れた異星の宇宙飛行士に連れられて、宇宙人の月面基地に行ってきたことがあるのかもしれない。

アントニオの体験談が、本当であるかどうかは確定できないまでも、同じような事件が、私自身やあなたの身のうえに起こっても不思議ではない時代に入ったのではないだろうか？

現にわれわれ人類も、月をはじめ、火星、木星、はては太陽系の外にまでも、宇宙船を次々に打ち上げているのである。

異星に住む高度な文明を持つ生命体が、同じことを考えないとだれがいえるだろうか？ いまや、われわれ人類も宇宙時代のただなかに生きていることを再認識しなければならぬ。(完)

精神と秩序とエネルギー 《7つの質問》

- 宇宙とあなたを支配しているものは？
- すべての存在の背後にあるものは？
- 万物は超自然によって創られたか？
- 精神と秩序とエネルギー、これは意識の一言で説明できるのではないか？——そして、その背後には……
- 宇宙の普遍的意識というものがあるのでは？
- 意識は死後も生存し続けるのだろうか？
- 人間には未使用の未知の自我の力があるのだろうか？



▼バラ十字会は、長い歴史をもち、宗教・政治団体とはまったく無関係の立場で、哲学的探究を目的としている同人組織です。本会は、幾世紀も保存し続けてきた未公開の英知を、希望者に対して通信教育方式により一般公開する活動を現在、世界63カ国で行なっております。

▼古代の奇蹟と方神秘として伝承されていることの裏面には、古代人が探究した自然の法則、人間の精神の働きの意外さ、人生の諸問題の対処のしかたなど、ユニークな視点、英知の数々が内包されています。

●詳細を説明した小冊子「人生を支配する」(日本語版)を無料でお送りします。下記にハガキでお申込み下さい。勿論、送料や責任は一切ございません。なお、教材はすべて日本語になっております。

■申込先=〒165 東京都中野区若宮2-49-16 バラ十字会 日本本部AMORC事務局U-5係

The ROSICRUCIANS 米国カリフォルニア州サンノゼ市 バラ十字会AMORC 世界総本部

空飛ぶ円盤とオカルティズム

2

●平野威馬雄

宇宙人は優れたテレパシストか?

われわれの、古くさい科学でも、一つの真実には、忠実だった。つまり、宇宙について、これからさきも、数知れず発見されるべき事柄がのこっている——と、いう認識である。

だが、この場合示しているのは、基本的に「死んだ宇宙」であり、「メカニックな宇宙」なのだ。

科学者というものが、偶発的な事故を調査する役目しかもっていなかったという事は、科学者自身が偶然の所産だったことに深いつながりがあるのだ。

だが、今の、いや、これからの科学が指向するものは、人間の知識における新しい時代の幕明けの意味の探求でなければならぬ。

つまり、今までのように、科学が偶然を調査するかわりに、「意味」の探求へと矛先を変えないことには、宇宙の波動のひとかけらすら、つかむことはできないだろう。

原子物理学のはたらく余地は、同時に、オカルト現象にも十分の余地をの

こしている「宇宙像」の把握とも関係してくるだろう。

テレパシーや、レヴィテーション（浮揚）、テレポーテーションをはじめ、降霊現象、小人、未来予知、物体の自働的膨張と収縮などのような、科学的論理にさからうような、オカルト的現象が、ひんばんに、FS（円盤）の上にくりかえされるといふ事実の前で、在来の科学者たちは、一応謙虚な態度で「宇宙の意味」探求の大きなキイを把握するための作業を開始すべきだと思う。

わたしたちの周囲には、オカルティストの眼力と、それから生まれる直観によってしかつかむことのできぬ「意味」が、無数に浮遊しているのだ。コリン・ウィルソンも言っているように、私たちをふくめて、科学者たちですら、習慣や無知や五感の鈍さによって、新しい直観のはたらきを遮断されているのだ……だが、原始時代から、手つかずで保有されてきた人間というラジオが、未知の震動をキャッチする



能力をはたらかせる時は、今をおいてはない。

このはたらきが、オカルトの世界にメスを入れるのであり、そのはたらき自体がすでにオカルトの承認なのだ。オカルトという語は、未知なるもの、かくされているもの……を意味するのだが、コリン・ウィルソンは、これについて「ひょっとすると、オカルト的視野でとらえられるものは、決して、偶発的なものではなく、むしろ、理知的宇宙が、私たちに通信しようとしているものかもしれない」と言っている。

ぼくはFSを1から10まで実証的対象としてのみ認めようとする証拠万能主義のあまりにも枯渇した無味乾燥ないきかたにすっかり、けん怠を感じてきたのである。

FSと、その千変万化の擬態を通して、宇宙には、もし私たちが手数を

かけさえすれば、キャッチできるであろう意味が充滿しているということ”を認める手引きをつかむことができるならば、そこには言いしれぬ解放感と、ロマンがみちみちていることをみとめずにいられない。

そして、この楽しいロマンには、かくれたもの、オカルトへと、心の震動をみちびく力があるのだ。

旧約聖書の時代から現代まで無数に飛来してきたFSの存在によって、宇宙は、科学者たちですら認めたがらないほど、奇妙であり、興味深いものであることを教えられるのである。

そこで、とりあえず、キャプテン・マッケイが『フライング・ソーサー・レビュー』でとりあげたテレバシーか

空飛ぶ円盤の秘密は思いがけない所に潜んでいる?! いよいよ佳境に入る筆者の円盤論は、次々と興味深い事実を明らかにしていく!

らすすめていこう。超常的能力ではなく感覚的能力であるテレバシーの開拓者ともいべきJ・B・ライン博士は、つねづね、テレバシーは決して「物理的」なものではないと主張していた。キャプテン・マッケイは「見方によれば、テレキネシス(念動作用)の一種ともいえる」と言っている。つまり、手を触れたり一切の物理的な力などなしに、ただ心霊の力で、発生する運動の一種と見ている。テレバシー

研究はアメリカでもソ連でもさかんに行われており、イギリスのケンブリッジ大学でも実験がくりかえされている。レングランドには専門の官立ラボラトリーがテレバシー研究に当てられている。東側でも西側でも今日では、真剣にテレバシーと取り組む、科学者や軍部の要人たちによって、さらに進められている。

テレバシーをあくまで科学的事実としてとりあげるとすれば、過去数十年リポートされてきた「コンタクト報告」におけるテレバシーによるコミュニケーションも当然、科学的事実として考えなければならぬわけである。

それはともかくとして、テレバシーが、円盤操縦者(ユーフォーノーツ)と地上の人間との間のコミュニケーションに用いられるという突飛な事実をわれわれはどう解釈すべきか……である。

宇宙のどこかの星に住む者から、強

烈なテレバシーがおくられてきて、それを受けた地球人が、やむにやまれぬ衝動で、近くの丘の上とか特殊な場所に行かずにはいられなかった例が、過去数十回にわたってくりかえされている。

事は少し旧聞に属するが、ステイブン・ダービシャーという少年が、1954年の2月のあるじめじめした1日、レイク・ディストリクトにある低い丘にどうしても登っていかずにいられなかった。8歳になる従弟のアドリアン・マイヤーをいっしょにつれていった。「小鳥の写真を写しにしよう」といつてつれていった。丘をのぼっていくと、突然、円盤状の飛行物体が垂直降下してきたので、ステイブンはアドリアンの腕をつかまえた。この時、すばらしくはっきりとした写真を撮る事ができたという。

これはテレバシーが、同時にテレキネシスであった……という例の一つとして考えられるケースである。つまり、テレバシーが同時に、人物を丘の上に移動させた……というわけである。立派に超自然的現象であり、オカルトに属するケースである。

以心伝心という言葉があるが、テレバシーもその一つといえよう。名を秘してくれというので実名は記せないが、1965年の9月1日に1人の男が、だ円形のUFOが着陸しているのを見た。中に人間のような生物がいて、



▲UFO研究者、ジョン・A・キール氏

この男にさかんに身ぶり手ぶりをしてみせ、しきりと何か伝達したがつている様子だった。男はさっぱりわからずまごつているので、その生き物はあきらめて円盤の中に入ってしまった。このケースにおいてテレパシーがどのようなに働いたかという点、この男が、その日は森から、そこ（円盤着陸を目撃した場所）に行きたくてたまらない不思議な気持ちになっていた……という事によって裏づけられる。

このような、コンタクトとテレパシーとの関係を証明するケースは、すでに、伝えられるところによれば、アダムスキーや、ベサラム、ダニエル・フライヤデレンバーガーやその他多くのコンタクティーたちによって、経験されている。

それから、いろいろのコンタクト・ケースを通して、かんがえられることは、ユーフォノーツ（宇宙人？）が、通常、お互いに意思を交換する場合、言葉を媒介とする代りに、テレパシーによるらしいという推測が、かな

り客観的事実に近いとされている。つまり、かれらはテレパシーの技術に大へん優れているということである。

だが、これまで伝えられて来た幾多のコンタクト例に於て、地球人に対して、それぞれの国の言葉をもってコミュニケーションしたという話もある。

UFOは4次元の世界から来た！

これは、ぼくも数回目撃していることなので、いたずらに奇をてらうわけではないのだが、静岡県用宗海岸で21年前の秋、数日間つづけて、午後7時半ごろから数十分間、関西（？）の方角から数機の円盤が編隊をなして、東方にむけ、（富士山方面にむけて）飛んで行くのを、多くの人々が見ている。放送局も力強くこの事実を流した。だから、その時刻には、たちまち100人をこえる人々が、用宗の海辺に集って夜空を見上げた。利にさとい商人が、たこやきや、たいやきや、おでんの店を海岸にならべ、UFOファンたちを相手に大もうけしたほどである。

ぼくは二晩つづけて、はっきりと見た。ところが、ここで、はじめて、円盤が、文字通り、オカルト的特性を発揮したのをキャッチしたのである。

FSの光点（かなり大きかった）が、パッと消えた……と、同時に、はるかへだてた上空に、そのままの編隊

すでに数十年來、地球にはラジオやテレビがあるのだから、彼等がそれを傍受し、語学を修得することも不可能ではないわけだ。

だがその方法や詳細については、残念ながらまだ、神のみが知り給う……と、いうほかはない。

形で、パッと現われるのであった。つまり、瞬間に姿を消し、消えると同時に、全く違った空間に、現われる……である。目撃者のすべてが、あ然とした。

これは、明らかに、マッドとデマットの現象である。

つまり、Materialization(物質化) Dematerialization(非物質化)現象である。

ここで、ぼくは、ほんとに不可解なことだが、UFO現象と、降霊現象におけるエクトプラズムによる物質化作用との間に何か、深いつながりというか、類似性があるように思えてならないのである。

降霊術の部屋でのセアンスにおいて、霊媒を仲立ちに霊体が現われ、物質化(肉体化)と、非物質化現象がおこなわれることは衆知の事実であるし、それは、専門語でアポルト(幻姿)と呼ばれる心霊現象の一つである。ところで、UFOは、はたして、他

の次元から、われわれの次元にマテリアライズするのであろうか？

UFOには、不可視的物体からわれわれ地球人の物理的宇宙に可視的な物体となつて、自らをあらわす能力があるのだろうか？

つまり、四次元界から三次元界へ転位する力がUFOにはあるのだろうか？ あるとすれば、それはまさに、魔術であり、オカルトそのものといわなければならない。

ミード・レーン博士という学者は、『天の使の到来』という本を書き、その中で、宇宙人のことを「イーセリアン」(霊人?)と呼んでいる。そして、FS自体が霊的性質をもっていると言い、1955年に『フライング・ソーサー』誌に、「マッドとデマッド」という小論文を特別寄稿した。

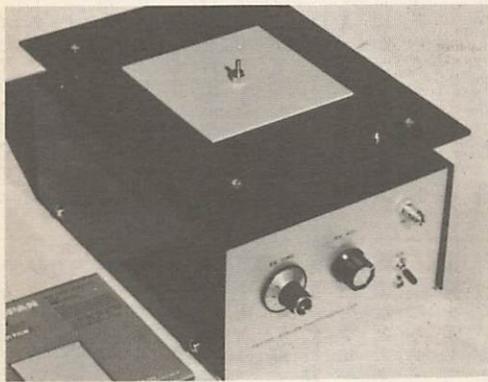
その大要を抄記してみる。

「すくなくとも、UFOの動きとその形態を観察すればするほど、そのスピードや温度や激しい動作その他が、われわれの考え得る物理的常識をはるかに超越していることがわかるのである。

現にこれまで幾度か着陸したFSの構造その他をしらべてみればみるほど、そのような超物理的な点が明らかになってくるのである。

ひとたび、エネルギーの反転がおこるや、UFOは、とたんにはつきり姿をみせ、手で触ることもできる固体に

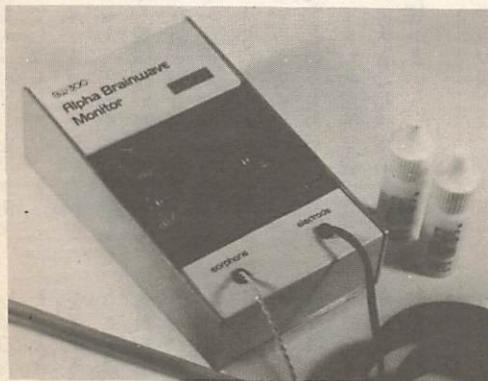
キルリアン写真 & バイオフィードバック



キルリアン写真セットTKP-101(写真)
素晴らしいキルリアン写真の世界をその目で確かめて下さい。カメラは必要ありません。
¥28,650(送料共)付属品、説明書付。

キルリアン写真キットTKP-102K
キルリアンセットTKP-101の高圧コントロール部及び付属品のキットです。あなたのセットを組み立てて下さい。
¥12,200(送料共)説明書付。

ESPテスター TES-03
エレクトロニクスを応用したESPテスターです。あなたの子知能力を測定できます。
¥3,500(送料共)説明書付。



バイオフィードバック・モニターBW-300(写真)
アルファ波を感知し、トレモロ音で知らせます。ストレスを取り除き、集中力を養えます。
¥21,600(送料共)説明書付。(輸入品)

カタログの御請求は下記まで

(株) テクノニクス

〒326 足利市鹿島町1156 ☎0284(62)8073

なる。そして、振動率が再び反転すると、とたんに見えなくなってしまう。着陸時のUFOの材質が、明らかに鋼鉄ということが判明しても、それはもともと、エーテル的鋼鉄(霊的鋼)なのである。してみると、エーテル界には、すべての金属の原型が存在していると思われる。たとえ化学的分析が根本的な相違を主張しても、それはべつに何の矛盾も生まないのである。反転のプロセスが、マテリアリゼーションとデマテリアリゼーションを生むのである。(ここではかんたんに、マトと、デマトと呼ぶ)

マトの究極はデマトに至り、デマトの究極はマトに至る。(これは音響や色彩におけるスペクトラム現象と同じプロセスなのである。音の究極はもう耳にきこえない、また、色の究極はもう、目に見えない……)。だから、可触物のスペクトラムも存在すると考えていい。つまり、可触物(固体)の究極は、不可触物(霊体)になる……我々の飛行機の普通の材質は希薄である。そして原子核とエレクトロンの間の間隔は非常に大きいのである。エーテルの極度に濃密な材質は、地上の物体を自由に透過し、そこには何のフリクションも起さない。けれども、エーテル性物体の振動率がゆっくりと低下するや、濃度は減少し、我々の視覚に入ってくるのである。"

どうも、このレーン博士の叙述には、理解しがたい点が少なくないけれども、一応の興味はある。ことに、それが、宇宙人を霊人と呼び、「人」というのは、必ずしも我々の常識で理解できる「人間」というのとはちがうらしいのである。どうやら「肉体」をもち、この現界(地球)に住んでいるソレではなく、ただ、時々地球を訪れるにすぎない「人」なのである。

かれらが皆同族だと考えることも、さらにかれらがみな同じ道徳的観念をもち、同じ進化をたどっていると考えられる。アメリカの有名なUFOライターであり、古くからのUFO研究者、ジョン・A・キールは代表的著作「UFO—トロイの馬」という本の中で、次のように書いている。

「むかしからいろいろと霊界を取扱って来た本をよむと、デビルとデーモン(両方ともアクマ)が、いろいろな人間に姿をかえて、天使からぎよろ目の魔鬼や怪物の姿をつくりに見せるといふ。パッと姿を現わしたかと思つと

瞬時に消えたり、すべてがUFOのしぐさ、とそっくりである。そして、円盤をややつているすばらしく高度に文化の発達した宇宙人のやっている事と同じようなマネをするという。壁を透かして歩いたり、空中を歩いたり、すべて超自然的な行動を自由にやっているので、昔の本にでてくる、デビルとユーフォノーツと、まったく同じだ。”

この、ジョン・A・キールというUFO研究家の手口にかかると、宇宙人自体が、オカルトそのものになってしまふ。

ところで、オカルトの世界でも、過去と現在では、悪魔の取扱いが大分ちがってきていて、悪魔のしぐさ、つま

ジャック・バレーとキールの円盤論

再びUFOの変幻自在な力に考察をもどそう。

フランスの技師ジャックとジャニース・ヴァレー夫妻の『科学への挑戦』という本には、UFOの完全なデマツト現象について、細大漏らさず描かれている。

ここで一寸、この、ジャック・ヴァレーという人の対談を『空飛ぶ円盤の新时代』より抄記しておく。

質問者は、ミシェル・アンフロール氏で、アメリカのスタンフォード大学の宇宙研究所でおこなわれたものであ

り超自然的行為（これを古くから、マジックあるいは魔術と呼んできた）が、じつは、過去の科学ではなく、未来の科学であり、それは人間の精神に、まったく新しい力（これをしも、かつてはマジックと考えた）を与えるであろうという点にまで到達しているのだ。

宇宙人は、我々が悟っているよりもはるかに偉大な力を持ちつづけてきたのだ。その力とは、テレパシー能力、危険を予知する能力、第三の眼、治ゆ力などである。

現にユリ・ゲラーはその初歩的パターンを示してくれたが、彼がつねづね言っているように「超能力は人間精神の本能的、動物的な遺伝承物の一部にすぎない」のだ。

る。

問——宇宙人とかUFOとのコンタクトの場合、それを体験した人は、超感覚的な事柄として受けとめているのでしょうか？

答——コンタクトの場合その殆んどが、超感覚的なものとして受けとめられています。

問題は、円盤現象が、心霊的なものか、或は単に、人間の頭脳による生理的なものか、そのいずれか……ということにかかっていると思うのです。

問——これまでの多くの円盤着陸ヶ

ースから、円盤のオリジンを引き出すことができるでしょうか？

答——私はリポーターだが、物理学者ではありません。円盤を間近に観察する場合、最も興味深い事は、文字通り、UFOの接近という語義通り、その緊密な目撃が意味する多くの侵略です。つまり在来の科学が如何に無理解で無力かということの把握です。そして、「時間」というものが、今日われわれが学んできた物理的学説の認めそれと如何に大きな相違があり、如何に、より複雑かという事の理解です。

我々の抱く時空の観念はごく初歩的で幼稚なものにすぎません。それは現代物理学によって日常くかええられている体験とは全く相容れぬものなので

私は、今ここで、量子力学と相対性原理の間の明白な矛盾があると云い張って物理学者達の秘密をあばこうというわけではないのです。

この大宇宙のいたるところから、人々は現に実行しつつある一連の観察の合理的行き方で何かしら新しい真実をつかもうとやっています。そして、今我々が当面している空飛ぶ円盤にしてからが、他の多くの未解決課題の中の一つとして、その解明を求められている問題にはかならないのです。

円盤の存在ということがそのまま、異星の文明による来訪ということにつ

ながるとまでは断言できないにしても、大きな度合いにおいてその可能性を考える材料にはなると思う……という事は、この大宇宙の多くの星に、無数の生命が存在しているという想定ともつながるのである。と、同時に、

その生命（つまり異星人達）が、はるばるこの地球に来て、我々地球人やその他いろいろのものを探求しているという事も、確実に想定できる。そして、この地球の隣人としての銀河系周辺を往来しその途中、我々を訪れるという事も考えられる。さらに興味ある事は、そのような訪問がすでに2万年余の昔からしばしばくりかえされて来たということ……信頼すべき、多くの歴史がこのことを裏づけている。この事は「時間」の構造とその操縦の如何なるものかを暗示している。それをただ単なるヒポテーズとして考えることは間違いです。

FSのオカルト的性質について論ずるときかならずついてまわるのは、「時間」と「空間」の問題なのです。

宇宙のビジョンを超越する言語の真実を表現しようとするようになって努力することは、決してつまらないことではない、しかも、その場合、どうしても、不条理な形のもとにそれをしなければならぬのです。人間の大きな神秘的なテキストを言語にうつすという事は、どうしてもそうしただモデルの不条理性の上になければならぬの

です。

ジャック・ヴァレーの論理には、最初からオカルトの承認という暗黙の契約がひそんでいる。

だが、ヴァレーが、次第に円盤がオカルト的なものだとの推測を確立していったのは、それなりの動機(契機)があったのだ。

つまり、かれとても、我々同様、最初はごくノーマルな姿においてのFSを目撃したことから、好奇心をつらせ、ついにオカルト的性質をFSに発見せざるにいらなくなつたのである。

『フランス・ソワール』誌と1957年9月20日刊の『ラ・トフィニス・リブル』誌に、「1957年9月16日、グルノーブルの2人のエンジニアが目撃した」不思議な物体のリポートが出ていた。

以下、その内容である。

「我々は4個の黒い飛行物体が現われて上空にとまっているのを見て驚いた。それは飛行機ともヘリコプターとも似つかぬものだった。宙を泳いでいる円形物体という印象であった。軽気球でもちろんなかった。物体の一つが全く突然、物凄いきびで急直下し、完全な無音のうちにパッと消えてしまったのを見るに及んで我々の好奇心は最高潮に達した。この3機は、はつきりと姿をみせて空中に残留していた。かと思うと突如として、互いに

はなればなれとなり、5分から7分間、ふわふわと浮いていた。それから、急に3機が鬼ごっこしてつ追われないに、西方に向って追いつ追われつとしてついに、見えなくなった。と、今度は東の方から五つ目の円盤がとんできて、猛スピードで宙をよぎり、サン・テナールの上空に消えていった。これは最初の目撃から5分後のことだった。

これについて、ジャック・ヴァレーは「まさしく、次元の異なる世界へ侵入していった一つの例だ」と云っている。我々いずれば死ぬにきまつている人間の世界から、不可視、不死の領域への急直下……だと云っている。

そして、さらに、UFO現象をオカルト的脈絡においてとらえるジョン・A・キールの説の基本的な核心が、ヴァレーを一層、円盤心霊説に近づけていったとも思われるのである。キールの言葉の断片を左記に紹介しよう。

「心霊現象や悪魔研究では、固体的物理的物体が、物質化したり、非物質化したり、アポルトされたりする。立派な家屋が一瞬にして現れたり消えたりという不可解なケースも珍らしくない。

ユーフォロジスト達は、円盤の謎めいた推進力や反重力性について、かなり理論的で高度な学説をたてている。

だがわれわれは、これら妖怪的な飛行物体が、前述のように瞬時に現

われたり消えたり、さては、空中に上昇していく家屋と同質の資材で構成されている可能性を否定することはできない。それは、ただ単に我々の現実ないしは時空の持続の中に、仮の姿をみせたものにすぎず、いわば、電磁力の瞬間的作用にほかならないのである。多くのコンタクトティが立証しているように、それが頻度を低減し、固い物体の領域に入るや、はじめて、地上のものとなり、誰の目にもはつきり見えてくるのだ。だが、そうした現実世界に入ってくるためには、どうしても我々のこの世界から、飛行機なり、オートバイなり、動物か人間の血とか物質

のパーツ(常品)から吸収できる或種のアトムを必要とするのである。また、ある場合は、人間の知覚か、自動車のエンジンからエネルギーを吸収しなければならぬ。こんなことを言うのと、空想か夢のたわごとみたいにきこえるかもしれないが、我がこうした事実をキャッチするまでには20年という長い年月の不眠不休の研究を積み重ねてきたのだ。そして、通俗的に理解できるように説明を心がけてきたのだ。ジャック・ヴァレーは、一応以上のような、一寸つかみどころのない紙上の空論めいたキールの説に、虚心にぶつかつたらしい。(つづく)

本格的UFO研究団体

日本宇宙現象研究会

JSPS三大機関誌

研究誌 未確認飛行物体

日本UFO研究の粋ここに在リ。調査・探検・分析……充実した内容でUFO現象の本質を多岐にわたるUFO研究者の重要論文を多数掲載。写真・図版・複製。年1〜2回刊行。現在7号まで刊行中。1500部限定、非売品(会員配布)

情報誌 JSPS's UFO Information

もうマスコミにはたよってはいられない。早く詳細な情報を求めて。UFO研究の本質を本気で探る。誤りなき情報をついに創刊。正しいUFO研究は誤りなき情報から。年1〜2回刊行。現在8号まで刊行中。1500部限定、非売品(会員配布)

英文誌 Japan UFO Information

ここ数年の間休刊していた英文誌が、新しい気持ちで復活。現地調査に基づく正確な情報をより詳しく世界に報道する待望の最新誌。(近日創刊)

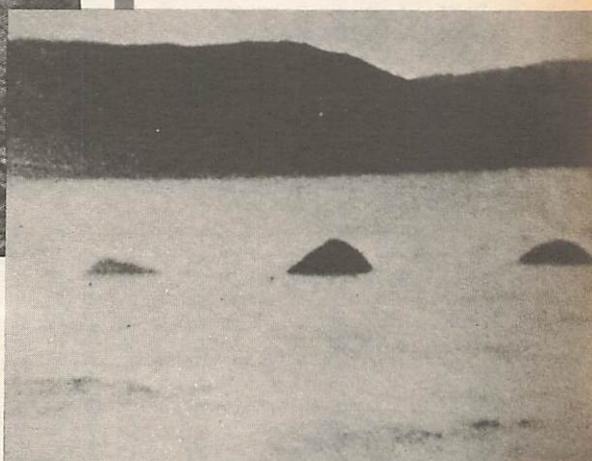
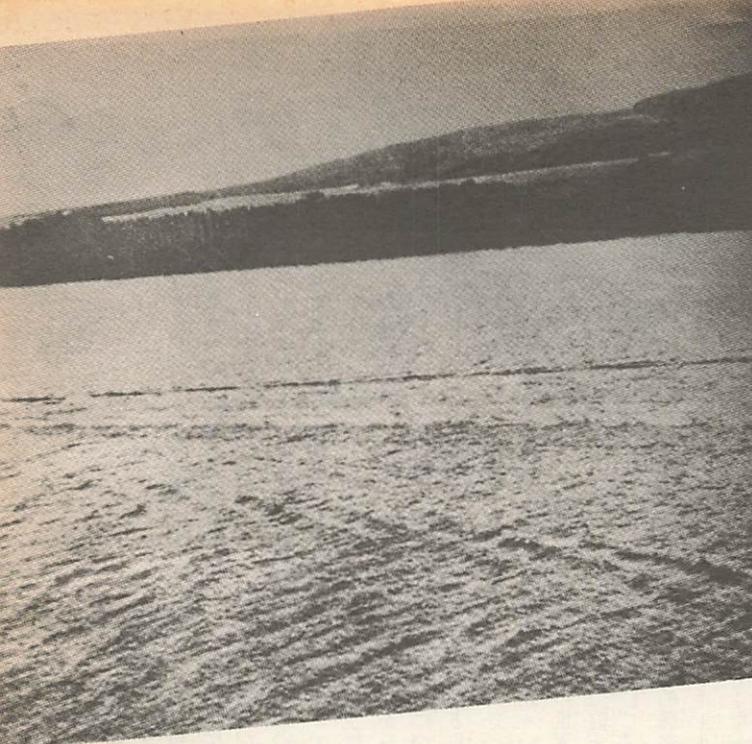
●本誌のみ会員外の方にもおわけします。入手法の詳細は後日発表。

年会費 500円(マーク入り会員証交付)
 ●入会費 1期2000円(誌代差引制、約1年分)
 ●入会費 希望の方は、住所氏名を明記の上、入金おまかせ
 ●入会費 希望の方は、振替、書留等でお申し込み

〒150 東京都渋谷区神山町5-2

日本宇宙現象研究会

振替：東京6-128740 (当会は非営利団体です)



▲1951年7月14日、ラクリン・スチュアートが撮影した、ネス湖上の怪獣のコブと思われる奇妙な黒い突起物。左の写真は不思議な波紋。怪獣の航跡か？

●UFO/ミステリー研究者 久保田八郎

ネス湖の

未確認動物は

実在する!?

完

■上陸した醜惡な 怪獣もいた!

ある会社のお抱え運転手でアルフレッド・クリュックシャンクという男がネス湖畔北側の旧道路をフォードT型の車で飛ばしていた。ときは1923年4月のある日、午前5時頃だ。こんな早朝に家を出たのは、社長のスビアン・ブリッジ氏がグラスゴーから列車で帰るのを駅まで迎えに行くためである。あたりはまだ暗

いのでヘッドライトをつけていた。インバーモリストン村の北方約3kmの所にある丘の頂上まで来たとき、突如、ヘッドライトが巨大な物体を照らし出した。前方40mばかりの道路のカーブの外側に、世にも奇怪な動物がうずくまっている!

驚いたクリュックシャンクはヘッドライトを消してカーブを曲がってから



●ネッシーの陸上目撃と、超音波探知機による最新の科学的成果で意外な事実が出た…!

ランド、サイディング

車をとめた。見ると背中に大きな1個のコブのついた長さ4mに近い見るからに不格好なブヨブヨした体、4mもあると思われる長い尻尾、前部にはブルドッグを大きくしたような醜悪な顔などが視界に入った。怪物は男の方をジロリと見ると、2本足でオットセイみたくにヨチヨチ歩きを始めて道路から湖水の方向へ去って行く。しかも、牛に似たすさまじい唸り声をあげたからたまらない。男はキモをつぶして一目散に車で逃げた。

ここで奇妙なのは、この怪物の姿態がいわゆるネッシーのもつパターンとは異なる点である。首が長くなって、むしろ、ずんぐりしたお化けのような短い首が胴に直接くっついていたのだ。高さは約2mで、水かきのついた足は4本あるが、歩行は前足の2本だけでおこない、地面に腹をひきずっていた。皮膚の色は黄緑色で、一見カバに似ているけれども、背が丸くて、長い尾も地面上に横たわっていた。

この怪物はむしろ先号で述べた潜水夫のダンカン・マクドナルドの目撃した「大ガエルみたいな気味悪い形」の怪物と似ている。もちろん現代の生物

学の常識とはかけ離れた生きものだ。

陸地での目撃例はまだある。1933年7月22日の午後4時頃、ロンドン洋服仕立屋の経営者、ジョージ・スパイサー夫妻が、スコットランドの北部へ休暇に行った帰途、ドールズ村とフォイヤーズ村の間点をオースティンでドライブしていた。ネス湖畔の曲がりくねった道路である。

「おい、あれは何だ?」

スパイサー氏が夫人に叫んだ。前方の道路の上方の山腹の茂みから、突然、大木の幹のような物がニュッと突き出て、路面へ降りて来たのだ! その「幹」には不格好な巨大な胴が続いている。よく見ると「幹」は長い首で、地上1m足らずの空間を急速にうねりながら進行している。道路をいっぱいにふさいだ様子から判断すると、胴の長さは6mあった。皮膚の色は象に似ている。そして夫妻の車が現場へ到着しないうちに怪物はすぐそばの湖水の中へ姿を消してしまった。スパイサー氏は車をとめて湖面を見つめたが、もう何の跡も発見できなかった。全長9mに達すると思われるこの途方もない怪物の尻尾は見えなかったけれ

ども、何かの獲物を捕らえて、胴のむこう側へ巻き込んでいたらしい。肩のあたりがふくらんでいた。

驚異と恐怖に震えながらドライブを続けた夫妻は、やがてフォイヤーズの住人、ウィリアム・マクロックが自車でやって来るのに出会った。こんなときは一も二もなく打ち明けたくなる。スパイサー氏は話しかけた。

「いま、道路上で、どえらい物を見ましたよ!」

「何を見たんですか」

「長さ9mもある怪物です。いやもう驚いたのなんの——」

「まだ道路にいるんですか」

「いや、もう湖の中へ入りました」

マクロックは少し疑惑の表情を浮かべた。あまり信用していないらしい。「でも、あなたがそんな物を見たというのはいいことですよ。この村でバスの運転手をやっている多くの友人も、やはり怪物を見たと言って、村人たちが笑いものにされているんですからね」

マクロックは自転車目撃現場へ行って、付近を調べてみた。すると草木がべしゃんこになって、非常に重量の

ある物体がひきずられたような形跡が残っているのを発見した。

「まるでスチームローラーが通った跡みたいだった」と彼は後に述懐している。これでスパイサー氏の目撃体験は物理的に立証されたわけで、これは湖畔の陸地で発生した怪物の出現事件としては最も有名なものとなっている。

だが、あらゆる人がこの事件を事実だと信じたわけではない。スパイサー氏がインバーネスのクーリエル紙に体験記を投稿して掲載されたため、センセーションが巻き起こり、真偽をめぐって論争が展開した。しかも新聞が事実をゆがめて伝えたというので、スパイサー氏についてはBBCラジオに出演して、『今夜、町で』と題する放送番組で真相を述べるとい段階に発展したのである。だが攻撃の声は静まらなかった。「商売を拡張するための売名を狙ったデッチアゲだ」という非難も少なからずあった。

そこでスパイサー氏は翌年、本誌先号で述べた例のエドワード・マウンテン卿主宰の探険隊の隊長であったフレイザー大尉にネス湖で会見して、体験の詳細を伝えたのである。これについて大尉は好意的な態度を示したし、ネッシー研究家のルパート・グールドもスパイサー氏に会った後、「彼の話は全くの真実だという印象を受けた」と述べている。

しかし研究家のモリス・バートン

はこれに反論し、スパイサー夫妻の見
たものはカワウソの家族が列をなして
進行する光景ではなかったかと言う。
こうして「見た」「見ない」をめぐ
つて、研究者間でまたも論戦が展開し
た。UFOの場合と全く同じである。

■おまえはやっぱり

本当に見たんだ!

ところがスパイサー事件から数週間
後の8月の第1日曜日に、M・マック
レノンという婦人が陸上目撃を体験し
たと言いだしたのである。

この日彼女は家族づれで教会に出席
するために湖水を船で渡っていた。そ
してフォイヤーズ村側のホイットフイ
ールド付近にあるアークアート古城の
船着場に着いてからまもなく、怪物と
遭遇したのである。

そのとき彼女は先頭を歩いており、
夫と2人の息子はあとからぶらぶら歩
いていた。ひょいと前方を見ると、奇
怪な動物が湖畔の陸地に腹ばいになっ
ている。日光浴をしているらしい。短
くて太い4本の足を伸ばしている。体
長は8m近くもあり、皮膚は象に似て
いて、背中にコブらしい物が数個つ
いている。

仰天した彼女は大声で後方の家族に
呼びかけた。しかしその声に驚いたの
はむしろ怪物のほうで、あわてて2本
の前足で体を起こすと、アザラシみた
いにヨチヨチと歩き始め、あつという

間にそこから2m足らずの水面に飛び
込んで、すさまじい飛沫を上げた。夫
と息子たちが走り寄ったときは、すで
に跡形もなかった。したがって目撃し
たのは夫人だけである。

だがこの事件はスパイサーのそれほ
どに広まらなかった。この頃は目撃報
告が連日のように新聞社に殺到して、
情報過多となり、人々もいささか食傷
気味になっていたからだ。加えてロン
ドン動物園の水族館長ブレンジャー
が、すべてナンセンスで大衆幻覚だ
という説をオブザーバー紙に書いたた
りため、論争はますます広まった。

一方、目撃報告は絶えることなく、
今度はアーサー・グラントという21歳
の獣医学学生が、翌年すなわち1934
年の1月5日、ランド・サイティン
グをやつたと報告したのである。この日
彼はインバーネスからドラムナドロク
トの自宅へむかってオートバイで深夜
の1時頃湖畔の道を飛ばしていた。月
がこうこうと照り輝いて昼間のように
明るい。ロケンドから5km近くのア
ブリアチャンのカーブへさしかかったと
き、前方の道路ぎわのヤブの中に黒い
物体がいるのに気づいた。それは長い
首と小さな頭であつて、これが人間の
気配を感じてギョッとしたりしく、あ
わてて2度ほど路上でバウンドして湖
水の中へ走り込んだ。体の前足が2本、
ヒレのようにひらひらしたが、後足も
見えた。体長は5mないし7mほどだ

つたという。帰宅してからすぐに目撃
した未確認動物のスケッチをし、弟を
起こして現場へ行ったが、何も発見で
きなかった。あとで2度目のスケッチ
をして詳細な部分を描き加えたが、こ
れは最初のスケッチとは違うというの
で、かえって疑惑を招く結果になつ
た。UFOの場合でもそうだが、目撃
した状況をスケッチする場合は、1枚
だけ正確に描いたら、あとは絶対に描
かない方がよい。食い違いが生じると
必ずたたかれるのである。

こうして獣医のタマゴでさえもイン
チキとして嘲笑の的になり、そのため
学校を1学期間休学する羽目におちい
つた。

だがこの年の6月に若い娘さんによ
るすばらしいランド・サイティングが
発生した。3日の朝6時30分頃、フ
ォートオーガスタスの修道院内のビム
レー夫妻宿舎でメイドとして働いてい
たマーガレット・マンローという若い娘
さんが、なにげなく窓の外をのぞいた
ところ、途方もなく大きな動物がホ
ラム湾の砂浜にいるのを見た。距離は
約300mある。すぐに双眼鏡を取り
出して観察したが、なんと25分間も見
続けたという。動物は朝の太陽の光を
あびて、ぶらぶらと砂浜を歩きまわ
っていた。

キリンのように長い首の先に小さな
頭がのっかり、皮膚は象に似て、胸か
ら腹にかけて白い。2本の水かきみた

いな極端に短い足がはつきりと見え
る。背中には大きなコブが2個あつ
て、わん曲した輪郭を描いている。や
がて動物はゆっくりと水中へ入って姿
を消した。

だがマーガレットの体験も疑われて
一部の研究者から追求された。こんな
に長時間目撃しながら、なぜ主人夫妻
を起こしていっしょに見なかったの
か? これが少女に対する疑惑の主な
点であった。これに対して彼女は、雇
われて日が浅かったことと、早朝のこ
とで、よく眠っている主人夫妻を起こ
す気になれなかったからだと言ってい
る。しかし、9時頃に夫妻が起きて姿
を現したとき、彼女は不思議な動物を
見たことを話した。

「えっ? なぜそのときに起こしてく
れなかったんだ」

地団駄をふんで残念がったビムレー
氏は、すぐに彼女や夫人とともに海岸
へかけつけた。見ると、たしかに巨大
な動物の体重の跡とおぼしきへこみが
砂浜にあちこち残っている!

「ああ、おまえは、やっぱり本当に見
たんだ!」

ビムレー氏は呆然として朝の陽光に
きらめく静かな水面を見つめた。

ともかくこの理解ある主人のおかげ
で、純真で正直な少女マーガレットは
ウソツきの汚名をかぶらずにすんだの
だが、ネッシー研究家て疑い深い側の
モーリス・パートンは、みずから30

0 m 彼方に大木を置いて、これを怪獣にみたて、双眼鏡で観測して実験を重ねた結果、短い前足が見えたというのはおかしいと結論づけている。こうした懐疑論者はある意味で捏造に対するブレイキの役目をしているので、それなりの価値はあろう。しかもバートンの反論は次のように控え目な紳士的な内容で、むしろ好感がもてる。

「……したがってマンロー嬢には先入観があったと思われる。この点では彼女を不当に扱うことになるかもしれないが、彼女の話はきわめて重要なので、綿密に調査しなければならぬ」

■全長18 mの大怪獣が出現

ランド・サイティングはこの翌月にもフォートオガスタスで1件発生したが、それきりであとはばったり跡絶えてしまった。水面でのそれらしい動物の目撃は続いたが、陸上には姿を現さないのだ。そして、次にそのなつかしい「勇姿」を陸地で見せたのは、実に26年後の1960年2月のことであった。ネッシーはなぜ臆病になったのか？

これについて研究家のニコラス・ウィッチェルは、湖畔の自動車交通量が急激にふえて、その騒音により警戒心をおこしたのではないかという。

2月28日の日曜日、画家でネッシー研究家のトークイル・マックロードは

フォートオガスタスの自宅にむかって、インバーモリストン村の南800 mの位置をゆつくりとドライブ中だった。彼はチャールズ・ディクソン卿が主宰する怪獣探険隊に参加して、湖畔をパトロールしていたのである。

「出たっ！」

大声で叫んだ彼は車をとめて、双眼鏡を手を外へ飛び出した。水際へ走り寄って彼方を見ると、湖水をへだてた向こう岸の狭い砂浜に黒い大きな物体がうごめいている。倍率8倍の双眼鏡を目にあてると、巨大な生物の体が半分岸に乗り上げて、細長い首を左右に振っていたが、急に体をU字型に曲げると水中へもぐり込んだ。姿を消す前に左側の前足が見えたけれども、それは足というよりもヒレであった。皮膚は象に似て、全長はおそらく18 mかそれ以上であろうと思われた。これは想像を絶した大きさで、他の目撃記録で報告されたサイズは、たぶんネッシーの子供のそれではないかという。

■ネッシーは

プレシオサウルスか？

さて、目撃記録類はまだ無数にあるが、いずれも似たりよつたりの内容であんまり列挙するとUFOの場合と同様に飽きがきて興味を失うから、ここで、怪獣の正体について考察してみよう。問題はいかなる動物なのかということである。太古のプレシオサウルス

の子孫か、魚の変形か、それとも両棲の哺乳動物なのか。

1万年ないし1万2千年昔、最後の氷河時代が終わった当時、ネス湖は海の入江だった。氷が溶けて海水が増加し、沿岸一帯は水で覆われた。だが陸地も隆起して洪水をはね返し、その結果、スコットランドには多数の湖ができた。したがって、ネス湖の未確認動物は、まだ海の一部であった頃にまぎれ込んでいたものか、または近代になって入って来たかの、いずれかであろう。ただしこれはネス湖に怪獣が実在するということを前提とした上での推論である。

もし近代になって——といっても6世紀頃からネス湖には怪獣出現の伝説が残っているのが、かなり相当な昔からを意味するのだが——やって来たものとすれば、ネス湖を通ったか、海から湖へ通じる未知の地下水路を通じて入ったか、陸地を這ってやって来たかの、どれかである。ネス湖は海拔が150 mもあるから、地下水路となれば登り坂となるから、これは不可能だろう。ネス湖を通過したとしても、この川は浅いから、容易に人の目につくはずである。海から上陸して陸地を旅して来たとは、まず考えられない。だいたいネス湖が選ばれた理由が不明である。とすると、やはり先史時代から棲息していた特殊な生物なのだろうか。そうだとすれば、いかなる生物か？

水中と陸上の両方で目撃された点からみて、これを両棲の哺乳動物と考える研究者が多いのは当然だ。これは人間をも含めて動物界では最も進化したもので、19種類あるなかで3種類のみが水棲動物である。つまりクジラ類(クジライルカ、ネズミイルカ)、ヒレアシ

動物(アザラン、セイウチ、アシカ)、海牛などだ。ネッシーは陸にも上がるので水棲動物を除外すると、半水棲ではカワウソという動物がいる。これがネッシーの正体ではないかと考える研究者がかなりいるのだ。カワウソの巨大化したものではないかというのである。だが体長10 m近いカワウソがこの世に存在するとはまず信じがたい。魚類ではどうか。いろいろ候補にあがったのは巨大なサケ、チョウザメ、エイ、フカ、ウナギなどである。だが首長竜に似た形となると、ウナギを除いた他の魚類は、巨大であっても縁が遠い。

首の長い点では大ウナギが筆頭にあがる。しかしネス湖でとれるウナギは怪獣よりもはるかに小さなもので、これがあの人騒がせな張本人、いや張本動物とは到底考えられない。

映画『ジョーズ』はフィクション(作り事)だが、あれほどではないにしても、サメ類にはたしかに巨大なものがいる。たとえば米モンタナ州のフラットヘッド湖にいるチョウザメは体長7 m、体重600 kgに達するという。し



▲1976年4月8日、記者会見の席上、応用科学アカデミーの会長ロバート・ラインズ、エジャートン博士、チャールズ・ワイコフの3名が怪獣を撮影したフィルムを調べて、その存在を確認した。

かし軟骨を持つ動物だ。これが陸地へ這い上がることは絶対に不可能である。なぜなら軟骨では陸上であればほどの大重量を支えきれないからである。そこで学者が目をつけたのは無脊椎動物だった。固い脊椎のないグニャグニャした動物なら、むしる陸地でも平気ではないかというのだ。1933年には有名な自然科学者のウィリアム・ビーブが、ネス湖の怪獣は巨大なイカではないかと主張した。これならば体長20m近いものの存在が考えられるという。だがセファロポッド(イカ、タコなどの頭足類)もネッシーの特徴とは

ほど遠く、現在のこの説はかえりみられない。

そして登場するのが水陸両棲類である。ネッシーが陸地でひなたぼっこをしている光景が見られた以上、この両棲類が有力候補にのぼるのは当然である。そこで、ネッシーはイモリの巨大化したものではないかと研究家のグールドは考えた。2億2千5百万年から2億7千5百万年昔の古生代後期には、大イモリやその他のお化けのような巨大な両棲類が跳梁していたという。気の遠くなるような大昔の光景をまるで肉眼で見たかのように学説を鵜呑みにするのはよくないだろうが、一応それに従うと、現代のワニに似たこれらの両棲類は陸上では厄介者であった。そして、イモリの大敵である巨大な爬虫類は1億5千万年昔の3疊紀にかなり絶滅したので、生き残った種がネス湖に棲息しているのではないかと。これは怪獣研究家マッカール教授の説でもあるのだが、イモリ説もいまひとつさえない。

そこで最有力な説として有名なのがプレシオサウルスの子孫説である。この大昔の爬虫類の英雄は7千万年昔の中生代に絶滅したと信じられていたが、まだ世界のどこかに少数生き残っているとも考えられている。海中に住み、魚を食べて生きる現代のダイノソア(恐るべきトカゲの意)の存在説は、もと大英博物館のデニス・タッカー博士

がとなえたもので、これが正しいとすれば驚くべきことである。

プレシオサウルスとは首長竜、または蛇頸竜ともいわれ、海棲の恐竜を意味し、ジュラ紀から白亜紀にかけて生存した。しかもこの化石がイギリス近辺で多数発見されたために、まだどこかに生きているのではないかと。ただどこか。特徴は首が長く頭は小さく、4本の櫛状の足があり、全長は5〜10mもある。古生物学者のL・B・ホルステッドによれば、プレシオサウルスとはもともと両棲類だったのに進化の後期の段階で海棲動物になり、水中で子供を生むようになったという。この一派であるエラスモサウルスの骨の化石がネス湖の怪獣と酷似しており、しかもイギリス諸島付近に存在したことが知られているともいわれるのだ。

だが、いくらなんでもこれらの古生物の化石は7千万年以上も大昔のものであり、それ以後の化石類は発見されていない。つまり生態史的にみて7千万年間で空白になっていながら、一方で、その子孫がどこかで生き続けたきたとは考えられないのだ。もっと具合が悪いのはネス湖の水温である。夏は水面がF58度、水底で42度である。これは冷たくて爬虫類に適した温度ではない。しかもプレシオサウルスとも空気を呼吸して水面近くに住んでいた。しかし頭の頂上にある空気孔のために、水面に顔を出さずにすむように

なったのかもしれないという。だがこれは仮説だから、あてにはならない。結局、どうみてもネス湖の未確認動物は大昔の首長竜の生き残りとは思えないのである。

だがオープンマインドをもって考えてみると、7千万年という長い年月のあいだには、かなりの進化が行われたとも思われる。プレシオサウルスが存在していた最後の時代に、人間に最も近かった動物は、トガリネズミに似た小さな食虫の哺乳動物であったというし、1938年には中生代に絶滅した化石魚のシーラカンスの近縁現世種が発見されたし、3億年前絶滅したと信じられていたネオビリナ属の一派である原始軟体動物が1957年に発見されている。こうみると、プレシオサウルスが生き残っていると考えてもまるきり不自然ではなさそうだ。『ネス湖の怪獣』の著者であるロイ・マッカル教授は次のように述べている。

「怪獣はこの低温の湖水中で特殊な適応性を発達させたのではないかと推測があるが、これはスジの通った考え方であり、大昔、一部の爬虫類が哺乳動物に変化したことでもわかるのである。たしかにオサガメ(ウミガメの1種)やミドリガメなどは温度に対する適応性を現在も持っており、これはネス湖現象の可能な解釈として爬虫類説をとりあげた我々の寛容さを正当化する」

要するにネッシーは進化したプレジオサウルスだというのがだ。

だがもうひとつ考えられるのは、ネッシーは我々にとって全くの未知の動物ではないかということである。これもあり得ることで、そういうことは絶対にとはだれにも断言できない。

一般にUFO問題につきまとはっきりと一抹の不気味な影に比べると同じミステリーにしてもネッシーはまだ可愛い存在だと言えるだろう。だがアメリカあたりではしばしばUFOと関連して怪獣が出現するのは、どういうわけだろうか。UFO現象の背後に恐るべき事実が隠されているのか、大衆幻覚か、それともすべてがデマなのか――。

■やはり何かがいる?!

UFOの科学的調査にはまだかなりの困難が付きまとうが、ネス湖の未確認動物の科学応用による探索はわりと容易である。とっとり早く言えば、魚群探知機を利用すればよいのだ。眼視観測の場合はノクトビジョンという便利な装置があり、これを用いれば夜間、水面から首を出したり岸辺に這い上がったりする怪物を真っ暗闇の中でも目撃することができる。しかもこうした武器はすでにネス湖で応用されてきたのである。

魚群探知機の原理はレーダー(電波探知機)によく似ている。レーダーの

場合は発射された電波が目標物にあたってはね返ってくる反射波を利用して目標探知、位置測定、距離測定などを行うのだが、魚探は超音波のバルス在水中に放射し、魚群からの反射波を検知して、魚群の存在やその範囲、距離などを知るのである。現在は数百kcに及ぶ超音波を放射して、かなり精密な結果が得られるので、特にアグリ網漁法によく用いられている。これをネス湖に應用すればよいのだ。

これを最初にネス湖で用いたのは1960年、ピーター・ペーカー博士の子備探検と、1962年のケンブリッジ・オックスフォード両大学合同調査隊である。だが結果はかんばしくなかった。これは当時の装置がまだ開発途上のものであり、応用技術が現在のそれに比べて未熟であったせいとも言えるだろう。しかし魚探はその後急速に進歩している。だいたい、水中を探るのにこれ以上便利な機械はない。潜水夫が強烈なランプを携行して直接水中へもぐる方法もあるが、まだ原始的で、大きな障害もある。しかもネス湖には特有の泥炭微粒子が水中に充満しているの、よほど強力なライトでも数mしか透さない。こうなれば音波探知機が断然有利である。

しかし魚探といえども怪獣の輪郭を正確に描き出すわけではない。1枚のグラフ紙上を数本の線が上下するだけだ。これでは怪獣なのか丸太なのか判

断に苦しむことになる。それに反射波の強さや大きさは物体の物理的な大きさに比例しているのではなく、音波を反射する物体の性質に関係しているのである。だから、体の大きな魚が必ずしも強い反射波を送り返すとは限らない。その他超音波による探知には複雑な要素があるけれども、ここでは省略しよう。一応言えるのは、水面から2~3m以内、または水底あるいは岸から1m以内にある物体は、魚探のスクリーンに探知されないということである。だがネス湖の怪獣が水面付近または単なる水底をねぐらにしているはずはない。おそらく、岸壁の岩棚の凹部をわが家にしていて、船から超音波が

放射されると――というよりも船そのものの存在を敏感に察知すると、急速にねぐらへもぐり込むのではなからうか。1960年と62年の超音波探知テストが功を奏さなかった理由もその辺にありそうだ。

■コンピュータによる探知

だが人間側も黙ってはいない。1968年、バーミンガム大学電子工学部長タッカー教授はブレイス博士、クリー博士とともに最新式のデジタル型音波探知機を用いて、8月に2週間わたるテストをネス湖で試みた。その結果深部で動いている巨大な動物と

★この眼で見よう! 謎と神秘に満ちた雄大壮麗なエジプト・ギリシア・ローマの遺跡群と、奇跡のルールドの聖泉を!

企画 第2回 エジプト宇宙考古学遺跡の旅

行こう! 古代の神々の国へ!

大成功を収めた第1回の中米宇宙考古学遺跡の旅に引き続き、今度はエジプトを主体にまたもすばらしいツアーを企画しました。参加者多数が予想されますので、早目にお申し込み下さい。(定員50名)

- 期間 昭和53年8月12日→26日(2週間)
- 費用 50万円弱(航空運賃・朝食付ホテル代・その他の費用を含む)。12ヵ月、24ヵ月分割払い可。
- 申込先 〒110 東京都台東区上野5-1-6、ヤマトビル ユニバース出版社ツアー係(140円切手同封お申し込みの方に詳細説明書をお送りします)
- 主要見学地
 - ＜フランス＞パリ市内、ルーブル美術館、ノートルダム寺院、モンマルトルの丘、サクレクール寺院、凱旋門、その他。
 - ＜パリより列車でルールド行き＞洞窟・聖泉・大聖堂。＜列車でヌベール行き＞サンジラル修道士のベルナデットの遺体。＜イタリア＞ローマ市内、パンテオン神殿、サンピエトロ寺院、バチカン宮殿、その他。
 - ＜ナポリ市内＞ポンペイ遺跡。＜ギリシア＞アテネ市内、アクロポリスのアテナ、ニケ、パルテノン各神殿、ゼウス神殿、コロント遺跡、ミケーネ遺跡。＜エジプト＞カイロ市内、エジプト博物館、ギゼーの3大ピラミッド、スフィンクス、サッカーラ遺跡、ルクソール神殿(これのみオプション・ツアー)、その他。
 - 久保田八郎(ユニバース出版社会長・UFOとミステリー研究家)
 - ユニバース出版社 株式会社トラベル日本
 - 国際アカデミック・センター ユニバース出版社
 - ギリシア政府観光局

- 同行者 催画力
- 共企
- 協

おぼしき物体からの反射波をキャッチしたのである！ この模様はオシロスコープに10秒ごとに現れて、それを16mmフィルムに撮影した。このデジタル型音探というのは、反射波がコンピュータに送られ、コンピュータがそのデータを分析してオシロスコープに送り、そのエネルギーパルスがカメラに連動するという、当時としてはすばらしい装置だった。

これはテンブル棧橋に設置され、ビームはアークアートの湾にむけて発射されたのである。

この一連の観測中に劇的な出来事が発生した。

8月28日の午後4時半頃、13分間連続撮影フィルムが巨大な物体を記録して、これはAと名づけられた。ところがこのAは約100mの半径で湖底から浮上しているのだ。次の10分間は潜航した。また分速36mで浮上して、スピードを時速15〜16kmに加速した。これは明らかに生命体の運動であって、無生物ではない。

このAは他の物体B、Cと合流したが、反射波からみると、AはBやCよりも5〜8倍も大きいと推定された。Bは、どうやら魚の群れらしい。一方、Cは時速27〜30kmに達し、分速135mで潜航した。この体長は6mあると思われた。

「物体AとCは明らかに動物である。これが魚だろうか？ 浮上と潜航時の

急スピードを考えれば到底魚とは思えないし、魚類の専門家も魚ではないと言っている」とタッカー教授は報告している。

しかしイギリスの有名な科学誌『ネイチャー』は、この調査結果をひどく攻撃した。その攻撃は、教授たちが用いた装置について勘違いをしていた。あまりに次元の低い内容なのでタッカー・チームは無視したが、このために科学界で論争が起り、肯定派科学者の決起をうながすことになって、翌年の春、アメリカ人の電子工学技術者ロバート・ラブ氏がハニーウェル製の音波探知機をそなえた船をネス湖に乗り入れた。これは湖底の地形を明確にした点で大きな役割を果たしたが、10月10日のパトロールではフォイヤーズの北東2kmの位置で大きな物体とコンタクトしたのである！

続く1970年には、米マサチューセッツ州ベルモントの科学者、ロバート・ライン博士がマーティン・クライン博士とともに、決定的なサイドスキャン音探をひっつけてネス湖に現れた。しかも食糧、おとり、音響、匂い、性的刺激剤などを応用した「誘惑装置」を開発していた。

この調査隊も多大の功績を残している。まずネス湖には巨大な動く動物がいること、次に莫大な魚群がいること、3番目にネス湖の岩壁の深部には岩棚や洞窟があって、これらは巨大な

動物が充分に入れるほどに大きなものであること、などを発見したのだ。しかも彼らの音探は湖底の流れをつきとめたのである。これは画期的な大発見であった。

更に1972年の8月8日には、ライン博士とそのチームはレイテオンD E11725Cという超音波装置を使って、また重要なコンタクトを体験したのである。水深10mの位置に設けられたこの装置は、長さ6ないし10mの物体が超音波ビームを横切るのを記録した。現在までにネス湖で行われた多数の調査のうち、このチームが最高の成績をあげたといわれている。

1973年には日本からも探険隊が繰り出されたが成果はなく、どういうわけか、「笑うべき惨めな結果に終わった」と研究家のウィリアム・エイキンはその著書で酷評しているし、しかも日本から持ち込んだ小型潜航艇の写真も掲げて『イエロー・サブマリナー』と、からかっている。どうも、この辺の事情はわからない。

1976年にはラインとその科学チームがまたネス湖へ調査に来て、すばらしい業績を残した。これについてはもう紙数がないので残念ながら割愛しよう。

■ “好奇心”こそ最大の武器

以上でおわかりのように、ネス湖と

いうスコットランドの一部で発生した不思議な現象は意外に大きな波紋を起し、多数の学者の注目の的となり、優秀な超音波探知機が次々と開発されて、技術の向上も目覚ましいものがあつた。こうした調査・探険は今後も続けられるだろう。

しかし奇妙なことがある。あれほど大騒ぎして多数の人が注目したネス湖に棲息するといわれる「主」の全身像が写真に撮影されたためしがないのだ。超音波による探知はあくまでも間接的なものであり、決して明確な輪郭は描かない。なんとしてでも写真に撮って、視覚に訴える証拠を残すことが大切である。湖畔でテレビカメラ等の設置も試みられているらしいが、まだこれという結果は出ないようだ。

いったいネス湖に怪物が実在するのかわからないのか。この解答を素人が性急に出すべきではあるまい。だが小さな地球とはいっても、この惑星上の自然界には未知の事象がまだ多すぎるのだ。どこに何が隠されているか、わかったものではない。それを発掘するための最大の道具は超音波探知機やノックトビジョンやテレビカメラではなくて、「大いなる好奇心」と「オープンマインド」である。「好奇心を持たぬ人間は進歩しない」と言ったある大科学者の言葉を最後に付け加えて本稿を終えることにしよう。

たま出版最新刊絶賛発売中!!

フィリピン心霊手術者の半生

トニー著

わが奇跡の力
850円 千160



指で肉体を開き、患部を
摘出する。いかにしてこ
の力を得たか。幼少時代
の奇行や山中での修行等
興味深い待望の自叙伝。

ミカエル大天使の真相

千乃裕子著

天国の扉
1200円 千160



神とは何か、靈魂とは何
かを解明。霊界の高橋信
次との交信や、釈迦、キ
リスト、モーゼ等の姿を
カラー絵で紹介する。

超能力エネルギーの神秘

政木和三著

私は奇跡を見た
980円 千160



フジテレビ小川宏シヨウ
で大反響。科学者が見た
真珠や仏像の湧出、念力
テレパシー等数々の奇跡
現象を写真で実証する。

未来を開くジャンル別話題書

四次元シリーズ

- ソ連圏の四次元科学 上巻**
S. オストランダー他共著 1300円 (千160)
- ソ連圏の四次元科学 下巻**
L. シュロウダー他共著 1300円 (千160)
- 実験四次元科学 上巻**
S. オストランダー他共著 1300円 (千160)
- 実験四次元科学 下巻**
L. シュロウダー他共著 1300円 (千160)

UFOシリーズ

- 宇宙哲学**
アダムスキー著 750円 (千120)
- 宇宙の友人たち**
古山晴久著 850円 (千160)
- UFOは第二の黒船だ**
坂本ツトム著 680円 (千120)
- 宇宙文明の夜明け**
高橋田一著 950円 (千160)

心霊シリーズ

- 応用心霊学入門**
横山公実著 1300円 (千160)
- 神になるまで**
福田くら著 800円 (千160)

ケイシー秘密シリーズ

- 超人ケイシーの秘密 上巻**
J. スターン著 1200円 (千160)
- 超人ケイシーの秘密 下巻**
J. スターン著 1200円 (千160)
- 転生の秘密**
G. サーマナラ著 1300円 (千160)
- 超能力の秘密**
G. サーマナラ著 1200円 (千160)
- 夢予知の秘密**
E. セクリスト著 1300円 (千160)

心霊医学シリーズ

- 霊癒の科学**
岡田道一著 850円 (千160)
- 聖癒**
夏村輝彦著 680円 (千160)
- 新健康法**
三浦一郎著 950円 (千160)
- 健康法再発見**
三浦一郎著 950円 (千160)

超能力シリーズ

- 21世紀の新エネルギー**
石田博著 950円 (千160)
- 超能力捜査官クロアゼ**
J. H. ボラック著 950円 (千160)
- 思念力百科**
佐々木浩一著 950円 (千160)
- 念力カスプーン曲げは真実だ**
市村俊彦他共著 680円 (千120)

予言予知シリーズ

- ノストラダムス大予言原典**
H. C. ロバーツ編 2400円 (千200)
- 大地震予知法**
木越保光著 890円 (千160)

民族シリーズ

- キリストは日本で死んでいる**
山根キク著 950円 (千160)
- ユダヤの秘密**
熊谷武仁著 1200円 (千160)
- 日本の目覚め**
後藤美彦著 1800円 (千200)

株式会社 たま出版

162 東京都新宿区納戸町33

電話03-260-4367 振替東京3-94804

◎図書総目録をお送りします。50円切手を同封して
お申し込み下さい。◎各種団体の動向や出版案内の
ニュース紙『たま』(千共150円)も御利用下さい

になるう!!



楽しさバツグンのHAM

「JA1ZEAさん、こちらJR6△△△。あなたの電波は59(ファイブ・ナイン)で沖縄県は那覇シティに入感しております……お初にお耳にかかりますが、QSO(交信)よろしくおねがいいたします。どうぞ……」

楽しみつきないHAMの世界

- 海外交信で外国の友達もたくさんできるし● ローカル(近辺)の仲間とのラグチューもゴキゲン● また学校その他のクラブ局や野外交信でも活躍できる● カラフルなQSL(交信)カードあつめの楽しさはBCLファンなら見逃せないところ● HAMコンテストやフォックスハンティング等各種の催しも盛ん● 手がるで予算少々のハンディー局も急増中!

HAMになるのはカンタン

「電話級HAM免許」は○×式のやさしい試験、小中学生の合格者も多数います。ラジオ、模型、BCL等の好きな方なら短期間の準備でOK。
▶ HAM初心者のための「普及会」通信講座では日本短波(全国)放送にて『必勝!! 国試対策教室』を放送中。国試最新情報をつかんだ重点速習指導で会員を一発合格へプッシュします。

——こんなふうには《電波の声》で仲間を呼び出して自由にラグチュー(おしゃべり)を楽しめるHAM(アマチュア無線)が、いまヤングの間ですごい人気。マイクにむかって呼びかけるキミの声が、大空を駆け一瞬のうちに世界各地の仲間(100万人以上!!)

にとどいて、楽しい交信が始まります。



↑ クルマとHAMを結びつけた《カー無線》は人気最高! 運転免許を取ったらキミもぜひやろう。

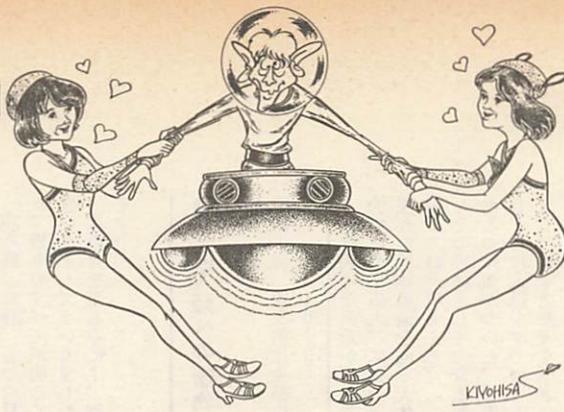


HAMガイド集 無料贈呈中!!
▶ 今すぐ右のようにハガキに書いてお申込み下さい。
▶ 読むだけでも楽しい「最新HAM資料表」急送します。

「HAMガイド」送れ
氏名・住所
〒158 東京玉川局
CQアマチュア無線
普及会C7係
20円 私書箱19号

● HAM受験から開局までの総合指導システム

CQアマチュア無線普及会
QTH. 東京都世田谷区尾山台3-9-5
[CQHAMサービス 03・704・4986]



声・声・声・声・声・声・声・声… OPINIONS!

●宇宙を汚染させるな

松岡正義

〒780 高知県高知市昭和町23の18

昭和53年1月24日、原子炉を積んだ衛星が地球上に落ちた。現在、宇宙空間には無数の人工衛星が飛んでいる。これがかもし、宇宙空間内で故障を起こして放射能がもれた場合には一体どうなるんだらう。

地球人は自分の星が発展させられよう。他の星のことはどうでもよい。宇宙は次第に汚染されつつある。しかし、地球人はほとんど衛星を打ち上げ、原爆や水爆を使用して大気を汚染する。このようなことが続けば地球は、いや太陽系は汚染されてしまう…。

地球をきれいにしよう。宇宙をきれいにしよう。我々地球人は、未来のことについて現在からやり直す必要があると思うのです。

●リアルな把握を!!

長谷敏之助

〒124 東京都葛飾区立石7-24-13

世界各地に飛来する UFO を数多くの人々が目撃、写真やレコーダーにもキャッチされるといふ状況ではその実在は動かしがたい。

だがその発進地、地球訪問の目的など、SF 的幻想や理想化され過ぎた諸説の多いのには驚く。発進地が四次元、地球内部といふのはナンセンスの最たるもの。四次元の霊人なら宇宙船を使用する必要はないと思われ、地球内部説などはお伽話の域を出ない。またその自然環境が

高等生物の生存に適さないことが証明されつつある火星、金星説も信じがたい。コンタクトし、金星人と名乗ったとしても盲目的に信じることは理性的である判断とは言えない。何らかの理由で中継地として利用した星の名を伝えたかと考える方が妥当であらう。

それなら一体どこから飛来するのか。自然環境から考えて明らかに太陽系外だ。UFO によるヒル夫妻の誘拐事件で、ベティ・ヒルが催眠下で描いた宇宙図をもとにマジョリー・フィッシュがその存在を実証したレティキュラム座は可能性充分。ベティの描いた星間の交易図は UFO に型式の違いこそあれ、必ず認められる共通性により、技術的な提携が行われていることを示す。

目撃された宇宙人のそれぞれ異なる容姿はレティキュラムだけに限らず、多くの星からの飛来を思わせる。数千、数万光年もかかる遠方からでは不可能であるとの主張は現在の地球上の科学水準にとらわれた見方というべきであらう。UFO の驚くほど高度な飛行ぶりからも、地球人類より数百年あるいは数千、数万年の進化を遂げていることは充分に考えられる。

レコーダースクリン上に現れたり消えたりする不可思議な現象は彼等が四次元の空間へ瞬時に移動するか人工的な四次元の空間を発生させる装置を開発しているのではないか。スピードを落とすのは地球の大気圏内だけ、宇宙間には四次元の空間を利用して目的地へ瞬時に移動しているのであらう。

訪問の目的は諸説紛々。地球救済のためなど、ことさら理想化する傾向が強いのは一考を要する。彼等の真意がそこにあるなら、コンタクトの相手に人の善さそうな一般人などを選ばず、彼等にとっても信頼できる科学者あたりに対象にすべきであらう。数千年前から訪れている形跡があるのに、別に大きな被害を与えたこともないのは、侵略などの目的ではなく将来に備え、地球人の実態などを観察しているといったところではなからうか。

●宇宙人に会いたい

藤崎幸子

〒320 栃木県宇都宮市今泉町 2797

私は宇宙人と友好的に会いたいと思っています。けれどその半分はどらうしようもない恐怖心を抱いています。こんな矛盾した思いを持ちながら、彼等を持っているのは変でしゃうか。会ったこともなく、彼等が敵意を持っていないとは限らないと思うのだけれど、私は彼等が好きです。私達と同じ感情を彼等も持っていると思うのです。喜びや悲しみなどの豊かな思いを…。だから、私は彼等が好きなのです。

宇宙という広い世界にいるのは私達だけではないでしょう。私は彼等に地球は友人を作りやすい星だと思

●つれづれなるままに

下山浩之(20)

〒379-23 群馬県新田郡笠懸村

大字阿左美1082

この声欄には様々な意見が載っています。UFO だけでなく宗教、聖書、予言、謎、社会面のことなど、広範囲な投稿文が寄せられているようです。いずれにしても独自の意見を言い、真実を追求しようという活気に満ちています。お互いの意見を交わす上で、声欄は貴重な存在です。

自分の考えというものは終りがなくあらゆることを考え述べられたとしても重要なことはそう多く述べられません。しかし、それが自分にとって最大の努力ならば重要だと言えるでしょう。

私が交わした意見、吸収したものと言え、人類発生と進化論、古代遺跡と宇宙人の関連性、宗教、聖書と宇宙人の背景の関連性などが多くあります。そして、昨までは話ばかりで、真実も結果も書かれません。あくまで追求していこうという心持です。

謎について解明しようとして一筋にかけ人がいますが、それでは多くの意味を失うこととなります。時間をかけて、解明まで達さなくとも少しずつ追求していく中で、得ることが多いことを知りましょう。

UFO 専門誌として、読者同士が広範囲に渡って意見を交換し合い、語り合うことができる場はとても重

要だと思っています。

●読後、心いきいき!

海老原まゆ美(31)

〒534 大阪府大阪市都島区都島本通

2-15-1 宝コーポ406

「UFOと宇宙」の31号を読みまして。とても素晴らしい一言です。読み終った時、もの見方が変わり、周りのすべてが明るく、心がいきいきとしてまいりました。次の号を楽しみに、待つております。

●月は人類への贈物

権田 清

〒355-02 埼玉県比企郡嵐山町川島

1870-3

月は別の銀河系からある人(一般的にいう宇宙人)によって誘導され現在の地球軌道を回る天体となったのだとぼくは考える。

その根拠として大変重要なことがあるのに気がついた。皆既日食の場合、月は太陽をすっぽりと隠してしまふ。科学者や天文学者は月が太陽を隠すのは偶然月が見かけ上、太陽と同じ大きさのせいだと考え、少しも疑問に思っていない。しかし、ここでよく考えてほしい。太陽の直径の400分の1の大きさの月が太陽から4000倍離れて現在の位置にあるという事は単なる偶然に起こったこととしてかたづけられてしまっているのだろうか。このことには隠された重要な意味があると思う。太陽は我々地球

にとつて、なくてはならない最も大切なものであるにもかかわらず、太陽について詳しいことは何にもわかっていない。地球のエネルギー資源も近い将来必ず底をついてしまうだろう。

彼等(宇宙人)はそのことを知っていて、今の位置に月を置き、地球人自らの手で太陽エネルギーを開発させようとする間接的の助力を行ったのではないかと考える。

話が飛躍しすぎたかもしれないがとにかく、これからの我々の課題は太陽エネルギー開発にあるのだ!

●UFOを客観視する

千葉俊也(16)

〒987 宮城県登米郡中田町上沼

字畑米40-6

毎号、本誌を読んでおりますと、

UFOに対する盲信のなるいは宗教的な態度から書いたような記事・投書に時々出くわします。例えば古代遺跡に少しでも不思議な点があると、すぐUFO=宇宙人に結びつけて考えることなどです。確かに古代遺跡には現代科学では割り切れないようなものがあることは事実です。

しかし、科学的な見地からいはいは追求めせずに、UFO(あるいは宇宙人)のせいにするのは非常に危険なことだと思えます。それこそ昔の人が不可思議な現象を神のせいにしたようなもので、時代逆行にもなりかねません。

UFOの実在を信じて研究することとは喜ばしいことですが、しかし、UFOをいたずらに神秘的なものにして、神仏と同じく位置させて、宗教

化させてはいけないうではないでしょうか。私たちは常に冷めた眼

で、UFO及びUFOに関する事象に接して

いかなければならないのです。追求に追求を重ね、研究に研究を重ねることが

真のUFO研究であると思うので

●アメリカの読者です!

Susan C. Kim(61)

U. of America Wash. D. C.

みなさん、こんにちは! 私はコンピュータ技術を勉強している19

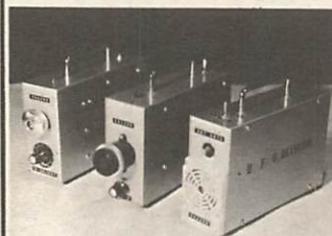
歳の女の子です。とっても小さい頃からずっと天文学、それからUFOに関心を抱きつづけてきました。最近、UFOを目撃したり、UFOに興味を持ち始めたり...といった人々が増えてきたというのを耳にしては喜んでる私です。

ところで、今アメリカでは、未知との遭遇という映画が大センセーションを巻き起こしています。きっと日本でももうすぐ封切られるので

UFO探知機

超高感度 国産唯一の本格的磁気探知機!

現在230台が全国で活躍中!! 既にUFO探知成功18件!!



- T-5型.....¥9,000
- T-3a型.....¥18,000
- T-3b型.....¥19,000

■その他、連続観測用のACアダプター及び、補助電池ボックス(新製品)があります。

左からT-5・T-3a・T-3b型

申込先: 〒213 神奈川県川崎市高津区長尾1606
折田 至
Tel. 044-866-8347
●カタログ請求は100円切手をお送り下さい。

はないかと思うけれど...

「UFOと宇宙」の読者の方々にぜひ、この素晴らしい映画を観ていただいで、私の感激を知ってほしいなんて思っています。

UFOや宇宙などに関する情報を交換したい方は連絡ください。

●結論は急がずに:

榎原 毅(22)

〒412 愛知県豊川市牛久保町八幡口

78

「UFOと宇宙」愛読者のみなさんこんにちは。ぼくはUFOに興味を持ち始めて数年になります。去年から文通、サークル結成によって活動を続け、現在10数人の熱心な仲間を得ました。

大学では教育学を学んできましたが、現在のような受験体制、詰め込み教育は宇宙の生命として進化することの妨げになっていのではないのでしょうか。私たちの思考を少し探ってみると、UFOを例にあげれば存在か否か、目撃が真か偽かという二者択一(結果に固執)を最終的目的としているようです。これは私たちが物事をじっくり考えることがなかった学生時代のためではないでしょうか。

ぼくの考えは、世の事象はすべて相対的であるという認識をもとにします。時代により社会によって考え方はさまざまに変容するものです。かつて天動説を真とした時代はそれなりに正しかったわけですね。最新の科学でも見極められない現象も時代とともに変化します。私たち人間は

●文通しましゅう●

自分たちの思想こそ絶対で究極のものと考えがちですが、それは進化の途上にあるものでしょう。UFOを動かす高度に発達した生命体が存在したとしても、やはり絶対のものではなく相対世界の住人でしょう。UFOに対する見解も仮説をたてるのはよいでしょうが、結論を急ぐべきではないと思います。未解決の状態も必要で、そのわからなさを大切にしながら新たな追究をしてこそ発展的、創造的であると言えるのではないでし

ようか。この宇宙に存在する法則はそれほど簡単に明らかになれるとは思われません。時には現代科学に頼り、時にはそれを捨て、考えていくことが必要でしょう。私たちが日々変化しているように宇宙そのものも変容進化しているのです。UFOとのコンタクト事件といった具体的実践を大切に、そこから理論を構築すべきですが、その論自体絶対化してはならないことを深く認識すべきだと思います。

超 能力、UFO、心霊などに興味のある方、文通しませんか。男女問わず、14歳か15歳の方を希望します。

星野正利(15)
(〒247 神奈川県鎌倉市城廻り 736-14)

私 はSFが大好きな女の子。宇宙や超能力などに興味があります。が、わからないことは……。どなたか教えてください。また、異星人とのコンタクトをめざしている人もぜひお手紙ください。

山本倫美
(〒228 神奈川県座間市立野台 305)

宇 宙・人に関心のある近郊在住の18歳以上の方、ご連絡ください。相互啓発の場を創設しようではありませんか。

半田吉徳(28)
(〒070 北海道旭川市五条通20丁目)

望の方は50円切手貼付返信用封筒同封の上、希望を書いてご連絡ください。
山口高生
(〒536 大阪府河内長野市天野町58)

U FOに興味を抱き、必死に本を見ています。どなたか、お手紙をください。
赤間 修(16)
(〒933 宮城県仙台市岩切字三所北 107)

な んとしてもUFOを見るゾと空ばかり眺めているのに一度として現れてくれない。かわいそうな私めに手紙を！
倉岡満昭(19)
(〒257 神奈川県秦野市曾屋827 の3 二家五常寮)

8 月予定の企画第2回エジプト宇宙考古学遺跡の旅に参加しようと思っています。どなたか参加予定の方はいらっしゃいませんか。その他、UFOを目撃された方、興味のある方、共に話し合いたしましょう！
澤崎典子(25)
(〒603 京都府京都市北区大宮南林町37 第2蛙鳴荘2F)

U FO・宇宙・古代など、未知のことに関心を寄せています。なるべく近県の方、お手紙ください。
東佐智子(16・高1)
(〒519-13 三重県阿山郡伊賀町 拓植1572の1)

超 能力、心霊、UFO、宇宙、電気、ステレオなどに深い関心を持っています。女性の方、お便りく

読者の

イラスト・コーナー

読者のみなさんのイラスト、とっても楽しく、上手なので驚いてしまうでしょ！



このあいたの天幕大陸の暗い夜にUFOを見つけた。UFOと叫んだ。内服の表現を見た。本当なら……?

▲松原廉人(大阪府大阪市)



▲高木 浩(熊本県菊池郡)



▲秋吉かおり(東京都世田谷区)



▲蓮実澄夫(東京都練馬区)



▲佐藤 宏(神奈川県横浜市)



▲木村宏史(東京都世田谷区)

桑田勇太郎(16・高1)
(〒731-01 千葉県鎌ヶ谷市道野辺
19の2 グリーンハイツ
1の502)

遊

び半分でなく、超心理学や心靈科学に深い関心をお持ちで、同じ年頃の方、お便りください。

石川 修(15)
(〒326 栃木県足利市千歳町47)

U

FOに興味を持っている方々！
ぼくと手紙でUFOの話などを
しませんか。

谷本たかよし(17)
(〒533 大阪府藤井寺市小山藤美町
3の3)

私

はまだUFOについて全く無知
ですが、どなたか話合せてみ
ませんか。

馬場弘子(中2)
(〒164 東京都中野区上高田
2-10-4)

関

東地方以外に住んでいる同じ年
齢の方、UFOの好ききらいに
かわからず、ぼくと文通してくれま
せんか。

室井義男(13)
(329-28 栃木県塩谷郡塩原町関谷
1225の3)

U

FOや古代海底都市など、イロ
イロ興味を持っている人ヨウ！
レター、待ってます。返事は絶対
出しますヨ！

内藤 晃(14)
(〒491-43 新潟県三島郡出雲崎町
滝谷399)

UFOファン集まれ!

U

FO研究会を作りましたが、小
人数なので、あまり活動ができ
ません。よろしかったら、参加なさ
いませんか。

後藤一也(中2)
(〒496 愛知県津島市大政町
2の51)

ア

ニメの好きな諸君！ 今こそ立
ちあがるべきジャーナリスト。アニ
メFC、AMGでは会員を募集して
ます！ 50円切手同封の上、お便
りください。楽しいスタッフがあな
たを、お待ちしております。

柴田磨理子
(〒554 大阪府大阪市此花区西九条
1の27の17)

私

と共にUFO同好会を結成し、
UFO問題、その他人生問題に
ついて話し合い、活動しませんか。
近県で積極的な方、ご連絡を待つて
います。

福田至喜(22)
(〒679-23 兵庫県神崎郡市川町
沢300)

U

FOに興味のある方、宇宙人と
コンタクトをしてみたい方、私
たちのUFO同好会に参加しません
か。男女の別は問わず、14〜18歳ま
での方、50円切手同封の上、連絡く
ださい。電話のある方は、電話番号
を記入してネ。

なほ、会費・入会金は不要。
望木康子(15)

我

がサークルでは、会員を募集し
ています。研究内容は、オカル
ト、UFO、ピラミッド、宇宙法
則、次元etc.

我々と一緒に研究してみようと思
う方、自己紹介などを書いて、お申
し込みください。年会費600円、
入会金1000円です。

竹井一男(くらやみ倶楽部会長代理)
(〒339-25 長野県下高井郡野沢温
泉村横落)

日

本UFOサークルでは、現在全
国的に会員を募集しています。
UFOに興味のある方なら年齢性別
を問わず、どなたでも歓迎します。
入会ご希望の方、当サークルに興味
のある方は50円切手同封の上、ご連
絡ください。案内書をお送りいたし
ます。

阿部弘人
(〒059-04 北海道登別市富浦町
1の30の1 日本UFOサー
クル)

ア

ニメサークル結成！ 我が、ア
ニメタウン。はみんなで作って
いくサークルです。会員大募集中!!
50円切手同封の上、ご連絡を。
お待ちしております。

阿部マリア
(〒770 徳島県徳島市八万町千鳥
29-15)

超

自然現象調査最高司令機構(S
HFRRO)の会員募集中！ 年
会費500円、入会金不要。
磯部 剛喜(SHFRRO代表)
(〒239-21 千葉県八日市場市
8の736)

日

本海側に住んでいる方で、ぼく
たちの研究会TUCに入会して
くださる方、連絡ください。UFO
を中心に天文・古代文明などを研究。
福元忠実(15)
(〒891-04 鹿児島県指宿市十二町
807)

テ

レビアニメ・アソシエーション
Aでは新会員の募集中。年令・
性別を問わず、やる気のある方、入
会しませんか。
河内洋実
(〒929 石川県金沢市桜町6-15)

月

刊ETOILE編集部では加盟
していただけるUFO・天文・心靈
などの研究会を募集しています！
ETOILEはそれらの情報交換
紙で加盟各研究会には毎月インフォ
メーションのスペースを提供いたし
ます。50円切手同封の上、ご連絡く
ださい。案内書をお送りします。
山本圭子
(〒156 東京都世田谷区羽根木
1丁目14-16)

テ

レバシー能力を高めてはいかが
ですか。自然宇宙科学研究部で
は集会を主として活動しています。
千葉、東京に近い方で、16歳以上
の方を募集します。
福原道雄
(〒294 千葉県館山市水岡895)

ガイド無料贈呈中

活用OK《価値ある楽しさの世界がハム》
▶▶短期速習指導で合格率2倍の「普及会」
通信講座で、あなたもハムに▶▶読んで楽
しいガイド特集急送!!ハガキ、で下記へ
〒158東京玉川局私書箱19(☎03-704-4986)
●CQアマチュア無線普及会C7係
↑日本短波CQハム合格教室。放送!!

ハム免許

一カルガイドも期待可!
●無線機器は4~10万円。
▶▶必要は「電話級ハム
免許」は、OX式の簡単
な試験で取れる国家資格。
小中学生、YL(女性)ハムも続々誕生中!!
●同一資格で、DX海外交信、ローカル仲
間とのスカイミーティング等々々ワイドに

カー無線

▶▶CQ2メータ、こちらJE1DGL...
どぞぞと呼び交して、走るクルマの中
から自在に無線交信が楽しめるのが、いま
人気最高のカー無線《モービルハム》
●交信範囲VHF帯FM波で20~80km。初
対面から気軽に話せる仲間が全国に65万人。
●道交情報交換や各種連絡に威力を発揮、
ドライブ旅行では行く先々で地元ハムのロ



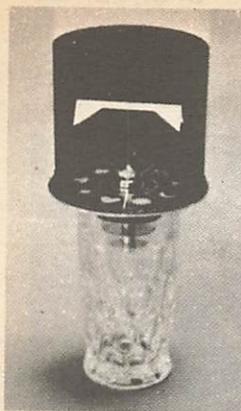
あなたにも“念力”がある!!

念力開発器

(ロジックルッパン・ダイヤレット)

人はだれでも潜在的に念力を持っています。ただそれに気がつかないことが殆んどです。このダイヤレットであなたは自分に念力があることが自分自身で確認できますし、訓練によってそれが強化されてゆくのが分ります。バラ十字団の団員は現にダイヤレットを使って自己の念力を強化して実生活で幸福をつかむ手段としていました。

¥7,000 (送料共)



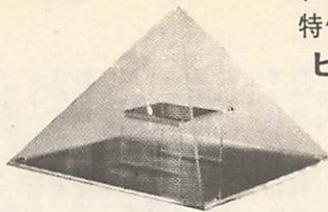
ピラミッドーA

アクリル製底辺約24cm
(ピラミッドパワー実験用)

特価 ¥6,000(送料共)

ピラミッドーB

実験だけ楽しみたい方には普及型ピラミッドーB (¥1,000送料共) もあります。



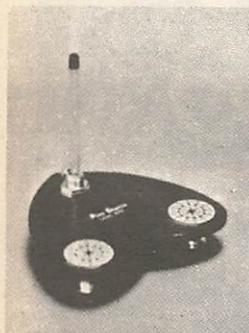
不思議なピラミッド・パワーの実験ができます。中の台に色々な物を置いてみましょう。カミソリの刃は再び切れるようになります。生花は外のものより長持ちします。ミルクや果物も腐敗が遅くなります。魚や虫など小動物がミイラ化します。その他色々な面白い実験ができます。

プランセット

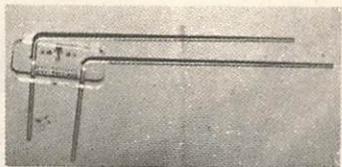
(西洋式こっくりさん)

プランセットとはそれを行う人の意志とは関係なく自然に動き文章や図形が記されるもので、プランセットの実験は精神統一にも有益で家族や友人と一諸に楽しめます。

¥5,000 (送料共)



宝探しロッド (ダウジング・ロッド)



¥3,000 (送料共)

セパレーター付

このロッドであなたは不思議な力が発揮できるようになります。比較的短期間の練習で多くの人が、紛失物やかくされた物を発見できるようになります。この道具は実際に地下のガス管や水道管を探すのに実用されています。さあ、あなたも自分の潜在能力を試してみましょう。

魔法の振子

(シュブロール振子)

魔法の振子は、潜在能力開発のもっとも基本となる道具の一つです。魔法の振子で自分のくれた能力を発見して下さい。占いにも使えます。

¥2,000 (送料共)

携帯用ケース付



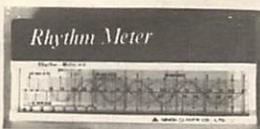
カシオ・バイオレーター



あなたのバイオリズムがワンタッチで出ます。健康管理、セールス、受験勉強、事故防止、スポーツ等に应用できますし、相性判断もできます。

特価 ¥6,000(定価は ¥7,500です)

リズム・メーター

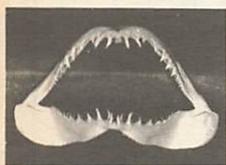


バイオレーター同様、簡単にあなたのバイオリズムが求められます。又、グラフに表されますので大変便利です。

¥1,500(送料共)

ジョーズの口

本物です。室内の装飾に最適!

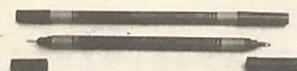


- A 約20cm ¥5,000
- B 約25cm ¥7,000
- C 約30cm ¥10,000
- D 約35cm ¥15,000

価格はいずれも送料共です。ジョーズのAとゆうように御注文下さい。

シャーク←写真のものより平たく歯がやゝ短い。約30cm ¥3,000

消えるボールペン



西独製の消えるボールペンです。紙でも布でも手でも書いた後反対側のインク消してサッと消せます。あまりいたずらしないように。

¥300(送料共・切手も可)

※上記商品には、詳しい説明書、練習方法の解説がついています。

●カタログ請求・お問合せは

〒103 東京都中央区日本橋小舟町2-7

発売元

ポラックス株式会社 U 係

TEL (03) 666-0511(代)

技術指導

潜在能力開発研究所

ご注文は

紙に商品名、住所、電話番号、氏名を書き捺印の上代金を現金書留封筒又は郵便振替(東京・4-8703)でポラックス株式会社 U 係にお送り下さい。

◇売ります◇

のみの市

◇買います◇

☆本、漫画、譲ります

▼「謎のタイムトンネル」UFO大襲来「UFO大接近」「宇宙生物学」「四次元からきた怪獣」「方舟から「羽の鳩が」「天国の扉」「地球の中の怪談、ブラックホール」を送料共4500円で譲る。往復はがきで連絡を。

伊藤なおみ(〒339-135 長野県下伊那郡大鹿村文満3662)

▼「本年最大の大安売り!最初で最後のチャンス」本誌No.9〜18に「UFO写真集」をつけて、3点を2500円で譲る。連絡は往復はがきで。

荒川勇(〒121 東京都足立区竹の塚1-34-12)

▼本誌No.10〜16とNo.19をまとめて2640円で譲る。送料は無料。往復はがきで連絡下さい。

中山康生(〒519-01 三重県亀山市天神町2039)

▼「火の鳥」1巻から5巻までまとめて、

送料共2000円で譲る。バラ売りも可。連絡は、はがきで。

伊藤誠子(〒356 埼玉県上福岡市霞ヶ丘1の2、199の6)

▼本誌No.4〜25までバラ売り可。希望価格を往復はがきに書いて送って。各々一冊ずつしかありません。

猪狩 優(〒979-15 福島県双葉郡浪江町幾世橋字里中前5)

▼詩画集「タッチとサリー」「サイボーグ009」第6巻を譲る。また「OUT」No.1〜6まで譲って。なるべく安価で。往復はがきで連絡を。

石井総子(〒377-02 埼玉県児玉郡児玉町下浅見631-13)

▼本誌No.3、5、23、26を定価で譲る。まとめて買ってください方には「エニグマ」創刊号及びサンタナLP「啓示」を贈呈。連絡は往復はがきまたは電話で。手渡しを希望します。

☆いろいろ譲ります

加藤克彦(〒410 静岡県沼津市大手町10-0559-62-4798)

▼「UFO事典」「パミニューダ海域はブラック・ホールか」「消えた文明99の謎」を各2500円、「UFO入門」を4500円で譲る。いずれも送料別。すべて新品同様。往復はがきまたは電話で連絡を。

大岩範久(〒411-16 愛知県南設楽郡鳳来町富栄字紺屋貝津35 053633-1210681)

▼「文芸春秋テラックス・現代の謎、神秘の世界」を7000円で、「恐怖の心霊写真集」「恐怖の黙示録」「真創世記地獄編」「心霊世界の不思議」「ミステリーゾーンを発見した」などを各5000円で(送料共)譲る。(他にもイロイロある)

高橋一生(〒046 北海道余市町黒川町57515)

▼本誌No.18〜29の計12冊をまとめて2000円で譲る。付録に「エニグマ」No.2をつけてます。手渡しを希望。

安田 誠(〒503 岐阜県大垣市今福町1130-2)

▼本誌No.1〜23、「エニグマ」No.1〜4をなるべくまとめて適価で譲りたい。「UFO写真集」も適価で譲る。

大井田政俊(〒509-42 吉城郡古川町殿町2-15 樹下方)

▼空手通信講座「極真カラテ」(全3巻)を大山倍達サイン入りの写真と一緒に35000円で(送料共)譲る。希望者は往復はがきで連絡を。

山崎 誠(〒949-84 新潟県中魚沼郡中里村荒屋)

▼ユリ・ゲラー著「わが超能力」(講談社)「超能力者、ユリ・ゲラー」(サラ・ブックス)をセットで10000円で、「ゴルゴ13」No.1〜6をセットで15000円で、「忍者武芸帳」No.1〜7を16000円で譲る。他

にもUFO関係の本いろいろあり。詳しくは往復はがきでお尋ね下さい。

小林信弘(〒320 栃木県宇都宮市横田新町)「明日のジョー」全20巻、「がんばれ元氣」1、3、4巻、「野球狂の詩」1〜8巻、「リボンの騎士」1巻、「恐怖新聞」1巻以上、「あぶさん」1〜11巻、以上を1冊2500円で譲る。他にも「キャプテン」No.1〜8、「天文ガイド」などあり。連絡下さい。

田中正太郎(〒232 横浜市内南区永田町1225)

▼本誌No.20〜27と「エニグマ」No.1〜4を送料共4500円〜5000円で譲る。「写真で見える空飛ぶ円盤200集」と「写真で見える空飛ぶ円盤 宇宙人200集」の2冊を17400円(送料共)で譲る。

豊島啓悦(〒983 仙台市旭ヶ丘4丁目23の2)

▼漫画「野球狂の詩」No.1〜17全巻を35000円で譲る。「世界拳銃図鑑」を35000円で、「エン」の早射ち連続写真あり。他にもいろいろあり。往復はがきで連絡下さい。

永岩秀清(〒501-61 岐阜県羽島郡笠松町長池387 2-107号室)

▼本誌No.5、7、25をバインダー付きで安価で譲る。バラ売り可。マイコン関係の本との交換も可。はがきで連絡下さい。

佐藤勇一(〒980 宮城県仙台市荒巻字源太兵衛東18の162)

▼自動車月刊誌「ホリデー・オート」77年4、5、8、10月、78年1、2月号を送料共10000円で譲る。バラ売りの時は1冊送料共15000円で譲る。

人数が多い場合は抽選です。往復はがきで連絡下さい。

神田孝之(〒337 埼玉県浦和市大門854-15)

▼双眼鏡、ツァイス型35x50を1万円、コビター・ズーム7x15x35を1万円、また、中古の一眼レフカメラを1万円ぐらいで譲って、双眼鏡との交換も可。

長谷川清志(〒509-82 岐阜県恵那市中野方町3405)

▼カセットテレコ(パデイスコ5110)を8000円、「宇宙戦艦ヤマト」「キャ

「ペンハローック」No.2、その他のSF小説などを適価で譲って。また、「スタークラブ」No.39〜56までを1冊1000円で譲る。「宇宙戦艦ヤマト」を録音したテープを7000円で譲る。連絡下さい。北原由人(〒580 大阪府松原市美我堂2218番地)

▼昔の懐かしいメロ(昭和30年代)を14枚1組5000円で譲る。希少価値あり。はがきで連絡を。松沢信雄(〒330 埼玉県大宮市大谷1693)

▼半年しか使っていないソニーのカセットデッキ、およびサンスイのアンブ(チューナー付き)とスピーカー2個、全部合わせて4万7500円で譲る。河嶋 勲(〒612 京都市伏見区治部町30の1)

▼オリンパスカメラOM1、OM2用の望遠レンズ13mm F3.5(定価2万6000円)のものを送料共1万4000円で譲る。往復はがきで連絡を。野口 隆(〒761 高松市田村町すみれ団地91205)

▼パイオニアDバックGSR-1(練習用カセットテープ付)3万円のもの(新品)を2万円位で譲る。また、ロックのLP多数あり。希望者は往復はがきで。古賀栄子(〒545 大阪市阿倍野区天王寺町南3丁目9番1号)

▼FUJICA300(ボケツトカメラ)を6000円で譲る。また、ラジコン2ch 2サーボを7000〜8000円で譲る。菅野勝吉(〒964-03 福島県安達郡岩代町下長折道久内13)

▼接眼レンズ(日製)HM6mm、8mm、12・5mmを各送料共1500円で譲る。稲岡 修(〒675-22 兵庫県加西市三口町740)

▼「帰ってきたウルトラマン」、「仮面ライダー」、「赤き血のイレブン」、「キックの鬼」、「忍者部隊月光」、「アタックNo.1」のレコードを適価で譲る。また、「鉄腕アトム」のソノシート、もしくは「ぼくは漫画家」お持ちの方、ぼくの持っている「鉄人28号」、「エイトマン」、「宇宙エース」などのソノシートと交換して下さい。近藤一成(〒779-03 鳴門市大麻町大谷)

☆本、漫画、譲って下さい

▼「巨人の星」「夕焼け番長」「ドカベン」「ウルトラマン」などのミニカードを送料共2枚50円で譲る。必ず、往復はがきか50円切手同封のうえで、連絡して下さい。堀川誠一(〒270-01 千葉県流山市十大夫119-57)

▼「海のトリトン」のTV撮りカラーネガ(36枚撮り、1〜27話分計30本)を1本5000円で譲ります。バラ売り可。また資料も適価で譲ります。村山麻子(〒154 東京都世田谷区野沢3の16の2の104)

▼一眼レフカメラ、フジカST801、ブラックボディ、55mm、F1.8、レンズ、ケ1ス、フィルタ1付き(定価6万3000円)を3万7000円で譲る。新品同様。送料は無料です。連絡は往復はがきで。大沢邦男(〒306 茨城県古河市錦町7の12)

▼松下電器のVHFコンバータを送料共5500円で譲る。新品同様です。川崎 隆(〒520-31 滋賀県栗太郡栗東町荒張1292)

●読者からの訂正
群馬県の下山浩之君から 2月号の譲って下さいの欄に掲載された。寛永通宝を1000円で買う。は實永通宝の誤りです。訂正しておわびします。長野県の大久保利明君から 2月号に掲載された「宇宙戦艦ヤマト」に関する写真の件、ぼくの説明が不正確で多数の方に迷惑をおかけしたことをおわびします。編集部からのお願、いつもたくさんのおはがき、どうもありがとうございます。ご投書なさる際は、住所、氏名、品物の種類、価格etcは、読みやすい字で、はがきと書いて下さるようお願いいたします。

▼「マンガ少年」の76年創刊号〜76年12月号を送料共各4000円ぐらいで、「マジンガーZ」を適価で譲って。往復はがきで連絡を下さい。吉丸信一郎(〒870 福岡県遠賀郡水巻町吉田緑風園118)

▼本誌No.1〜5「GAPニューズレター」(宇宙板)「OUT」を譲って。下田勝一(〒371 群馬県前橋市朝日町4丁目17の9)

▼「JUFORA」No.1〜13、「宇宙機」(No.1、24以外)をぜひ譲って。コピーでも結構です。熊谷 妥(〒039-31 青森県上北郡野辺町字笹原22)

▼ジョージ・アダムスキーの著作ならなんでも結構。適価で譲って。郵送料は別。はがきで連絡下さい。高藤裕江(〒989-61 宮城県古川市中里3丁3番5号)

▼日本アニメーションセンター発行の「アニメーション講座研究テキスト」を1〜4号まで1冊1500円で求む。連絡は往復はがきで。伊藤精健(〒511 三重県桑名市萱町49)

▼本誌創刊号No.7を適価で譲って。1冊ずつでも結構。値段を書いではがきか電話でご連絡を。金沢修平(〒960 北海道札幌市中央区北1西10丁目5番5号011-2411-2672)

▼エングラムNo.5をなるべく安価で譲って。送料当方負担。往復はがきで連絡を。大浦多津(〒981-33 宮城県黒川郡富谷町東向陽台3-13-20)

▼手塚治虫氏の初期初版本を10000円〜50000円、中期初版本を5000円〜10000円、「COM」を2000円〜5000円「レオ」その他プロからの出版物を求む。価格応可。作品名、出版社名を書き、ともかく御一報下さい。野沢信平(〒189 東京都山手市本町2-23-13)

▼本誌No.1〜4を10000円で譲って。吉田克美(〒949-67 新潟県南魚沼郡六日町大字永松764)

▼本誌No.1〜6を各5000円程度で、それとプロレスの「ラッシュ」木村。の切り抜きなどを持っていらっしゃる方譲って下さい。山口幸夫(〒280 千葉県千葉市椿森2-7-16)

▼少年チャンピオンに連載された「朝日の恋人」2、3、4巻を持っている方は譲って下さい。樺 真(〒969-35 福島県耶麻郡塩川町字横道)

▼文芸春秋デラックス「古代遺跡・UFO

の謎」雑誌「幻想と怪奇」「血と薔薇」を譲って。田野村真(〒192 八王子市中野町820)

▼コナン・ドイル著「妖精の到来」と昭和49年に出た「UFOニュース」VOL.6・No.1(CBAインターナショナル発行)の2冊を5000円で譲って。平野泰敏(〒431-33 静岡県天竜市南鹿島58-18)

▼日本GAPの機関誌No.1〜55のうち、1冊でもいいですから譲って。また、「宇宙艇」何号でもいいですから数冊譲って。コピーも可。代金、その他は、はがきで。木村幸夫(〒600 京都市下京区楊梅西洞院東入ル59)

▼たま出版の雑誌「たま」のNo.14〜20(旧号)までをお持ちの方、コピーしたい所がありませうので、お貸し下さい。なるべく東京近郊の方お願いします。鈴木一宏(〒294 館山市北条2645 北条海岸市営住宅7号)

▼本誌No.117、「オカルト時代」9月号
11月号、その他UFO、心霊、超能力に
関する書物、及び研究団体の会誌、UFO
心霊写真など安価で譲って。
日比野高仁(〒491 愛知県一宮市松降2-
217)
▼UFO関係の本ならどんな物でも結構で
す。1000円以下で売って下さい。
郡司一弘(〒329-28 栃木県塩谷郡塩原町

☆いろいろな譲って下さい

▼どなたか天体望遠鏡を1500円〜50
00円で譲って。どのメーカーのものでも
かまいません。往復はがきで連絡を。
相沢博志(〒987-03 宮城県登米郡米山町
中津山追土地16の2)
▼「サザエさん」、その他漫画の主題歌を
ふきこんだレコードを適価で譲って。はが
きで連絡を。
庭村貞二(〒760 香川県高松市兵庫町2の
9)

兜甲児に関するもの何でも結構です。から適
価で譲って。(貴方の書いたイラストでも
OK)
阿部マリア(〒770 徳島県徳島市八方町千
鳥29-15)
▼反射式天体望遠鏡(倍率150以上)を
送料共1万5000円で譲って。譲ってく
れた方には「エニigma」創刊号を無料で差
上げます。
須長 誠(〒379-16 群馬県利根郡水上町
湯原483-3)
▼小林麻美の資生堂のポスター、「宇宙戦
艦ヤマト」のカセットテープをお持ちの方
安価で譲って。
稲岡 修(〒675-22 兵庫県加西市三口町

関谷71の5)
▼漫画「一陣の風」「サラリーマン死神」
「河童の三平」No.1、「死者の招き」「悪
魔くんの冒険」などを送料共各250円で
譲って。1冊でも可。往復はがきで連絡を。
本島和洋(〒852 熊本県熊本市長嶺町19
25の4)
▼UFOに関する記事の切り抜き(本誌の
でも結構)などを譲って。またUFO写真

を持って居る人は1枚3000円以下で譲っ
て下さい。
橋すみか(〒270-11 千葉県安孫子市つく
し野44の8 佐藤方)
▼国際宗教、超心理学会、日本P.S.学会、
日本サイコトニクス研究協会などの研究
団体の機関誌を安価で譲って。送料は当方
負担。往復はがきで連絡ください。
鈴木 豊(〒177 東京都練馬区石神井町1

740)

▼ブルース・リーの大方ファンです。彼のポス
ターや記事の載っている雑誌をお持ちの方
是非譲って。なるべく高く買います。譲っ
て下さる方は、どんなポスター、本かをな
るべく詳しくお知らせ下さい。また、「ロ
ードショウ」77年6、7、9月号、75年3
〜12月号、76年の1、2月号も譲って。
藤河秀利(〒012-11 秋田県雄勝郡羽後町
郡山字統橋75)
▼UFO写真(トリックでないもの!)を
1枚1000円で譲って。ネガの場合は20
0円で貸して下さい。
市川比呂志(〒949-04 新潟県糸魚川市大
字大所393)
▲「海のトリトン」の原画、セル、台本、
ポスターなどを適価で譲って。たくさん譲
って下さった方には無料で「宇宙戦艦ヤ
マト」のパンフレット、アニメ画集「銀河鉄

11-32)
▼本誌No.1〜30までどれでもいいですから
なるべく安く譲って。送料はこちらが負担。
鈴木康夫(〒336 栃木県足利市朝倉町3丁
目82の5)
▼本誌No.1〜29(なるべく良品を希望)を
譲って下さい。
上原 実(〒901-03 沖縄県糸満市糸満1
388)

道99)のいづれかを差し上げます。また、
「宇宙戦艦ヤマト」(小説)との交換も可
はがきで連絡下さい。
水久保明美(〒720 広島県福山市草戸町9
18-1)
▼TV「明日のジョー」のカロス力石の
写真、「宇宙大作戦」のスポックの以願絵、
または彼等がでていたときを録音したテー
プなどを適価で譲って。
迫本由美(〒662 兵庫県西宮市柳本町9-
16-506)
▼「海のトリトン」「ダンガードA」「宇
宙戦艦ヤマト」などのTVアニメの台本、
絵コンテ、原画、セル、脚本、ポスターを
適価で譲って。また「フアントン」1
〜7号を適価で譲って下さい。
黒田悦子(〒300-06 茨城県稲敷郡桜川村
浮島5567-1)

☆交換して下さい

▼タッシリ壁面の切り抜き、ブルーバック
スの「重力の謎」を、本誌創刊号〜No.21の
うち5冊以上と交換して。
市川比呂志(〒949-04 新潟県糸魚川市大
字大所898)
▼「ビートルズ・マンズリー」全刊(また
は一部でも)をお持ちの方、本誌No.7〜20
と交換して下さい。往復はがきで連絡を。
水野繁子(〒280 千葉県真砂2の2の4の

305)
▼レコード(朝日ソノラマ)「好き〜好き〜
魔女先生」をお持ちの方、「マダム大使」
「怪獣ブスカ」と交換して。
斉藤 剛(〒773 徳島県小松島市中田町奥
林46の2)
▼本誌No.1〜3をお持ちの方、私のLPレ
コード「富田勲の惑星」「背番号1、王貞
治」、オリジナルサウンドトラック「華麗

なる賭け」「キングコング」のいづれかと
交換して。または1冊5000円で譲って。
田中政二(〒532 大阪府淀川区十三東3丁
目11-4 清友荘 田中政仁)
▼「お化けの住所録」「コックリさんの秘
密」をお持ちの方「現代の超心理学」と交
換して。
野中一良(〒791-06 松山市東方町甲1-1
53-3)
▼「宇宙戦艦ヤマト」のカセットテープを
お持ちの方、フィンガー5のレコード「二
人授業」「華麗な噂」と交換して。
難波瑞美(〒344 埼玉県春日部市一ノ割69

126)
▼「イチョウ島SOS」、「おれは直角」
3、4巻、「ぼくの動物園日記」1、10巻
「キューティエイハニー」1、2巻と「宇宙戦
艦ヤマト」に関する資料、松本零士先生の
「戦場マンガシリーズ」「キャプテンハー
ロック」「男おいでん」「潜水艦スパー
99」など(松本零士先生の漫画ならなんでも
可)と交換して下さい。また、少年マガ
ジンを買っている方、「Queen」エメラ
野田徳幸(〒519-13 三重県阿山郡伊賀町
拓植町上町)

レンズ片方無料でおなじみの

東京 新宿西口メガネが レイバン・ サングラスを 5割引!!

通信販売

を開始!
店頭にて
販売

	スモーク	グリーン
金	¥16,000→8,000	¥16,000→8,000
ブラック	¥17,000→8,500	¥17,000→8,500



CARAVAN<キャラバン>

	スモーク	グリーン	濃スモーク
金	¥18,000→9,000		
ブラック	¥19,000→9,500		



METALII<メタルII>

	スモーク	グリーン	濃スモーク	フォトサン
金	¥16,000→8,000			¥20,000→10,000
ブラック	¥17,000→8,500			



METAL<メタル>

	スモーク	グリーン	イエロー	フォトサン	ミラー
金	¥18,000→9,000	¥20,000→10,000	¥22,000→11,000	¥23,000→11,500	¥21,000→10,500
ブラック					



OUTDOORSMAN<アウトドアズマン>

	スモーク	グリーン	イエロー	フォトサン
金	¥20,000→10,000		¥22,000→11,000	¥24,000→12,000
ブラック				¥25,000→12,500



SHOOTER<シューター>

	スモーク	グリーン	イエロー
金	¥21,000→10,500		¥23,000→11,500



DECOT<デコット>

- 申込方法
ご希望のモデル名・レンズの色と住所・氏名を明記し現金書留又は代金引換にて申込み下さい。送料はサービスいたします。
- 申込先
〒160 東京都新宿区西新宿1-11-6 協立ビル
新宿西口メガネ レイバンUF係

店頭特別企画

好評実施中!

メガネレンズ
片方無料!
コンタクトレンズ
クリニック併設!

学生割引も致しております

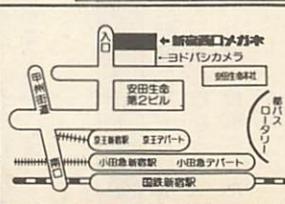
各種メガネフレーム
ローアングストック・
マルヴィッツ・
メッツラー他
各種メガネレンズ
HOYA・ニコン・ツアイス他

私もTVCMで
放映中ですよ。

週刊ポスト連載中

忘れ苦兵衛

おことわり
品切れの際は、入荷予定日
お知らせ致します。
又、御返金も致します。



新宿西口メガネ

東京・新宿西口・安田生命第2ビル裏・ヨドバシカメラ並び

営業時間 AM10:00~PM8:00 年中無休

でんわ東京 03-348-3360

日本におけるUFO事件とその全貌

●池田隆雄(日本宇宙現象研究会)

スティー・カタマリ 異彩を放つ太陽の仲間達

高橋守弘

日本にも第3種接近遭遇はある!

☆京都大原に現われた輝く怪生物

京都市／怪物体出現事件

☆宇宙人は東洋系の顔だち?

富士市／連続円盤目撃事件

☆宇宙人との単独会見に成功!

岡山市／津島公園コンタクト事件

☆宇宙人に肩をたたかれた小学生

甲府市／UFO着陸事件

連載

〈UFO対談〉

横尾忠則VS富田勲

南米現地ルポ

パワー治療師の全て

日本の科学者に問う

クボタ・ミステリーシリーズ(5)

空飛ぶ円盤とオカルティズム(3)

久保田八郎

平野威馬雄

矢追純一

中岡俊也

森脇十九男

久保田八郎

平野威馬雄

5月号予告!

(内容変更の場合もあります)

編集後記

★必ずしも話題の映画に同調したわけではありませんが、今回は本誌未公開のC.E.III。(第3種接近遭遇)を全ページ色刷りで特集しました。未だ公表されていないこの種の事件はまだまだ世界に数多く埋れているようです。
★UFO対談、第2回はゲストに食生態学者で探検家、そしてSF作家、と大活躍の西丸震哉氏にご登場をお願いしました。時折、かみ

合っていた歯車が外れかかることもありましたが、最後は、2人で神奈川県丹沢山塊へUFO基地の探検に行こう、というところに落ち着いたのです。
★今月は新聞社、テレビ局、出版社等々から最近のUFOブームに関するコメントと情報提供を求められ、編集部は応待に大忙しでした。ブームはやがて去るのが常、嵐の過ぎ去ったあとにUFO問題の実像が姿を現わずに違いありません。(Y)

投稿歓迎

本誌はUFOおよび一般ミステリー問題に関する原稿・写真・研究発表等を広く募集しています。原稿はなるべく原稿用紙(タテ書き)をご使用ください。なお、投稿された原稿類はお返し致しません。
掲載分には規定の原稿料を差し上げます。

あて先

〒110東京都台東区上野五―一六ヤマトビル
ユニバース出版社「UFOと宇宙」編集部

UFOと宇宙 1978年4月号 第33号

定価 四三〇円 送料五〇円
発行 昭和五十三年四月一日

編集人 矢沢 潔
発行人 大木茂男

発行所 株式会社 ユニバース出版社
住所 〒110 東京都台東区上野五―一六ヤマトビル

電話 〇三(八三三)一三四一〜四四
振替 東京一―一九四七八

印刷所 三晃印刷株式会社
年ぎめ購読料 五一六〇円(送料サービス)

書店で入手できない場合は、本社へ直接ご注文ください。

本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

海外の記事はすべて翻訳転載権取得済。

UFOと宇宙



★ここにふれると明りがバツ!!
消す時も同様バツ!!のタッチスイッチ

「UFOとの遭遇」

**アダムスキー型
コードペンダントを
今日から君の部屋に!!**

ボールランプ(25W×3・但し40W使用可)
大きさ φ390mm×H200mm
タッチスイッチ付

購入方法

アダムスキー型コードペンダントは、ユニバース出版社独占販売のため、一般照明器具店ではお求めできません。ご購入の場合は、代金を現金書留または振替で直接当社商事部までお送り下さい。折り返し品物をお送りします。

特別価格 **¥13,800**(送料共)

株式会社ユニバース出版社商事部

〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル
振替 東京1-119478

本誌バックナンバー

『UFOと宇宙』(9号まで旧題『ゴズモ』)の既刊各号をそれぞれの主な記事をとり上げて紹介します。

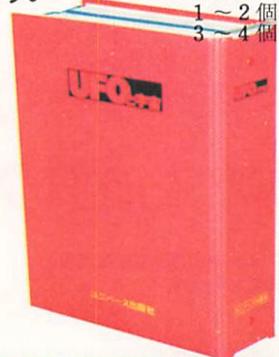
- 1〜7号は売切れ、8号は残部僅少
- お申込みはお近くの書店か、または現金書留・振替・小為替・低額切手などで当社宛にご注文ください。
- 送料：50円(1冊につき)
- 振替：東京1・119478

■本誌保存用 ¥500
特製バインダー

- 『UFOと宇宙』を破損・紛失しないために、このバインダーをご利用ください。
- 6冊をとじこむことができます。

荷造送料

1〜2個 ¥350
3〜4個 ¥700



No. 8 ¥330

UFOと宇宙
ゴズモ

〈口絵写真〉 大気圏外のUFO／関門橋上空に出現したUFO！

マンテル大尉の悲劇……荒井欣一イタリヤの不思議な小人出現事件
天体オーラと宇宙電界の謎……内田秀男
宇宙・引力・空飛ぶ円盤(3)

国内UFOの目撃報告／読者の声

(1974, 9〜10月号)

No. 9 ¥400

UFOと宇宙
ゴズモ

〈口絵写真〉 横浜市上空のUFO？
UFOによる米空軍機追跡尾事件
ジョージ・アダムスキーはまだ影を投げかけている！……G・クレイトン
地震の鍵をにぎるマンテル対流！
宇宙・引力・空飛ぶ円盤(4)

国内UFOの目撃報告／読者の声

(1974, 11〜12月号)

No. 10 ¥360

UFOと宇宙

〈口絵写真〉 ワシントン市上空のUFO大編隊／三宅島の怪光体
銀色の服を着た宇宙人……高梨純一
科学を曲げる男、ユリ・ゲラー
月世界の謎を探る……宮本正太郎
宇宙・引力・空飛ぶ円盤(5)

UFO情報／科学ニュース／読者の声

(1975, 1〜2月号)

No. 11 ¥360

UFOと宇宙

〈口絵写真〉 阿蘇のUFO群／アダムスキー型円盤尾道市に出現
月面は円盤の中継基地か？……葦沢潤一郎
原予・銀河系・理解(1)……D・フライ
一八九〇年代の宇宙連絡船……河島信樹
宇宙・引力・空飛ぶ円盤(6)

UFO情報／科学ニュース／読者の声

(1975, 3〜4月号)

No. 12 ¥360

UFOと宇宙

〈口絵写真〉 東京上空のUFO／円盤1帯広市に出現！
甲府市にUFO着陸！——本誌取材！
古代の天空人……E・V・デニケン
シベリアの謎の大爆発……イオン・ホバナ
原予・銀河系・理解(2)……D・フライ
UFO情報／科学ニュース／読者の声

(1975, 5〜6月号)

No. 13 ¥360

UFOと宇宙

〈口絵写真〉 円盤、都内に出現！／千葉市にソングロ型円盤出現！
千葉市にアダムスキー型円盤出現！
宇宙文信のためのテレビ生中継
ルーマニアのUFO出現事件
原予・銀河系・理解(3)……D・フライ
UFO情報／科学ニュース／読者の声

(1975, 7〜8月号)

No. 14 ¥390

UFOと宇宙

〈口絵写真〉 UFO鎌倉市に出現！
／またも東京上空に金色のUFO
円盤をよく見る人——本誌特別取材
私は金星文字を解説した！
ユースラビアのUFO出現騒動
原予・銀河系・理解(4)……D・フライ
UFO情報／科学ニュース／読者の声

(1975, 9〜10月号)

No. 15 ¥390

UFOと宇宙

〈口絵写真〉 松戸市に出現した怪光体
／アダムスキー型円盤豊田市に出現
ステラ・ラッシング夫人の不思議な写真
聖書の予言とスペース・プログラム(1)
(続)ルーマニアのUFO出現事件
原予・銀河系・理解(5)……D・フライ
UFO情報／科学ニュース／読者の声

(1975, 11〜12月号)

No. 16 ¥390

UFOと宇宙

〈口絵写真〉 富士中腹の怪物体／運動会を襲撃するUFO？
三原市の驚異コンタクト事件
テレポーテーションとテレビ生中継
聖書の予言とスペース・プログラム(2)
X博士の謎UFO事件
UFO情報／科学ニュース／読者の声

(1976, 1〜2月号)

No. 17 ¥390

UFOと宇宙

〈口絵写真〉 月面の謎(アポロ飛行士が撮ったUFO写真初公開)
巨大円盤横須賀に出現！——本誌取材
UFOは地球の救済に来るのか(1)
奇蹟を起す法：テッド・オーウェン
ピーター・フルコスの驚異的大発見
UFO情報／科学ニュース／読者の声

(1976, 3〜4月号)

千葉市にアダムスキー型円盤出現！
宇宙文信のためのテレビ生中継
ルーマニアのUFO出現事件
原予・銀河系・理解(3)……D・フライ
UFO情報／科学ニュース／読者の声

円盤をよく見る人——本誌特別取材
私は金星文字を解説した！
ユースラビアのUFO出現騒動
原予・銀河系・理解(4)……D・フライ
UFO情報／科学ニュース／読者の声

ステラ・ラッシング夫人の不思議な写真
聖書の予言とスペース・プログラム(1)
(続)ルーマニアのUFO出現事件
原予・銀河系・理解(5)……D・フライ
UFO情報／科学ニュース／読者の声

三原市の驚異コンタクト事件
テレポーテーションとテレビ生中継
聖書の予言とスペース・プログラム(2)
X博士の謎UFO事件
UFO情報／科学ニュース／読者の声

巨大円盤横須賀に出現！——本誌取材
UFOは地球の救済に来るのか(1)
奇蹟を起す法：テッド・オーウェン
ピーター・フルコスの驚異的大発見
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No. 18 ¥390



(1976, 5-6月号)

「口絵写真」 金剛山にUFO出現つづく／金剛寺上空にオレンジ色物体
トラビス・ウオルトン UFOの同乗事件：高梨純／UFOは地球の救済に來るのか？アポロ飛行士とNASAとの文信：重沢潤一郎／(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(1)：ニューリス／読者の声
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No. 23 ¥430



(1977, 3-4月号)

「口絵写真」 私たちはUFOにさらされた／セムジャラーの宇宙船
闇夜に牛が殺された！……矢追純一 UFO写真のコンピューター分析
女性宇宙人セムジャラーとの会話
星・生命の始まるころ
特集・ジョージ・アダムスキー

11月号 ¥430



(1977, 11月 No. 28)

「口絵写真」 愛媛県川之江市の宇宙人!?／インクランドのUFO
驚異の宇宙人爆撃事件 本誌取材スバイに使用される超能力者：中岡俊哉
海溝に消えた太古の首長竜：矢追純一
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(1)
UFO目撃レポート／エニクマ情報

No. 19 ¥390



(1976, 7-8月号)

「口絵写真」 玄海灘にサラ状物体飛来／飛行機の窓からUFOキャッチ
私はUFOを何度も見たと(横尾忠則)
チャールズ・ムーディ軍曹砂漠で円盤に誘拐される(中津要二)
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(2)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No. 24 ¥430



(1977, 5-6月号)

「口絵写真」 スイスを訪れた円盤／京都市上空でUFOの機動演習？
ウィンチェスターに出現したUFOと不思議な人間……レスリー・ハリス
特集・戦後UFO30年史
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(6)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

12月号 ¥430



(1977, 12月 No. 29)

「口絵写真」 光を放射する不気味なUFO／岡山上空の乱舞するUFO
札幌で異星人と驚異コンタクト発生(1) 星のささやく新宇宙……斎藤守弘
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(1)
UFO目撃レポート／エニクマ情報

No. 20 ¥430



(1976, 9-10月号)

「口絵写真」 誌上初公開NHKカメラの快挙／トラビス・ウオルトン事件現地カラー報告
現地完全報告・トラビス・ウオルトン事件の真相……富川正弘
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(3)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No. 25 ¥430



(1977, 7-8月号)

「口絵写真」 静岡県に円盤が出現！／ベルー、ヨンカイ上空のUFO
私は円盤に乗った宇宙人に救われた！宇宙人の言葉の解説に成功！
特集・謎の黒い影
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(7)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

新年号 ¥430



(1978, 1月 No. 30)

「口絵写真」 宇宙の美女とUFO／あの写真をもう一度
札幌で異星人と驚異コンタクト発生(2) フレッド・Sステッキング氏に聞く(1) 各界著名人特別寄稿(前刊30号企画)
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(12)
UFO目撃レポート／エニクマ情報

No. 21 ¥430



(1976, 11-12月号)

「口絵写真」 ビレネーの怪／驚異の近接撮影／第5回航空宇宙ショー
特集・UFO研究の現状と展望……高梨純・並木伸一郎、久保田八郎
UFO科学……橋本健、清家新一
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(4)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

9月号 ¥430



(1977, 9月 No. 26)

「口絵写真」 セントルイス上空のUFO/UFO、愛知県を飛ぶ
宇宙人と、地球の新人類！超能力少年奇蹟！ルールドの聖泉(1)久保田八郎
恐怖の地下洞穴に潜入……矢追純一
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(8)
UFO目撃レポート／エニクマ情報

2月号 ¥430



(1978, 2月 No. 31)

「口絵写真」 大旋風！「未知との遭遇」／月と火星とNASA
世界5大予言者、1978年を診断
宇宙人セムジャラーは何を語ったか
星からの無人探測船……斎藤守弘
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(13)
ブック・ガイド／情報バック

No. 22 ¥430



(1977, 1-2月号)

「口絵写真」 石にキズをつけたのは誰？／読者のUFO写真は
UFOは石を食べていた!? 本誌取材チベットの山中の金星人基地・高坂勉
驚異した円盤に宇宙人の死体が
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(5)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

10月号 ¥430



(1977, 10月 No. 27)

「口絵写真」 プラジルのUFO／日野市の怪光体
沖縄にUFO着陸？……永井淳裕
謎の第10番惑星……斎藤守弘
奇蹟！ルールドの聖泉(2)久保田八郎
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(9)
UFO目撃レポート／エニクマ情報

3月号 ¥430



(1978, 3月 No. 32)

「口絵写真」 日本でもUFOははたらかれている／チネリッヒのUFO
国連で採択されたUFO問題の真相
横尾忠則対談(1)札幌コンタクト
「奇説VS大衆説」謎の宇宙モデル
ネス湖の未確認動物は実在する!?
ブック・ガイド／情報バック

新発売!!

●無料でご覧になれます

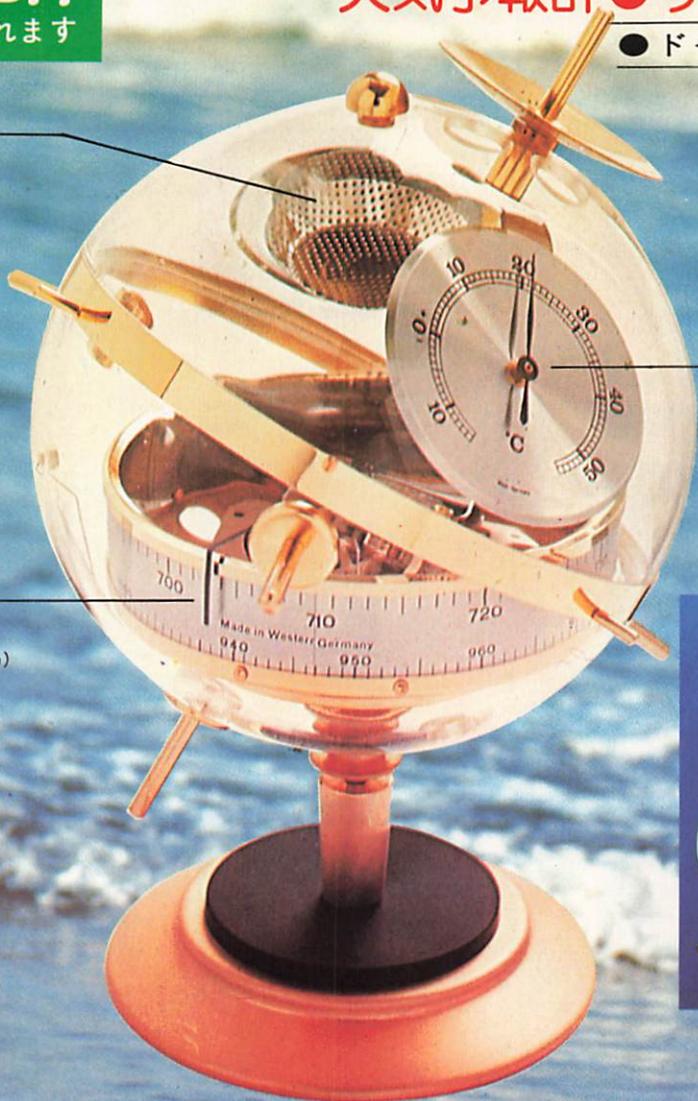
温度計+湿度計+気圧計 天気予報計●サテライト・3

●ドイツ製、直輸入品

●湿度計
(20%~100%)

●温度計
(-15°C~+55°C)

●気圧計
(700mb~1060mb)



球体直径 130mm
高さ 205mm
重量 610g

晴れ、のち曇り、一時雨—?

天気予測に最も大きな関係があるのは、気圧の高低ではなく、気圧が上昇中(快方に向う)なのか、下降中(下り坂)なのかということです。欧米ではウェザー・バロメーター(天気予報計)が一般の会社や家庭に広く普及しています。しかし、我が国ではあまり普及しておりません。公害や天気不順の折から現代人は、毎日の天候…温度や湿度、気圧に適應する、健康管理を、ひいては生活設計をしなくてはなりません。このドイツ生まれの“サテライト・3”は、気圧計・温度計・湿度計の3つの精密機器が、コンパクトに収まり、そのうえ、洋風にも和風にも調和する豪華で美しい室内装飾品にもなります。また、お客様の科学の勉強に、興味をひく面白い天気観測器は、机や書斎の上に飾るインテリア・アクセサリに最適です。なお、ご結婚や新築のお祝い、ご入学・卒業などの贈り物に実生活に役立つ天気予報計“サテライト・3”はぴったりです。

●手にとって無料でご覧になれます!!

「天気予報計“サテライト・3”」を手にとって無料でご覧になれます。もし、ご満足できないようでしたら、現品受取後、5日間以内にご返送ください。この場合、何らの購入義務もありません。お気に入りになりましたら、そのままご購入ください。

●月つき3,000円×6回払いでOK

いま、お申込みの方は奉仕価格⇒月つき3,000円×6回払いでお求めいただけます。(一括払いの場合は16,800円)しかも現品先送り、代金は後払いで結構です。

ご希望の方は右記の申込書を切り取り、住所・氏名・支払方法を明記し、印を押して当社(東京か大阪)へお送りください。なお現品をご覧になってご不満の場合は、現品受取後5日間以内にご返送ください。この場合、何らの購入義務もありませんので安心してお申込みください。

“サテライト・3” 価格表	
●現金価格 16,800円 (一括払いの場合のみ)	●割賦価格 18,000円
	分割料金 3,000円
	支払回数 6回
●梱包送料当社負担 ●製品保障	支払期間 6ヵ月

今、スグ切り取ってポストへ!!

●下記の申込書に記入し捺印の上、封筒に入れてお送りください。

“サテライト・3”購入申込書

■天気予報計“サテライト・3”を購入申込みます。現品到着後に下記の方法で必ず送金します。
●支払方法(○印をしてください)
1.月つき 3,000円×6回払い
2.一括払い 16,800円
(現品に不満の場合は現品受取後5日間以内に返送し、この場合、購入義務は一切ありません。)

おなまえ	捺印	年令	TEL
	Ⓜ	才	
おところ(郵便番号)			
(様方)			
保護者名(18才未満の方は保護者の印が必要)			捺印
			Ⓜ

UFO-4

申込先 社団法人 日本割賦協会 事業会員
フェーマースアート・ギャラリー 企画部

(〒556) 大阪市浪速区大國町1の121の8 ☎(06)649-5508
(〒170) 東京都豊島区駒込1の34の8 ☎(03)945-2810

●印のない場合は無効になりますので必ずご捺印ください。

35mm一眼レフ用

135mm ¥13,000
200mm ¥14,000

35mm ¥12,000



2倍テレコンバーター ¥7,000 ~ ¥8,800

交換レンズのカタログ希望の方はカメラ名を書いてハガキで申し込下さい



300mm ¥18,000
400mm ¥21,000
500mm ¥24,000

スリコールリアイアンス交換レンズは1台3役

- 1 ①カメラ用望遠レンズが (300%・400%・500%)
- 2 ②ズーム式望遠鏡に (別売部品) アイビスアダプター ¥1,500 ズーム式地上アイビス ¥4,500
300%の倍率: 17倍-50倍
400%の倍率: 22倍-67倍
500%の倍率: 28倍-83倍
- 3 ③天体望遠鏡に (別売部品) アイビスアダプター ¥1,500 天体用アイビス各倍率 ¥1,500
300%の倍率: 24倍・50倍・60倍・75倍
400%の倍率: 32倍・50倍・80倍・100倍
500%の倍率: 40倍・62倍・100倍・125倍

●リアイアンス交換レンズ仕様 (プリセット絞り・絞込測光・マウント交換式)

品番	LP135	LP200	LP300	LP400	LP500	WP35
焦点距離	135mm	200mm	300mm	400mm	500mm	35mm
明るさ	F:2.8	F:4.5	F:5.6	F:6.3	8	F:2.8
レンズ構成(群/枚)	4/4	3/4	3/4	3/4	3/4	5/6
全長%・重量g	80・340	140・420	230・550	315・700	410・790	52・150
価格	¥13,000	¥14,000	¥18,000	¥21,000	¥24,000	¥12,000
附属品	フード、マウント、ケース				マウント、ケース	

●価格は附属品を含んだ価格です。35mm一眼レフ専用

マルチコート2倍テレコンバーター

標準レンズ50%に付けば100%に、200%なら400%の2倍の望遠レンズに成ります。アサヒペンタックスSシリーズ用¥7,000(フジカ・マミヤ・リコー・ヤシカにも使用可能)・キャノン用¥8,500・ミノルタ用¥8,000・オリンパスOM用¥8,500・ニコン・ニコマート用¥8,500・コニカ(新)用¥8,800・アサヒペンタックスM・Kシリーズ用¥8,500。(アサヒペンタックス用のみ自動絞、絞込測光)他は自動絞、開放測光、AE運動は絞優先カメラのみ可能。

カメラの有力専門誌「日本カメラ」51年6月号特集「常用交換レンズ総点検」(原文のまま)スリコールLP135・135% F2.8 中心部はコントラストもは良好でシャープさもじゅうぶんで有る。周辺部はわずかに画質が低下するが自立したほどではない。全般的に見て各取寄がバランスよく補正され画質のよいレンズである。しかも13,000円という普及価格が魅力がある。

使用出来る35mm一眼レフカメラ

アサヒペンタックス(S・K・Mシリーズ)・ニコン・ニコマート・キャノン・ミノルタ・オリンパスOM・コニカ(新)・ベトリ・ミランダ・トプコンエキザクタ・(フジカ・マミヤ・リコー・ヤシカはネジ込み式)

★ご注文は必ずカメラ名をお知らせ下さい。精密光学製品に付ご購入後の返品はご容赦下さい



★リアイアンスはマウント交換式です。2台以上のメーカーの異なるカメラをお持ちの場合でもマウントのみ別に購入すれば、ご使用に成れます。リアイアンスPマウント 別売価格¥1,500

ものすごいやつが現れた!! この性能 この機能 この低価格

月々分割でお求めになれます
現金価格 ¥14,800
分割払価格 ¥15,800
初回金 ¥6,800
¥4,500
×2回



- もっと大きく写したい時... ワンタッチで望遠レンズに切換えわずか0.5秒、同時にファインダーも切換ります。ぐんと引つける望遠レンズの迫力の必要ないストロボ内蔵です。(単3乾電池2本使用)
- ピント調節の必要ありません... レンズの焦点深度が深い為1mから無限大までピントが合います。
- カラー写真も白黒写真も鮮明に写せます... 軽く作動し、シャッターの無いメカニカル定速シャッターです。
- 軽量コンパクト・わずか205g... ポケットに入れて、抜き打ち速写OK、チャンスを逃がしません。
- フィルム装てはかんたん... フィルムカートリッジを入れてノブを押すだけ、フィルムは市販のポケットカメラ用フィルム使用

標準レンズ内蔵ワンタッチ望遠レンズ蔵切替式ストロボフラッシュ内蔵のポケットカメラ ¥12,500

- (仕様) ★使用フィルム・ポケットカメラ用フィルム13×17mm
★レンズ固定焦点 標準25% F9.5 望遠40% F11
★シャッター 1/125秒メカニカルシャッター
★ストロボ ガイドナンバー16
★大きさ 59×30×16mm

今ご注文の方に
特急プレゼント
コダックカラーフィルム
ストロボ用乾電池進呈 /
ソフトケース・ストラップ付



カラー・白黒



35mmフィルム現像と7×10cm判への引伸しがかんたんにできるカラーフォトセット

- ★わずか¥8,800で楽しめるカラー現像セットです
- ★フィルム現像、引伸し現像の両方ができるので秘密の写真もOK!
- ★むずかしいフィルム現像も明るい所でかんたんに出来ます
- ★カラー写真も白黒写真もお好み次第で、7×10cmに引伸し出来ます
- ★現像液・印画紙等は後日追加購入が出来ます

カラーフォトセット¥8,800 (白黒用7点セットは¥5,500)

だれにでもかんたんに出来る (ごらんに成ってご不満の場合は5日以内に返品下さい)

- ①フォトプリンター ②カラーフィルム現像液 ③カラーフィルム定着液 ④現像液パット ⑤カラー印画紙2枚 7×10cm判 ⑥カラー引伸用フィルター7枚 ⑦白黒フィルム用現像剤セット ⑧白黒引伸用現像剤セット ⑨ネガバサミ(ガラス板) ⑩フィルム現像ビン2個 ⑪計量カップ ⑫赤色シート ⑬説明書付

●ご注文は電話又はハガキで / 東京都03(850)6110・(859)1331 (全品送料無料) 営業時間 午前10時~12時 午後1時~5時・日曜、祭日は休業

ハガキのうら
18才未満は保護者
署名各冊

お申込みハガキ
品名
氏名
住所
年齢・電話番号
郵便番号

〒121 東京都足立区平野3-7-17
スリーピーチ UFO係

ご注文は品名をハッキリ書いて下さい。遅くとも7日以内に代金引換郵便で送ります。お近くの郵便局から荷物の宛先が書きましたらミミメ印を押して代金と共に持参しお受け取り下さい

東京都足立区平野3-7-17 (株)スリーピーチ UFO係 東京都03(850)6110・(859)1331

マンテル事件から今日まで
 UFOの資料を余すことなく伝える
 驚異のスペース・ドキュメント・アルバム。

衝撃のUFO



- 米国の新聞が、UFOの目撃の事実を初めて報道する……1878年1月「デイリーニュース」……それ以来、年々目撃者の数は増大し、N・A・S・A(米航空宇宙局)及び合衆国大統領すら無視しえぬ問題となっている。
- このアルバムは、UFOに関する貴重な科学的資料に神秘的、精神的な部分を加え構成。

〈ライブ・ハウス・ロフト・シリーズ〉

★ 衝撃のUFO ●LOF-20003 30cmステレオLP ¥2,500

A面〜ドキュメンタリー編〜

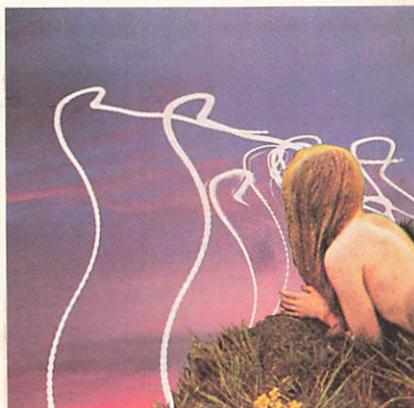
- マンテル大尉事件
1948年米空軍大尉がUFOを追跡中に爆発死した事実を英文記録によりドキュメント風に構成。
- UFO歴史のナレーション
海外の主なUFO事件の報告により、現在までの歴史を解説する。
- 宇宙交信器(円盤への呼びかけ)
工学博士・橋本健氏が宇宙人とコンタクトを取るために作製した機械音。
- UFOを呼び出す儀式
「ベントラ・ベントラ」という声で数名の子供達が輪になって回る儀式のもよう。
- UFO観測会
新宿UFO観測会が平野威雄氏をゲストに行なった観測会の実況録音。
- 宇宙交信器(円盤からの声)
高尾山中で行なわれた交信器への返信音。
- UFO目撃体験談
少年から老人まで数名の目撃談。
- 宇宙の歌・宇宙話
タワラ・スミさん(死亡)が宇宙人と対話する時の歌と会話テープ。
- 宇宙からのメッセージ
米人ジョージ・アダムスキーに語った金星人のメッセージをドキュメント風に構成。

B面〜ロマン編〜

- 宇宙周期音 ●変光星音 ●円盤の詩 ●また来て円盤
- 電波望遠鏡による宇宙音 ●平和の詩 ●祈り

雑誌 8945-4

3月25日
発売



(アルバム・ジャケット
デザイン/横尾忠則)

Victor
 RECORDS & TAPES

お問合わせ先 ビクター音楽産業株式会社制作本部プロモート課 TEL03(405)5151